

# 目次

第一部 序論 誤用の概説.....	5
1 はじめに.....	6
1.1 誤用研究の意義.....	6
1.2 誤用の定義.....	6
1.3 誤用の分類.....	7
2 先行研究について.....	8
2.1 誤用研究の概観.....	8
2.2 誤用研究の分類.....	9
2.2.1 研究分野からの分類.....	9
2.2.2 研究方法からの分類.....	10
2.3 日本語の誤用研究.....	11
2.3.1 日本国内における研究.....	11
2.3.2 中国における研究.....	13
2.4 先行成果の問題点.....	14
3 本研究について.....	16
3.1 本研究の意義と位置づけ.....	16
3.2 研究方法と資料について.....	17
3.3 構成.....	18
第二部 誤用の分析（一） 語彙編.....	20
4 語の選択.....	21
4.1 単語.....	21
4.1.1 日本語にない語彙と中日同形異義語.....	21
4.1.2 間違いやすい名詞の誤用.....	28
4.1.3 間違いやすい動詞の誤用.....	31
4.1.4 中国語の「过」と日本語の「過ぎる」.....	37
4.2 慣用句.....	42
4.2.1 通りがいい.....	42
4.2.2 気に入れる.....	43
4.2.3 薬になる.....	44
4.2.4 雀の涙.....	45
4.2.5 手にかける.....	46

4.2.6	鼻に付く	47
4.2.7	世話をかける	48
4.2.8	謎をかける	50
4.2.9	事を欠く	51
4.2.10	むすび	52
5	語の表記	53
第三部 誤用の分析（二） 文法編		57
6	品詞	58
6.1	動詞と名詞のあいだの混同	58
6.2	イ形容詞とナ形容詞の間の混同	59
6.3	ある文脈での品詞誤用	60
7	名詞	61
7.1	形式名詞	61
	「の中」の過剰使用	61
7.2	代名詞	66
8	動詞	70
8.1	テンス・アスペクト	70
8.1.1	前過去を過去と間違える誤用	70
8.1.2	従属節の中のテンス	72
8.2	ヴォイス	75
8.2.1	過剰	75
8.2.2	不足	78
8.2.3	文の部分の間の関係が混乱する	81
8.2.4	態の混同	82
8.3	可能動詞	83
8.4	自動詞・他動詞	87
8.4.1	自動詞構文と他動詞構文	87
8.4.2	慣用句における自他動詞の性格について	90
9	形容詞	94
10	副詞	96
11	助詞	102
11.1	格助詞	102
11.2	取り立て助詞	106
11.3	「は」と「が」	108
12	指示詞	112

12.1	空間的な語を使っても文脈指示の用法に従わなければならないもの	112
12.2	「そ」系を「あ」系にしたもの	113
12.3	「こ」系を「そ」系にしたもの	114
<b>13</b>	<b>接続</b>	<b>117</b>
13.1	接続助詞て(で)、ので、から	117
13.2	接続詞「そして」などについて	119
13.3	他の接続の問題	121
<b>14</b>	<b>文型</b>	<b>126</b>
	それにしても・それにしては	126
<b>15</b>	<b>敬讓語</b>	<b>131</b>
15.1	使用不足	131
15.2	使用過剰	132
15.3	混乱	132
<b>16</b>	<b>モダリティ</b>	<b>135</b>
16.1	「しましょうか」について	135
16.2	「だろう」について	135
16.3	「はず」について	137
16.4	伝聞の「そうだ」について	138
16.5	「ようだ」について	138
<b>17</b>	<b>文体</b>	<b>139</b>
17.1	文末の文体	139
17.2	節末の文体	139
17.3	引用節の中の文体	141
<b>第四部</b>	<b>結び 誤用の体系</b>	<b>143</b>
<b>18</b>	<b>分布から見た体系</b>	<b>144</b>
18.1	日本語のカテゴリー表で見た分布	144
18.2	言語記述の体系と誤用の体系—分類する作業について—	147
<b>19</b>	<b>間違いやすい特徴から見た体系</b>	<b>151</b>
19.1	語彙	151
19.2	文法	152
<b>20</b>	<b>原因から見た体系</b>	<b>156</b>
20.1	中国人の誤用における言語間エラー	156
20.2	日本語の言語内エラー	157
20.2.1	中国人の母語干渉によるものでない誤用	157

20.2.2	複数の外国語母語話者が共通して犯す誤用.....	159
20.2.3	母語干渉によるものと複数の外国語母語話者が共通して犯す誤用が重なるケース .....	161
21	終りに .....	163
参考文献	.....	164
引用例文出典一覧	.....	170
付 録 誤用例集	.....	173

## 第一部 序論 誤用の概説

## 1 はじめに

### 1.1 誤用研究の意義

外国語を勉強するとき、だれもがしばしば誤用を犯す。その誤用の原因をよく知り、効率的に修正し、二度とおかさないようにすることができればその学習が一步前進すると言える。そして、教師は学習者の誤用から、学習者の現状をフィードバックとして得ることにより講義中の注意点を得られる。さらにその経験はつぎの学習者あるいはクラスに生かすことができる。このように、誤用の研究は、言語（外国語）教育にとって大変有意義なものであると思われる。研究者にとっても、誤用というものは、非母語話者が第二言語を学習する場合におかすものであるから、それを「分析することが結果的に現在の日本語研究の不備をほりおこすことになったり、日本語そのものの本質にかかわるような問題に気づかせてくれたりもする」（森田 1985p. 236）。そして、その研究の視点と立場には当該の言語のみを研究する場合とはことなり、対照研究の方法が導入されることが多く、そのため、新しい視角から言語研究をすすめることができる点においても、意義を持っている。本研究＝中国人学習者に見られる誤用の研究の例を挙げて言うと、「敦煌は雨が少なくくて空気が乾燥です（乾燥しています）。」（訂正記号については付録 p.176 を参照）という誤用例を通して、少なくとも次のことが明らかにできる。1、中国語の「干燥」と日本語の「乾燥」とは品詞が違う、2、中国人学習者のこの誤用は中国語母語干渉が原因である、3、日本語の「乾燥」とその反対語である「湿潤」（中村一男 1965『反対語大辞典』東京堂出版 p. 133）と品詞が違って対称にならない。それは対称になっている言語を母語とする話者の誤用の種となる。このように、Corder（1967）で述べるごとく、誤用は研究者、学習者と教師の三者にとって重要な役割をはたしている。

### 1.2 誤用の定義

各言語はそれぞれの一般的なルールがある。そのルールはその言語の母語話者の言語活動、言語使用のなかから一般化されたものである。そのルールに違反する言語使用を誤用という。この誤用は広義の誤用の定義であり、つまり母語話者が母語を使用するときにおかす誤りをも、次にのべる狭義の誤用をも含んだものである。狭義の誤用とはもっぱら第二言語学習者が目標言語をつかうときにおかす誤りをさしている。

ところが、誤用を狭義の定義だけ取り扱う傾向が見える。たとえば、吉川(1982)では次のように定義されている。「近代言語学は、ネイティブ・スピーカーの発言するものはすべてただしい、というたてまえから出発している。（中略）したがって、ネイティブ・スピーカーの発言には、（原理的に）誤用はないわけである。誤用が問題になるのは、その言語を第二言語として学習するときである。」（p. 120）実際には、ネイティブ・スピーカーの発言には、誤用はないとはいいすぎである。『誤用だらけの日本語の謎』（武光 誠 1995）というようなものは日本語母語話者にむけた誤用修正の指導書であり、ホームページ amazon

(2004年12月31日)で「誤用」を検索した結果「誤用」を含んだ書名は48件あり、外国人の誤用に関するものは6件しかなく、その他、日本人の英語の誤用3件、中国語の誤用2件をのぞくと、残り37件はすべて日本人の日本語の誤用に関するものである。中国でも中・高校の国語の時間でよく「改病句」(誤用をなおす)という演習が行われる。ここでいう誤用は、もちろん中国語母語者のおかした誤りである。以上から、誤用は母語話者の誤用と第二言語学習者の誤用とに二分類すべきであろう。

それでも、外国語教育の場合や第二言語習得の場合で言う誤用は上の後者、つまり狭義の誤用を指しているのが普通である。本研究はその母語話者の誤用と第二言語学習者の誤用から誤用全体に構成する説を認めながら、そしてその狭義の誤用中的一部分＝中国人学習者にみられるものを対象とする。

### 1.3 誤用の分類

学習者の誤用には、さまざまな種類とケースがある。

- 1) そんなことをすると、君に薬(のため)になりませんよ。
- 2) 私と彼(と)の仲は切っても切れません(ない仲です)。
- 3) 当時、洛陽と言え、天下に並ぶ者(もの)のない繁栄な(する)都です。

文(1)のような「語彙－語の選択－慣用句」に属するものもあれば、文(2)のように「文法－統語論－文の座りが悪い」に属するものや、文(3)のような「文法－形態論－品詞」に属するものもある。これらはまだ言語学のカテゴリーの視点から見ただけのものがある。一方、文(3)のような母語干渉による、いわゆる言語間エラーと、文(2)のように、母語とは関係なくどの言語の母語話者にも共通に起こる誤り＝言語内エラーという、誤用の原因からとらえるものもある。さらに原因からとらえるものの中に、発想あるいは(母語の)語義によるもの(森田1985)や母国の文化・慣習の影響によるもの(馮1999)などに分けられる。また、誤用には「エラー」と「ミステイク」という種類がある。そのことがらに関しては一貫してまちがうばあいは「エラー」といい、それに対して、体調が悪かったり、緊張したりしてうっかり言いまちがう一過性の誤用は「ミステイク」という。(迫田2002p.11)

ところが、いままでの誤用研究を見てみると、多くは誤用例の誤りにだけ注目して、あるいは便宜をはかるせいで、おたがいの関係にかまわず分類してしまうきらいがある。たとえば、1. 挨拶、2. 副詞、3. ある常用句などのような体系性にとぼしい分類がみられる(穂積晃子1987)。理想的な分類と思われるのは言語構造からと誤用の原因からとの二分類である。前者は音声、語彙、文法など言語のカテゴリーから分けるもので、後者は言語間エラー、言語内エラーなどの誤用の原因から分けるものである。立体的に、ある言語の誤用を体系的に考察するためには、この二種類の分類法を用いる必要が生じることもある。本研究はこのような分類法の妥当性を認めたいうえで、それにそって、つまりふたつの方向から進めることにした。

## 2 先行研究について

### 2.1 誤用研究の概観

学習者は外国語を習う過程でいくら注意しても誤用を起こす。誤用は言語の音声から文法まですべてにおよぶ可能性がある。たとえば、中国人がまちがえやすい母音の誤用（「簡単」を「けんたん」と読んでしまう等）や清濁の誤用（「本棚」を「ほんたな」とまちがえてしまう等）は音声の誤用であり、「日本文化を了解（理解）したい」というのは語彙の誤用、「最近、洋食を食べるひとがふえてくる（きている）そうですね」というのは文法の誤用である。初級レベルの誤用は学習過程によって自己修復できるものもあれば、上級まで修復できないもの、いわゆる化石化（fossilization）がある。このように外国人が外国語を学習（あるいは習得）するときおこした誤用を分析し、その原因と誤用にかかわる言語自身の構造を解明しようとする研究を誤用研究という。

従来の誤用研究は言語学分野と言語教育分野の二分野で行われてきた。前者は各言語内で行われていたので世界的な流れをなしていないようである。というよりむしろ世界的な立場にたって各言語内でおこった誤用研究の実態を考察して、その統合を考察した成果がほとんど見られないといったほうが正確であろう。後者は第二言語習得研究の三段階=対照分析研究、誤用分析研究、中間言語研究=の一つで、研究のあゆみにつれて多くの問題点が発見され批判を受け、あとの中間言語研究にとってかわられた。誤用研究の第二言語習得における位置づけを正確にとらえるために、ここで簡単に第二言語習得の歴史をさかのぼっておこう。

1950年代は第二言語習得研究の発足期といえる。外国語学習者における誤用はほとんど母語干渉によるものと考えられ、その干渉をいかに排除できるかに焦点をあてて研究を展開していた。「このような背景をもつオーディオ・リンガル法は、学習効果を挙げるためには、誤用を産出させないようにすること、それは母語と目標言語の対立を徹底的に研究すること、つまり両言語のちがいを研究し、それを明確にすることによって、パターン・プラクティスやミニマル・ペアに反映させることが重要だとかんがえた。これが対照分析研究の始まりである。」（迫田久美子 2002p. 21）代表人物はアメリカの Fries や Lado などがあげられる。しかし、母語と目標言語のルールが違っていても学習者がかならずしもまちがいを引きおこすとはかぎらないことや、母語のことなる学習者がおなじ種類の誤用をおこすことなどがその後徐々にあきらかにされたので、研究者たちは対照分析研究から誤用分析研究へ移行しはじめていた。1970年代にはいつてからは、誤用例を収集して、その原因をみつけようとする誤用分析研究がひろまっていた。イギリスの Corder 教授の一連の論文によってはじまったものとされている（張 2001）。対照分析では、できるだけ誤用を排除し、生じさせないように正確な表現を産出できるような訓練が重視されたことに対して、誤用分析では、誤用は必然的なものとしてとらえられた。つまり、学習者は誤用を産出しながら、すこしずつ習得をすすめているといえる（迫田 2002）。誤用研究は母語のちがう学習者がおなじまちがいをおこすことがあることと、学習者はただまねをするのではなく

て、能動的に自分たちなりのルールをつくっていくことなどに気づいたことがたかく評価されている（張 2001）。問題点として指摘されたのは、誤用の判定の基準が不一致ということと「回避」があつかえないことなどである。そして、それらの不足をおぎなえる中間言語研究がうまれていた。中間言語とは「第二言語学習者の持つ言語体系」ということである（迫田 2002）。つまり、第二言語学習者が目標言語を学んでいる際に生じた母語から目標言語までの間に位置する言語である。中間言語説の先行者である Selinker が中間言語についてくださった定義に従えば、「目標言語とも母語ともことなった学習者特有の言語体系」である（Selinker1972 : p. 213）。「化石化」というのは中間言語研究のおおきな特徴としてあげられる。中間言語研究が誤用分析研究より進歩がもっともめだつのは誤用があくまでも学習者言語総体の中間言語の一部にすぎないことを解明した点である。1970 年代中期以降は、誤用と正用、さらに誤用と正用のバリエーションの変化の過程をひろげて観察し、第二言語の習得過程をあきらかにしようとするあらたな中間言語研究へ移行することになる（長友 1993）。中間言語研究は第二言語習得研究の最新の段階であるのにもかかわらず問題がないわけではない。たとえば定義が統一されないことや実体が明確でないことなどが指摘されている（迫田 2002）。

## 2.2 誤用研究の分類

### 2.2.1 研究分野からの分類

上でもふれたように、誤用研究は言語学と言語習得学という二つの分野でおこなわれている。もちろん、両方の分野にまたがることもあるが、一方にかたよる傾向がはっきりみえることがおおいようである。言語学上の誤用研究は言語自身のきまりを中心にし、具体的な誤用の原因をみつけようとするものであり、おもに横断的なデータを利用する。むずかしい言語現象を分析することにおもしろさがあるところである。言語習得上の誤用研究は学習者の習得過程におもきをおき、そのプロセスのなかの各段階のデータすなわち縦断的なデータをよくもちい、言語現象自身のむずかしさにあまり関心をしめさない。この分類は、迫田（2002）、長友（1993、1998）での「言語研究のながれ」、「教育研究のながれ」の分類と似ているが、やはりくいちがうところはある。その異同を下表でしめす。

表 1 日本語を例とする誤用研究の分類

本研究の分類	日本語の誤用研究	日本語学分野における研究	言語研究のながれ	1970 年代後半から 1980 年代後半の研究は誤用分析を中心とする	日本語の習得研究	迫田などの分類
		第二言語習得分野における研究	教育研究のながれ			

研究の二分類はおなじであるが、誤用研究はかならず習得研究のなかにおさめられるとは筆者にはどうもみとめかねる。要するにふたつの研究はそれぞれ自分の体系をなしてお

り、目標と方法もちがう。ときには形式がかさなることがあるにしても、各自のみちにそっておこなわれるべきである。いままでの研究成果は両者の異質性をしっかりものがたっている。それゆえ、長友（1993）での「これらの一連の誤用分析（吉川 1982-1983、森田 1983-84、水谷 1984、稲垣 1985、宮崎・新屋 1985-86、大曾 1986-87、田窪 1987 と小林典子 1987、市川 1989、1990、小金丸 1990a、b、葉 1990、佐治 1991 など）をさしている。――筆者注）が言語習得論とむすびついた誤用分析の方向性を一切うちだせなかったというマイナスの側面も指摘せざるをえない。」（p. 8）、さらに「その後の日本語の中間言語研究の発展をおくらすひとつの要因になったのではないかとおもわれる。」（p. 8）という指摘にも納得できない。

また、張（2001）では「ひろい意味での誤用分析」と「せまい意味での誤用分析」という分類をしめしている（p. 23 参照）。それも研究分野による分類とかんがえられる。せまい意味での誤用研究とは第二言語習得研究の三段階のひとつの段階をさすもので、ひろい意味での誤用研究とはせまい意味での研究をふくめてあらゆる誤用研究をさすと理解できる。

言語学上の誤用研究と言語習得学上の研究はときどきからみあうことがあるが、しかし一方が他方にとってかわることは考えられない。言語学上の誤用研究は学習者の習得過程が解明できないのおなじように、言語習得学上の研究は具体的なあやまりをひとつひとつ系統的に分析することも無理である。ここで張（2001）のことばを借用すれば、「人間のからだにたとえれば、中間言語は身体全体の生理的活動で、中間言語分析は人間の生理的活動の全般を研究する生理学です。また誤用は頭痛や腹痛のような病気で、誤用分析はそのような症状をなおす治療活動です。そのために、総合的な研究である中間言語分析のほうすすめられる時代ではありますが、個々の病状を克服するための誤用分析も必要です。」（p. 71）ということになる。

## 2.2.2 研究方法からの分類

言語習得研究の方法として、横断的研究（cross-sectional study）と縦断的研究（longitudinal study）にわけられる。横断的研究とは、集団の被験者を対象として、ある特定の時期の一時点における習得現象についての研究方法である。それに対して縦断的研究とは、特定の被験者を対象として、長期間にわたって、ある言語行動の発達過程について研究する方法である（小池 1994： pp. 18-19）。この分類は誤用研究にもあてはまり、研究対象であるデータの収集方法によって分類される。言語学上の誤用研究はおもに横断的研究で、誤用の発生期をとわずに誤用表現に目をむけるのである。一方、言語習得学上の研究は縦断的研究、つまり特定の学習者の不同時期にあらわれるある表現の可変的な誤用の研究に属するものがおおいようである。しかし、ここにも横断的研究がみられ、とくに近年両者の方法を併用して考察をおこなった結果としての成果がふえてきたように感じられる。

## 2.3 日本語の誤用研究

### 2.3.1 日本国内における研究

1978年『日本語教育』34号で「文法上の誤用例から何を学ぶか」という特集（日本語教育学会1978）をくんだことは日本における大規模な誤用研究の幕あけとなったとおもわれる。長友（1993. p. 8）でのべるように、『日本語教育』が日本語教育界におけるひとつの指針となっている以上、ここにおさめられた6編の論文（鈴木1978、吉川1978、佐治1978、遠藤1978、宮崎1978、茅野・仁科1978）は当時の誤用分析の実状を反映するとともに、そのとるべき方向性をしめしたといえよう。ここでの方向性というのは、まえにのべた研究分野による二分類とほぼ一致しており、日本語学関係に属するものは鈴木、佐治、遠藤の三編で、日本語教育習得関係に属するものは、吉川、宮崎、茅野・仁科の三編で、ふたつの方向をさしているということである。かなり初期であるにもかかわらず、佐治は「外国人学習者の誤用例を検討していると、(1) 日本語教授法への反省、(2) 学習者の母語の言語、習慣、文化などと日本のそれとの対照研究、(3) 日本語内部のより深い研究とその結果の整理された記述、などの問題が浮かび上がってくる。」「こういった検討を、回を重ね、ねばり強く続けていくことによって、誤用の一般的傾向や母国語別の傾向、教授者側が研究、整理すべき問題のリストなどが、次第に明らかになっていくだろうと期待している。」（1978. p. 34）と意味ぶかく指摘している。

1982年11号から『日本語学』が5年にわたって複数の研究者（吉川1982-1983、森田1983-84、水谷1984、稲垣1985、宮崎、新屋1985-86、大曾1986-87、田窪1987）の誤用分析研究を掲載して日本語誤用研究のブームをよんだ。のちの1997年に以上の連載をまとめた『日本語誤用分析』、『続日本語誤用分析』という単行本が出版された。ただし、森田のものはいっておらず、かれはそのうえに「過去に集めた誤用例の中から文法、意味に関するものを補充し、同じ形式で分析記述したもの」（森田1985p. 236）を『誤用文の分析と研究』という本にした。これに関しては後述する。吉川（1982-83）では誤用の原因を①母語の干渉、②以前にならった外国語の干渉、③それまでにならった日本語の事項の影響、④不十分な理解、⑤不十分な説明、⑥類推のはずれという6類にわけていることはおもしろくおもわれる。そして『誤用への対応』という章で、「誤用を正すには、表現者の意図をくんでするのが原則であること」と「日本語の学習段階にあわせてなおしてやること」（1983p. 121）を主張している。水谷（1984）は「事実志向と立場志向」「自己と他者の区別」「否定にかかわる非用の問題」「聞き手への関心を示す表現の誤用と非用」「未来の表しかたに関する誤用と非用」「語彙に関する誤用と非用」と6章にわけてのべた。稲垣（1985）ははなしことばとかきことば、呼応関係の緊密性、人間関係によることばのつかいわけなどをめぐって論じた。宮崎、新屋（1985-86）、大曾（1986-87）、田窪（1987）はいずれも誤用例文を章名とする形であるが、それぞれ特徴がみられる。宮崎、新屋のほうは、学習の段階に目をくばりながら分析をすすめていく。しかも誤用者の母語である英語の表現とてらしあわせて解釈することもある。三篇とも誤用例文のままを項目としているといっても、実は分析はその誤用文そのものにとどまらず、その誤用文とおなじたぐいのものをめ

ぐって展開することがおおい。たとえば、宮崎、新屋（1985-86）の「二か月日本に来ています。」という章の中ではアスペクトをめぐってひろくのべている。大曾（1986-87）の「あした試験をお受けします。」という章で敬語について論じている。いうまでもなく、普通のテキストと同様な説明なら意味はない。「おあいする」はいいが、なぜおなじ「～に」という補語をとる動詞でも、「おはなしかける」「おあまえする」などはおかしいかの理由を解明しようとするところにはおもしろさがある。田窪（1987）ではおもに韓国語母語話者の誤用をあつかっており、韓国語の表現を対照しながら分析している。さきにもふれたがおなじシリーズの一部であるが、1984年10回にわたって掲載したあと、森田はおなじ形式で分析記述したものを補充し、『日本語学』にのせた量より4倍ほどふやして『誤用文の分析と研究—日本語学への提言—』（明治書院1985年出版）という本をつくった。論の進め方を見ると、ほとんどその誤用の原因からはじめ、おなじ原因による類似なものを提出することもあり、日本語学上の原理を解説した上で、正用の文をみちびきだす。著者はあとがきにこう述べている。「本書は外国人の誤用文の分析を目的とするが、分析作業に伴っておのずと明らかとなってくる日本語そのものの諸問題や、あるいは現在の日本語研究の在り方に対する注文、問題提起等をも副次的な指摘事項として意識的に強調したつもりである。」その「副次的な指摘事項として意識的に強調」する方法についてはもっと評価されるべきだとおもわれる。

1992年、佐治圭三は日本および中国の雑誌に発表した誤用に関する論文をまとめて『外国人がまちがえやすい日本語の表現の研究』という著作をだした。第1部は日本語教育の問題、第2部は誤用例の検討と分析となづけているが、両方とも日本語学の立場にたつてあつかうもので、習得研究の分野に属させるのは難しそうである。そのなかに中国人学習者の誤用例をおおくとりあげていることと、類似表現を分析することなどが特徴としてあげられる。特に中国人学習者の誤用への分析は中国における日本語誤用研究には非常に影響をあたえたといえる。

水谷信子（1994）『実例で学ぶ誤用分析の方法』という著作は、第1部誤用分析の諸問題、第2部誤用添削例A作文編、誤用添削例B会話編からなっている。書名のいいまわしどおり、この本は誤用分析がもちろん取り上げられているが、重点は分析そのものではなくて、＜方法＞におかれているといってもまちがいはない。第1部は普通の誤用分析と相違がなさそうである。第2部は応募した添削例についての講評で、添削の方法の検討になっている。誤用分析の成果をいかすために、本書はひとつの誤用例をひとつの角度からみたのでは不十分であって、総合的な考察が必要であることと、「非用」の可能性をあわせて考察することを主張している。また特徴といえるのは母語として特に英語をとりあげ、その影響をかんがえて分析をすすめていくことである。

1997年、2000年に、市川保子は『日本語誤用例文小辞典』と『続 日本語誤用例文小辞典』を出版している。いままでではじめて日本語の言語体系にそって分類された誤用研究だと思われる。前者はムード、テンス、アスペクト、ヴォイス、助詞、連用、連体修飾、従属節などの文法的なカテゴリーによって分け、単文レベルに見られる項目を中心にしたのもので、それに対して後者は接続詞、副詞という談話レベルの誤用をおもにあつかっている。また、とりあげる誤用例の数が多い（各1000以上である）のが本書のもうひとつの

特徴といえる。

張麟生は2001年に日本で中国語話者の母語干渉についての誤用分析、『日本語教育のための誤用分析—中国語話者の母語干渉20例』という本を出した。ほかの論文とおなじく誤用例をそのままみだしとしているが、ほかの論文とちがって、副題ではきちんと内容がしめされている。たとえば「あなたのこの口紅、すてきね→あなたのその口紅、すてきね【指示詞の「こ」と「そ】】」のように。検討はまずその誤用の起因をさぐりだして、それからその表現について中日対照分析をとおして説明しておいて、最後はまとめというすじみちで、誤用の原因を解明し、正用を提出しておわりとする。

### 2.3.2 中国における研究

中国における日本語誤用研究は1980年ごろはじまったが、発足そのものがおそく、それほどさかんにならないままで勢いがなくなってきたように感じる。原因を考えると、まずあげられるのは日本語研究者の数がすくないことである。1970年から1980年代前半にかけては文化大革命のせいでその数はさらにすくなかったのである。それに研究成果が発表される場が少なかったし、今も少ない。日本語の研究成果が掲載される雑誌は学習者むきの『日語知識』と1990年に廃刊した『日語学習』をいれて三種類しかないが、この二種類の雑誌にのせる論文は学習者むきのものがおおいので、成果らしい成果が掲載される場合は1979年に創刊した『日語学習と研究』をおいてほかにはないといえる。とはいえ、成果はそれほどおおくないにもかかわらず、そのなかに日本語誤用関係の研究もわずかながら見られるということだけであっても、よろこばしいこととして、挙げておくべきであろう。中国で発表された誤用研究はほとんど日本語学的なもので、習得関係のものは筆者の知るかぎりではないようである。以下ですこしふれておく。

①『日語学習と研究』1983年1号から1985年6号まで13回にわたって連載した「誤用例の検討——動詞の誤用例」(佐治圭三、劉金才、郭勝華1983-1984)は中国でおこなわれる誤用研究の嚆矢といえよう。それは中国人学者単独の著作ではないが、かなり意義をもっていると思われる。とりあげた誤用例の出所は国際交流基金出版の『中国人の日本語作文に見られる誤用例集』、日本語研修センターにおける授業中に出てきたもの、北京大学の学生が授業中に書いたもの、および中国で出版された出版物にみられるものなどであるから、代表性と豊富さはかなりの程度に達しているとおもわれる。代表者が佐治圭三だったことは、1970年代後半からスタートした佐治の日本語誤用分析の経験を生かして、中国での日本語誤用研究の起点をはじめからたかいレベルにおくことになったと思われる。分析もゆきとどいており、当時日本語をまなんでいた人やおしえていた人にだけでなく、いまの日本語関係者にもおおいに役にたっている。動詞を中心にしたものであり、1.「動詞の誤用例」と2.「「せる・させる」「れる・られる」に関する誤用例」に分類して、「1.」のなかに「日本語にない語形」など12の項目があって、「2.」のなかに「心理の動きを表す動詞に関するもの」など2項目ある。おもな内容はのちに日本で発行された『外国人がまちがえやすい日本語の表現の研究』(佐治圭三1992)におさめられた。

②上海訳文出版社によって出版された『日語病句剖析二百例(日本語誤用文分析二百例)』

(胡振平 1986) は早期にみられる中国人独自で完成させた誤用研究の成果である。当時としては相当なレベルに達していたものだとおもわれる。200 の誤用例を「文法あやまり」「表現あやまり」「語彙あやまり」の三部分に分けて、各部分に「助詞」「可能態」「慣用表現」「接続関係」などのようないくつかの下位分類がしてある。分析はまず誤用例を出して、それから「分類」「原因」「解説」「正解」の順にそってほどこした。「解説」にたくさんの正用例を提示する方法は評価される。「正解」とは実は訂正のことである。

③科学普及出版社によって出版された『中国人学日语常见病句分析一百例（中国人学習者によくみられる誤用例百例分析）』（穂積晃子著、顧海根、李強訳 1987）は中国で出たものであるが、日本人教師がつくったものである。誤用例は著者が 1981 年から 1983 年まで対外経済貿易大学で授業をしたときの学生の作文から収集したものである。説明はわかりやすく初心者むけのものがおおいという印象を受ける。分類は挨拶から文体まで 17 類ある。項目ごとの内容は誤用例、類似誤用例（ない場合にださずに）と説明の三部分からなっており、説明のほうは該当ことばの使いかたをめぐって正用例を提示しながら丁寧にくわしく説明している。この正用例は日本の中学校の教科書からとったものがおおいので、中、上級学習者レベルにあたることもある。

④上海外語教育出版社によって出版された『留日学生学日语错句解析（日本留学の学生の誤用の分析）』（徐宝妹、許慈恵 1995）は日本留学の学生の誤用を分析したものであり、めったにない中国人独自の労作のひとつである。600 あまりの誤用例をとりあげて、分量がおおいのが特徴である。

⑤『日語知識』という雑誌の 1989 年 5 月号から 12 月号には青蘭編「正誤辨析（正用と誤用の弁別と分析）」が連載された。その雑誌は初心者むきものなので、文章の一回の量は 1500 字程度で、初級の事項をあつかうものがおおいようである。それにつづいて、1990 年 12 回にわたって森田良行著、張青藍編訳『病句分析与研究（誤用文の分析と研究）』が掲載された。それは前述した明治書院 1985 年出版した『誤用文の分析と研究—日本語学への提言—』の一部を翻訳したものである。

以上のほかにも断片的だが、誤用に関する論文は若干みられる。たとえば、『日語学習と研究』1981 年 2 号にのせられた（朱万清 1981）「日語敬語表現和一些错误用例（日本語敬語表現とその誤用例）」や、同誌 1984 年 3 号にのせた（穂積晃子 1984）「教室用語誤用例」などがあげられる。

中国での、特に中国人の手になる誤用研究がさかんにならないままでおとろえる一方の理由はというと、誤用研究が全体として厄介であることがあげられる。そのなかで日本人研究者はそれなりに成果をあげているが、中国人など非母語話者にとってはおもった以上にむずかしいうえに、散々ほねをおってつくったものが大したものではないとひくく評価されることもある、などのことがあげられるであろう。しかし決して必要性がひくいわけではない。他言語学習で誤用が生じることはさけられない以上、誤用研究はいくらやっても終わりきることのないものといえるのではないだろうか。

## 2.4 先行成果の問題点

前節では誤用研究に関するおもな先行成果を紹介しておいた。それらの成果はすばらしいものがすくなくないといっても、誤用研究はもう十分でこれ以上いらぬというわけではない。指摘せざるをえない問題点にすくなくともつぎのようなものがある。

i. 分類が科学的な基準に欠けるために、合理的、客観的な分類による研究はすくない。分類を全部統一する必要があるかどうかは別として、ひとつの著述、論文の内部でも重複、矛盾がしばしばみられる。たとえば、『外国人の日本語作文に見られる誤用例集』（対照研究方法論開発班 1980）では、語の選択、文法、表現というみつつの部分に分けてある。表現という部門を文法とおなじレベルに並列することは科学的かと疑問を感じる。実際には表現とあっても文法の下位分類の統語論におさまる例もあるし、そのなかの具体的な例をみると、「日本のたぐさんの人たちは野球をあそび（やり）ます」という例は語彙の語の選択に分類すべきものもある。前の 1-3 であげた体系的にとぼしい分類の例（穂積晃子 1987）も分類の内部が混乱していることのあらわれである。さらに分類というむずかしい問題をあっさり避けて、まったく分類せずにかつてな作業順のままですすむものさえある（たとえば徐宝妹、許慈恵 1995『留日学生学日语错句解析』）。このようなものは実に利用しにくい。

ii. 各論をひとつひとつとりあげたばあいは完璧にみえても、あらためて研究の全領域からみるとまだものたりない気がすることがある。それは、まず特定の個別言語それぞれを母語とする学習者を対象にした体系的な研究がすくないことである。体系的だといえそうな誤用研究もすくないとはいえないわけではないが、特定の母語話者に見られる誤用研究はすくないし、あるいは、特定の母語話者にみられる誤用を中心にしたものであるが、全体的な系統的な研究ではなくて、あるテーマをめぐる断片的なものにすぎないものが多い。研究者は自分の手元にある事例だけに注目し、個々人の相互に連関しない研究を出すのが普通である。そのばらばらの研究を体系化する作業はまだまだである。

iii. 日本語の誤用研究はかなりすすんでいるといえるが、その全体系をささえる重要な役わりである中国人学習者の誤用研究はなお不十分である。すでにある先行研究は事実の側面をめぐる研究がおおいが、その全体像＝体系をみせてくれるものはまだあらわれていない。

今までの先行成果はそれぞれ長所と短所を持っているが、それぞれの長所を生かして短所を避けてまとめていくことが必要である。例文を多く収集しているが分析が不十分であるもの、または分類が合理的でなかったりするものもあれば、分析が行き届いているが例文が少なすぎるものもある。それらの不足を補うべきである。

### 3 本研究について

#### 3.1 本研究の意義と位置づけ

第二言語習得研究者には誤用研究を習得研究の一部としてあつかうべきことをよびかけるひとはすくなくない。長友（1993）ではこう指摘している。「これら一連の誤用分析が言語習得論と結びついた誤用分析の方向性を一切打ち出せなかったというマイナスの側面も指摘せざるをえない。1970年代後半は、欧米を中心に、言語習得論としての誤用分析の限界が既に認識され、学習者言語の総体的研究としての中間言語研究が大きな発展を遂げる時代である。この時点において、第2言語習得メカニズムの解明に寄与すべき誤用分析のあり方を提示できなかったことは、その後の日本語の中間言語研究の発展を遅らす一つの要因になったのではないかと思われる。」(p.8)しかし、実際は言語学上の誤用研究と二言語習得学上の誤用研究とはからみあっているところがありながら、別のものとしてあつかうべきものだとかんがえられる。性質からいうと、言語学上の誤用研究は誤用を対象とする言語の研究で、二言語習得学上の研究は誤用を通しての習得の研究であるので、それぞれ自分の目的、対象、方法、内容、形式および役目などをもっているはずである。そうである以上、誤用分析はもはや中間言語研究に移行したと称して、これ以上する必要はないなどと断言してはならない。習得のプロセスがいくら解明されても、具体的な誤用の原因やなおしかたがわからないと学習は上達しない。それに、誤用の横断的な体系を解明する仕事と、誤用の発生、修正、消滅の縦断的なプロセスを解明する仕事はまったく異質なものである。誤用研究をつづける意義はまさにここにある。

国際交流基金（2004）『『2003年海外日本語教育機関調査』結果概要(速報)』によると、日本語学習者数第2位は中国で約39万人、第1位の韓国と第3位のオーストラリアとの3カ国で世界の学習者全体の約7割を占めているそうである。増える一方の中国人学習者にもっと確かな使いやすい「杖」や、学習者自己モニターの「道具」を提供すること、そして、日本語教師も誤用修正指導作業のマニュアルとして使用できるようにするということは、本研究の動機のひとつである。この立場からいうと、中国人学習者に見られる誤用の研究のもつ、日本語教育における意義は大きい。

また、おなじ訂正ずみの中国人学習者の誤用例を目にすると、日本人研究者はなぜそんな誤用を犯すか、その原因を知りたがるのに対して、中国人研究者はなぜそのように訂正したか、その理由に興味をしめす。逆にいうと、要するに、中国人研究者にとってはその誤用の原因のほうがわかりやすく、日本人研究者にとっては訂正する理由のほうが納得しやすいというわけである。誤用研究のおもな目的はあくまでも学習者の学習に役にたつことであるので、どういうしめしかたが一番このましいかをめぐっては学習者に一番発言権があるはずである。研究がいくら立派であっても、また分析がいくら緻密であっても、学習者の興味、関心や利害にあわないと価値が大きく下がるといえるであろう。それゆえ、誤用をおかす学習者とおなじ言語の母語話者であり、誤用を生じさせた言語のかつての学習者でもあった研究者が学習者の立場に立っておこなう誤用研究はいっそう必要であると

おもわれる。

また、まえの問題点でのべたように、いままでの中国人学習者にみられる誤用の研究はほとんど、たまたま手もとにあった資料の分析にとどまるとしかいえないものである。できるだけ広範囲にわたる資料を手にいれ、科学的、体系的に分類していき、その分類にそって、日中言語対照研究の成果をいかしながらおこなう研究は、日本語誤用研究にとって意義があるものである。これは本研究のめざしているものでもある。

誤用はどんなにこみいって、区別しにくい状態であらわれていても、ひとつの客観的な存在である以上、それなりに体系をなしていることはまちがいない。もちろんまるまる言語世界における誤用の体系をもとめることは一個人のちからではどうにもならないが、本研究はそのおおきな体系をささえる一部分＝中国人学習者にみられる誤用を中心としてあつかうことにする。

なお、まえにのべたように、日本語誤用研究は第二言語習得専攻の研究者と、日本語学専攻の研究者の二分野でおこなわれてきた。同じ誤用研究といっても、第二言語習得の面にかかわる研究は学習者の学習プロセスに注目するが、日本語学にかかわる研究は誤用から正用まで言語自身の体系性、規則、規範におもきをおく。本研究は後者のたちばにたつものだといえる。また、今回の誤用の実例の資料はほとんど学生の作文から収集したもので、語彙や文法の面にしぼって分析をおこなうことになり、音声に関する誤用の分析は直接はあつかわないことにさせていただく。

### 3.2 研究方法と資料について

研究方法という、まず資料の収集と分析方法のことをいわなければならない。本研究の資料は二部分から構成されている。一つ目は誤用の実例で、ふたつ目は正用の実例である。前者は蘭州商学院、上海理工大学、浙江大学、浙江桜花外国語専修学校などの3年にわたる学生の作文と『日本語習慣表達速成』（段克勤 2001）からとりだした1500余りの誤用の実例を基礎として選出したものである。作文の誤用例の収集対象としたものは大学の3、4年生と専修学校の上級コースの学生が書いたものである。クラス数は合計約40で、学生数は1200人に及んでいるが、もちろんクラス全員が本誤用例集のかきてメンバーになるわけではないので、おおざっぱに計算して半分ぐらいとすれば、600人程度である。『日本語習慣表達速成』から取った誤用例は作者が慣用句の正用例としてあげた作例である。その中に誤用かどうか日本語ネイティブにもゆれが見られるものもあるが、それらがなんとなく抵抗感を感じさせる点があるのは確かのである。そのなかで、学生作文は中級レベル、『日本語習慣表達速成』は上級レベルに属している。誤用例を選出してから科学的に分類することは大切な仕事である。本研究の誤用例集は日本語を記述の対象とするとき使われるカテゴリーに基づいて分類した。そのカテゴリーは流派によって違うところがあるので本研究はおもに高橋太郎他（2005）『日本語の文法』の体系によることにした。誤用例文の数は、異なり例文数は1110で、延べ例文数は1385である（延べ例文数とはひとつの例文には複数の箇所に誤用があり、複数のカテゴリーに出るため文として重複計算するものである）。後者の正用例は日本の小説やホームページにおける該当の正用表現の実例である。

主に『新潮文庫 100 冊』CDROM と『中日対訳コーパス』のものを利用する。また、誤用の体系を考察するために、保有する誤用例ではたりないばあいは、先行研究の誤用例文もかりている。

研究は収集した誤用例から典型的なものを取り出して、日本語学研究及び誤用研究分野の最新成果を利用し、対照言語学の視点からその誤用例について科学的に分析し、誤用の原因解明、訂正理由および予防方法などを掲げるものである。予防方法を提出する時に操作可能性を重視することを特色とする。なお、正用例を提出して、それをよく覚えるのも誤用を避ける方法として薦める。分析方法はおもに対照言語学の方法と意味論の類義研究の方法でおこなう。もちろん具体的な作業では文法論や構文論などのいろいろな言語の内の構造にかかわる理論にもとづいてすすまなければならない。

対照言語学は複数の言語の対照研究をとおして対象言語の本質を明らかにしようとする学問である。「その発達は、多くのばあい、外国語教育や自国語の外国人への教育の場で生じる問題を基盤としてきた。」(石綿、高田 1990) というのなかの、「教育の場で生じる問題」の大きな部分に、誤用にかかわる問題が存在することはたしかである。つまり、誤用研究は対照言語学に重要な手段で、対照研究は誤用研究の主要な方法だといえる。本研究は中日対象の視点から捉える旨をあくまでも貫こうとするものである。対照研究の対象は言語間エラーである。これを対して、言語内エラーを研究するおもな方法としては類義表現研究の方法である。徳川宗賢、宮島達夫(1972)では類義語を次のように分類している。

(A) 一方が他方にふくまれるもの、(B) 部分的にかさなりあうもの、(C) かさならないものというように。これらのものはもともとその言語の内部のもので、たとえば「経つ」「経る」「経過する」のような類義語のあいだの意味関係、ことなる言語を母語とする話者もおなじあやまりをおかすことがみられる点で、第一言語の干渉はあまりみとめられないため、言語内エラーに分類した。しかしながら、母語話者が気づかない、外国人学習者による母語からの訳語にかかわる類義表現、たとえば「それにしても」と「それにしては」とは、中国語訳語はおなじく「尽管如此」なので、言語間エラーにしなければならない。なお、類義表現の描写はあくまでも主観的なものなので、いくら客観的に努力しようとしても客観事実を正確に表現することはほぼ不可能に近い。その不足を補えるのは母語話者の使用した正用例を提示するよりほかはない。それゆえ、分析に必要があるところでは正用例を提示することにした。

### 3.3 構成

本研究は四部から構成される。第一部は序説で、誤用と誤用の研究を概観する。誤用研究の先行成果と本研究の意義などを述べる。第二部、第三部は誤用分析で、語彙、文法の二部分に分けて検討していく。そこではそれぞれのカテゴリーにおける誤用を具体的に分析、研究し、各カテゴリーの個別例の検討を通して中国人学習者の誤用の全体像を呈示することを試みる。各カテゴリーの順序は主に高橋太郎他『日本語の文法』にしたがったが、それにない、誤用があるものを、適当に項目を増やしてあつかう。第四部は結びで、誤用の体系を解明することにする。そこでは第二言語習得の理論と方法を導入して誤用の全体

像＝体系をえがいてみたい。

## 第二部 誤用の分析（一） 語彙編

## 4 語の選択

### 4.1 単語

#### 4.1.1 日本語にない語彙と中日同形異義語

- 1) いくつかの士兵(兵士)が人々の身分証明書を検査していると(のを)発見した(見た)。なぜか知らなかった。私たちの身分証明書が(は)ホテルにある(あった)ので、とうとう(結局)通じられなかった(通れなかった)。当日残念に(残念に思いながら)天津へ返った(帰った)。
- 2) 寮の正対面(真正面)はバレーボールコート、そのバレーボールコートの後ろ(後ろは)教育ビル(教学楼)、寮の左がわは図書館、後ろのほう(その後ろ)は(に・には)先生の寮があります。
- 3) 2月9日(に)私は寮に帰りました。ルームメートに合う(会った)時、親切感がしていました(懐かしく感じました, 親しみを感じました)。
- 4) 彼は本校バスケットボールチームの一員として全国高校バスケットボール大賽を(大会に)参加して、省チャンピオンを(に)遂げた(なった)。
- 5) 私は天津の中学校へ行って勉強しました。彼は私たちの故郷という廊坊(故郷の廊坊というところ)で勉強しました。でも私たちはずっと联系を(連絡を)持ちつづき(とりつづけ)ました。
- 6) 今、政府は水下トンネル(川底トンネル, 海底トンネル)を造るという企画を作ります(作っています)。
- 7) もっとも便利な交通工具(交通手段)は自転車だと思います。
- 8) 改革開放につれて、欧米(欧米)と日本を始めて(始め)、有名な外国の会社は北京で子会社を創立しました。
- 9) 欧米人が 一中略一 新しい文化と生活方式(生活様式)をも持ってきた。だから、上海は多くの国の文化が集まった。例えばイギリスの謹厳、フランスのロマンチック、アメリカの奔放、スペインの快適。
- 1 0) うれしいのは日本語科の学生を招募している(募集している)会社が少なくないとは言えなかった(少なくないことだ, 少なくないと言えることだ)。
- 1 1) 僕は今大学で勉強していて、両親と一緒に暮らすことができなくて(できないので, できないですが)、卒業した後、彼たち(両親)の身边(下)に戻るつもりを持っています(つもりです)。
- 1 2) 市民の素質(意識)を提高する(高める)のも大切なことです。今政府はこの方面(この面)に力を致しています(力を入れています・力を注いでいます)。
- 1 3) 日本語の専業(専攻である日本語)を勉強(勉強する)にしたがって、日本(日本の)まんがについても、いろんなことを知っています(知るようになりました)。
- 1 4) いま、Novell のエンジニアの証書に(資格を取得するために)努力していま

す。

語の選択の誤用には、中国人学習者が中国語のことばをそのまま使ってしまうことがよく見られる。そのような誤用を本節で検討することにする。

それらの誤用はさらに二分類することができる。「大賽」のような日本語にない類いと「証書」のような日本語にあるものの意味のニュアンスが異なるものとある。前者は辞書を調べれば簡単に避けることができるが、後者のほうは一つ一つその語の意味と用法などを理解しておかないと誤りをおかしやすい。いずれにしろこのような誤用をおかす原因というと、中国語でも日本語でも漢語を使うことにあると思われる。しかし、原因であるといっても理由とするわけにはいかない。日本語をよむ環境ときく環境で出会ったことのない漢語をかけてに使わない、そしてどうしても使いたいときは、かならず辞書を引いてから使うことなどに注意しておけば、この種の誤用を予防することができるだろう。

上に並べてある 1) から 9) までの例は日本語にない中国語のことばをそのまま使ってしまった例である。そのうち、「士兵(兵士)」、「正対面(真正面)」、「交通工具(交通手段)」、「提高(高める)」などのような日本語にちゃんと対応する語があるものなら、取り替えることは簡単である。一方、「親切感」とか「水下」などのような日本語に対応語がない場合だと、「懐かしく感じる」「親しみを感じる」や「川底」「海底」のように原文の意味によって訳すほかない。

さらに、10) から 14) までの例で誤って使ってしまった語は、日本語にあるのに使つてはいけないもの、すなわち中日同形異義語なので事情がやや複雑になる。以下具体的に見ていく。

#### (ア) 招募

招募（小学館『国語大辞典』では「招募」とも書いてある）ということばは日本語にあるし、「召し募ること。呼び集めること。」と『広辞苑』では解釈しているが、実例を調べてみると用いる場面はかなり限られそうである。まず、百冊小説コーパスにも中日対訳コーパスにもその用例は一つもない。青空文庫には 1 例しかない。それと日本語ホームページを検索して得たものはほとんど古い時代のものや軍隊のことに用いているものである。17) で分かったように、そのニュアンスは「徴集」に近い。言い換えると現代では、兵士などを募る以外にはほとんど使わないことが物語られる。言うまでもなく、学生を徴集するわけにはいかないことが理由となって、この場合は「募集」しか用いられない。下では実例を 3 例だけ挙げるが、くわしくは資料編参照。

1 5) ... 清朝の康熙時代や乾隆時代に、天子の特別の思召で、博學鴻詞科——普通の科擧（常科）に對して、之を制科といふ——といふを開いて、天下非常の人材を招募したことがある。その成績を觀ると、矢張り南支那の人材が遙に北支那に優越することを立證する。（歴史上より觀たる南支那の開発）

1 6) ... こうした状況の中で、明治政府の北海道開拓使は、明治 8(1875)年「札

幌郡琴似村屯田兵」を召募する旨の通報を「宮城」「... さて、その召募の条件は、十八歳から三十五歳迄の身体強壯な者とされ、応募者には、家屋のほか、鍋、釜、寝具などの生活 ... (琴似屯田)

- 1 7) ... 戦時に鉄道勤務者の人員補充は、軍入隊形式に触れ、召募 (徴集) を通して分類された人員として補充する。 2. その他の輸送機材. 鉄道のみならず、北朝鮮の他の全ての輸送機材も、戦時動員態勢を備えており、定期的に召集及び準備物検閲を受けている ... (輸送機材の動員体系)

#### (イ) 身辺

身辺ということばは中日両国語にもあるし、その意味そのものも大差ないが、語用論的な立場から青空文庫ホームページと『中日対訳コーパス』にある実例を考察すると、そのズレがかなり大きいことが分かった。日本語のほうは、「日常身辺」とか「身辺瑣事」とかのように抽象的なことに使うことが多く、中国語のほうは日本語のような抽象的なことにも使うが、具体的なこと、すなわち「だれだれのそば」のような空間的意味をもよく表す。こういうわけで、両語にある使用頻度がだいぶ違う。『中日対訳コーパス』で調べた結果によって、次のことがわかった。

- ① 日本語全作品での出現度数は 10 であり、
- ② 中国語全作品での出現度数は 370 であり、
- ③ 中国語作品の日本語訳文での出現度数は 18 であり、そのうちに 370 回に対する訳語として出てくる度数は 10 であり、つまりあとの 8 は中国語の「身辺」に対応して訳した「身辺」ではない。

上に述べたことを証明するものとして、わずかだが実例を挙げる。詳しくは資料参照。

##### a. 日本語作品にある実例

- 1 8) 女は窓から立ち上ると、今度は窓の下の畳に柔かく坐った。遠い日々を振り返るように見えながら、急に島村の身辺に坐ったという顔になった/ 姑娘从窗台上站起来，柔媚地坐在窗下的席子上。脸上的神情好像在追思遥远的往事，却蓦地又恢复坐在岛村身旁的表情。(雪国)

- 1 9) 「よく君は引越して歩く人さ」と銀之助は身辺を眺め廻しながら言った。「一度瀬川君のように引越す癖が着くと、何度でも引越したくなるものと見える。まあ、部屋の具合などは、先の下宿の方が好きそうじゃないか」/ “你就爱搬来搬去。” 银之助边打量房内的一切，边说，“一旦染上了濑川兄这种爱搬家的毛病，无论搬上多少次都不会嫌麻烦的。依我看，这房子倒不如先前的好。” (破戒)

- 2 0) 作る詩には身辺の生活をテーマとしたものが多く、はっきりとした比喻で、男女間および人類の原始の愛を、イメージで再現し、一種の大きな安定感を兼ね備えている。/ 作诗多以身辺的生活为题材，用鲜明的比喻，形象地再现男女之间

以及人类的原始爱，具有一种广泛的安定感。(日本戦後名詩百家集)

- 2 1) ... この集の内容は例によって主として身边瑣事(さじ)の記録や追憶やそれに関する瑣末(さまつ)の感想である。... しかし、いかなる個人でもその身边にはいやでも時代の背景が控えている。それで一個人の身边瑣事の記録には筆者の意識... (自由画稿)
- 2 2) ... 勿論(もちろん)私はこれらの日常性をのみ撰択することを、悪リアリズムだとは思わないが、自己身边の日常経験のみを... しかし、何といても、ここには自己身边の経験事実をのみ書きつらねることはなく、いかに安手であろうと、創造がある。... (純粹小説論)

#### b. 中国語作品にある実例とその訳文

- 2 3) 他身边坐一个女子，抓一把花阳伞在手上。/そばに座っている女は色模様の日傘を手に持ち、... (挿队的故事)
- 2 4) 静宜走到“花瓶”小姐身边，慌乱地、结结巴巴地述说了自己的身份和目的。/「職場の花」嬢のところへ近づくと、静宜はシドロモドロに身分と来意を告げた。(活動変人形)
- 2 5) 而他做作业的时候姨就坐在他的身边，与他一起做。/宿題をやる時も倪藻の側に坐って一緒にやってくれる。(活動変人形)
- 2 6) 看到的已经在身边的房舍和床铺却渐渐地隐去了。/直ぐ身近にあった目に見えていた家やベッドはしだいに闇に消え、(活動変人形)
- 2 7) 他强忍愁苦，抱着最小的儿子，坐在病人身边，眼望着跳动的灯火，耳听着窗外春风吹拂着树梢儿响。/かれは胸の苦しみをじっとこらえ、末の子を抱いたまま、病人の枕元にすわってちらちら動く灯をながめ、木のこずえをわたる窓外の春風の音をきいていた。(金光大道)
- 2 8) 他对于身边发生的和将要发生的事儿，不能说得很清楚，可是他觉得一切都是很痛快、很神圣的，心里产生一种说不出的振奋。/身近で起ったばかりの、そしてまた、これから起る筈の事件が、何かうまく説明できないが、やたらに痛快で大変神聖なことのように思え、言い難い興奮に襲われた。(金光大道)
- 2 9) 似乎没有听见他的哭声，没有听见他的叫声，对身边的一切都漠不关心了。/彼の泣き声も叫び声もまるで耳に入らなかったかのようで、身边のすべてに無関心な様子である。(人到中年)

#### c. 中国語原文とも日本語訳文とも「身边」である例

- 3 0) 这样，吐着长长的白舌头的父亲的魂魄便不能安宁，他将夜夜在他们身边逡巡。/白っぽい舌を長くダランと出したパパの魂は成仏できないから、夜な夜な私たちの身边をさ迷うの。(活動変人形)
- 3 1) 发现那个从自己身边走掉的“无用之材”，居然变成了赶车的把式，干活

的能手。/かれはそこで自分の身边から遠ざかった「役立たず」が、思いがけなく  
もりっぱな御者となり、仕事のできる男になっているのを知った。(金光大道)

- 3 2) 似乎没有听见他的哭声, 没有听见他的叫声, 对身边的一切都漠不关心了。  
彼の泣き声も叫び声もまるで耳に入らなかったかのようで、身边のすべてに無関心  
な様子である。(人到中年)

まず a.については、「百冊コーパス」には「身边」がある実例は 59 例、「中日対訳コー  
パス」には 10 例あるが、中国語の身のそばという意味と同じものは 1 8) 番『雪国』の  
一箇所しかない。ほかのものはほとんど抽象的なものである。1 8) としても、23) から  
27) までのように目の前に見えるほど具体的な場所を指しているのではなく、表情を表す  
のである。やはり抽象的なものに近づいている傾向がある。要するに、日本語の「身边」  
は抽象的な空間を表すのが普通であることがあきらかにされた。また、b.と c.については、  
中国語の「身边」は抽象的と具象的と両方とも用いるので、日本語に直すとき注意を要す  
る。すなわち、具体的なものを表す場合、「そば」とか「枕元」などのようにその場にあわ  
せて訳し、抽象的なものを表す場合、「身边」と訳してもかまわない。

#### (ウ) 素質

素質ということばは中国語、日本語両方ともあるが、意味にはずれがあると思われる。  
もともとの意味(原義)としては両国語とも同じく、個人が生まれつき持っていて、性格  
や能力などのもとなる心的傾向(『広辞苑』による)を指しているが、中国語での転義で  
は素養とか認識という意味をよりよく表している。特に近年「提高素质(資質を高める)」  
などはよく言われるようになったので、原義よりむしろ転義のほうがよく使われるよう  
になった。しかし日本語にはこういう転義が未だになさそうである(ホームページからとっ  
た 20 余りの実例にはこの転義にあたるものは 1 例もない。資料編参照)。このような中国  
語の干渉によって、素質を高めるという誤用を犯したわけである。次に並べてある実例で  
分かったように、中国語の原義として使うものはそのまま「素質」と訳し、転義として使  
うものなら「資質」、「体質」などに訳すべきである。

- 3 3) 美食能使人性情柔和、皮肤滋润、毛发丰美、四肢灵活、心地善良、举止  
有礼。美食能促进社交, 提高文明, 训练一种新的素质。/美食は人間に柔和な心を  
育み、皮膚をつややかに、毛髪を豊かに美しく、四肢を柔やかにし、礼節を弁えし  
める。社交を促進し、文明を高め、新しい素質を養う。(活动变人形)
- 3 4) 加强政法队伍建设, 提高干警政治和业务素质。/司法・公安陣を充実させ、  
公安幹部・警官の政治と業務面での資質を高める。(人大報告 96)
- 3 5) 农业基础比较脆弱, 科技和教育还不适应现代化建设的需要, 国民经济整  
体素质和效益不高。/農業の基盤はなおかなり脆く、国民経済全般の体質と効率は  
高くない。(人大報告 97)

#### (エ) 專業

日本語の「專業」という語の意味は①専門の職業または事業、②独占事業と解釈されている(『広辞苑』により)。それに対して中国語の「专业」の意味は①専攻、②専門の業務、③プロ(の)だと思われる(『現代汉语词典』、『汉日辞典』、『中日大辞典・増訂版』などによってまとめた)。実例の調査で次の結果を得た。

1. 日本語ホームページの前2頁にある22例は全部「専門の職業」の意味で、しかもそのうちの14(66%)は「專業主婦」である。
2. 百冊小説コーパスには2例しかない、そして2例とも「専門の職業」の意味。
3. 中日対訳コーパスにある日本語作品には1箇所あり、「事業」の意味。
4. 中日対訳コーパスにある中国語作品には86例あり、ほとんど専攻や専門の意味で、日本語の專業に訳せるものは6例しかない。

上の1.の日本語の專業に訳せる6例を下に示して、ほかのものは資料編を参照してほしい。

- 36) 碧蓮养了七十只鸡，成了养鸡专业户，可是运输不便，销路不算好。/碧蓮は七十羽の鶏を飼い、養鶏專業農家になったが、輸送が不便なのであまり販路に恵まれていない。(插队的故事)
- 37) 第三，多种经营发展了，并随之而来成立了各种专业组或专业队，从而使农村的商品经济大大发展起来。/第三に、多角經營を發展させ、それにともなってさまざまな專業作業組や專業生産隊をつくり、それによって農村の商品經濟を大いに發展させることである。(邓小平文选第二卷)
- 38) 比如现在我们能担任司法工作的干部，包括法官、律师、审判官、检察官、专业警察，起码缺一百万。/たとえば、弁護士、裁判官、檢察官、警察官を含めて、司法事務にたずさわられる幹部は、いま、少なくとも百万人たりない。(邓小平文选第二卷)
- 39) 按照“共建、调整、合作、合并”的方针，进一步改革政府专业部门办学的体制，加快高等教育向中央和省两级管理、在国家宏观政策指导下以省级政府统筹为主的新体制过渡。/「共同設立・運営、調整、協力、合併」の方針に基づいて、政府の專業部門による学校創設・運営体制をさらに改革し、中央と省の二級管理および国のマクロ政策の指導下の省クラス政府の統一的配置を主とする新体制への大学教育の移行を速める。(人大報告 99)
- 40) 到了这一九八二年春天，他已由工厂调到了一个文艺单位，挂着工作人员的名，享受着准专业作家的待遇，/一九八二年の春には、彼は工場を離れてある文学部門に籍をおくことになった。そこの部員というのは表向きのもので、実際は職業作家の待遇をうけていたのだ。(钟鼓楼)
- 41) 他还是个不坏的木匠，手艺当然比不上宝生，宝生是专业木匠。但要是破木方、立柱架梁，人们宁愿请栓儿。/彼はさらに大工としての腕も悪くなかった。

技術はもちろん専門の大工である宝生に及ばないが、角材を作ったり、柱や梁を立てたりする場合には、村人は栓兎に頼んだほうがいいと思っていた。(挿队的故事)

以上の考察では、中国語の「专业」は日本語の「專業」と対応するところはわずかしがなく、基本的な意味は「専攻」、「専門」に当たることが分かった。

#### (オ) 証書

中国ではいま「考证热 (資格取得ブーム)」というブームが巻き起こっていると言える。中国語でいう証書というのは、特にいま現在よく使われている意味として、ある資格の免許証みたいなものである。それを取得するために受験することは「考证」という。しかし日本語の証書という語にはそういう意味はないようである。前記のふたつのコーパスを調べてみると、あわせて32個所見つけたが、その9割ぐらいは卒業証書類で、残ったものは借用証書と恩給証書などであり、資格の免許類に用いるものは1例もない。一方、中国語の「证书」の訳語とするものを知るため、次の実例を調べている。

- 4 2) 五年之末，他带着满面的风尘，满身的筋骨，满心的喜乐，和一张荣誉证书回来。/そして五年たって、彼は満面に苦労のあとをにじませて、満身のたくましい筋骨、胸いっぱい喜びとともに、卒業証書を手に戻ってきた。(关于女人)
- 4 3) 那一天，学校工、军宣队把离婚证书交到我手里。/その日、大学の労働者解放軍宣伝隊が離婚証明書をよこした。(人啊，人)
- 4 4) 双方全权代表互相校阅全权证书，认为妥善后，达成协议如下：/これらの全権委員は、互いにその全権委任状を示し、それが良好妥当であると認められた後、次のとおり協定した。(中日外交两个基本文件)

しかし、上の実例にあるものは、1 4) とおなじ意味のものはまだ見られない。それは、コーパスにあるものが古いものばかりであるせいである。その不足を補うために、北京大学中国語研究センターのコーパスから実例をとって日本語インフォーマントに訳してもらったテストを試してみた。下の①と②はそれぞれ二人の日本語母語話者の訳案である。

- 4 5) 公民对自己的发明或者其他科技成果，有权申请领取荣誉证书。/①国民は自分の発明、或いはその他の科学技術の成果に対して発行機関に申請し、榮譽証をもらう権利がある。②公民は自らの発明又はその他の科学技術の成果について榮譽証書の受領を申請する権利を有する。
- 4 6) 律师执业，应当取得律师资格和执业证书/①弁護士業務を行う場合、弁護士資格を取得し、業務証を取得しなければならない。②弁護士業務を行なうには弁護士資格及び開業許可証を取得していなければならない。
- 4 7) 外交上的全权代表须持有国家元首的全权证书/①外交上の全権代表は国

家元首の全権委託証をかならずもたなければならない。②外交上、全権代表は必ず国家元首の全権委任状を有していなければならない。

- 48) 导游需考取导游证/①ガイドは受験してガイド資格証を取得しなければならない。②添乗員は必ず「旅程管理主任者」資格証書を取得していなければならない。

中国語の「～证书」は日本語に訳されるとさまざまなことばとなる。それは中国では証書ということばは多いわけである。日本には「離婚証書」なんかそもそもないものである。なお、問題の資格を証明する文書類の用法というところ、普通「資格」や「資格証書」などと呼ぶ。ちなみに日本語にこのような資格と近いことばに、「免許」がある。ただし、使う場面はかなり限られていて、運転免許が圧倒的であり、ほかには医師免許、教員免許ぐらいしかない。中国語では教師資格証書とエンジニア資格証書とガイド資格証書とはおなじなのに、日本語では後二者は免許と呼びにくいようである。

#### 4.1.2 間違えやすい名詞の誤用

今回収集した誤用例の中に学習者によく見られるものもあれば、めったに見られない偶然出たのではないかと思われるものもある。本研究では前者に重点を置く。本節では名詞において間違えやすい誤用を扱うこととする。本節で取り上げる一部は「日本語にない語と中日同形異義語の誤用」でも取り上げられているものであるが、「日本語にない語と中日同形異義語の誤用」では具体的な誤用分析を行っているのに対して、ここではどういうものが間違えやすいものか、このような誤用がなぜ生じやすいのかを分析し、生じやすいものの類型を考察しようと考えている。

(ア) 中国語の干渉によるもの

- 1) 欧米人が 一中略一 新しい文化と生活方式(生活様式)をも持ってきた。だから、上海には多くの国の文化が集まった。例えばイギリスの謹厳、フランスのロマンチック、アメリカの奔放、スペインの快適。
- 2) もっとも便利な交通工具(交通手段)は自転車だと思います。
- 3) 友だちと一緒に証券交易所(証券取引所)へ株券を買ったり売ったりしに(株の売買に)行きます。
- 4) 彼は本校バスケットボールチームの一員として全国高校バスケットボール大賽(大会)に参加して、省チャンピオンを(に)遂げた(なった)。
- 5) 寮の正対面(真正面)はバレーボールコート、そのバレーボールコートの後ろ(後ろは)教育ビル(教学楼)、寮の左がわは図書館、後ろのほう(その後ろ)は(に)先生の寮があります。
- 6) 市民の素質(意識)を提高する(高める・向上させる)のも大切なことです。今政府はこの方面(点)に力を致しています(力を入れています・力を注いでいます)。

- 7) 私からみれば、南方の食と北方の食と(南方と北方の食文化)の一番な(一番の)区別(違い)は南方の主食が(は)米で北方の主食が(は)小麦粉だと思えます(だということ)です。
- 8) しかし、中学生になると、どういうわけか、絵画に対する趣味(興味)がだんだん衰えるようになり(衰えてしまいました)ました。
- 9) 経済面で勢いよく発展している。鋼鉄(鉄鋼)や服装(服飾)、化工(化学工業)などの企業がある。
- 10) 仕事の関係で母はひと月に一週間ぐらゐ家にいます(一週間ぐらゐしか家にいません)。それで、平常(普段)、家に(には)父、私と弟(父と私、弟)3人だけいます(しかいません)。
- 11) 私は天津の中学校へ行って勉強しました。彼は私たちの故郷という廊坊(故郷の廊坊というところ)で勉強しました。でも私たちはずっと联系(連絡)を持ちつづき(とりつづけ)ました。
- 12) 彼女と一緒にいると、気分もいいし、いつも笑顔が見えています(笑顔になります)。歌うことと踊ることは私たちの共同(共通)の好み(興味・趣味)です。
- 13) われわれは急いで彼を医院へ送った(病院へ連れて行った)。急診をして(緊急で診察してもらい)、ついに大丈夫になった(彼は無事だった)。
- 14) 先生から私たちの水準(レベル・学力)で(は)日本語能力試験に合格できる可能性が小さい(は低い)ということを知り、もっと頑張(ら)なければならぬのかと考えさせられた。
- 15) 卓球と比べてテニスはかなり重いです(激しいです・きついです)。室外の運動で少しやったら、汗が出ます(屋外の運動で、すこしやったら汗が出ます)。
- 16) どうして上海は中国第一(の)大都会と認める(認められている)のか、答えはその魅力にある。上海は別の(他の)都会がもたず(持たない)中西文化が完璧に融合して(融合した)特別な美を持っているから(持っているからだ)。

上の誤用例文にある誤用語はいずれも中国語の「生活方式」、「交通工具」、「証券交易所」、「大赛」、「正对面」、「素质」、「方面」、「区别」、「趣味」、「钢铁」、「服装」、「平常」、「联系」、「共同」、「医院」、「水准」、「室外」、「别的」などの語をそのまま丸写した結果生じた例である。ここに見られる誤用の特徴には次のようなものがある。

- a. この種の誤用は名詞に比較的多い。日本語において、漢字を使用した言葉で仮名を必要とせず表現でき、且つそのまま中国語で置き換えられる語形は名詞しかない。しかも名詞には日中同形同義語が一番多く見られ、中国語における言葉をそのまま日本語に転用しても差し支えなさそうに思わせてしまうものも名詞であり、誤用を生む一つの要因である。
- b. 一字漢語がないことと二字漢語或いは多字漢語が多いこと。ちなみに、中国語学では語彙が基本語彙と一般語彙に分類されている。基本語彙とは安定性、生産性、常用性という三つの特徴を持つ語であり、一般語彙とはその特徴の弱い語である(黄伯荣廖序东 1983 により)。つまり、使われた語は一般語彙が多いということになる。

その理由として、まず日本語の一字語（単純語）＝中国語の基本語（人、父、花など）は安定性、生産性、常用性は高いが、使う頻度としては二字語のほうが高い。よく使えばよく間違えるのは当然だろう。

- c. この類はさらに二種類に分類される。前の5例は中国語にあるが日本語にないもので、あとのものは日本語にもあるが中国語と意味が違うものである。前者は初級の学習者に見られるもので、後者はかなり学習歴のあるものにも見られる。いずれにしても中国語でそのような場合ではよく使われる語を日本語でも使うべき語と思込んで使ってしまう誤用である。そのうちに、「医院」と「病院」、「聯繫」と「連絡」などはまだ分かりやすいが、「趣味」と「興味」や「平常」と「普段」のような類義語はより難しい。それに「水準」と「レベル」や「室外」と「屋外」のようにのまったく同義語に近いものなのに使えないばあいはもっと難しい。

(イ) 日本語内部の類義的なもの

- 1 7) 今(現在)たくさんの農民が転業しています。
- 1 8) そこには故宮や万里の長城など中国を代表する建物(建造物・建築物)があります。
- 1 9) 上海で一番有名な料理店は「緑波廊」という名前だ。鄧小平はあそこ(そこ)の料理が大好き(大好きだ)そうで、あとで(後に<sup>のち</sup>)アメリカの大統領やイギリスの女王もあそこ(そこ)へ行ったことがある(行っていた)。
- 2 0) (宴会の時) 私たちが美味しい料理を食べているうちに(あいだ)彼らは一口も食べていなかった。
- 2 1) (習字) 最初、見本(手本)を見なければならなかった。
- 2 2) 学生寮は風呂や台所などを(が・は)付いていなくて、毎階(各階) は(には)トイレと洗面所だけがひとつずつあります。
- 2 3) この人の仕方(やりかた)は全然理解できない。
- 2 4) 先(さっき)起きたばかりなのにまた(もう)眠りたいです。
- 2 5) この車は(の) かっこう(デザイン) が(は)なかなか気が利いています。

「今」と「現在」、「建物」と「建造物・建築物」、「あとで」と「後に<sup>のち</sup>」、「うちに」と「あいだ」のような類義的なペアは、普通の教科書でも辞書でも説明不足のせいで外国人学習者を惑わせたり、誤用を惹起したりすることがしばしばある。この種の誤用例が上の(ア)と違うところはまず誤用と正用両方とも日本語にある語で、その誤用された語は中国語には存在しないものなので、そのまま中国語を用いたのではないという特徴がある。言い換えると、学習者がある事物を日本語で表わそうとしたとき、意識的に日本語の中から適語を選んだわけである。だからこそ、このような誤用は中国人以外の外国人でも犯す可能性がある。以下、このような誤用例の特徴を見てみよう。

- a. 上の(ア)と逆で、意識的に中国語をそのまま日本語として使ってしまうことを避

けるために、「現在」や「建築物」のような中国語にも存在する語をあえて使わないようにすれば、日本語らしい日本語が作れると誤解し、中国語にない「今」や「建物」を選び取ったのである。また、「いま」や「たてもの」などのような訓読の語は正用の音読語より更に日本語的であると判断したことが誤用の原因のひとつだといえる。

- b. 日本語の漢語はおおすじにおいてと中国語の語構成の法則にしたがっているため、学習者が自ら、日本語にも中国語にもない語を作って使ってしまうことがある。「毎階」はその例である。
- c. 同じ漢字なのに、読み方によって複数の意味或いは使い方が ある場合がある。こういう場合は間違いがちである。「あとで」と「<sup>のち</sup>後に」や「さき」と「さっき」などはその例である。
- d. 同じ語の構成成分を持つ語を誤って使ってしまうことがある。「見本」と「手本」、「しかた」と「やりかた」などはその例である。もちろん、誤用者は誤用の語しか知らない場合もあり得るかもしれない。すでに知っている語彙の中から選び間違ってしまったにしろ、誤用の語しか知らなかったにしろ、語を覚えるときちゃんと語の意味と使い方を覚えておけばこのような誤用が防げたはずである。これは上の a. と c. にも有効である。

以上のことをまとめると、下記の表となる。

中国語の干渉によるもの		日本語内部の類義的なもの			
日本語にないもの	日本語にあるが中国語と意味が違うもの	もっぱら訓読語を用いることによるもの	勝手に作ったもの	漢字の読みによる異りがあるもの	構成成分の一部が同じもの

#### 4.1.3 間違いやすい動詞の誤用

(ア) 中国語の干渉によるもの

- 1) 市民の素質(意識)を提高する(高める・向上させる)のも大切なことです。今政府はこの方面(この点)に力を致しています(力を入れてあります・力を注いでいます)。/提高市民的素质也是重要的。现在政府正在致力于这个方面(的工作)。
- 2) 毎年休み時(休みの時には)、ぜひ(必ず)面会します(会います)。/毎年休假的时候，一定要见面。
- 3) 改革開放以来、中国はきわめて大きな発展を取りました(遂げました)。/

改革开放以来，中国取得了非常大的发展。

- 4) 仕事が定まったら(決まったら)、きっと先生を(に) お拝見して(お会いして)、いろいろ楽しみに(楽しく)おしゃべりたいです。/工作定下来以后，一定去拜见老师，想开心地聊聊各种各样的事。
- 5) 大学に入ってから、お金を自由に支配する(使う)ことが出来るので、友達と一緒に出掛けるのはもう夢じゃなくなる(なくなった)。/上大学后，可以自由的支配钱了，和朋友一起外出已不再是梦了。
- 6) この本は愛情、生活、社会乃至(および)宗教に対して、独立、(自立した)積極的な態度を持って、自由と平等のために、挑戦するだけの勇氣がある女性を描写することです(描写しています)。/这本书描写了对于爱情、生活、社会乃至宗教，持有独立、积极的态度，为了自由、平等，勇于挑战的女性。
- 7) こういう仕事は難しいながら(ながらも・が)、両親は勝手に(自由に)時間を支配する(使う)ことができるようになるから(ようになったから)、前より楽しく(楽しそうに)見えます。/这个工作虽然很难，但父母可以自由地支配时间了，所以看上去比以前快乐。
- 8) 父は子供時代を田舎で過ごしたので、大自然中(大自然)の植物や動物などが(を)よく知っています。そこで(それで)、私は父に(を)偉くておもしろい人を(だと) 認めます(思っています)。/父亲的孩童时代在农村度过，所以很了解大自然里的植物和动物。因此，我认为父亲是个了不起而伟大的人。
- 9) われわれは急いで彼を医院へ送った(病院へ連れて行った)。急診をして(急患として診察してもらい)、ついに大丈夫になった(彼は無事だった)。/我们迅速地把他送到医院。经过急诊终于不要紧了。
- 10) 近頃皆ビニールハウスを採用している。(使っているので) すると、(φ)一年中各種の(いろいろな)野菜が作れるようになった。/最近由于大家都采用了塑料大棚，所以全年都能生产各种各样的蔬菜。
- 11) 松本先生に初めて見た(お会いした)とき、なんだか親切だ(やさしそうな先生だ)と思いました。/初次见到松本老师时，认为他是个和气的老师。
- 12) 劉さんは私たちとよく(あまり) 触れませんでした(付き合いませんでした)。/小刘不太接触我们。(小刘和我们不太来往。)

上の誤用例文をみると、さらに2分類できると考えられる。一つ目は中国語のままで日本語の文を作ったものである。「提高する」、「拝見」する、「支配する」、「採用」するなどはその類いである。そのうちに、「提高する」、「会面する」というのは日本語にないことばなのに使ってしまう例である。「拝見」、「支配」、「採用」はちゃんと日本語にある語を用いる点では、「提高」を使用するより学習が進んでいると言えるのだが、とはいっても、日本語の意味や使い方を全然調べないで中国語の意味のままで使ってしまうと誤用となってしまう。「拝見」と中国語の「拜見」は意味が全く違だし、日本語の「支配」「採用」と中国語の「支配」「採用」は意味が重なる部分もあればずれている部分もある。さらに連語論的な視点で捉えれば、これらの動詞と組み合わさる前項名詞が、中国語と日本語とではずい

ぶん違うのである。それを下表に示す。

動詞		組み合わせる名詞	
日本語	中国語	日本語	中国語（日本語訳）
拝見	拜見	手紙、大作、人形	客人（客）、老师（先生）
支配	支配	牧場、お前、地上、心	时间（時間）、金钱（かね）、行动（行動）
採用	采用	考え、社員、方法、制度	方法（方法）、技术（技術）

連語を組み立てている単語の間の結びつき方は任意ではなく、かざり単語の意味クラスカテゴリカルな意味とかざられ単語の意味クラスとの対応の一定の決まりに従わなければならない。正しいかざり、かざられの関係が成り立たない場合、連語そのものも成立しない。上の表で日中両言語の結びつき方の食い違いが大体わかるだろう。重なる部分はまだいいがずれている部分は特に気をつけなければならない。例えば、拝見という語は、日本語の場合ではもの類名詞と組み合わせ、中国語の場合ではひと類の名詞と組み合わせるのが普通である。手紙などと組み合わせるなら「拝読」と言わなければならない。一方、支配については、中国語では、牧場のような団体名詞との組み合わせはまずない。その代わりに、日本語には時間、お金との組み合わせはあまりないだろう。採用については重なる語はずれている語より多そうである。しかし、中国語では「考え」や「社員」との組み合わせは成り立ちにくい。

二つ目は中国語の発想に立って日本語の語を選んだものである。中国語のことばをそのまま使うのではなく、中国語の単語の一部を利用または再変形して日本語におきかえる方法が多いようである。たとえば、「致力」→「力を致し」、「定下」→「定まった」、「认为」→「認めます」、「见到」→「見た」のようなものである。その「力を致し」という連語はまず現代日本語ではつかわないし、「定まる」などの語があるにはあるが、日本語と中国語は決して等式にはならない。

(イ) 日本語内部の類似的、類義的表現によるもの

この類いのものはさらに下位分類できる。

a. 同じ漢字をつかっているが意味的にはまったく無関係といえるもの。この種は外形(漢字)が類似しているが意味では類義ではない。

- 1 3) 友達と一緒にサッカーをした後、みんな汗を(が)いっぱい流れました。どうして負けるか(負けるのか)、どうして勝るか(勝つのか)と議論しました。
- 1 4) 冬やすみの時は(の時期は・は)いつもそんな(こんな)に寒くて、起ろうとも(起きようとしても)起きられなくて本当にしかたがないんだかった(しかたがなかった)。
- 1 5) 私たちの身份証明書が(は)ホテルにある(あった)ので、とうとう(結局)通じられなかった(通れなかった)。

1 6) 人生は一歩一歩で(φ) 歩くから、(歩むものだ。) 毎歩 (どの一歩) も自分に対して (にとって) 大切だと思った(う)。

b. 上の a. のように漢字などの外形では似ているところはあまりないが、意味の解釈や訳語が同じ或いは近いせいで、使い分けが紛らわしいもの。すなわち類義語をなすグループである。そのなかで初級のレベルに属するものは、普通の辞書でもかなり役にたつとおもわれる。なお、1 7) のように語の選択が変わるにつれて格支配も変わるものもあることにも注意を払う必要がある。

1 7) 例えば、夏目漱石、森鷗外、村上春樹などの作家が(を)わかるようになった(知るようになった)。

1 8) この件については学校へ帰らないと知らない (戻らないと分かりません) から、もう少しお待ちください。

1 9) 普段、インターネットでホームページを見るのは簡単だと思っ(てい) p たが自分で作るとこんなに難しくなるのは(難しいとは)思わなかった。僕は2週間ぐらいかかってやっとでき上がった(完成させた)。

2 0) 中国人は春節に(を)非常に重視する。家族は(が)全国各地から(集まって、) お年寄りのまわりへ(で)春節を渡している(過ごす)ことは中国人の習俗になった。

2 1) 日本の文化に了解してほしい (を理解してほしい・を知ってほしい)。

それから、普通の外国語辞典の訳語でも国語辞典の解釈でなかなか解決できないものである。例えば2 2) の「希望」と「望む」について、『広辞苑』には次のように説明してある。

希望—①あることを成就させようとねがい望むこと。…「進学を希望する」  
望む—②願う。欲する。期待する。…「合格を望む」

それに、連語論的なチェックも有効とは言えない場合も少なくないようである。たとえば、「贈り物を受ける」、「犬を友だちに送る」などは連語論の視点で見れば、いずれもその名詞と動詞の組み合わせが可能であろう。が、文の単位で見るとどこかなにか抵抗感がある。

2 2) これこそ皆のずっと希望している (望んでいた) 製品だ。

2 3) 学生は、勉強だけやればいいと言う人がいますが、私は (φ) 成人している学生には、政治に関する (かかわる) 権利と義務があると(私は) 思います。

2 4) 心が(の) こもって (た) 贈り物を受けます (もらいました・いただきました)。

2 5) 私は犬が怖いと思ったので(怖いので)、犬を見ると走り始めました (走

り始めました)。だから、まもなく、母はこの犬を友だちに送りました(あげました・あげてしまいました)。

- 26) その部屋は混んで(込みあって)いるような感じがさせます(感じがします)。

また、意味はあまり変わらないが、ただ文体、文脈、場面の制限で一方がそぐわなくて使えないということがある。例えば、「申し込む」と「申請する」、「やる」と「する」、「勉強する」と「学ぶ」、「しゃべる」と「話す」などである。ここで問題になるのは前にとりあげたものと違って、本格的な類義語である。

- 27) 今年は(今年、)北京が(は)オリンピック大会の開催する権力(開催)を申し込んでいます(申請しています)。

- 28) 先生は日本で何をやっていらっしゃいますか(していらっしゃいますか・されていますか)?生活はお忙しいですか?今年の夏休みに(は)何か旅行の計画はございませんか(おありですか)?

- 29) 今の義烏は2005年に現代化の大都市になること(までに現代的な大都市になること・までに大都市化すること)を狙っています(目標としています)。

- 30) 国の人々(国民は)も積極的に進んだ科学、文化を勉強して(学んで)、国の発展のために、自分の力を貢献(貢献)しなくてはならない。

- 31) ある人は、性格の(が)相似(似ていること)は友達になる条件だと思っています。「性格は(が)互い(互いに)違い人は(違う人同士のほうが)友達になりやすい」と思っている人もいます。この2人意見とも(意見はふたつとも)正しいと思えます。

- 32) 友達は今もうバラバラにして(なって)、ゆっくりしゃべる(話す)時間が(も)あまりない。時々友達のことがが(を)思い出して、懐かしい感じをがよく浮き上がる(する)。

- 33) 新しいキャンパス(に)はやはり自分(それなり)の長所を持っている(がある)なあと自分に言い(いいきかせ)ました。

(ウ) 表し方がまずいもの

外国語を使うとき、伝えようとしている内容がうまく表しきれない場面に時として出会う。こうした場合には、類義語というワクを離れて語の選択を行なう必要が生じる。例えば、「なる」と「気が済む・我慢する」、「できる」と「行ける」、「送る」と「過ごす」、「及ぼせる」と「使える」、「心配する」と「困る」、「ある」と「上がる」などは、いずれも類義語とは言えないだろう。よりよく意味を表すために、類義語でない語を選ぶことも大事なことだということをも物語っている。これには次の二つのケースが考えられる。

a. 客観的訂正のケース。ある事実を描く際、語彙的能力に限界があり、誤用となった場合である。この種の誤用例の修正は客観的な正解があるはずである。これらは主として語

彙のレベルのものである。

- 3 4) 空の中に、(いろいろな色の) 花火がさまざまな色が (φ) ありました (あがりました)。
- 3 5) これは高橋留美子先生の 8 0 年代の作品で面白いラブストーリーが述べ った(描かれている)。見てから(見て)とても感動したものだ。
- 3 6) 半年ぶりに会った両親はとても元気そうだ(だった)。町の様子は以前と似ていた(変わらなかった)。
- 3 7) 高校一年生の時から、私はずっと学校で宿泊しています(生活しています・暮しています)。でも、その時に比べて大学学生寮の生活はもっと(ずっと) 豊かと(豊かだと)思います。
- 3 8) 手伝ってもらったからこそはやく仕事がとげられた (終わった・やりとげられた)。

b. 主観的訂正のケース。この場合は誤用者の言いたい意味を分かっておかないとうまく訂正できない。この種の誤用例の訂正には訂正者の主観が入る可能性がある。言い換えると、作者の原意を考慮しなければ複数の訂正案がでる可能性があるケースである。訂正の立場で言えば、もちろん、訂正者が誤用者本人と直接対面して、本人が良かったことを確認しながら訂正することができるという。これらは語彙以外のレベルのものが多い。

- 3 9) 私は米が好きですから、毎日米を食べなければなりません(気がすみません・我慢できません)。
- 4 0) その時、交通が通行禁止だから(通行禁止だったから)、バンドへの道路は自動車が(は) できなくて(行けなくて・通行できなくて)、歩くことだけできた(歩いていくしかなかった・歩いてしかいけなかった)。
- 4 1) 国際人になれるために(なるために)、どうすればいいか。それは思うべき(考えるべき)問題だ。
- 4 2) 父親は今年もう 5 0 歳になりました。人生の半部分(半分を)もう送りました(過ごしました)。
- 4 3) 割り勘は非常にいい払方で(払い方なので)、食事だけではなく、また(他の) 多くの場合にも 及ぼせる (使える)。
- 4 4) 麻薬販売者がありった けの (どれだけ・考えつく限りの) 知恵を絞っていろいろなやり方[を使って・で]麻薬を 携帯しても (持ち込んでも)、厳密な検査の目をくぐることが (は) できない。
- 4 5) 明日の午後お見舞いに行くように李さんに 教えておくよ (いっておくよ)。
- 4 6) 日本語の勉強を始めたばかりのころはその中で (φ) 難しい言葉を (や) わからない (こと) や (を) 日本語で先生と (に) 相談できないに (ないので・なかった)ので 心配しました (困りました)。

## (エ) 連語論の視点でとらえるもの

前にも取り上げた連語論とは、おおざっぱに言うとも「格形式をとる名詞と動詞の組み合わせが、どんな結びつき（意味的な関係）を示すかについての研究」（高橋他 2005.p.34）である。その組み合わせは一定の制限やルールがある。その制限とルールに違反すれば、誤用になる。次の誤用例のほとんどはその制限とルールに違反することによって生じた誤りである。

- 4 7) 私の学校はいい地理(立地条件)におきます(あります)。
- 4 8) 今、政府は水下トンネル(川底トンネル・海底トンネル)を造るという企画を作ります(たてています)。
- 4 9) 冬休みの生活計画を制定した(たてた)。何時に起きるか、一日に何時間勉強している(する)かなどだ。
- 5 0) 近くの本屋に行って、一級についての本をさがしました。でも、一本(一冊)もさがしませんでした(見つかりませんでした)。
- 5 1) われわれのふるさとは地図にさえかかない(のっていない・かかれない)ほど小さい村です。
- 5 2) 11時から私のインターネットの時間です。それから、(11時から)だいたい3時間が(か)4時間を経て(して)からそろそろ(φ)寝ます。

4 7) は「もの名詞 (N1) -が格+場所名詞 (N2) -に格+存在動詞」のタイプの連語なので、かざられ動詞に動作動詞「おく」が来てはいけない。そして、4 8) と 4 9) にある「企画」や「計画」などの名詞はよく「たてる」という動詞を求める。実は「作る」も「たてる」も奥田「を格の名詞と動詞との組み合わせ」(言語研究会編『日本語の文法・連語論(資料編)』1983 収)で「結果的な結びつきを表す連語」であつかったものである。さらに分類分析していくことも可能であるが、一般化する作業は難しいからあまり行う人がいないのが実状である。しかし、一方は使え、もう一方は使えないという事実がある以上、分類が異なるだろうことは見当がつく。それゆえに、この分類をこの項目にいられたのである。以下、同じ理由であつかったものがある。ここであつまっているものは名詞と動詞との組み合わせがどちらかという、成り立ちにくいものである。通常の連語論が連語として成立している組み合わせを対象に記述をすすめるとすれば、そこにあらわれることのない、成立しにくい組み合わせはいわば広義の連語論であつかうべきものということになるだろう。

ところで、ここにも中国語干渉の痕跡がみられる。「找到」＝「探した」などはその例である。

### 4.1.4 中国語の「过」と日本語の「過ぎる」

中国語の「过」と日本語の「過ぎる」とは意味が対応している同形語とみとめられる。

一般的に日中同形語の意味関係はたいてい次の三種類にわけられる。

- a. まったくおなじもの、
- b. 大体おなじだがずれがあるもの、
- c. まったく異なるもの。

a. の類は「地球」、「人」、「米」、「死ぬ」、「白い」など、b. の部類としては「大体」、「編集」、「説明」など、c. の部類は「丈夫」、「手紙」、「大変」などがあげられる。量から見ると b. が圧倒的におおく、中国人はそのずれを気にかけない傾向があるのもっともむずかしいところだといえる。中国語の「过」と日本語の「過ぎる」も b 類に属する。小学館 2003『中日辞典』(第2版)では、「过」を①「(ある場所を)通る、過ぎる」、②「(ある時間を)経過する」、③「超える」、④「過失」、⑤「～過ぎる」などと解釈しており、同じく『日中辞典』(第2版)では、過ぎるを①「《場所を》过, 经过」、②「《時間が》过, 过去」、③「超过」、④「过分」などと解釈している。これらの解釈だけをみると、①と②はまったく一致している。よって、「过」=「過ぎる」であるとおぼえてしまうのも無理はないであろう。それが次の誤用の原因となっている。

- 2) それは道路を過ぎる(渡る)時に、交通信号を(に)注意しなければならないの(φ) ような(に)必要(なこと)だと思ふ。/我认为, 过马路时必须注意交通信号是必要的。
- 3) 小火(弱火)でにて、二分をすぎると(経ったら・経てば・経つと)完成になります(します)。/用小火煮, 过两分钟便完成。
- 4) 「天気(の)変化すること(φ)は本をめくるほど(φ)より速い」と言うこともあるそうです、毎日暑い日を過ぎ(過ごし)ています。少し雨が降るほうが(のを)待ち望みます。/据说有这种说法: 天气变化比翻书还快。每天过着酷热的日子。期望着稍稍下些雨。

こうやって見てくると、残念ながらうへの等式のように簡単にはいかない。おなじ中国語の「过」なのに、日本語では場所の場合、「すぎる」、「とおる」、「わたる」、「越える」、「通り過ぎる」などに対応し、時間の場合、「過ぎる」、「経過する」、「経つ」、「過ごす」など複数の語と対応する。以下、場所と時間にわけて検討する。なお、上の誤用における中国語母語の影響を知るため、下の事例に中国語訳をつけておく。下線部分是对应する語である。

#### I. 場所

i. あるところを越してさらにさきへいくという意味をあらわしたい場合に「すぎる」をつかう。

- 5) 石田部長、稲村氏、安田辰郎の三人は、車両こそ違え、函館から乗車したのだ。ちよいちよい石田部長のところに挨拶に顔を出したという安田を、稲村氏が小樽を過ぎるまで見なかったというのは、どういうわけだろう。(点と線)(石田部長、稲村、

安田辰郎三人只是车厢不同，都是从函馆上的车。稻村在过小樽之前没见到过不时到石田部长这里来打招呼的安田，这是怎么回事呢？)

- 6) 庄九郎は、駒を進めた。二尊院の大門の前をすぎ、中院の里の道を通り、清涼寺の西門へいたるまでに北へ入る小道がある。(国盗り物語 06・斎藤道三)(庄九郎策马前行。从二尊院大门前走过，穿过中院村落的道路。在到达清凉寺西门以前有条向北的小道。)

ii. ただし、あいだにあるへだたるものをこしてむこう側へいく場合は「過ぎる」をつかえず「わたる」をつかうことになる。

- 7) 翌朝、早朝の汽車に乗り、ふたたび関門海峡を渡る。(楡家の人びと)(第二天早晨，乘上早班的火车，再次横渡关门海峡。)
- 8) その時間になると新橋や銀座界限から数人連れの酔客がいく組も歩いてくる。そして結局それは酒乱気味の川ちゃんをきちんとマークしておかなかったのがいけないのだが、新橋駅前の大通りを渡るところで、むこうからやってきた三人組の中年サラリーマンふうの男に川ちゃんが肩からぶつかっていった。(新橋烏森口青春篇)  
(一到那个时间，便会有从新桥、銀座一带走出来几伙醉酒的客人。结果，虽说没很好地注意有些醉了的川是我的不是，在正要穿过新桥站前的大马路时，川的肩膀撞上了从对面走来的三人中的一个中年职员模样的人。)

iii. 「とおる」はある場所を過ぎて他方へ行くという意味をあらわす。

- 9) 山本に導かれて一行が、逸見の波止場の門を通る(すぎるも可、ただし意味はちがう。)と、其処から先は、全く海軍一色の世界で、空気が少し変って来る。(山本五十六)(由山本率领的一行人穿过逸见码头的大门，从那里再往前便全是清一色的海軍世界，空气开始有些不同了。)
- 10) 僕らは横川小学校のおきを通る(すぎるは不可)とき、校庭の隅に防火用水のタンクがあるのを見た。それを先に見つけた高橋夫人は駈けだして行った。(黒い雨)  
(我们从横川小学旁边通过时，见到校园的角落里防火用水的储水罐。最先发现的高桥夫人跑了过去。)

iv. 「とおりすぎる」はある場所をとおってさきへいくという意味をあらわす。

- 11) ともかくも、私はかなり平静に近い気持で、ただちょっと足を早めたきりで、その白い柵の前を通り過ぎる(すぎる、とおるとも可)ことが出来た。(美しい村)(不管怎样，我以非常平静的心态，只是脚步稍稍加快了些，从那白色的栅栏前通过。)
- 12) 生き残った獣たちの多くは彼らのそばを通りすぎる(すぎるはやや不自然だが、とおるは可)ときに、あるものは深く首を沈め、あるものは蹄を小さく鳴らした。彼らは死者たちを悼んでいるのだ。(世界の終わり)(活下来的动物们的大多数从他们

旁边通过时，有的深深地将头下沉，有的将蹄轻轻踢出声响。他们是在悼念死者。）

v. 「越える」はもののうえをすぎていくという意味をあらわす。

13) 内城壁の外側には、五メートルほどの幅を持つ通路が通っている。それを越えると、今度は外城壁がはじまるのだ。（コンスタンティノープルの陥落）（在内城墙外側，有条五米宽的通道。越过它，才是外城墙。）

14) 村下から橋をわたり、南条の峠を越えると広瀬の村である。（越前竹人形）（从村下过桥，翻越过南条的山顶，便是广濑的村子。）

中国語ではおなじ「过」でも、日本語では複数の語となって対応すると、先に述べたのだが、実は中国語もさらに下位分類することができる。iの「すぎる」は移動する主体の対象の基準点に対する運動は平行的で、中国語では「过」、「走过」を用い、iiの「わたる」のほうはその関係は垂直的で、中国語では「横过」、「渡过」と訳している。iiiの「とおる」はその場所をつらぬいて通過するという意味で、中国語では「通过」、「穿过」と対応する。（その中、7）と8）とはおなじく「穿过」と訳されている。というのは中国語の「穿过」は「よこきる」と「とおりぬける」のふたつの意味あいがあるからである。）また、中国語の「通」と「过」のニュアンスからいうと、「通」はその「とおる」という動作の過程を注目し、「过」はその動作の完成後の結果を重視する。「通」と「过」の間にはちょうど日本語の「とおる」と「過ぎる」の間に見られるのとおなじニュアンスがみられるようである。ニュアンスがおなじであるために、かえってつかうときに気をつけることができない。ivの「とおりすぎる」はほとんど「とおる」といいかえられ、ただ上の「過ぎる」のニュアンスがくわわるだけである。vの「こえる」は主体がその対象の基準点の上をのりこえてすすむという意味をあらわしている。中国語では「越过」、「翻过」などと訳している。

## II. 時間

15) 三時をすぎると検事たちはすっかり混乱し、疲労し、途方に暮れてしまったのである。部長や課長は五月の日光とタバコのけむりのなかで居眠りをはじめた。（巨人と玩具）（一过三点，检察官们便完全混乱、疲劳、不知所措起来。部长和科长在五月日光和香烟的烟雾里开始打盹。）

16) 四時がすぎる頃から母はその鏡台の前で化粧をはじめた。（冬の旅）（从过了四点的時候起，母亲就在梳妆台前开始化妆。）

17) 横浜を出帆して三、四日経つと、船では恒例の演芸会が開かれるが、こういう場合、日本人の中にはなかなか人前で芸を披露して見せようという者がなく、外人船客の独擅場で催しが終ろうとしかけていた時、若い少佐の山本が進み出て、ゆっくりローリングをしている船のサロンの手すり逆立ちをして見せた。（山本五十六）（从横滨出海经过三四天，在船上举行了例行的演艺会。但是在这种场合，日本人中很难有人在人前显露技艺，正当演艺会成了外国人船客专场行将结束时，年轻的少校山本

走了进来，在摇晃的船厅的扶手上慢慢地做了倒立。)

- 18) 安田鞞彦の傑作の一つとされているこの絵は、戦後行方が分からなくなり、アメリカ海軍の手で持ち去られてワシントンにあるらしいと言われていたが、所在を確かめた者もないまま二十年が経過し、昭和四十一年になって、ある人が国内に秘蔵していることが明らかになった。(山本五十六)(被认为是安田又彦的杰作之一的这幅画，战后下落不明，曾说是被美国海军拿去，好像在华盛顿。在无人落实其所在中经过了二十年，到了昭和四十一年，有人在国内秘密收藏着的事才大白于天下。)
- 19) 私はそれから三日間、何もせずアパートの部屋でごろごろして過ごしました。四日目の夜、私は令子とふたりで銭湯に行きました。(錦繡)(那以后我无所事事地在公寓的房间里过了三天。第四天夜里我和令子两人去了澡堂。)
- 20) 東京に住む者たちは、当然のように雪のない冬を過ごしており、北海道では、これもまた当然のごとく雪と寒さに耐えて暮らしております。(塩狩峠)(住在东京的人们，当然在过着没有雪的冬天，在北海道，也是当然的，人们忍受着冰雪和寒冬生活着。)

上の例文からみて、「すぎる」は「过」に訳し、「たつ」と「経過」は「过」、「经过」、「過ごす」は「过」に訳するのが普通である。ただ基準の時点をかえる意味をあらわすとき「すぎる」を用い、「たつ」は用いない。

- 21) ○5時を過ぎる \*5時を経つ

時間の量をあらわす時間副詞の後にくる場合は両方とも可能である。

- 22) 5時間すぎる 5時間経つ

ただし意味的なニュアンスが多少異なる。「過ぎる」は動詞・動作・結果を重視し、「経つ」は前の名詞・時間を重視するといえるであろう。「たつ」と「経過」は意味がほとんどおなじだが、「経過」は漢語なのでちょっとかたい感じをもたれる。「過ごす」は他動詞なので他動詞文でもちい、たとえば「过冬(ふゆをすごす)」とか「过什么样的日子(なにになにの日をすごす)」などの場合につかわれる。一方、「過ぎる」は自動詞なのに、15)と16)で示してあるように、「をすぎる」も「がすぎる」もできる。意味は若干違うが、ほとんどの文では言い換えられるようである。ここのを格は対格ではなく時間的か空間的な移動の時点にかかわるものと分かっているにしても、興味深い。

さらに興味深いことに、中国語の「度过」は過ごす、経過するという意味合いを持っているので、その影響によって1)の誤りと正反対の次のような誤用も見受けられた。

- 23) 中国人は春節に(を)非常に重視する。家族は(が)全国各地から(集まって、)お年寄りのまわりへ(で)春節を渡している(過ごす)の(こと)は中国人の習俗になっている。/中国人非常重视春节，全家人从全国各地赶来，在老人身边度过春节已成为中国人的习俗。

ちなみに、中国人には「度过」を「渡过」に誤ってしまう人がよくいる。「度过」は時間・休暇を過ごすという意味に対して、「渡过」は困難な時期や難関を乗り越えるという意味である。この中国語の誤りにより日本語の「渡す」という表現になってしまうのは致し方ないことといえよう。

## 4.2 慣用句

慣用句とはわりあい定着している組み合わせであり、その組み合わせ全体の意味がもはやその組み合わせになる個々の語の元来の意味から独立して、新しい意味を表わす慣用的表現である。ここでは慣用句の組み合わせをひとつの語として、その使用の適切さ、および不都合な場合では何に置き換えられるのか、またその理由及び誤用をおかす原因などを検討して行きたい。

### 4.2.1 通りがいい

- 1) 彼女は上役にも可愛がられれば(るし)、後輩へ(に)も通りがいいです(評判がいいです・人気があります・慕われています)。

通りがいいというのは、『広辞苑』では通じることがいいとか世間におこなわれることがいいと解釈してある。さらに「世間におこなわれること」の下位項目には、⑦通用。流通。⑧受け入れられること。了解されること。「世間での一がよい」がある。『新明解国語辞典』では「通ること(ぐあい)。(中略)ペンネームの方が一がいい[=世間に通用する]・一のいい[分かりやすい]講義・先生の一[=評判]がいい・世間の一[=信用]が大事だ。」と説明している。それから『国語大辞典』(小学館)では、⑧人の事情や気持ちなどを理解するぐあい。のみこみ。「通りのよい説明」⑨世の評判。また、人々の信用。「世間に通りがよい」と解釈している。つまり、「評判がいい」という意味がないわけではないが、どちらかというところ、「知られている」とか「有名である」とか「通じる」などの意味合いが濃い。「評判がいい」という意味はこれらのもともとの意味から派生してきたのであろう。それゆえに、読み手はこの文をちらっと見ただけでは、「評判がいい」までおもわず、「知られている」とか「有名である」ぐらいにしか理解しないため、違和感を持つわけである。『新明解国語辞典』の例文である「先生のとおりがいい」をそのまま日本語母語話者にみせるとほとんど「分からない」という返答がかえってくる。これはすくなくとも「通りがいい」という表現が多義語のせいで表したい意味をはっきり表せない場合があることを物語っている。そのため、実際の言語活動ではこのような多義語はさけたほうがいい。特に文のなかでその語の一次的な意味でない意味を使いたい場合にはより注意を払うべきである。中国人が誤用をおかした原因としては、辞書の訳語「名声好」「受欢迎」から理解して、中国語の「名声好」「受欢迎」という意味を表したいとき、前述した内容を考慮せず、「とおりがいい」を使ってしまったこともあげられるだろう。

#### 4.2.2 気を入れる

- 2) 彼女は三人の子供の教育に気を入れて (力を注いで) います。

「教育に気を入れる」という言い方はしないが、「仕事に気を入れる」は使う。「気を入れる」は「物事に積極的に取りくもうとする。やる気を出す。」と『広辞苑』によって解釈されている。「力を注ぐ」は物事に深く心を傾け、熱心である意味合いが強いから、この場では適切である。要するに、次の実例から分かるように、「気をいれる」は動作主が自分でやることや行為に使い、具体的なことが多い。「力をそそぐ」は動作主が自分で参加するかどうかを問わず、抽象的な大きなことに使うことが多い。なお、「気をいれる」は3例とも「気をいれて…する」という修飾語的な用法であって、述語用法でないことにも注意する必要があるかもしれない、「力を注ぐ」にはそのようなかたよりは見られない。その点からも2)のような述語用法のときは「力を注ぐ」のほうが使いやすいことになるようである。

- 3) 怠惰に――といっても院長業務のほうは以前よりはむしろ気を入れてやってはいたが――日を過すことが、くすぶって陰鬱な愉しみのような気もした。(楡家の人びと・第2部)
- 4) 「同じことなら、帝が、より一そう興ふかく思し召すようにしてさしあげよう」と源氏は思いつき、気を入れて絵巻物を集めにかかった。(新源氏物語)
- 5) 気を入れて練習する。(広辞苑)
- 6) もしヴァリニャーノ師の言葉が間違っていなければ、この大村は宣教師たちが一番、布教に力を注いだ地方である。(沈黙)
- 7) 舍利殿は最も力を注いで造られ、後に金閣と言われた建物である。(金閣寺)
- 8) 現実の問題である低温工業の設立のために、残された数日間にあらん限りの力を注ぎこんだ。(人民は弱し官吏は強し)

6)の「布教」ということには両方とも使えるが意味はことなる。ここではまた語用論的な立場から意味論的な立場へ移行しなければならない。実はうへの解釈は語用論的な立場のみから出発したものではなくて、意味がことなることが使えるか使えないかのような語用論的な問題をひきだしたのである。中国語の訳語でもその二語の意味のちがいが分かる。「気をいれる」は「专心」で、「ちからをそそぐ」は「傾注力量」であるので、「专心布教」、「傾注力量布教」両方とも問題がないのに対して「对孩子的教育专心」は中国語でもいえず、「对孩子的教育傾注力量」といわなければならないのである。つまり、中国語訳語「专心」と「傾注力量」とのちがいが分かっていたら例にある誤用をおこさなはずである。これはまさに正転移の絶好の例であると言えよう。

### 4.2.3 薬になる

- 9) 学生の薬（ため）になる本を書きたいです。  
10) そんなことをすると、君に薬（のため）になりませんよ。

「薬になる」と「ためになる」という二語について、『広辞苑』をはじめ、国語辞典の解釈には二語とも「利益をあたえる」や「利益になったりする」などがあり、中国語による訳語が「有益」「起作用」となっている。このため、同義語として使ってしまうようになったのである。実際、意味がおなじ場合と違う場合がある。「薬になる」の「薬」はよくないことをした戒めの機会、あるいは反省材料という意味になる。学生が悪い行いばかりするので、かれらの反省材料となる本を書きたいと思っているのなら、用例でもいいのであるが、学生の役にたつという意味で「薬になる」を使おうとしているのなら不適切である。二つ目の用例については、日本人は人にむかって直接「君の反省材料になりませんよ」「君を戒める機会になりませんよ」ということに少々抵抗を感じる文化を持っていることもあり、使わない文章だといえよう。要するに、次の実例からも分かるように、「薬になる」は主語がマイナスのもの（下の例の「落第」、「失敗」、「苦労」などのようなもの）にしか使えないのである。しかし、「ためになる」はこの限りではない。

- 11) 落第もいい薬になった。（小学館・国語大辞典）  
12) 失敗がかれのくすりになればよいが。（広辞苑）  
13) 若いうちの苦労は薬になる。（新明解国語辞典）  
14) 待子はちょっと眉を寄せた。「待子、小説というものは、読んでおいても悪くないものだよ」「でも、男と女のことなんか書いているんでしょう。聖書ほど、ためになることは書いてはいないと思うの」（塩狩峠）  
15) おすえは泣きやんだが、まだしゃくりあげは止まらなかった。「寄場のあしかけ三年は、しゃばでの十年よりためになった」と栄二は続けた、「——これが本当のおれの気持だ、嘘だなんて思わないでくれ、おれはいま、おめえに礼を云いたいくらいなんだよ」（さぶ）  
16) 教科書の中のことは、ひとことも話してくれないが、それは教科書以上に、ためになるように思われた。（路傍の石）

中国人学習者のこのような誤用をふせぐために、まずは主語のマイナス性をみること、それから中国語の訳語をもっとくわしく訳し分けておくことが必要である。すなわち、「薬になる」を「成为经验教训」と訳して、「ためになる」を「有益处」「起作用」と訳しておけば解決できると考えられる。「成为经验教训」という意味を表そうとするとときに「薬になる」をもちい、「有益处」「起作用」という意味を表そうとするとときに「ためになる」をもちいる。ただし、後者の場合、もしマイナス性の主語なら「薬になる」を使ってもいい。この法則で上の実例をためしてみるとうまくあつたのである。なお、「これは薬になる本だ」といった表現があるが、これはやくだつ本という意味をことばあそび的に表現

したものであるから、語例にはならないとおもわれる。

#### 4.2.4 雀の涙

- 17) 彼は酒に強いから、ビール3本は彼にとっては雀の涙ほど（朝飯前）です。

『広辞苑』の解釈によると、「雀の涙ほど」は「ごくわずかなものたどえ」である。「今年のボーナスは雀の涙ほどしかない。」という使い方がきれいである。この文章のなかの「雀の涙ほど」は「もうそれ以上はない」、その「たったわずか」以上は出ない、できないという上限を表しているのである。しかし、誤用例で言いたいことは、ビール三本が彼にとっての上限ではなく、簡単にクリアできる酒量であるということである。このあたりが違和感をもつ点である。「彼は酒が弱いから、雀の涙ほどのビールでも酔ってしまう。」はどちらかと言えば違和感をもたない。また、「雀の涙ほどの」という連体句になっていたほうが使いやすい。一方、「朝飯前」というのは、「容易なこと」、「簡単なこと」という意味なので、誤用例文が表そうとする意味にふさわしい。要するに、下の実例でも分かるように、「雀の涙」は量の程度のひくいことを表し、「朝飯前」は困難の程度のひくいことを表している。そもそもふたつの語のちがいははっきりしているがなぜ誤用が発生したかということ、それは誤用者の中国語能力がよわいからできたのだといえよう。誤用例出典についているもとの訳文は「他很能喝酒，所以三瓶啤酒对他来说是微乎其微。」である。「微乎其微」はイコール「雀の涙」であるので、問題ではなさそうである。しかし、実のところ、この中国語の文章は日本語の原文と同じぐらいおかしいものである。「微乎其微」を「微不足道」に置き換えるべきである。「微不足道」は「まったくとるにたらない」という意味で、「朝飯前」とおなじく、困難の程度を表現する語なので、ここで用いるのに適しているといえる。

その二語の実例を下に並べさせていただこう。

- 18) でもまあ馬具屋としては謝礼をもらう相手もいなくなってしまったわけだし、かといってわけの分からない動物の頭骨を後生大事に抱えていても一銭の得にもならないわけだから、べつの生物学の教授をみつけて事の経緯を話し、雀の涙ほどの謝礼をもらってその頭骨を大学に置いて帰ってきたのよ」（世界の終わり）
- 19) ... そうすれば部下も反抗心を起して、何だ雀の涙ほどの小遣いしか出さないでにおいて、そんなに働いて堪るものかという気になって、自然横着をきめざるを得ないのであります。（私の小売商道）
- 20) こんな問題は朝飯前だ。（広辞苑）
- 21) そんなこと朝飯前さ。（岩波国語辞典）
- 22) その頃にあ、日に十里や二十里は朝飯前だったよ。（入れ札）
- 23) ... 東京に行けば、言ふまでもなく女中奉公をする考へなので、それが奈何（どんな）に辛くとも野良稼ぎに比べたら、朝飯前の事ぢやないかとお八重

が言つた。(天鷲絨)

#### 4.2.5 手にかける

24) 田中さんは中国の留学生を手にかけて(の面倒をみた)ことがあります。

「田中曾亲自照料过中国留学生」という訳文からも分かるように、作者が言いたいことは「留学生の面倒を見る」ということである。しかし、「手にかける」には「殺す」という意味もあり、またこの意味として主に使われている。実例を調べてみたところ、＜百冊小説＞のコーパスには「手にかける」は一例もなく、＜青空文庫＞には二例のみで、そのうちの一例は

25) 「... 着換が済むと御仙が小さい珠数(じゅず)を手にかけてやった。」  
(彼岸過迄)

のように、慣用句的な用法でないものである。慣用句として適切なものは次に挙げるものだけである。

26) ... 最後のその伝がはじまったとき、その妻は父からの脱出の使者を追い  
かえして、可愛い娘二人かを手にかけて自刃します。(獄中への手紙・一九四〇年)

やはり殺すという意味である。辞書には次のような例文が見られるが、しかし辞書の例文はあくまでも編集者がその語を解釈するために作った作例なので、文学作品や新聞に載っている実例とは異質だと言えよう。

27) 自分が生んだ子でなくても、小さいときから手にかけてくればかわいい  
そうですよ。(外国人のための基本語用例辞典)

以上、調査を通して次のことがわかった。まずは、「手にかける」という語は実際に使う実例があまり多くないこと、二つのコーパス、及び何百冊の文学作品の中でただ二つの例しか出てこず、慣用句として使っていたのは一例にとどまるということである。次に、多義語であるため別の意味に取られないように前後の文章をうまく工夫する必要があることである。26)、27) はいずれも誤解させないように文脈ではっきり表現した文である。しかし上の誤用例 24) の場合、どちらの意味でとつても文章が通じるが、この一文だけを見せられると、ほとんどの読み手が「田中さんは留学生を殺してしまったんだ」と理解するのではないかと懸念される。対策としては、やはり「その一」とおなじく、異なる意味に理解しがちな多義語をできるだけ避け、わりあい単純なことば、たとえば「面倒をみる」などを使うことなどが考えられよう。

このような誤用はその原因から考えると、母語干渉とは関係のない言語内エラーに属す

るものである。

#### 4.2.6 鼻に付く

- 28) 彼の態度は（が）いいかげんなので鼻に付きます（いやになります・気に障ります）。

まず実例をみる。

- 29) 子供は外見は可愛いがその実、大人に媚びてずるいところがある。吟子はそのことが鼻について耐えられないのだとかつて荻江に言ったことがある。（花埋み）
- 30) 私はその後、始終ナオミとダンスに行くようになりましたが、その度毎に彼女の欠点が鼻につくので、帰り途にはきつと厭な気持ちになる。（痴人の愛）
- 31) 生前の基一郎の、度外れした調子のよさ、口先だけのいい加減さが鼻につき響きかき立てていた人々までが、彼が死んでしまうとそういう点を忘れてしまった。（楡家の人びと（第2部））

上の実例に見られるように、「鼻に付く」という語はほとんど主格の「が」あるいは「は」につき、述語になっている。さらに統計的な視点からいうと、＜百冊小説コーパス＞で調べて見ると、全11例のうちに、10例が「が」の後にあった。例外の一例は次のようなものである。

- 32) 米軍の罐詰には――それはもったいなくて滅多にあけられなかったが――さまざまなものがあった。スクランブル・エッグやチーズ、バター、ときには単なる液体のスープなどがあった。英文が刷りこんであるが符牒らしく、いざあけてみないと中味がなんであるかはわからない。一度ひとかかえもある罐詰をあけたところ、これがゼリーのはいった七面鳥の肉で、鼻につくほど七面鳥を食べることができた。もっともそのときの主食がふかし芋では決して調和した味とはいえなかったけれど。（楡家の人びと・第3部）

一方、「いやになる」はそういう傾向が見えない。複文にも自由に出ている。

- 33) 「あんな馬鹿な者を、国民の税金で飼っているのかと思うと、まったくいやになってしまう」（山本五十六）
- 34) 「うちのおふくろって、これだから、いやになるなあ」（太郎物語・高校編）
- 35) だけどさ、聞いてたら、いやになったよ。只、お湯をかける、じゃいけないんだって。ヘタをとる、ってのも書かないと点を引かれるんだって。全く下ら

ないよ」(太郎物語・高校編)

- 36) 「うっとうしい世の中になってしまっただけね。いやな連中がのさばり返っているばかりだ。全くもう昔とはすっかり事情が変わったよ。公でも近頃はわずらわしいことが多い。——こんな時代は隠忍自重して、嵐の通りすぎるのを待つだけだ。一挙手一投足、目をつけられて非難弾劾のまとなるのだから、いやになってしまうよ。それでここへも来られなくて」(新源氏物語)

上の複文にある「いやになる」を「鼻に付く」に置き換えてみると、なにか違和感が出てくる。それに対して、「彼の態度が鼻につきます」「彼のいい加減な態度は鼻につきます」は違和感を持たない。このことから、例文 28) が違和感を感じさせるのは、「鼻につく」がいい加減という語との組み合わせが不可能だという理由ではなく、「ので」があるせいではないかと考えられる。言い換えると、「ので」などの理由を述べる句を介入せず、直接、態度、振舞い、話し方などと結びつくほうがすっきりするというルールが成り立つようである。つまりひとえ文の述語を担当することが普通で、理由や条件などを含んだ複文ではあまり使わないと言えるのではないだろうか。

#### 4.2.7 世話をかける

- 37) 今度の件で彼(に)は一方ならぬ世話をかけ(になり)ました。

「世話をかける」について『広辞苑』の解釈は次のようである。「自分のことで他人に面倒な思いをさせる。」「世話になり」の解釈は「他人の尽力を受ける。」というものである。言い換えると、「世話になる」は「助けてもらう」という意味で、「世話をかける」は「迷惑をかける」という意味である。このような異なりは次の実例ではっきり見られる。

- 38) 「加藤、あの会社はやめた方がいいな、あの会社に影村がいるかぎり、君にとってはけっしていいことはないだろう」加藤はいまごろになってなぜそんなことを新納がいうのかわからなかった。透きとおるように澄んだ新納の頭に将来が見えるのであろうか。「いやおれはあの会社をやめないよ、影村がいるかぎりやめるものか」加藤は憤然としていった。「それでもいい……勝てばいいのだ……」そして新納はしばらく休んでから、「加藤、長いあいだ世話をかけたな」その言葉が新納との事実上の訣別だった。新納はそのまま深い眠りに入り、次の日曜日の朝、加藤がまだ眠っている間に息を引き取っていた。彼の死の瞬間に居合せた家族はいなかった。(孤高の人 1 山麓)
- 39) ……また篠宮に世話をかけ心配させてしまったのだったと、ほとんど進んでいないキャンパスを見つめながら思い出していた。(学園へヴン・岩井\*篠宮)
- 40) ……大学生。バイト経験が豊富らしく、厨房の仕事なども慣れている。垣内 垣多(かきうち かきた) 准一の友人。出席カードを記入して貰ったりノートをコピーさせて貰ったり世話をかけっぱなし。彼の存在無しに准一の大学生活はあり

えない。… (アクティブ)

4 1) … その時、遠方に住む双方の母親に世話をかけ、特に実母には恩を売られてしまったので、感謝こそしていますが、今後必要以上に頼る気もありません。

(大手小町)

4 2) 僕は工場長を部屋に通して、矢須子がながながお世話になったお礼を云った。(黒い雨)

4 3) 私は高校時代の友人で、大熊という男がいることを思い出しました。京都の大学の医学部に残って、ずっと独身のまま癌の研究をつづけている男です。以前にも別の女と別れたあと二週間程世話になったことがありますし、取り立て屋から逃れて彼のアパートに転がり込んでいたこともあります。(錦繡)

『広辞苑』の解釈でも実例でも分かるように、「世話をかける」は主語にある人物が主動的に世話を求める意味で、「世話になる」は受動的に世話を受ける意味であるので、お互いに置き換えることができない。また、中国人と日本人の発想が異なることがこのあやまりの原因ではないかと考える。おなじことがらを表しても、日本人はよく消極的な受動的表現を使うが、それに反して、中国人はよく積極的、主動的な他動表現を使う。森田(1985)はこう指摘している。「確かに日本語は自ら積極的にそうするという能動的立場よりは、成り行きとしておのずとそうなるといった受け手の立場で表すことが多い。」問題の 37) が、38) 以下の実例と違うところは、意味上では実例ほどはっきりせず、「世話をかける」「世話になる」の両方が受け入れられることである。このような場合、日本語では受動的な表現が使われると、自然になる。ところが、もしわざわざ自分が相手に迷惑をかけるということを表わしたい時、この文の中で原因・理由をあげ、その原因が自分自身にあることをはっきりと述べ表わしているとしたら、「世話をかける」をもちいることが出来る可能もある。ただし、ここの 37. はそう簡単に言い換えがきかなそうである。なぜなら、「一方ならぬ」にまだ問題が潜んでいるからである。「一方ならぬ」はどうやら「ご厚誼・ご愛顧・ご尽力」など助けになるという意味合いのものと結びつきやすい性質があるようで、助けてもらうという意味合いの「世話になる」が聞き心地がいいと感ずるのである。よって、

4 4) 今回の件では、失敗ばかりで、彼には本当に (お) 世話をかけました。

になると、成り立ちそうである。しかしそれでも、

4 5) 今回の件では、失敗ばかりで、彼には本当に (お) 世話になりました。

も通常使える文だと思われる。やはり先にも述べた日本人の発想が関係しているせいではないだろうか。

#### 4.2.8 謎をかける

- 46) 彼女に仕事をやめたほうがいと謎をかけ (示唆し・遠まわしに言い・ほのめかし・ほのめかしてみ) ました。
- 47) 謎をかけたつもりじゃなかったん (もらうつもりじゃなかったん・ほしいわけではなかったん) ですが、腕時計をほめたら、くださったのです。
- 48) 中に白紙の手紙が入っているとは、彼は何か私に謎をかけてきたの (つたえようとした・暗黙のメッセージを送ってきた) に違い (あり) ません。

「謎をかける」は①「なぞなぞの題を出して問いかける」と、②「遠まわしにそれとさとらせるように言いかける」という意味がある (『広辞苑 (第五版)』 p.1987)。それぞれの実例を少し下に示しておこう。

- 49) 西行は、すさびというものを知らなかった。月を詠んでも仏を詠んでも、実は「いかにかすべき我心」と念じていたのであり、常に其処に歌の動機を求めざるを得なかったところから、同じ釈教の歌で慈円寂蓮の流儀から際立ち、花月を詠じて俊成定家と全く異なるに到ったのである。花や月は、西行の愛した最大の歌材であったが、誰も言う様に花や月は果して彼の友だただろうか、疑わしい事である。自然は、彼に質問し、謎をかけ、彼を苦しめ、いよいよ彼を孤独にただけではあるまいか。彼の見たものは寧ろ常に自然の形をした歴史というものであった。(西行)
- 50) ...中国の北京城。絶世の美女トゥーランドット姫は、求婚してくる各国の王子たちに謎をかけ、解けない者の首は容赦なくはねるという残虐さである。(THE TOKYO SYMPHONY CONCERT INFORMATION)
- 51) ... お母さんのところに、送ってあげようと云ってみたまえ。またもしまだ気分が癒 (なお) らないと云うようなら、ミドランドの若い電気技師に、電報を打とうと謎をかけてやれば、もう即坐に全快だろうよ。(自転車嬢の危難)
- 52) こんにちはの詞<sup>ことば</sup>でいえば、両方が残酷な興味を持って来たとしても云うのでしょうか。ところが其蝶という男は、まあ一種の偏人といったような人物で、むやみに俳諧と風流に凝り固まっているもんですから、お葉がどんな謎をかけても一向に取合わない。(半七捕物帳 冬の金魚)

いうまでもなく、前二例は①の意味で、後二例は②の意味である。それから使っている頻度を調べてみたら、下表に示す結果が分かった。

	百冊小説コーパス	青空文庫	Google で日本語のページを検索した結果の前 2 ページ
① の意味	1	1	34
② の意味	0	2	6

音声単位と違って量的に多いが、語彙といえども有限だから、有限の語彙で無限の現実をあらわそうとする時に多義性必然となる。語彙論では、「このように、同一の語が、区別のある意味を複数個含んでいる状態を多義と称し、その語を多義語と呼んでいる。」(森田良行 2000、p.265-266) 「語の多義語化は時間的な流れにおける趨勢とも言えるが、その要因はさまざまである。ただ多くの場合は、歴史的な意味変化に基づくもので、意味の派生や拡大・縮小、抽象化、比喩的転用などによることが多い。」(森田良行 2000、p.266) 「謎をかける」の②の意味は意味の比喩的転用、つまり転義というものである。ある語は原義のほうがよく使われるが、ある語は転義のほうがよく使われる。それは語によって違う。「謎」は前者で、「大丈夫」などは後者であるといえよう。しかも、上の調査では、数だけではなく、文体的な分野的な分布も見られる。いわば「謎をかける」という語は文章語調が強いほど「遠まわしにそれとさとらせるように言いかける」という意味になり、日常に近いほど「なぞなぞの題を出して問いかける」という原義として使われるほうが多い。によって、三つの誤用例は基本的に日常的な場合における文なので、文章語でよく使う意味を表そうとしたら違和感が出てくるわけである。

誤用の原因を問うと中国語訳語「暗示」を言わなければならない。つまり、中国語の「暗示」は日本語の「謎をかける」にイコールだと思い、中国語の「暗示」という意味を表したいときに、「謎をかける」を使ってしまったと言える。

#### 4.2.9 事を欠く

- 53) この花の生長がよくないのは、何か事を欠いている (何かがたりない) に違いありません。

次の実例からわかるように、「ことを欠く」は種類のそろっていないことに目をむけるのに対して、「～がたりない」は該当の類のうちでは量的に不十分であることをおもにあらわしている。53) は水か肥料など量的に不十分であることを指摘するので、「事を欠く」より「足りない」ほうが適切である。実例を見てみよう。

<ことを欠く>

- 54) 「牛堀さん、よう来てくれた。今夜は酒の肴に事を欠かぬ夜だ。ゆっくりとのもうではないか」(まゆ墨の金ちゃん)
- 55) そのころはまだ梅子の母親はささやかにしろ実家から仕送りを受けてい

て親子二人の暮らしにどうやら事を欠かなかったのみならず、当の梅子が芸事はあまり好かないたちなので、清元師匠の看板を一生あげ通す料簡をきめた延津賀としては梅子と同年の子供ながら三味線の筋のよい妙子を後継に選んだわけであろう。

(葦手)

<足りない>

56) 宮村健が、それにしては、志田虎之助にもらった予算がたりないというふうな顔をするのに、「おれが金を出す。でっかいのを四つばかり買って行って、冷やして置いたらいいだろう」(孤高の人 3 風雪)

57) 一民間人を罪におとすため、自分の力がたりないとなると、他国の政府にまで応援を求める。そこには民衆を保護しようとの心もなく、産業の育成の熱意もなく、国の誇りさえない。(人民は弱し官吏は強し)

#### 4.2.10 むすび

上述したことをまとめて、慣用句の誤用は大きさで次のような特徴があるといえる。

1. 慣用句が多義をもっている場合、聞き手（読み手）はよく一番常用の意味に聞き取り（読み取り）がちなので、常用でない意味を使うと違和感が生じる。「通りがいい」、「手にかける」、「謎をかける」などはその例である。
2. 使いたい意味は辞書的な意味にあるが、使う場面、対象、ニュアンスなどによる制限があるため、その制限を無視すると誤用になる。「気をいれる」、「薬になる」、「雀の涙」、「事を欠く」などはその例である。辞書や参考書の説明の不十分が原因の一つでもあるといえる。
3. 構文的な制限がある慣用句もある。その制限に従わないと誤用になる。「鼻に付く」はその例である。

## 5 語の表記

語の表記の問題は多く漢字とかかわるものなので、漢字になじむ中国人学習者にとってはとくに難しいものではないものの、本誤用例集には以下のようなものが見られた。

- 1) いくつかの(何人かの) 士兵(兵士)が人々の身分証明書を検査していると(のを) 発見した(見た)。その理由がわからなかった。私たちの身分証明書が(は)ホテルにある(あった)ので、とうとう(結局)通じられなかった(通れなかった)。当日残念に(残念に思いながら)天津へ返った(帰った)。
- 2) 中国で(に)、「新しい友達を造り(作り)、古い友達が(を)忘れない」ということわざがあつて、(ある。) 私は(も) そうと(そうだと)思う。 いままで(だから、いまでも)よく初中時代の友達を思い出すというわけだ。
- 3) これは100元でも徳(得)だと思ふというの(は) (思う。というの(は)・思うの(は)) 一生使うことができるからだ。
- 4) 来月になれば体が明く(空く) と思うから、それでよければ、その仕事をお引き受けたいでしょう。
- 5) 問題の急所を衝きます(突く)。
- 6) 2月9日(に)私は寮に帰りました。ルームメイトに合う(会った)時、親切感がしていました(懐かしく感じました、親しみを感じました)。
- 7) 今できることはおじいさんの一日早く(一日も早い)回復を祝る(祈る) ほかないかもしれなかった(しれない)。

実は上のものは本当に誤用だと言えるのは7) だけである。日本語には「祝る」という語はなく、「祝う」という語があるが、ここでは不適當であるので、「祈る」にするほかはない。これは中国語の「祝你早日康复」の干渉によるものである。このほかは、いずれも誤用まで至らずに、あまり常用でない語を使ってしまう例である。しかし、普通でない以上、なおすべきである。その理由でここで扱うことにした。

ア) 1) の「返」と「帰」の付け分けについてはまず次の実例を見てみよう。

- 8) 昨夜会社の自動車で、宴会から帰る途中、人をひっかけてしまった。(あした来る人)
- 9) 余り気の毒だから「行く事は行くがじき帰る。来年の夏休にはきっと帰る」と慰めてやった。(坊ちゃん)
- 10) 振返りながらどんどん駈けて、やがて弾が届かない自信を得たか、歩行に返った。(野火)
- 11) 何度か緑に話しかけてみたが、返ってくる返事はいつも同じだった、今話したくないのと彼女は言ったし、その口調から彼女が本気でそう言っていること

がわかった。(ノルウェイの森)

- 1 2) ところが、ボクの場合は普通の人のふくらはぎくらいの位置でドリブルをするため、ボールが地面についてから返ってくるまで、わずかな時間しかない。  
(五体不満足)

実例からわかったように、人間が元のところに戻るという意味の場合は「帰」を使い(8)、9))、こと・ものが元のところに戻す場合(11)、12)) やもとに復する場合(10)) は「返」を使うことは普通である。現代中国語では「帰」という文字は語として使われず、ただ語素として使われている。それゆえ、「返」は馴染みやすく、よりよくつかわれるのである。

イ)「つくる」の漢字表記としては、現在「作る」のほうがよく用いられる傾向が見られる。『中日対訳コーパス』にある実例を調べたところ、「作る」は293例であるに対して、「造る」は60例しかない。そして同じ作品で両方とも使い、使い分けをしているのは『石川達一・青春の蹉跎』と『井上靖・あした来る人』である。

- 1 3) 吾々が革命の基礎を造っておいてやるんだ。(青春の蹉跎)  
1 4) 父は自分で造った印刷工場の社長だった。(青春の蹉跎)  
1 5) 責任とは、人間が造った観念にすぎない。(青春の蹉跎)  
1 6) しかし左翼学生たちは試験場の入り口に机や椅子を積みかさね、バリケードを造り、学生を一步も中に入れてくれない。(青春の蹉跎)  
1 7) そういう風に造られている女の生理そのものが、愚劣なものに思われてならなかった。(青春の蹉跎)  
1 8) さし当ってかねを作る予定はない。(青春の蹉跎)  
  
1 9) 曾根二郎は笑い顔を作った。(あした来る人)  
2 0) おしゃれなのか、そういう習慣か知らぬが、いつもそうした洋服を洋服屋に作らせる。(あした来る人)  
2 1) 再び克平のところへ戻ると、昼食の食膳が作られてあった。(あした来る人)  
2 2) そして同じように木で造ってある浴槽へ体を沈ませて、暫くすると、「どうですか、加減は」梶の音が響いて来た。(あした来る人)

どちらかという、製造(13)、15)、17)、22))、建造(16))、創造(14))の意味の場合では「造る」を用いて、それ以外のことは、特に制作(20)、21))や形作り(19))の場合では「作る」を用いることは常識的である。「かねを作る」や問題例の「友達を作る」は制作と形作りではないが「それ以外」に属するので「作」を使うべきである。ところが、もっぱら一方だけ使う例が見られる。たとえば、『ノルウェイの森』では「造る」の例は全然なく、明らかに製造や建造の類いでも「作る」を使っている。

- 2 3) 近所の木材店で材木を買って切断してもらい、それで勉強机を作った。食事もとりあえずはそこで食べることにした。棚も作ったし、調味料も買い揃えた。
- 2 4) たとえばね、ダムを作るために村がひとつここで沈んだが、…

このような前述した使い分けを全然考えずに使うことは「作」ばかり使う例のみ見られるが、「造」ばかり使う例は見られない。言い換えると、「作」ばかり使うことは許されるし、使用傾向ともいえるが、その反対、「造」ばかり使うことは許されないので、「造る」を使う場合はかならず前述の使い分けに従わなければならない。

ウ) 4) については、『広辞苑』では「あく」という語の漢字表記には【明く・開く・空く】と書いてあり、「はっきりする意で『明』、ひらく意では『開』、からになる意には『空』を使うことが多い。」と注釈している。よって、問題例の「あく」は「空」であてるべきである。

エ) 5) について『広辞苑』では「一般には「突」を使い、⑤⑥⑦⑨は「衝」も使う」と注釈している。問題例は⑤の「目標を1点に定めはげしく攻撃する」に当たるので、「衝」は許せる範囲内で、ただ「一般には」そむくだけである。それで、誤用までまだ遠いと言えよう。一方、6) の「合う」と「会う」は使い分けがある例で、間違っ**て**使**っ**てはいけないほうである。その使い分けはやはり『広辞苑』の注釈を拝借したい。「ぴったりあう、互いに…する意では『合』、人とあう意では『会』『逢』、偶然にあう場合は『遭』『遇』を使うことが多い。」とのことである。6) の「ルームメートにあう」というのは「人とあう意」であるので「会」しか使えない。ようするに、5) とくらべると6) のほうはより誤用に近い。

文字・表記の範囲については、武部良明は1989ではこう述べている。「まず、各種の文字とその用い方について取り上げることにする。次にそれらを用いての表記について、語の書き表し方という面から取り上げていく。最後に、文章の書き表し方を文字・表記全体の立場から取り上げて、締めくくりにしたいと思う。」(p.1-2) 誤用例集に集めている誤用は間違いなくこの範囲内のものである。そのうえ中国人の手から出たものの特徴も見られる。それはまず中国語では同じく漢字を使うため、漢字の書き方の誤りが欧米系の学習者より少ない。これは正転移のほうである。また、「会」と「合」の使い分けは中国語でも日本語と同じように扱われるが正転移のほうであるのに間違えてしまうこともある。それは学習者の注意不足に原因がある。第二言語習得でいう、ミスとエラーのうちのミスのほうであろう。この事実はこのような誤用はネイティブスピーカーの語感とはあまりかかわらないものであることを物語っている。つまり中国人が中国語の漢字を間違っ**て**使うことと日本人が日本語の漢字を間違っ**て**使うこともある。表記の誤用はこの点で語彙の選択や文法などの誤用と違う性質を持っていることも示されている。負転移のほうというと、「天津へ返った(帰った)」、「友達を造り(作り)」のように、現代中国語で常用語である「返回」、

「製造」の干渉で、日本語ではあまり常用でない「返」や「造」などを使ってしまうことである。ちなみに「帰」と「作」は古代中国語ではその意味として使っていたが、前にすでにふれたように、それらの語は現代中国語では語素としてしか使われていないので、中国人にとって馴染みにくいのである。

### 第三部 誤用の分析（二） 文法編

## 6 品詞

日本語の品詞と中国語の「詞類」とは一致するものが多いが、ずれている部分も少数ながらある。品詞に関する誤用で本研究の誤用例集に見られるのは（1）動詞と名詞のあいだの混同、（2）イ形容詞とナ形容詞の間の混同、（3）ある文脈での品詞誤用と3種類ある。誤用例数は24例である。そのうちに、（2）に属するものは2例で、（3）に属するものは4例で、残ったものは全部（1）に属するものである。ちなみに、このような観点からの先行研究はあまり見られなかった。

### 6.1 動詞と名詞のあいだの混同

- 1) ここでの生活は充実です（充実しています）。/这里的生活很充实。
- 2) 今年の冬休みはたいへん充実だった（充実していた）。/今年的寒假（过得）非常充实。
- 3) 敦煌は雨が少なくて空気が乾燥です（乾燥しています）。/敦煌雨少空气干燥。
- 4) 母は貿易会社で働いています。仕事は非常に忙しくて緊張です（緊張しています）。  
/母亲在贸易公司工作。工作非常忙并很紧张。
- 5) 浦東は今ごろに（日増しに）繁栄になっています（繁栄しています）。/浦东日益繁荣起来。
- 6) 前日よりもっと大勢の人で、混雑だった（混雑していた）。/比起前一天人更多，拥挤不堪。
- 7) 自分の大学生生活を充実に送る（充実させる）つもりです。/打算让自己的大学生生活充实起来。
- 8) 生活はのんびりだ（のんびりしている）と思います。/生活悠然自得。
- 9) 日本料理は外観がきれいで味がさっぱりです（さっぱりしている），という印象を与えます。/日本料理给人以外观美丽味道清淡的印象。

上記例のほかに、例えば形容詞の「好き」「嫌い」と対応している「喜欢」「讨厌」などの中国語は動詞であり、動詞の「優れる」と対応している「优秀」は形容詞になっている例なども挙げられる。ただし、語形から即座にその品詞が判定できるものもあるが、「充実」や「乾燥」のような漢語はそう簡単には判別できない。それに、上記例の言葉は語形の特徴が曖昧なだけではなくて、ほとんど状態動詞なので、意味から見てもどうも形容詞らしく感じられる。おもしろいことに日本語のそれらの反対語（中村一男編『反対語大辞典』により）である「空虚」と「湿润」はいずれもナ形容詞である。このことは日本語の品詞の不規則さも物語っている。8)の「のんびり」と9)の「さっぱり」は副詞なのに名詞として使われている例であるが、動詞句にあるため一応ここにおさめることにした。なお、7)の「充実に」はほかの例の述語用法と違う修飾語用法である点では例外といえるかもしれないし、連用的にでなく連体的に修飾させた「充実した大学生生活」と訂正することも

考えられるが、いずれも動詞とされていない誤りという点では同じ種だとみなして一緒にここで扱うことにした。

中国人学習者が混乱しやすいものは日本語の品詞からいうとサ変動詞が多い、目標語に取り違えるものは動詞とナ形容詞の間（動詞をナ形容詞に間違えてしまう）であるといえる。

ところが、まったく逆のケースもある、たとえば

10) よく (φ)「きれいで頭もいい」と評判されます (評判です)。

のようにナ形容詞や名詞を動詞に間違えてしまう例も見られる。評判という語は、『外国人のための基本語用例辞典』、『新明解国語辞典』、『例解新国語辞典』で名詞と記してあるし、『岩波国語辞典』では「名ナノ」と記してあるが、動詞と表記するものはない。中日対訳コーパスで検索したところ、61例のうち動詞として使われるものは2例しかない。品詞の間違ひとはいえないが語感からいえばやはり名詞と認めるのが一般的である。念のためその少数派である2例を下に並べておく。

11) 上原さんは、悪徳のひとのように世の中から評判されているが、決してそんな人ではないから、安心してお金を上原さんのところへとどけてやって下さい。  
(斜陽)

12) と云うのは、「あれがあの女の亭主だと見える」と、評判されて見たいことです。(痴人の愛)

誤用かどうかの判断する基準としては、ネイティブスピーカーが普通言うかどうかということで、61分の2ぐらいの比率は普通とは言えないだろう。また、この2作品の時代の問題もあるし、日本語母語話者は抵抗感を持つのはあたりまえである。上例の誤用が起きた原因はというと、評判という語の中訳語「评价」は中国語では動詞でも名詞でもあるということであろう。それから中国でかなり権威のある辞書、『新日汉辞典』(辽宁人民出版社1997)では名・サ変と注釈してあることから影響を受けていることも考えられる。

## 6.2 イ形容詞とナ形容詞の間の混同

13) 幸いことには(幸いなことに)文系と理系にクラス分けされる高校二年生になった時、彼と私はクラスメートになりました。それに(そして)彼は私のいい友達になりました。だから彼のことに私はよく知っています。

14) 西溪キャンパスは、新しいキャンパスと比べて、空気がきれいし(きれいだし)、人が少ないから(ので)、勉強と生活の(には)いいところです。

上の2例は同じく、語形がイ形容詞みたいなのに実はナ形容詞であることからの混同。イ形容詞の語尾は「イ」であることを覚えておいて、最後の仮名が「イ」である語を全

部イ形容詞とみなすのは学習者独自の文法のひとつであろう。ところが最後の仮名は必ずしも語尾ではない。「さいわい」と「きれい」との「い」はそれぞれ「幸」と「綺麗」という文字の読みの最後の音であり、イ形容詞の活用語尾ではない。二つともナ形容詞である。

### 6.3 ある文脈での品詞誤用

一部の語は、文脈によって品詞が変わる。それは品詞の転成という。下の「みんな」は名詞でも副詞でもあるが、文脈によって違うのである。「心配」もそうであり、動詞とナ形容詞と名詞の間で変わる。また、「じめじめ」は副詞と動詞の間で変わる。従来の転成とはおもに動詞は「よむ」から「よみ」にかわって、名詞に転成したというようなことを指している。筆者はこの誤用のようなこと、すなわち、もともと名詞である「みんな」という語が、語形が変わらないままで、ある文脈では、副詞として使われることを、副詞への一時的転成とみなしたい。どちらかというところ、上の(1)と(2)の完全な品詞の誤用と違い、ここであつかうものはその文においては品詞がまちがったものである。

- 15) 食事をした後、みんな (みんなが) トランプをしていた間 (トランプをしている間に)、私は片づけをした。
- 16) みんな (みんなで) すしを食べて酒やビールを飲んだ。終わってから雨がやんだ (食べ終わって外に出てみると雨がやんでいた) から (φ。・それで) 気がつかないで (うっかりして) 傘を忘れて帰ってきた。
- 17) 私は今度の試験に心細いから(自信がなく)、合格かどうか(できるかどうか) すごく心配したが、(心配だった。) もしかしたら(もし)合格できなければ、楽しい冬休みは必ず(きっと)楽しくなくなると思った。
- 18) しかし、湿気が多いですから、上海の冬は人びとにじめじめと(じめじめしていると) 感じさせます。

上の15)で「みんな」という語が副詞として使われるのは不適當で、名詞として使うのが適當である。ただし、「みんな」はほかのところでも副詞にならないというわけではない。

上に述べたように、日本語と中国語では品詞の違う場合があるので、意味や中国語の使い方から勝手に判断することはできるだけ避けたほうがいい。使う前に辞書や例文集などを調べておいたら一番落ち着くことである。

## 7 名詞

### 7.1 形式名詞

#### 「の中」の過剰使用

- 1) 教室の中 (φ) で勉強します。
- 2) コンピューターの中 (φ) から生徒の成績を苦もなく取り出しました。
- 3) 日本語の中 (φ) (で) は会話ほど難しいところはない。

日本語の空間表現と中国語の空間表現のズレがあることで上の誤用の原因と考えられる。上の誤用例文とおなじ意味の中国語文にはそれぞれかならず「在教室里……」、「从计算机里……」、「日语中……」のように「里」または「中」がくる。それによって中国語話者は「の中」を過剰使用してしまいがちである。その過剰使用は上のつかってはいけない部類のほか、つかったらまちがいでなくても日本語が普通つかわずに中国語では「里」「中」が必須であるものもある。中国語母語者の「の中」の過剰使用への注目はかなり歴史がある。でもこの一見したところ簡単そうで実はむずかしい課題はいまでもみごとに解決されているとはいえない。ここではまず張(2001)と森田(1985)の説を引用する。

張は「の中」を①つかってもつかわなくてもいい、②つかってはいけない、③つかわなければならない、に三分類した。①のほうは「空間の内部・内側と外部・外側とがきちんと対立している場合は、つぎの諸例からわかるように「の中」は使ってもつかわなくてもよいようです」と述べ、

- 4) 「練習は、三年生の姿が体育館(の中から／から)消えて以来、開放的な雰囲気  
に満たされていた。」の例をあげた。②のほうはまず
- 5) 母はキッチン(に／?の中に)いますよ。

などの例をあげてから、「問題はその指し示している空間は独立したものではなく建築物の内部の部分でしかないのです。建築物の内部の各部分は互いにつながっていて、「キッチン」を出ても「居間」、「居間」を出てもリビングや廊下になるので「(キッチンの)外」という意識は薄いのです。言いかえれば、日本語母語話者の認識の中で「キッチン」や「居間」などの場合には内部・内側対外部・外側といった対立関係がそもそも成立しないのです。そのために、「の中」を用いて内部や内側といった意味をつけ加えることが容認されにくいのです」と述べた。③のほうは a

- 6) ポケット(の中で／\*で)、ぼくは掌の汗を拭った。

のような「道具類ではないことを主張する」類と b

- 7) 和賀、ピアノを叩いている。五線紙に鉛筆を走らす。立ち上がる。部屋（の中を／＊を）歩き出す。

のような「その物体自体ではないことを主張する」類にわけて述べた。そして、〈まとめ〉のところで「の中」の過剰使用はみつつあると指摘した。①は（4）のような「キッチン」類名詞、②は

- 8) \*僕はラジオの中であの歌を聴いた。

のような「ラジオ」類名詞と③

- 9) \*明日県の中の役人が来ます。

のような組織名詞だということである。

一方、森田はまず「モノを表す名詞には、その物の性格上、意志観念や場面意識を持った語が多い」といって、名詞のところ性を指摘する。その名詞がところ性ではたらく場合では、「の中」は過剰である。それからさらにところ性をもつ名詞でも一概に「の中」をつけられないとはいきれないと述べた。「対比意識、その内側領域だけという限定意識」をあらわす場合、

- 10) おもては車が多くて危ないから、庭の中で遊びなさい。

のような用法はなりたつと説明した。

以上、張と森田の説を比べると張の分類①と森田の認識は近い、しかし、森田の言う「対比意識」という観点でとらえるなら、張のいうように「の中」をつけられるかどうかはそのまえの名詞だけによることではなくて、述語もふくんだ文の全体の意味できめられるのではないだろうか。「キッチン」類名詞、「ラジオ」類名詞、組織類名詞の三種類名詞に「の中」がつけられないといっちは絶対化しすぎる。張の上げた「ラジオ」類の名詞、ラジオ、テレビ、電話に「の中」をつけた実例がある。実はこの点について張自身もふれたことがあり、

- 11) 彼はすでに1時間ほどキッチンの中をうろうろしている。

という例文をあげたが、残念ながら分類化の時点（〈まとめ〉のところ）ではこの大事なポイントを無視してしまっている。

ここではまず「の中」の使用の実例をみる。

- 12) テレビの中のアリとフォアマンの闘いを見ながら、私は次第に不安になっていった。そこで何か決定的なことが起こるような予感がしたのだ。（一瞬の

夏)

- 1 3) テレビの中で大きくてがさつな声で喋り続けていた男がいきなり何か高い声で叫び、テレビの中の観客がどっと沸く声をした。(新橋烏森口青春篇)
- 1 4) 昭和十四年八月三十日の朝、この反町が、所用があつて羽越本線新発田の駅から上りの急行に乗りこむと、二等車の中に陸軍中將の軍服を着た石原莞爾が坐っていた。(山本五十六)
- 1 5) 一時間後。フン先生は警察庁の座敷牢の中にいた。鉄格子の外では、長官と悪魔と偽ブンが、シャンパンを抜いて祝っていた。(ブンとフン)
- 1 6) フン先生は座敷牢の中で食事をしていた。べつに焦っても、あわててもいなかった。(ブンとフン)
- 1 7) コンピューターの中に、今度はブラックボックスを入れてみるわけです。すると実に見事に意識の核のありようが映像化されるという次第ですな。(世界の終わり)
- 1 8) 横浜では煙草が、沼津では小田原名産のかまぼこが、たくさんの差入品が展望車の中に積みこまれた。(山本五十六)

上の例 12 から例 14 まででは、まえの空間名詞で示す場所と後にくる動詞との組み合わせは義務的ではない(たとえば「二等車にのる」とは義務的だといえるが、「二等車にすわる」とはいえないだろう)ので、「の中」は義務的である。例 16 から例 18 までではその義務の度合いがよわいので、上の張の①すなわちつかってもつかわなくてもいいほうである。例 15 と例 16 では、「座敷牢」と「いる」、および「座敷牢」と「食事をする」というくみあわせは義務的であるといえそうだが、ここでは「座敷牢」のそととの「対比意識、その内側領域だけという限定意識」(森田 1985)があるから、「の中」をつかわなければならない。

以下で、上の先行研究をふまえながらも一部批判したうえで、簡潔なきまりをみつけておきたい。要は、その空間名詞と後ろの動詞とのくみあわせはあたりまえかどうかを目をそそぐべきではないか。いいかえると、その空間名詞であらわしている場所の機能がその後にくる動詞であらわしている行動にふさわしかったら、「の中」は過剰となる。たとえば、「\*教室の中で勉強します」という文は、教室の機能はそもそも勉強するところだという理由で「の中」は過剰になる。また、「キッチン」と「いる」との組み合わせのあたりまえさが十分成り立つので、「の中」は余計となる。それに対して、「キッチン」と「うろろうろする」との組み合わせのあたりまえさはおちつかないので「の中」を加えなければならないのである。なお、上に述べた「対比意識」を強調する場合は、上の過剰のきまりを無視してもいい。最後に、荒川(1997)の述べる「トコロ(空間)性」という説を踏まえて、空間名詞あるいは空間名詞として使おうとする名詞は、後に来る述語にとってトコロ性が備わったら、「の中」は要らないという仮のルールを作ってみた。

一方、例(1)の「コンピュータ」や、張があげた「ラジオ」、「電話」などのほうはどうであろうか。前の「キッチン」のような具体的な空間をあらわす名詞とちがって、後者は抽象的な空間をあらわす名詞であり、いずれもデータや放送する内容、はなす内容を、

「おく」場所である。具体的な空間をあらわす名詞とおなじ、そのくみあわせの義務性から判定できる。コンピュータはもっぱらデータをおくところなので「そこから」は十分で、「その中から」は余計となる。コンピュータの一次的なイメージはデータをおくところなので、そのあたりまえのことが成立するわけである。機械はコンピュータの二次的なイメージなので、「コンピュータの中から部品をはずす」の場合は「の中」は必要となった。例(3)の「日本語の中( $\phi$ )(で)は会話ほど難しいところはない。」の「会話」は「日本語」の中みの一部であるゆえに道理はおなじである。

ところが、

19) \*僕はラジオの中であの歌をきいた。

はいえないが、

20) ラジオの中で紹介しています、「夢咲寺子屋」の詳細は、こちらの夢咲セミナーページにて。自分が本当にやりたいことを見つけて実現していくために、ぜひご参加ください！（夢咲ラジオトップ）

という実例がみつかった。それはどういうわけだろうか。実はよく考えてみると、(19)の「ラジオの中」と(20)のそれとは意味あいがちがう。(19)はラジオそのものをさしているので、「ラジオで」にすべき、(20)の「ラジオの中」は「ラジオの番組の中」という意味で、ラジオそのものではないので、「の中」は必要となっている。上に述べたあたりまえさというルールはやはり適用する。(19)の「ラジオ」と「うたをきく」という動作のくみあわせはあたりまえなので、「の中」は過剰であり、(20)ではラジオと「紹介」という動作は義務的ではないので、「の中」は過剰ではない。ちなみに、この意味的な違いは宮島達夫(1996)が指摘した「カテゴリー的多義性」にみごとに当てはまることを付言しておきたい。宮島はこう述べている。

「学校」という言葉は、＜多義的＞である。

- A. 「学校であそぶ」(場所)
- B. 「学校がやけた」(たてもの)
- C. 「学校をつくる」(組織)

このような現象を、ここでは、かりに、「カテゴリー的な多義性」とよぼうとおもう。(p. 29)

さて、中国人が過剰に使いやすいところをもっとあきらかにするために、中日対訳の実例を少し見ておく。①の部類は中国語に「里」があるが日本語に「の中」がないもので、すなわち中国人が過剰に使いやすいところであり、②の部類は中国語にも日本語にもあるものである。(出典は史鉄生の『插队的故事(原文)/遥かなる大地(訳文)』である。)

①

1. 金涛和李卓坐在麦垛上。仲伟一本正经扛着老镢站在河滩里。/金涛と李卓が麦藁の山に腰を下ろしている。仲偉が真面目くさった顔をして鍬を担いで川原に立っている。
2. 话多起来，比手划脚起来，坐着的站起来，站着的满屋子转开，说得兴奋了也许就一仰在床上躺下，脚丫子翘上桌，都没了规矩，仿佛又都回到窑洞里（「里」がなくてもいい）。/話が弾むにつれ、身振り手振りを交えたり、座っていた者は立ち上がり、立っていた者は部屋中歩き回り、興奮してくるとベッドに仰向けに寝ころんだり、足を机の上に投げ出したり、礼儀作法どころではなくなり、まるであの窯洞に戻ったかのようだ。
3. 土路上慢吞吞地走着一辆马车，赶车的抱着鞭子，下巴缩到领口里。/土の道を馬車が一台ゆっくりと進んでいた。御者は鞭を胸に抱き、顎を襟元に押しこめるようにしていた。
4. 我醉心于整理行装，醉心于把我的财产一样一样码在箱子里，反复地码来码去。/私は夢中になって荷造りした。自分の財産をひとつひとつ鞆に詰めこむのに夢中になり、何度も詰め直しをした。
5. 白天他去铡草，随随自己在窑里，窑旁就是羊圈。羊羔羔也盼着老羊回来/昼間彼は押し切りを使った草切りに行き、随随はひとりで窯洞にいる。窯洞の横には羊小屋があつて小羊が親の帰りを待っている。

「河滩（川原）」、「窑洞（窯洞）」、「领口（襟元）」及び「箱子（鞆）」などの名詞は「站在（たつ）」、「回到（戻る）」、「缩到（押しこめる）」、「码（詰める）」、などの動作にとってはあたりまえさ（組み合わせの普通さ）やトコロ性はかなりあるのに、中国語の場合においては「里」が要る。「里」がなくてもいい文はやはりある文とはニュアンスが違う。たとえば、3.の「回到窑洞」と「回到窑洞里」は文としてはどちらも通じるが、前者は窯洞のドアまででも中まででも理解できるが、後者は中までほかない。

②

1. 这小子在车厢里四处乱窜，又怪模怪样学起女人哭来，嘴里念念有词抑扬顿挫，自己并不笑。/彼は車両の中をあちこち歩き回り、おかしな格好で女性の泣きまねをしてみせたり、珍妙な言い回しで喋りまくるが、自分では決して笑わない。
2. 鱼在水盆里翻着银光，“噗楞噗楞”想往外跳。/魚が洗面器の中で銀色のきらめきを見せながらボタンボタンと外に跳びはねて逃げようとしていた。
3. 白天他去铡草，随随自己在窑里，窑旁就是羊圈。羊羔羔也盼着老羊回来。随随蹲在栅栏外，羊羔站在栅栏里。/昼間彼は押し切りを使った草切りに行き、随随はひとりで窯洞にいる。窯洞の横には羊小屋があつて小羊が親の帰りを待っている。随随は柵の外にしゃがみ、小羊は柵の中に立っている。
4. 冬天的早晨，雪刚停，五元儿、六元儿站在窑前撒尿，光着屁股在雪地里跳，在雪地里嚷，在雪地上尿出一排排小洞。/冬の朝、雪がやむと五元児と六元児が窯洞の前で小便をする。尻を丸出しにして雪の中を叫んではね回り、雪の上に小便の跡をいく筋もつける。
5. 随随站在小学校窑顶上，两手插在袖筒里。/随随は小学校の窯洞の屋上に立ち、両

手を袖の中に突っこんでいた。

この②の類は空間名詞として使われているもの（車両、洗面器、柵、袖など）は①の類のもの比べるとトコロ性がだいぶ減っている。前の空間名詞（車両など）と後の動詞（歩き回るなど）との組み合わせのあたりまえさがよわいのか、外との対比的な意味を表すかの理由で②の部類は中国語の「里」と対応して日本語の方にも「の中」が必要である。それゆえ、この部類においては中国人の母語転移の心配はない。しかしながら、統計上から見ると、資料編にとってある全部 26 例のうちに、①の部類が 17 例で、②の部類が 9 例で、それぞれ 65%と 35%を占めている。（資料編を参照）つまり中国語話者が過剰しやすいものの方ははるかに大きいということに注意を促したい。

おもしろいことに次の一つの文章には①とも②ともある。その異なる理屈ははっきり見られるので下に示しておく。

- 2 1) 白天他去铡草，随随自己在窑里，窑旁就是羊圈。羊羔也盼着老羊回来。随随蹲在柵栏外，羊羔站在柵栏里。随随拔些青草喂羊羔，羊羔在圈里又蹦又跳，随随在窑前又滚又爬。羊羔比随随长得快。/昼間彼は押し切りを使った草切りに行き、随随はひとりで窑洞にいる。窑洞の横には羊小屋があって小羊が親の帰りを待っている。随随は柵の外にしゃがみ、小羊は柵の中に立っている。随随は青草を引き抜いて小羊に与え、小羊は小屋の中を跳びはね、随随は窑洞の前を転げ回ったり、腹ばいになったりする。小羊の成長は随随より早かった。

そのほか、

- 2 2) 黑板の上（ $\phi$ ）に字を書きました。

のような空間表現の過剰誤用は、「の中」とほとんど同質なので別に節をたてて述べることを割愛させていただく。

## 7.2 代名詞

- 1) 父は人に（を）助けることが好きなので、みんなかれを（父を）尊敬します。/ 因为父亲很乐意帮助人，所以大家都尊敬他。
- 2) 将来の発展（の）方向と自分の考えを両親に言いました。彼ら（両親）の意見も聞きました。/把将来的发展方向和自己的考虑向父母讲了。也问了他们的意见。
- 3) 母は交通事故に遭いました。当時、彼女は（母は）意識不明状態に陥りました。/ 母亲出了交通事故。当时她处于不省人事的状态。

中国語の場合では家族であれ家族以外の人であれ、いずれも二度目に来的时候は、人称代名詞の「他（かれ）」「她（彼女）」などを用いるが、日本語の場合、特に家族の場合は人

称代名詞を使わないのが普通である。上記例はやはり中国語の言語習慣をそのまま日本語に持ち込んで起こった誤りであるが、ほとんどの教科書はそこまで注意を促さないこともその原因の一つだと言えるだろう。次に三つのタイプに分けて実例を考察してみる。

(1) 日本語で家族に対して「彼（彼女）」を使わず再び親族名詞を使う実例

これは一番普通の使い方、自然な日本語になる条件でもあるといえるだろう。それに対して、中国語の訳語には人称代名詞「他（かれ）、她（彼女）」などがよく来る。

- 4) 私は父からその後を聞こうとした。父は話したくなさそうであったが、とうとうこう云った。/我正要接下去听，他似乎又有些迟疑，但终于这样说：…（こころ）
- 5) これは父の言葉であった。父は彼等の陰口を気にしていた。/父亲这样说。他怕流言蜚语。（こころ）
- 6) 父は寺坂を徹底的に、絶対に父を裏切ることのない味方にしてしまうために、彼を登美子の婿にしようと考えているらしい。/为了让寺坂死心塌地地成为自己人，不背叛他，父亲便想把登美子许配给他。（青春の蹉跌）
- 7) それは、叔父さんにも相談したが、叔父さんは、いまはそんな人集めの出来る時代では無いと言っていた。/我同舅舅也商量过，他说现在这种时候不是那样容易就能把人请来。（斜陽）

(2) 中国語で家族に対して「他（她）」を使うが日本語の訳語では「かれ（かのじょ）」を使わない実例

これらの実例から中国語と日本語の人称代名詞の使い方に食い違いがあることがあきらかになる。

- 8) 父亲也有时捧了烟袋，踱了进来，参加我们的谈话。他对P的印象非常之好，常常对我说：……/私の父がパイプをもって入ってきて、話に加わることもあった。父はPのことを気にいっていて、しきりにこういったものだ。（关于女人）
- 9) 我父亲要我来看看您。我带来了他的信，还有他捎给您和史福岗伯伯的一点小东西。/父の言いつけで御挨拶に伺いました。父からの手紙と、お二人への心ばかりの品を持参しております。（活动变人形）
- 10) 终于，有一天早晨，爸爸来到我的床前，他坐在床边的椅子上，疲倦的眼睛温和地望着我，又抬起大手亲切地拍拍我的脑袋，/ある日の朝、とうとう父は私の前にやってきた。父はベッドのそばの椅子に腰かけ、やさしいけれど疲れた顔をして、大きな手で私の頭をそっと叩いた。（轮椅上的梦）
- 11) 张秀藻的爸爸张奇林就是这么样的一个人。说实在的，她不太理解他。他的内心里究竟都装着些什么？/彼女の父、張奇林とは、こんな人間だった。じつのところ、彼女には、父、よくわからなかった。父が心の中で何を考えているのか見当がつかなかった。（钟鼓楼）
- 12) 父亲自1966年“文革”开始时被打倒后，当时刚刚恢复工作，任国务院第

一副主任，主持国务院的工作。他万分蔑视江青等人之所为，与“四人帮”进行了针锋相对的斗争。/父は一九六六年に文革が始まって失脚していたが、当時は仕事に戻ったばかりで、国务院の第一副総理として国务院の仕事を、取り仕切っていた。父は心から江青たちの行為を憎み、四人組と鋭く対立した。(我的父亲邓小平)

ところが、実例を考察すると、前述したルールにそむく例がわずかながら見つかった。その原因を探るため、『中日対訳コーパス』にあるものを全て下記にあげる。

(3) 日本語で家族に対して「彼(彼女)」を使う実例

- 13) 緑の父親は二人部屋の手前のベッドに寝ていた。彼の寝ている姿は深手を負った小動物を思わせた。(ノルウェイの森)
- 14) 父親はもともと唇を動かした。〈よくない〉と彼は言った。(ノルウェイの森)
- 15) 緑は父親に水さしの水を少し飲ませ、果物かフルーツ・ゼリーを食べたくないかと訊いた。〈いらない〉と父親は言った。でも少し食べなきゃ駄目よと緑が言うと、〈食べた〉と彼は答えた。(ノルウェイの森)
- 16) 「何か食べませんか?腹減ったでしょう?」と僕は訊いた。父親はまた小さく肯いた。僕は緑がやっていたようにハンドルをまわしてベッドを起し、野菜のゼリーと煮魚をスプーンでかわりばんこにひと口ずつすくって食べさせた。すごく長い時間をかけてその半分ほどを食べてから、もういいという風に彼は首を小さく横に振った。(ノルウェイの森)
- 17) 母がそばで涙をふいていた。父はどこまでも冷静だった。「いや。もう家にはね、飴を買うお金がないんだよ。いい子だから、この飴はお父ちゃんに残しておくれね。お父ちゃんにはそれがあるんだ。ちゃんとしまっておいて、帰ってきたら口に入れておくれな。一日に一つでももったいないほどだ。そうだ。お前ね、今日この飴の包み紙を全部むいて、小刀でみんな半分ずつに切ってくれないかなあ。そうしたら、この一カ月半、お父ちゃんは毎日飴が嘗められるぞ」言い終ると、彼は何事もなかったかのように出かけていった。そして毎晩帰ってくると、幼い娘が爪先立ちして口に入れてくれる飴を受けとった。彼は自殺しなかった。気が狂うこともなかった。また落胆もしなければ、妥協もしなかった。(鐘鼓楼(訳文))

上の例文は一見したところ、1) から 3) までの誤用例と同じく、「父親〜かれ」というパターンのものであるが、実は違う。父親を呼ぶ主体が違う。誤用例では、話者が自分の父を話す場合であり、13) から 17) まででは話者が言った父親か父は、話者自身の父ではない。たとえば、13) から 16) では、話者は「僕」で、「父親」は緑の父親であり、17) では話者は筆者で、「父」は「幼い娘」の父である。なお、それらの文中の「彼」はいずれも

「父親」で取り入れられる。どちらかというと、自分の家族を言う場合、「彼」が用いられないが、自分の家族以外の人をいう場合、「彼」も「父親」も使えるといえる。

### 正用例

- ① 今日は母の日だから、母に何かプレゼントしよう。/今天是母亲的节日，所以给她送点什么礼物吧。
- ② 私は父を尊敬しています。この家を支えるために父は一生懸命働いていますから。/我很尊敬父亲。因为他为了支撑这个家拼命地工作。

## 8 動詞

### 8.1 テンス・アスペクト

中国語はテンス性が弱いと言われているし、テンスがなくアスペクトしかないという説もあるようである。その説は正しいかどうかはともかくとして、中国語母語話者にはテンスのイメージが薄いということはたしかであろう。それに比べると日本語のテンスは複雑で、簡単に過去形と非過去形に分ければよいというわけにはいかず、過去形で非過去を表すこともあれば、非過去形で過去を表すこともある。たとえば、次の 1) は前者の例であり、2) は後者の例である。

- 1) あした職員会がありましたね。
- 2) かれは学生時代にこの論文をかいている。

このように、日本語ではテンスのカテゴリーだけではなく、アスペクトも時間の表現に関与する。これはもともと時制の概念が弱い中国語話者にとって、難しさが倍増する点で泣き面に蜂といえよう。

#### 8.1.1 前過去を過去と間違える誤用

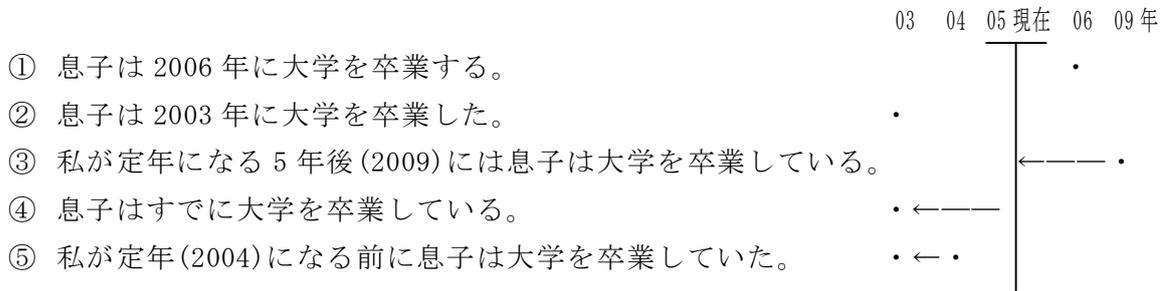
- 3) 彼女は小学校 4 年生の時、地方から私の故郷の実験小学へ転校した（転校してきた）。おばあさんと一緒に生活した（生活していた）。何のことも（どんなことも）自分で解決しなければならない。だから中学校の時もう非常に独立になった（自立していた）。/她小学 4 年级时从外地转学来到我家乡的实验小学,和她奶奶一起生活。无论什么事都必须自己解决。所以在初中时就已经非常自立了。
- 4) 一緒に食事をしたし、寝たし、しゃべってしゃべって時間を忘れて、夜 2, 3 時まで起きた（起きていた）こともよくある。あの時の楽しさはいまでもよく思い出した（思い出す）。/我们经常一起吃饭,又一起上床躺下,聊啊聊啊地忘掉时间、半夜两三点不睡。那时的快乐现在也还常常想起。
- 5) 彼と初めて会ったのは、小学校の 3 年生の時です。彼は両親と一緒に田舎から都会へ引っ越しました（引っ越してきました）。彼は丸い顔でちょっと太く、質素で飾り気がない服を着ました（着ていました）。/与他第一次见面是小学三年级时。他和父母一起从农村搬到城里来。他圆脸、稍胖,穿着朴素的衣服。
- 6) そして張さんは料理作りに忙しいうちに私は（料理に忙しいというのに私はその間）テレビばかり見た（テレビばかり見ていた）。/小张忙着做饭的时候我一直看电视。

学習者はよく「現在まで起きたことはすべて『た』形を使う」という学習者独自の文法

をつくりがちである。これは実際に<時>の立体的体系を平面化してしまった誤りである。

(以下の説明は主に高橋太郎他 2005『日本語の文法』の説による)

日本語テンスには下記のように絶対的テンスと相対的テンスがある。



- ① 息子は 2006 年に大学を卒業する。
- ② 息子は 2003 年に大学を卒業した。
- ③ 私が定年になる 5 年後(2009)には息子は大学を卒業している。
- ④ 息子はすでに大学を卒業している。
- ⑤ 私が定年(2004)になる前に息子は大学を卒業していた。

その関係は次の表のようになる。

テンス類別	テンス (的 な意味)	形式	表わす意味	例 文 番号
絶対テンス	未来	する	現在以後	①
	過去	した	現在以前	②
相対テンス	前未来	している	未来のある時点のまえ	③
	前現在		現在のある時点のまえ	④
	前過去	していた	過去のある時点のまえ	⑤

このことから、過去のある時点に対する過去、「過去の過去」は、「前過去」というテンスを使わなければならない。誤用例 3) の「生活していた」も「自立していた」もいずれも過去のある時点までの出来事をあらわす。つまり過去のある時点に対する過去の時に起こったことであり、ちょうど前過去に当たるのである。そのほかの誤用例も同じ理由による。(ちなみに、相対的テンスを完了とする説もある。つまり「前未来」「前現在」「前過去」をそれぞれ「未来完了」「現在完了」「過去完了」とよぶ。相対的テンスという説は中国人にとって理解しやすく応用しやすいのでここではその観点から考察することにした。)

中国人学習者にとって運用が難しいものは相対的テンスである。特に前過去のことは、よく過去だけに目をやるが、「前」を無視してしまうか、過去の時点に気がつかずじまいである。3) の「小学校 4 年生の時」でも、「中学校の時」でもいずれも過去のある時点までの時なので「生活していた」や「自立していた」のような前過去を使わなければならない。3)、4)、5) もおなじ理由で、それぞれ「あの時」、「その時」と「その間」の時はすべて過去のある時点までの時である。また、一時的か持続的かという立場からも過去と前過去を区別することができる。過去は今までのある点にある一回だけのことに使うが、前過去は過去のある時点までずっと続けることに使う。つまり過去は点的であり、前過去は線的であるということになる。このことを加えれば上記の誤用を避ける可能性はもっと高くなるだろう。

7) 曾根はぎっしり詰って重そうなリュックを、右肩を少し上げて背負い、車の動揺に

- 時々身体をふらつかせながら、幾つもの車輛を通り抜けて行った。食堂車には客が八分通り詰っていた。曾根は入口でゆっくりと内部を見渡した。(あした来る人)
- 8) 車輛を三つか四つつ切って、後尾の車両の自分の席にもどって来ると、リュックを網棚の上に載せた。彼の留守の間、彼の席に替って坐っていた人物が立ち上がった。(あした来る人)
- 9) 母が病気で死ぬ二三日前台所で宙返りをしてへっついの角で肋骨を撲って大に痛かった。母が大層怒って、御前の様なものの顔は見たくないと云うから、親類へ泊りに行っていた。するととうとう死んだと云う報知が来た。(坊ちゃん)
- 10) これは喜助だけではなくて、父親もそうであったにちがいないと、喜助は二十一歳の今日まで思っていたが、その日、突然、訪ねてきた芦原の玉枝と名のる女が、むかし、父に世話になったといったのを思いだすと、喜助はあらためてその意味に気づき、びっくりした。(越前竹人形)
- 11) それ程浜辺が混雑し、それ程私の頭が放漫であったにも拘わらず、私がすぐ先生を見付出したのは、先生が一人の西洋人を伴っていたからである。(こころ)

7) の「詰まる」、8) の「坐る」、9) の「行く」、10) の「思う」、11) の「伴う」などはそれぞれ「見渡す」、「立ち上がる」、「来る」、「びっくりする」、「見付け出す」などの動作をする時間にとっては過去なので、前過去を表わす「していた」をつかっている。また、こういうことは、「詰まる」などであらわす動作はいずれも「見渡す」などの動作がされるまで続けているもの、線的なものであり、「見渡す」などの動作は点的なものであることから実証される。

### 8.1.2 従属節の中のテンス

従属節の中のテンスは中国人学習者にとって、最も難しいテンスだと言える。本研究の誤用例集に、名詞のテンスの誤用例は4例あり、そのうちの2例は従属節の中のテンスのもので、動詞のテンスの誤用例は34例あり、そのうちの17例は従属節の中のテンスのものであり、それぞれ50%を占める。この傾向は用例数が増加しても変わることはないであろう。また、市川保子(1997)で取り上げた「た」の誤用例の中には、中国語系学習者のものが全部で6例あり、そのうちの4例は従属節の中のテンスのものである。日本語テンス形式の教育、学習のことを考えるにあたって、大変示唆に富む事実だと思われる。

- 12) 大きな(深刻な)環境汚染が起こる(起こった)場合は早速(早急に)解決しなければなりません。
- 13) 大学へ入った前に(入る前に)、学科を選びました。私は日本語科にしました。
- 14) 次の日、私は母がいた病院(母がいる病院)へ行きました。
- 15) 我が家に着いたのは春節の直前でした。その日から春節が終わったまで

(終わるまで) 毎日忙しくてたまらなかつたです。

1 6) 彼がけんかしたたびに(するたびに)私はずいぶん心配しました。

(1) で取り上げた「現在まで起きたことはすべて『た』形を使う」という学習者独自の文法がここでも影響している。それに、「従属節の時制と文末の時制とを一致させる」はここで見られるもう一つ学習者独自の文法であるといえよう。上の五つの誤用例ともこのふたつの独自の文法に従わされている。残念ながら、これらの独自の文法はかなりの場合に有効にははたらかない。これに関する決まりをあきらかにするために、まず次の一組の例文を見てみよう。

- a. ハワイに行くとき、水着を買います。/去夏威夷的时候买泳装。
- b. ハワイに行ったとき、水着を買います。/去夏威夷的时候买泳装。
- c. ハワイに行くとき、水着を買いました。/去夏威夷的时候买了泳装。
- d. ハワイに行ったとき、水着を買いました。/去夏威夷的时候买了泳装。

中国語にはテンスのてつづきは特にないので、「行くとき」と「行ったとき」が区別できず、みんな「去……的时候」という。もし強いて区別しようとしたら、「去……之前(行く前)」、「去……之后(行った後)」と言うよりほかはない。一方、日本語の方では、「行った時」の文はハワイに着いてから買うという意味を表して、「行く時」の文ならハワイへ行く前に買うという意味になる。によって、従属節のテンスを決める原則は次のようにまとめてよいだろう。

- ① 主節であらわす動作が従属節で表す動作が起きる前あるいは同時に起きるなら従属節のテンスを非過去形にする。(a と c の類)
- ② 主節であらわす動作が従属節で表す動作が起きた後で起きるなら従属節のテンスを過去形にする。(b と d の類)

この原則で上の組例を調べてみて全部当たるのは予想内であるし、1 2) から 1 6) までの誤用例文にも全部当たるのである。上記 1 2) は主節の「解決」という動作は従属節の「起こる」の以後に発生するので、②が適応し、つまり従属節のテンスは過去となる。1 3) は「選ぶ」ことは「入る」ことの前で、1 4) は「行く」と「いる」は同時で、1 5) 「忙しい」ことは「終わる」の前で、1 6) は「けんかする」ことは「心配する」ことは同時であるので、①が適応し、従属節のテンスは非過去となる。

ただし、次のような場合は原則が一部適応しない。

ア) 状态的述語の場合 以上見たのはほとんど動的述語の場合であるが、状态的述語の場合では主従節の時間的關係が明らかであるとき、原則は適応できる。たとえば、

1 7) いいか、寛平君、間違えてはいかんよ。父親だった時何一つしてやらなかつたから、その替りに、今一つだけさせてもらおうと思うんだ。(あした来る人)

- 18) だが、それはまた、逆に可能性があるともいえた。父が好きだった玉枝は、息子の喜助だって好きにきまっている。小柄な背のひくい軀でも、好いてくれることはわかっていた。(越前竹人形)

ところが、この状態的述語の従属節の性質は時間関係にかかわる対立の違いによってヨコの対立とタテ的対立とに二分できる。ヨコの対立とは、その性質を自身以外のものと相対することで、タテ的対立とは自分の過去と相対することを指している。ヨコのものは非過去形を使い(19)、タテ的なのは過去形を使う(20)。

- 19) 性能のよい(\*よかった)パソコンが先月発売された。  
20) 体の弱かった(\*弱い)太郎が、見違えるほど丈夫になった。

イ) 前節と後節は主従ではなく、同じ時間に起きた動作・状態の並列の場合では、後節のテンスは前節までかかるので、過去のことなのに前節はよく非過去形を使う。

- 21) 世俗の人間にも学校仲間はなつかしいが、耶蘇会の神父たちにも「僧院の友情」は貴かった。(マッテオ・リッチ伝)  
22) と女は瀬戸口の藪に見とれていたが、やがて藁沓をひきずって藪に入った。それは女竹の藪であった。孟宗藪とちがって葉も細いし、幹も細かった。(越前竹人形)  
23) 今のままで居てくれと登美子は言った。自分はそれを承認もしないし、約束もしなかった。(青春の蹉跎)

もちろん、よく非過去形を使うというが、上例の場合は過去形が使えないわけではない。ところが、同じ接続助詞「が」や「し」でつながる文でも、上のようなただの並列ではなく主従的關係ならこの規則は無効となる。

- 24) 彼女は新聞を受け取った(\*受け取る)が、それに目を通す気持ちにはなれなかった。(寺村 1984)  
25) 展覧会用の作品も一応揃った(\*揃う)し、案内状も刷り上った。(寺村 1984)

ウ) 従属節は成り立つ時間に関係のない命題のなかでの運動や質的属性をあらわす場合は、非過去形を使う。

- 26) この日小杉荒太は9時に目覚めた。いつも遅くも7時には床を離れるが、今日は日曜日なので目の方がちゃんとそれを承知しているのか、2時間ほど遅く目覚めた。(ある落日)  
27) 転居する人は普通転居後に住民登録する。

- 28) 僕はめったに人に惚れないが、初対面から好感を持ちましたよ。(ある落日)

以上の分析を通して従属節のテンスに関する誤用を避ける方法を明らかにしてきた。学習者には、上記①と②の原則に、ア)、イ)、ウ) 三つの補充規則を示す必要があると考える。

## 8.2 ヴォイス

誤用についての先行研究では、多かれ少なかれヴォイスにふれていないものはないだろう。だからヴォイスの誤用は決して新しいテーマではないといえる。しかし、各研究者が各自所有する誤用例文だけに基づいて研究する嫌いがあり、中国人学習者にみられる誤用という小さい領域でさえ全面的な成果が見られていない。それゆえ、本節では本研究の誤用例文集にあるものを中心にして、さらに例文集にないものでもある程度代表性があれば、先行研究を借用してまとめていくことにしたい。

本研究でのヴォイスというカテゴリーは受身、使役から、可能、自発、さらにやりもらいまで含めることがあるが、そのなかで、可能動詞に関しては本研究では特に一節をたてて考察する予定なので、ここでは省くことにする。本節においては、ヴォイス形式を使う必要がないのに使ってしまうケースを「過剰」、使うべきなのに使わないケースを「不足」、文の主語或いは補語などの間の表現で混乱しているケースを「文の部分間の関係の混乱」と名づけ、ヴォイスの間での混同、つまり受身を用いるべき場合で使役を用いてしまうケースを「混同」としてあつかうことにする。

### 8.2.1 過剰

- 1) もともとゆるがせにした(ゆるがせにしていた)朝食が(を) 重視されて(重視して)、栄養と便利さとおいしさ3つの 方面(面)に配慮を加えるべきだ。
- 2) 母は交通事故に遭いました。母の頭が(母は頭を) ぶつかられましたから(ぶつけたので)、頭の中で、うっ血がたまっていました(出血して血がたまっていました)。彼女は(母は)意識不明の状態に陥りました(陥りました)。
- 3) 世界経済が一体化している今日、中国は別の国(他の国)としっかり 繋がられて(繋がって)いると思います。
- 4) その部屋は混んで(込みあって)いるような 感じがさせます(感じがします)。
- 5) 環境が 破壊される(破壊されている)ということを知って、(どうしたら)人々が 保護(環境を保護できるか) と考えさせられた(を考えた)。

以下に見るように、中国人学習者においては、過剰より不足のほうがはるかに多い。このため、過剰は十分に重視されてこなかった。本研究で収集した誤用例も同じ傾向を示しているが、ここでは、5例あった誤用例をすべて取り上げて分析することにした。

ア) 自動詞は本来直接受身にならない（「文法的自動詞である論理的他動詞」とは別であることについて 8.4『自動詞・他動詞』参照）ということが分かっているが、2) や 3) のようについ間違えてしまうことがある。このような誤用については佐治（1992）でも、市川（1997）でも個別例として次のように取り上げられた（訂正記号は筆者が本研究のやり方にしたがって付けなおした）が、一般化されてはいなかった。

- 6) 私は非常に主人公に感動され（感動し）、いまでもその筋を覚えている。（佐治 1992, p. 235）
- 7) 陳さんも私もこの人の親切さに感動され（感動し）ました。（佐治 1992, p. 235）
- 8) 野外炊飯のため、鍋は真黒に汚れられて（汚れて）、生徒が「炭のようだ」と言った。（市川 1997, p. 164）

中国語の受身はおもに「被」という介詞・助詞（動作主がある場合では、動作主につくと介詞であり、動作主がない場合、直接動詞の前に来ると助詞である）でマークされる。しかし残念ながら、中国語において「被」と組み合わせられる動詞と対応する日本語動詞が全部他動詞であるわけではない。その対応する動詞が自動詞なら受身にならず、受身形にすれば誤用になる。問題例のものはこの類である。中国語では「被撞」、「被綁牢」、「被感動」と表現できるものも、日本語では「ぶつかられる」、「繋がられる」、「感動される」とはめったに言わないのである。上の問題例に出た語のほかに、次のような自動詞もその中国語の対応語がよく「被」と結びつくので間違っ受身にされやすい。

- 9) つかる/被浸泡、浸る/被淹、染まる/被染、教わる/被教、つまづく/被絆倒、引越す/被搬走、溺れる/被淹死、及ぶ/被波及、（疑いが）かかる/被怀疑、勝つ/被战胜、助かる/被救、載る/被登載、漏れる/被漏掉、敗れる/被打敗 など

このような動詞そのものは中国語の「被」という意味を持ち、これ以上受身形にすると過剰になる。つまり、中国語の「被」は日本語の他動詞の受動形と上のような自動詞の非受動形の二者に対応する。ちなみに、「預かる」と「辞める」が他動詞なのに下例 10)、11) のような意味の受身にならない（この事実は王忻 2001b で指摘したことがある）グループも中国語の「被保管」、「被辞退」の干渉によって、

- 10) 金が銀行に預られた（預けられた）。
- 11) 彼は社長に辞められた（辞めさせられた）。

といった受身形にされることがある。もちろんこれは本節があついている能動形と対立する<過剰>にはあたらないのだが。

1) の「重視する」はまともな他動詞であり、上の自動詞とまったく別の類で、同じ種の過剰ではなく、「重視される」という形はあり得るのである。問題例で指摘訂正されているのは、語ではなくて、文のレベルでの誤用で、すなわち「重視する」とあとの「加える」

の主語の統一の問題である。

馮 (2000) の日中両言語の受動文の相違点についての要約には、上の過剰に属すべきものとして次の三つを挙げている。一、動作の主体が第一人称である場合、たとえば「ご飯は私に食べられた」は不自然である。二、「紙はいちごで染まっている」のような自然描写の場合、受身形は不自然である。三、「映画の主人公に感動した」という自発表現の場合、「感動された」の受動表現は使わない。そのうち、一、は上では言及していないので、補うべきであるが、二、と三、は本節の上の一部とかさなっており、また、決して自然描写と自発表現にとどまるものではない。この点に関しては、上の 9) のグループでまとめている。

続いて、

イ) 使役の過剰使用は受身ほどに見られない。誤用の出現が心のうごきを表わす動詞に集中する点は先行研究とかさなっている。

- 1 2)            こちらの人の歩いている姿を見ると、思わず哀れみを感じさせる (感じる)。(佐治 1992, p. 238)
- 1 3)            逆に彼はもし何か心配事があったら (あっても) いつも子供達に心配させません (心配をかけません)。(市川 1997, p. 155)
- 1 4)            それは (で) わたしをがっかりさせました (はがっかりしました)。(市川 1997, p. 156)

中国語では、心のうごきを表す動詞は能動形 (たとえば「我吃惊/私は驚く」、「我感觉到/…と感じる」) よりむしろ使役形 (「令我吃惊/わたしを驚かせる」、「令我感觉到/わたしを…と感じさせる」) のほうが使いやすい。これが使役形の過剰使用のおもな原因だと考えられる。それに、中国語の「「令」+人称名詞+動詞」というパターンにある動詞には心のうごきを表す動詞しか使えないので、ここで見る誤用も心のうごきを表す動詞に集中したのであろう。また、12) の訂正に「感じる」しか提示されていないが、「感じさせられる」という使役受身形もここでは可能である。

ウ) やりもらい動詞の過剰使用はあまり見られない。本研究の収集中にも見当たらない。しかし市川 (1997) によって取り上げられた 1 例は中国人学習者からのものであるし、筆者が日本語教育現場において学習者に対して訂正してきた経験もあるため、関心を持たざるを得ず、ここでも取り上げることにした。文献では、当該の問題例については特に説明を付けていなかったため、あえて加筆を行った。

- 1 5)            私なら、もちろんぜっぴ (ぜっぴ) あなたに来ていただいてほしい (来てほしい) だよ。(p. 185)

同じ希望、願望を表す文型として、「てほしい」と「たい」はよく学習者に混同されている。その大別として、「てほしい」の前に来る動作は相手に望むものであり、「たい」の前に来る動作は自分が望んで行いたいものである。問題例の「てほしい」の前には「来

る」と「いただく」二つの動詞があるが、「来る」の動作主は相手で、「いただく」は自分の動作であるので、「いただく」を消すべきである。しかし、これだけでまだ不十分ではないかを感じる。なぜなら、「きてくださってほしい」とした場合、「来る」も「くださる」も動作主は相手のことであり、一致しているため、ありえるのではないかと推測できるからである。ところが、こういう表現はとらないのである。また、「きてもらってほしい」も「きてくれてほしい」も言いにくい。しかし、「してやってほしい」はなんだかいえる気がして、中日対訳コーパスで調べてみたところ、あることはあるが1例しかない。

- 16) ふたりっきりのきょうだいでもいいですから、きょうだいを与えられるものなら、与えてやってほしいって思いますね」(ひとりっ子の上手な育て方)

このため、<「てほしい」の前には「やる」を除いたやりもらい動詞が来てはいけない>という規則を補わなければならないと考える。「やる」でも用例はあまり多くないこともことわっておきたい。

## 8.2.2 不足

- 17) 崇明島は工業区(工業地区)として開発しない(開発されない)から、汚染もひどくないし、空気もいい。
- 18) 特に2年前(2年前に)揚子江のうえ( $\phi$ )に橋をかけて(橋がかけられて)、揚子江の南北がつながって(つながったので)、交通は(が)便利で(便利になって)、さらに(ますます)発展するようになっています(発展しています)。
- 19) 午後、友達から電話をもらって(で)「映画を見に行きましようか」と誘って、(誘われたので)出掛けていき( $\phi$ )ました。
- 20) われわれのふるさは地図にさえかかない(のっていない・かかれない)ほど小さい村です。
- 21) 豫園から東へ10分歩くと、バンドに着きます。そこでで(では)、外国の建物が見えます(見られます)。中国人自身の手によって建った(建てられた)東方明珠タワーがバンドの向こう(向い)に立っています。バンドで(では)、豫園とすっかり(まったく)違う風景が見えます(見られます)。
- 22) 一番心を引く(引かれる)のは食べ物屋です。
- 23) 上海博物館へ行った。あそこ(そこ)に(で)「日本文物展覧会」が行っていた(行われていた)。
- 24) 四六時中忙しい生活をしている人間がこれらの庭園に入ったら、身心の(を)リラックスする(リラックスさせる)ことができると思う。
- 25) 母は私にピアノを習わせた。毎週の七曜日(日曜日)母は私をつれて先生の家へ行って授業を受けた(受けさせた)。
- 26) 奥さんは主人(夫)の話を知っているうちに、夫が会社のお金を使い込んだのは、その女のためだった(だ)と思ってきた(思えてきた・思えてならなか

った)。

- 27) 私は泣いて (泣けて) しかたがありませんでした。
- 28) 彼は神経の太い (神経が図太い・デリカシーのたりない) 人だから、ちょっと失礼なことをしたら (しても)、許してください (あげてください)。
- 29) 早く大人になってお父さんのお (お) 力になり (ってあげ) なさい。
- 30) 母はいつも私のために面白いの (面白い) 本を読んでいました (読んでくれました)。
- 31) よろしかったら (お) 私個人の問題について (なのですが、できれば)、先生と (お) ご相談にのりませんか (相談にのっていただけませんか) でしょうか。
- 32) 彼と (に) 相談し (ようとしまし) たが、なかなか相談に乗りません (のってくれません)。

ア) 中国語では受動文はそもそも少なく、西洋文書を翻訳することによって増えてきたものであり、そのため、中国語に合うほどに発達しているカテゴリーとは言いがたい。また、翻訳調でかたく感じられるため、話し言葉にはあまり使わない。この傾向は日本語にも見られるようであるが、異なる点は日本語の場合では、受動文を使わない代わりに、格をかえて能動文にして意味を表し、中国語の場合では、何も変えずに、受身文のマーク＝「被」をとるだけですむ。たとえば、問題例 17) の「崇明島尚未开发」と「崇明島尚未被开发」、18) の「长江上建了桥」と「长江上被建了桥」では、どちらも意味がかわらない。さらに、20) の「我的家乡是连地图都没写上去的小村庄」と「我的家乡是连地图都没被写上去的小村庄」や、21) の「靠中国人的手建起来的东方明珠塔」と「靠中国人的手被建起来的东方明珠塔」では、後者のほうがかえって不自然になる。中国語には文の部分をちゃんとマークする格助詞という存在がないのがその原因だと思われる。このような表現選択に直面した場合、中国人学習者は受身形の<不足>に陥りがちになる。

さて、このような誤用を避けるために必要な注意点を見てみよう。実は文の整合性に目を配ってみるとよくわかるのである。つまり、この動詞を能動形にするか受動形にするかはその動作の主語と述語動詞との関係、意味的な結びつきによって決まる。たとえば、17) の「崇明島は」主語なので、「開発する」なら、動作の主体になる。しかし、その文が表わそうとしている意味では、動作の対象でしかない。よって、「開発される」という受身形にしかなりえない。18) は重文の一節中の述語で、その節には主語がないので「かける」という動作をほどこす動作主がないことによって意味表現は不完全になる。それに、次の節と並べて客観的な事実を述べる文なので、同じように無生物を主語にして、客観的表現に合う自動詞 (受身動詞を含んでいる) 表現を加えると整合性を伴った文章になるとと思われる。19) は「でかける」の動作主は「誘う」の動作主と異なるが、「誘われる」の動作主と同じ人なので、受身形を補わなくてはいけない。20) の主語は「ふるさと」であるが、「地図にかく」の動作主にならないので適切ではない。21) については、動作主がなければ、「東方明珠タワーが建った」、「東方明珠タワーが建てられた」とどちらもいえるが、動作主をあらわす文型「…によって」があると、受身形「建てられる」でなければならなくなる。22) は主語とは関係なく、日本語と中国語の習慣の違いで起きた問題だといえる。23)

は17)と同じく、主体と対象の問題である。

イ) 使役の使用不足がよく見られるのは大体次の三つである。まずは自動詞を他動詞化することである。学習者は動詞の自他をはっきりおぼえておらず、自動詞を他動詞として使ってしまう。サ変動詞がこの類によく出てくる。24)はこの部類である。次は上の受身と似ていて、文の整合性の問題である。たとえば、25)では、母は「連れる」と「いく」の動作主であるが、「授業を受ける」の動作主ではない。しかし、「受けさせる」にしたら、母は動作主となる。第三のものは今回の調査に見られないので、馮(2000)から借用したい。それはある結果、状態の発生に、動作主の直接的働きかけがない場合、たとえば「ご飯を腐らせた」のような表現である。このような使役は中国語にはありえないので、中国人学習者がよく使用不足をおこすのである。

ウ) 自発は、人間がコントロールできないところのうごきにかかわる意図的でない動作の実現である。ある文脈では使っても使わなくても意味はそうかわらない。たとえば、

3 3) この問題は近い将来に解決されるものと [考える・考えられる]。(佐治 1992, p. 242)

3 4) 田代さんは今月十五日ごろには帰ってきておられると [思います・思われます]。(同上)

ところが、使わないとおかしくなる場合もある。第一に、全文の意味あいから見て、その心のうごきはおのずから生じたもので、意図的でない場合である。26)のような例はその類である。それから、「～てならない」、[～てしかたがない]などの文型では前に来る感情動詞は普通、自発形を使っている。「～てならない」は特にそうである。上の26)、27)の誤用の理由はここにある。

しかし、『日本語文型辞典』(グループ・ジャマシイ 1998, p. 258)にこのような例文をとっていた。

3 5) 赤ちゃんが朝から泣いてしかたがない。

それは自発文とは認めにくい。普通、自発文は主語は話者であるか、直接話者でなくても、話者が主語の立場に立って発話するのが一般的である。25)の奥さんはこの例である。それに対して、35)は話者が決して赤ちゃんの立場に立って発話するのではない。また、自発文は主語が抑えても抑えられないことがらを表わす。つまり非意志的な動作である。26)の「奥さん」の動作も27)の「私」の動作もそうであるが、35)の「赤ちゃん」は決して「泣く」という動作を抑えたがらない。「泣く」という動作は言語がまだできない赤ちゃんにとってほぼ唯一の意志表現の方法で、たとえばおなかがすいたこととか、怒っていることとか、目覚めたことを伝えることなどは、ほとんど「泣く」という動作で表わす。そのため、赤ちゃんの「泣く」は、おとなの食べること、話すことと同じぐらいのごく普通の意志的な動作である。という理由で35)は「泣ける」という自発動詞を使わないのである。同じ理由で35)の動作主を「奥さん」に置き換えるとおかしくなる。

エ) 中国語では、利益・恩恵の授受についての表現は発達していない。そこで、特に明示する必要がある場合でなければ、「やりもらい」は中国人学習者に頻繁に言い忘れられてしまう。特に明示する必要があるのは次のような場合である。

- 36) おじいさんは孫に本を読んであげました。/爷爷给孙子念(故事)书。  
37) 小野さんがおいしいお茶を買ってくれました。/小野给我买了美味的茶叶。

ようするに、中国語において利益・恩恵の授受を表す介詞「给」がある文では、その授受関係はあきらかで、学習者は<やりもらい>動詞を付けなければならないのだという自覚を持ちやすい。使用不足しがちなものはその反対で、上例に見られるように、中国語において「给」というマークがなく、利益・恩恵の授受関係がはっきりあらわれていない場合である。

- 38) 「皆さん、寒かったら部屋に戻ってください」とみんなの様相を見た主人はこういいつけた (いってくださった)。(佐治 1992, p. 133)

28) については、中国語のほうでは「请原谅/許してください」で十分で、わざわざ「请对他给以原谅/かれに対して許してあげてください」という言い方には思い及ばない人が多い。日本語に常にあらわれる利益・恩恵の関係(方向)をはっきりさせておいてから発話する習慣がつかない限り、このような誤用はなかなかさげにくい。28) では話し手が聞き手に向かって、「彼」を許すことを聞き手に頼んでいるのである。話し手は聞き手の立場に立っているので、「許す」という動作は「彼」に対する、ウチからソトへの恩恵授受であるから、「てあげる」は必要なのである。29) の「お父さん」は 28) の「彼」と同じ立場なので、理由は同様である。30) は「私のために」がちゃんとあり、「読む」という動作の恩恵方向はあきらかなので「てくれる」は使うべきである。31) は直接相手に向かって頼むときの表現であり、その場合相手が自分のためにする動作を、<動詞連用形+ていただけませんか>という文型で表すのが普通である。相手との関係がもうすこし親しく、それほど丁寧に言わなくてもいい場合は、32) のように、<動詞連用形+てくれませんか>を使うべきである。

### 8.2.3 文の部分の間の関係が混乱する

- 39) おばあさんはは(に)「落花生とあめと果物とお茶なら(落花生とあめと果物とお茶があれば)大丈夫」とおしえて(もらって)とても嬉しかった。  
40) 私の家は引っ越しました(引っ越した)ので「家はどこにあるか(あるのか・あるんだろう)、どうしようかな」と困りました。仕方がないので、先(先に・まず)、家に電話をかけてお母さんからアドレスをくれました(教えてもらいました)。

- 4 1) 私が一番好きなのはふるさとの静けさだ。私はよくこういう妙な(不思議な)力を含んでいる静けさを(に)誘われてよそから帰ってくるのだ。
- 4 2) 私の(は)髪は(を)母に切られました。

ヴォイスの表現形式という、動作の参加者の立場によって起きた動詞の形態の変化と格の交替だと言えるだろう。主格と斜格の交替がよく見られるために主語と補語に誤りが見られる。

39) は動作主の格の問題である。拙文「二格の動作主をあらわす機能について—ヴォイスの視点から」(「日語学習と研究」2005 年第三号)での考察では、「に」格が動作主を表すのが多くのヴォイス形式の特徴の一つだと指摘した。「てもらう」文はそのうちの一つである。39) は「てもらう」文なので「おしえる」という動作の動作主は「に」であらわさなければならない。「てもらう」文の動作主は「に」格のほかに、「から」格も使える。逆に言うと、動作主に「に」格か、「から」格を使うと述語はかならず受身的な表現でなければならない。「てもらう」は受身的な表現であるし、40) の文脈では受動態に比べるとより適切なので上のように直した。41) は動作主はヒトではないが、まともな受身文であり、「誘う」という動作の主=原因は「に」を使うべきである。42) の類いは中国人学習者によく見られるものである。その原因は、中国語では受身文において主語は人間かどうかに関係なく自由にすえられるからである。一方、日本語の場合ではほとんど人間である。受動者は人間(42)の「私」であり、もの(42)の「髪」ではないという発想ではないかと思われる。なお、日本語のいわゆる「もちぬしのうけみ」(高橋ほか2005、p. 75 参照)はそのまま中国語に対応しにくいことも物語られる。

#### 8.2.4 態の混同

- 4 3) 英語が大好き(大好きだ)けれども、両親に日本語を勉強されました(勉強させられました)。
- 4 4) 小学校の時にもこの題にして(題で)作文を書かさせた(書かされた)ことがある。
- 4 5) まずきれいなプレゼントを選んで、店員にそれを包まれました(包んでもらいました)。
- 4 6) (テニスは)大学で友達から教えられて(教えてもらって)、鍵を把握しました(コツをつかみました)。
- 4 7) 先生がいつも気持ちよく相談に乗ってもらいたいと思います(くれればいいと思います)。
- 4 8) みんな先生と会いたくて(お会いしたいと思っているので)、もし先生も(にも)参加してくれば(いただければ)、きっと喜びます。

日本語のヴォイスは紛らわしいもので、態の形式の使用混同が出ることもある。もっとも、このような誤用は中国語と対応しにくいので、母語干渉の影響を受けにくいと考えら

れる。ゆえに学習年数とともに減少していくと思われる。

43) は受身と使役受身との混同である。例文はほかから動作を強制される意味なので、使役受身を使うべきである。サ変動詞の受身形と五段動詞の使役受身形は同じく「～される」となっていることも、初歩段階では誤用の要因であろう。たとえば、

49) この車は日本の有名なデザイナーによって設計されました。(新版中日交流標準日本語・初級・下 p. 190)

50) 先輩に無理に酒を飲まされた。(グループ・ジャマシイ 1998, p. 132)

すなわち、「される」はサ変動詞の語幹につくと受身であり、五段動詞の未然形につくと使役受身となる。44) も使役受身を使うべきものではあるが、「書かさせる」もただしい使役形ではないため、問題は複雑である。45) と 46) とともに「てもらう」を受身に間違えた誤用であり、二つの形式ともほかのものは動作主であり、自分はその動作主の動作の受け身であることを表しているものであるから誤用が生じたのであろう。ただし、「てもらう」など恩恵の授受の意が加わる機能は単純な受身にはない。47) では、「てもらう」文なら動作主は「に」格でなければならない。「が」格なら「くれる・くださる」しか使えない。48) では、尊敬の程度を考えなければ誤りとは言えないが、先生のことを言う文なので適切な敬語表現をとったほうが良いと思われる。ここでは、「くださる」、「いただく」とも使えるが、ふつう日本語では「いただく」のほうがより愛用されるので、上例のように訂正した。また、「いただく」を使うと、動作主を表す格助詞も「に」にしなければならない。

### 8.3 可能動詞

日本語の可能表現には派生によるもの（よめる）、複合によるもの（よみうる）、くみあわせによるもの（よむことができる）の三種の可能動詞が見られる。一方、中国語では「可以」「能」というふたつの助動詞と「会」という動詞<sup>1</sup>および助詞「写得」の「得」や「写不出」の「不」などであらわされる。日本語の可能動詞は中国語の可能表現のように意味の区別にこだわるところがなく、一見したところ、そこまで複雑ではなさそうにおもわれる。

- 1) いくら工場長の命令でも、僕にお経が読めるわけがない。(黒い雨) / 不管厂长如何命令，我也不可能读得懂佛经。
- 2) たしかに、理屈としては、ありうることだ。(砂の女) / 的确，从道理上说是可能有的事。
- 3) おまえなら、すべてのビルからエレベーターを盗むことができるし——(ブンとフン) / 要是你的话，可以从所有的大楼里偷走电梯……

<sup>1</sup> 黄伯荣、廖序東（1983）317 ページを参照。

上の例からわかるように、日本語の可能表現は中国語のその全体と対応するが、具体的な表現のあいだの対応はみつからない。たとえば日本語の「～れる」と中国語の「可以」と、日本語の「～ことができる」と中国語の「能」とそれぞれ対応するわけではない。どこで「可以」、どこで「能」を用いるかということはまったく文脈の都合にしたがう。逆に言うと、中国語の「可以」を日本語に訳する時、どの可能形式を用いるかはその文の中の意味や文脈によって決められる。それも中国人にとってむずかしいことではないが、残念ながらやはり次のような誤用の実例が見られる。

- 4) どうしても時間の都合がつけ (つき・つけられ) ません。
- 5) はあのパートの収入だけではくらしがたてません (たちません)。
- 6) 勉強したら、すぐ分かります (わかります)。(市川 1997)
- 7) 死人に口無しで事件の真相は分かれませんか (分かりませんか)。
- 8) 私はとてもあなたのちからになり (なれ) ません。

上の誤用にどのような規則性があるかをみるとまず、問題の動詞がいずれも自動詞だということがわかる。次に、7) までは可能形式の過剰使用の誤用例ということが挙げられる。訂正のように、非可能形式で可能の意味(少なくとも中国人の発想による可能の意味)を表すものは張威(1998)で「結果可能」と呼ばれている。そして張は「中国語話者の日本語学習者の頭の中では、「この窓はどうしても開かない」というような状況は可能表現の形式でなければ表すことができないものとして認識されている。これは中国語で上のような状況を表す時、通常「这个窗子怎么也打不开」のように可能補語の形式をとることからも明らかである。しかし、日本語教育では、上のような状況を表すのに日本語では習慣として自動詞表現を用いるというような指導方法がなされている。なお、従来の日本語文法においては、可能の意味を表わす用法があるというような記述はなされていないために自動詞表現と可能表現はまったく違う意味を表わす表現であるという印象が学習者に与えられているのが現実である。」(pp.3-4)と述べて、誤用の原因をあきらかにした。それを踏まえて、張麟声(2001)は結果可能以外に中国人学習者が余計に可能形式を使うケースとして次の二つをあげた。「1. 属性可能で属性の主が自然界のものの場合」(たとえば、石は砂には変わることができます (変わります) が、黄金には変わることはできません (変わりません)。)と「2. 条件可能で意志性がかかわらない場合」(たとえば、薬を飲まなければ、あなたの病気は治ることができません (治りません)。)ということである。

このような可能形式の過剰使用を避けるために、まず可能形式がとれる動詞の条件をあきらかにしなければならない。寺村秀夫(1982)は「可能態をとることのできる動詞は、これまでに何人かによって指摘されたように、意志的な動作を表すもの([+意志])でなければならない。」と指摘している。つまり、可能形式ができるかどうか、動詞の自他とはかかわらず、意志性の有無によって決まるということである。上の4)から7)までの誤用例文に出ている「つく」、「たつ」、「分かる」も、張威の挙げた「開く」も、張麟声の挙げた「変わる」と「治る」もいずれも非意志動詞なので、可能形式の過剰使用になったわけである。(非意志動詞はほとんど自動詞であるため上の問題の動詞のいずれも自動詞であ

ったという偶然の一致が起こったのである。)このような動詞は可能形式に使えないことが理解されれば、問題は解決できると思われる。

しかし非意志動詞というのはいったいどのようなものか、それをどう判別するかについて分かっておかなければ何にもならない。そこで、分かりやすい、その標識らしいものをここで少し挙げる。

標識 1 (寺村 1982 により)「～しよう」、「～しろ」という形のとれないもの、たとえば次のようなもの

降ル、ヤム、生マレル、落ちル、カブサル、決マル、広マル、消エル、フサガル、ツカマル、マタガル、ツナガル、アク、カタムクなど

標識 2 (張威 1998 により) 意味上対をなす自動詞・他動詞のうちの自動詞、いわゆる「有対自動詞」というもの、たとえば

回ル、折レル、上ガル、閉マル、止マル、割レルなど

ただし、少数ながら、有対自動詞であるのに可能形式に使われている実例がある。

- 9) 「いや、あいつのことだ、当たれる所にはとっくに全部当たっているはずだ。それに出所を、わしにも教えんというのが気に入らん。お前こっそり貸したんじゃあるまいな？」(女社長に乾杯！)
- 10) 二、砲術学校から掌砲兵二十人、いつでも鎮守府に集まれるよう手筈をしてもらう。これはいざの時、海軍省へ派遣して、官房の走り使いや省内の守備にあたらせる為である。(山本五十六)
- 11) 「しかし、よく命令だけで動けるもんだね。あれだって一応命がけだからな」(青春の蹉跌)
- 12) 「泳げないのに逃げられるものか。岩礁が多いだろう、あの辺は。メリケン、おめえ、やってみないか。もし死んだら碑を建ててやるよ」(冬の旅)
- 13) どうしてそんなにゆっくりしか進めないのだ。もっとはやく進めるはずだ。(寺村 1982)

9) から 12) までは『外国人のための日本語例文・問題シリーズ 3 動詞』(pp.xxiv-xxv) と『日本語の文法』(p.64) にのっているものをコーパス(百冊小説)で検索した結果で、13) は寺村(1982)から借用したものである。これらの動詞は意志性を持つことがあきらかである。このような意志動詞は、つまり、該当文脈において意志的な意味を表す動詞は有対自動詞であるものの可能形式が成立する。つまり、標識 1 と標識 2 が矛盾する時は、1 が優先される。おなじ原則によって、6) と 7) の「分かる」は有対自動詞でなくても意志性がないので可能形式が成立しないはずなのである。

一方、例 8) は、可能形式の過剰使用と逆に、欠如使用といえる類いの誤用である。起

こる原因には「なる」のような動詞は意志動詞と非意志動詞との両面性を持つことが挙げられる。

14) 大きくなったら宇宙飛行士になろう。(日本語基本動詞用法辞典)

15) 散歩はよい運動になる。(日本語基本動詞用法辞典)

14) は意志動詞として、15) は非意志動詞として使われている。8) は 14) と同じように意志動詞として使われているので可能形式が可能である。しかも可能といえるだけでなく、意志動詞であるから、可能形式を使用しないと誤用になるのである。

実は、6) と 7) の「分かる」も上の両面性をもっている。次の「…をわかる」の例は意志動詞として使われる例である。

16) 彼が漂わせるその孤独感は、逆にボクを淋しくさせた。「この人のことをわかってあげたい。この人に信頼されたい」と。(五体不満足)

17) 話をわかりやすくするため、私自身を例にとってみよう。(心の危機管理術)

ところが、意志動詞といっても、「分かれる」はやはり不可である。そのかわりに、「分かることができる」は使用できる。

18) どうすれば彼女の気持ちを分かることができるのだろうか。(日本語基本動詞用法辞典)

19) ... そうすることによって迷ったときに自分の目標が今の自分の気持ちとどのくらい差があるのかをわかることができ、そこで自分が何をすべきなのかを考えることができるからです。(課題提出システム)

このように派生による可能動詞にならず、くみあわせによる可能動詞しかない例はほかにもある。(王忻 2001, p.161 参照) こうして、「れる」、「られる」可能動詞と「することができる」の分析的な可能動詞とでは、後者のほうが全体として多数の動詞項目をかかえこむことになる。

20) 彼から教わることができる。(日本語基本動詞用法辞典) (\*教われる)

21) かれは空中に浮かぶことができる。(日本語基本動詞用法辞典) (\*浮かべる)

22) 本でいろいろな事を知ることができる。(日本語基本動詞用法辞典) (\*知られる、△知れる)

また、蛇足ながら、もうすこし深く考えることが必要な問題が存在することを言っておきたい。それはどうして上のような可能の意味は可能の形式によって表されないかという中国人学習者によく聞かれる問題である。それは、中日の発想の違いによって可能を認めるはばが異なることによるのである。つまり、日本語のほうでは、意志的可能しか可能と

認められないのに対して、中国語の方では意志的でないものも可能とされることである。

- 23) 领导当然也会明白，要不，怎么叫“领导”呢！/彼らとてわかっているはずだ。さもないければどうして【領導】「指導者の意」と呼べよう。(盖棺)
- 24) 想睡一会，因为人会累。可是又渴了，因为人又会渴。/人間は疲れるものだから眠りたくなる。だが人はまた渴きを覚えるものだから水を飲みたくなる。(插队的故事)
- 25) 将来肯定能考上初中、高中，说不定能上大学。/将来きっと中学や高校に受かるだろうし、大学も夢ではない。(插队的故事)

日中の可能と認められる意味差は次の表のように示すことができる。

中国語		日本語		例文 番号
意味	てつづき	意味	てつづき	
意志的可能	可能を表す助動詞、助詞	(意志的)可能	可能動詞	1
非意志的可能	可能を表す助詞	状況	自動詞	25
本性から当然予想される可能性	可能を表す助動詞	当然のこと、本性	形式名詞	23、 24

以上のことから、中国語の発想における可能は日本語の発想における可能よりはるかに広いことがわかる。それゆえ、中国人学習者は意志的可能以外に可能がないという日本語の発想を頭に入れ、可能形式を使わなければならない。

## 8.4 自動詞・他動詞

### 8.4.1 自動詞構文と他動詞構文

- 1) 十年(が)すぎた義烏は日用雑貨(業)を發展して(させて)きました。
- 2) みんなはそれを(に)満足していますね。
- 3) みんなはかれの提案を(に)反対しました。
- 4) それは道路を過ぎる(わたる)ときに、交通信号を(に)注意しなければならないの(の)ような必要(もの)だと思う。

上の実例は日本語ではいずれも自動詞なのに他動詞としてつかわれてしまったものである。原因は、中国語にはこれらの動詞との同形語があり、「发展」「満足」「注意」は自他両用で、「反对」は他動詞としてつかわれていることにある。まず中国語の例をあげる。

- 5) 直接接触到哪怕并不清新的空气的皮肤感到润滑的快慰。这似乎满足了他的天真的习性。/膚が直に空気に触れると、新鮮な空気でも、滑らかな快感を覚え、

彼の無邪気な習性を満足させてくれる。(活動変人形)

- 6) 一个共产党员永远不会满足于他已有的成就。/共産黨員は、永遠にじぶんの過去の成果に、満足してはならないものよ。(青春之歌)
- 7) “去美国也未始不可以。”徐总经理每次总是满足爱子的要求的，他说，……/「アメリカへやってやれないこともないんだが」、徐社長はそのつど、いつでも愛息の要求に満足していて、言った、…(上海的早晨)
- 8) 譬如，批“三项指示为纲”了。市里指示：“家喻户晓，人人皆知”。红松矿的刘志讲了几年“茶壶嘴儿”，长进了，发展了市里的精神，说要“家喻户晓，人人皆知，个个开口。”/たとえばだ。「三項指示を綱と為す」にたいする批判が始まると、市の党委員会から、「すべての人にわからせる」ようにという指示が出された。紅松炭鉱の劉志は、「急須の口」を何年も語って成果をあげた。そこで市の党委員会の精神を発展させるために「すべての人にわからせ、すべての人に語らせよう」ということになったのだ。(盖棺(原文))
- 9) 刚刚学着能对付马队了，革命又往前发展，要我指挥火车铁路。/やっと騎兵隊の仕事をごなせるようになったら、革命はさらに発展して、鉄道の指揮をとるように言われた。(金光大道)
- 10) 病却不能治，大夫说若是早几年或许还可以做手术，现在只好吃些药多注意保养。/しかし病気のほうは治らず、医者 of 言うにはもう数年早ければ手術もできたかもしれないが、今となっては薬を飲み、養生に励むしかないという。(插队的故事)
- 11) 中国的文化注意人际关系，注意各安其位，克制自己，每个人尽到自己的伦理义务，以取得人际关系的和谐。/中国の文化は人間関係に注意を払い、それぞれが分に安んじ、己を制して自分の倫理的義務を尽くし、それによって人間関係の調和を図っている。(活動変人形)
- 12) 下午，有一个二十多岁的小青年，瞅着监工不注意，飞一般蹿向高粱地，一颗子弹追上了他。他趴在高粱边缘上，一动也不动。/午後、二十歳すぎの若者が、監督の隙をみて飛ぶように高粱畑へ逃げこみ、一発の銃弾がかれをとらえた。若者は高粱畑のへりにつつ伏して、ぴくりとも動かなかった。(紅高粱)
- 13) 他之所以被降为第二把手，是因为他反对大队分红，主张小队核算。/彼が副に降格になったのは、生産大隊単位の利益配分に反対し、生産小隊を採算単位とすることを主張したからである。(插队的故事)
- 14) 她不反对自由恋爱，但也注重爱情的专一。/自由恋愛に反対はしなかったが、愛情がひとつであるのを重んじた。(关于女人)

普通、日本語の自動詞・他動詞をわける原則は次の通りである。

「動詞のなかには、他のものにははたらきかける運動をあらわすものと、そうでないものがあり、前者を他動詞、後者を自動詞という。つまり、対象的な関係で名詞の対格を支配するものが他動詞であり、そのような支配をしないものが自動詞である」(高橋他 2005、p:68)。

つまり、対格助詞「を」の有無は自他動詞の形式的な標識である。しかし、日本語には意味的には「他のものにははたらきかける運動をあらわすもの」であるのに、「名詞の対格を支配するもの」でない動詞も存在している。上の誤用の「反対」などはこのたぐいである。「それに、直接受身になるかどうかのテストをやってみたら、ほとんどできるのである。」（王 2001a, p:81）。拙論 2001a ではそれらのような部類を「文法的自動詞である論理的他動詞」と名づけてあつかっている。（鈴木重幸 1996 では「準他動詞」という。）一方、中国語のほうでは、自他動詞の区別に格助詞のようなマークはなく、意味のみによって判別するがゆえに、日本語より支配格の基準に欠けている。中国語では先に挙げた 4 つの動詞は一見したところおなじく目的語を伴う他動詞（发展事业, 满足需要, 满足现状, 反对提案, 注意信号）だが、実はちがうところがある。「发展事业」と「满足需要」では、それぞれ目的語である「事业」は「发展」の、「需要」は「满足」という動作の主体であるので、使役構文にすべきである（「事業を発展させる」「需要を満足させる」）。「满足现状」、「反对提案」、「注意信号」では、「现状」、「提案」、「信号」は「満足」、「反対」、「注意」という動作の対象であるので、二格構文にすべきである（「現状に満足する」、「提案に反対する」、「信号に注意する」）。中国語ではすべて「（他）動+賓（他 V+O）」構造であるのに対し、日本語ではその対応動詞に意味の下位分類によって①名詞+を+動詞（N+を+V）、②名詞+に+動詞（N+に+V）と③名詞+を+動詞使役態（N+を+V せる・させる）の三形式がある。①のグループは日中とも他動詞なので、トラブルはなさそうであるが、②と③のグループはいずれも中国語では他動詞であり、このうち②はいわゆる「文法的自動詞である論理的他動詞」の部類なので、「二」格をとるのが普通である。中国語の目的語にあたる部分はその動作の主体であるばあいなら、③のグループとしてあつかわれることになる。②に属するものはアキル、アコガレル、サワル、シタガウ、影響スル、チカヅク、チカヨル、コタエル、注意スル（あいてにむかって、気をつけるようにいうという意味のばあいはべつ）、ツク、同情スル、返事スル、賛成スル、反対スル、ブツカル、フレル、ソムク、サカラウ、アマエル、ホレルなどがあげられる。

- 15) 加藤と花子との共通の話題は故郷の浜坂のことであった。浜坂の話になると妙に熱が入った。浜坂の話に飽きると、神戸の話になった。（孤高の人 4.山頂）
- 16) 私自身の気持としては、当時の大人たちと同じように、内地にあこがれる意識は毛頭なかったのだった。（風に吹かれて）
- 17) 「わいは、玉枝はんの軀にさわると・が恐ろしの・や」と喜助は大きく息をついていった。（越前竹人形）
- 18) 同じ前方に坐っていても、正面寄りには素直に教授の言うことに従う真面目な学生で、端の方に坐っているのは叛逆心旺盛な奴や、ひねくれたりふてくされているのが多い。（若き数学者のアメリカ）
- 19) 社会に影響するということは、その会社が公共性をそなえているということだ。（冬の旅）

③に属するものには発展スル、満足スルなどがあげられる。

- 20) 物語の主題を少しずつ発展させているように見える……。 (美しい村)
- 21) 私の意図したところは、これならまあどうやら自分を満足させる程度には書けているように思えた。 (風立ちぬ)

また、中国語の「動賓構造」に対応するもうひとつ日本語の形式は「場所 N+に+V」である。

- 22) 私がソファーに座ると、女は入ってきたのとはべつのドアから出ていった。 (世界の終わり)
- 23) それまで私がうろついてきた多くの国では、パスポートの提示なしにホテルに泊まることはできなかった。 (一瞬の夏)

22) の「坐沙发」や 23) の「住宾馆」などはいわゆる「動賓構造」であるのに、それに対応する日本語は自動詞構文になっている。このようなものをここでは④に挙げておく。④に属するものはスム、スワル、タツ、トマル、ノボル、ノル、ハイルなどがあげられる。さらに以下の実例がある。

- 24) 同じ家の中に住むにしても、彼は能うかぎりこの姉と離れて住みたかったからである。 (楡家の人びと・第2部)
- 25) 彼は、自分の部屋には入らず、澄江の部屋に入ると、箆笥のひきだしをあけて現金をさがした。 (立原正秋・冬の旅)

この節であつかっている日中の構文構造の対応関係をまとめると、以下の通りになる。

中国語		日本語	
構造	例文	構造	例文
動賓構造 =VT+O	① 读书	N+を+VT	本をよむ
	② 反对提案	N+に+VI	提案に反対する
	③ 发展经济	N+を+VI せる・させる	経済を発展させる
	④ 住宾馆	場所 N+に+VI	ホテルにとまる

#### 8.4.2 慣用句における自他動詞の性格について

前の 8.4.1 では普通の自動詞構文・他動詞構文について見てきた。ここのその二では慣用句を使用する際の誤用を扱うことにする。日本語の自他動詞のつかいわけについては、移動自動詞のようなグループは別として、一般的に意志的な行為なら他動詞を、非意志的な行為なら自動詞をつかうとされている。だが慣用句ではその原則に合わない場合がしばしば見られる。本節では動詞慣用句における自他性の一部を見ることにする。

- 1) 作家を旅館に缶詰になります (します)。
- 2) 彼はあちこち (あちこちで) 悪いことをして、すっかり世間が (を) 狭くなっ (し) てしまいました。
- 3) その女性は急にあたまをあげて、かおがあかくなって (をあかくして)、じっとわたしをみていった (みつめた)。(佐治 1992p) 192)
- 4) 彼女は腰が据わって (を据えて)、仕事をしています。
- 5) かれは意外なことにびっくりして、腰が抜け (をぬかし) てしまいました。

上の 1) と 2) は普通の自他動詞の理論で解釈できる。すなわち、「する」は意志的で、故意にする行為に用い、「なる」はその反対で、非意志的で、故意でない行為にもちいる。

1) は、缶詰になるのは作家で、するのは出版社の側で、動作主が主語として出ていないが、その関係ははっきりみえる。文はかくれている主語＝出版社の側の意志的な行為をあらわすため、「なる」ではおかしい。

2) については、「世間がせまい」と「世間をせまくする」とがある。2) の文はわるいことするのも世間をせまくするのもおなじ主語の行為であるし、しかもその行為は意志的とはいえないが、責任はかれ自身にあるので、他動詞をつかわなければならない。一方、「世間がせまい」は次のような無意志的な行為、状態的な動作をあらわすものである。

- 6) かれは世間がせまい。
- 7) としをとるにつれて世間がせまくなっていく。

3) 4) は自他動詞の問題にみえるが、意志的と非意志的ということとはかかわらなさそうである。日本語には再帰構文というヴォイス形式があり、再帰動作は、村木 (1991) では「動作主体自身のうごきをあらわしており、他にむけておこなわれる動作ではない。」「こうした再帰的な用法には、他動性が欠如している」とのべている。もちろん他動性がないというのは非意志的であることとイコールではないが、他動性がある動詞には非意志的表現ができるものはないといえよう。「腹痛をおこす」、「あせをかく」、「咳をする」などはおなじようなたぐいで、その意味はわざと腹痛をおこそうとしたり、あせをかこうとしたりするわけではなくて、他動詞の句で無意志的な行為をあらわすのである。

- 8) 翌日九時に、曾根二郎は神田の旅館とも下宿ともつかぬ宿の一部屋で眼を覚ました。(あした来る人)
- 9) 瞬間、梶大助は大きな眼を娘の顔に当てて、ちょっと驚いたような顔をしていたが、… (あした来る人)
- 10) それからの私は殆んど論文に崇られた精神病者の様に眼を赤くして苦しんだ。(金閣寺)

3) と 4) は自動詞の表現としては理屈にあうが、再帰的用法なので、普通他動詞の表現でも非意志的な行為をあらわすことになる。このような文では再帰的表現はひとつのかたまりになって文の述語とされている。もしこのような再帰的な表現がなりたたなくて、普通の主述文にしたら、次の文は可能になる。

1 1) 生活の発見会に集う人たちで、数の上からいって一番多いのは、こうした対人恐怖といわれる神経症である。人に会うと顔がひきつって相手に不愉快な印象を与える(と思い込む)。顔が赤くなる。緊張してぎこちなくなりうまく話せない、などの症状。(心の危機管理術)

1 2) 神経症の症状のひとつに「対人恐怖」というのがある。人と会うとむやみに緊張し、顔が赤くなったり・態度がぎこちなくなったりする。(心の危機管理術)

4) については分類にゆれがある文だといえる。つまり「故意」といっても「再帰」といってもいい。どちらにしても他動詞文がふさわしい。自動詞文ならいわゆる結果可能になるきらいがある。たとえば、

1 3) 「僕はね、カーターの作品って少し記憶あるんだ。あの人のね、数寄屋、感心したことあるんだ。外人が数寄屋いじくるとね、実に不安定になる時もあるけど、カーターの作品は、妙に腰がすわっててね、外人しか創れない数寄屋にしてるんだ。もっとも、ビルヂングの方は感心しないのもあるけど」(太郎物語・大学編)

1 4) かれは一向にこしがすわらないおとこで、また会社をやめたようです。(段克勤 2001)

5) はネイティブ・スピーカーの人によってゆれがある文である。違和感をもつひとはおおいようだが、問題がないとおもっているひともいる。再帰性の観点からいうとやはり他動詞のほうがおちつくだらう。

以上、日本語の事情をしらべてきたが、次はなぜ中国人学習者はこういう誤用をおかすかについて検討する。まず、それらの誤用例に対応する中国語訳をならべて、中国人の発想からさぐっていくことにする。

- 1' 把作家关在旅馆里写东西。
- 2' 他到处做坏事，使交际圈变得越来越窄。
- 3' 那女的突然抬起头，红着脸盯着我看。
- 4' 她专心致志地工作。
- 5' 他被意外的事吓了一跳，瘫在那里。

1) と 1' は両方とも他動詞文なはずなので問題がない。2' は中国人はよく「变窄」の

「変」を注目するので「なる」という自動詞文にしてしまったのである。また、3' から 5' までについては、再帰的な意味は日本語でも中国語でも意味としては他動性がないが、日本語では形式上は他動詞表現を使う。それに対して中国語では自動詞をつかってしまうことは、納得できないものではないだろう。

以上、日本語の慣用句における自他動詞表現について考察してきた。そこには普通の自他動詞理論が適用するもの（1）、2）、4）もあれば、全然かかわらないもの（5）、6）もあることがわかった。そのうち、再帰的表現のため、他動性がないのに他動詞表現をつかうものは特に再帰的形式のない中国語話者には注意してもらいたい。

## 9 形容詞

形容詞においてよりよく見られる誤用は次のような感情形容詞である。

- 1) 彼は悲しく (悲しそうに) 言った。
- 2) 昨日のパーティーは嬉しいパーティーでした (楽しいパーティーでした・私にとって嬉しいパーティーでした)。
- 3) 私は犬が怖いと思ったので (怖いので)、犬を見ると走り始めました (走り始めました)。だから、まもなく、母はこの犬を友だちに送りました (あげました・あげてしまいました)。
- 4) 彼は一級試験に合格することを知るととてもうれしかったです (うれしそうでした)。
- 5) 私は旦那さんが非常に怖がって (こわくて)、彼をまともに見ることもなかった。

日本語の感情形容詞がほかの言葉、たとえば中国語などと違うところはまず意味の上ばかりでなく、構文論的にもほかの形容詞とは異なった特徴を持っていることである。このような感情形容詞文は話し手自身の感情や感覚を表すのが普通であるので、主語は第一人称に限られる。(ただし疑問文では第二人称が可能である。) これが中国語と違うところである。中国語では「我高兴」、「他高兴」、「我悲伤」、「他悲伤」のどちらも自由に言えるが、日本語では「わたしはうれしい」はただしいが、「かれはうれしい」はいえない。それは中国語には感情形容詞という類がないし、第三人称主語文で使えない制限もないからである。実は日本語は面倒ながら合理的である。なぜかという、「うれしい」というのは自分の内心での心理活動なので、自分以外の人があるはずがないものである。ほかの人は当人の内心はうれしいかどうかをわからない以上、その人の表情や言語から推し量るしかない。それゆえ、推し量りをあらわすモダリティ形式の「そうだ」を後置することになっている。1) と 4) の訂正の理由はここにある。一方、中国語のほうはそういう道理がわからないわけでもないが、でも毎回毎回「看上去好像……」を付け加えると面倒だし、「高兴 (うれしい)」だけで済む文では、わざわざ「看上去好像 (そうに見える)」をつけると、「～そうに見えるが実はそうではない) まで理解されるおそれもあるようになった。言い換えると、中国語の「看上去好像很高兴」という文の背後に普通「実はうれしくない」というニュアンスを含んでいる。このように中国語では普通、感情形容詞に「～そうだ」と相当する「看上去好像」をつけないことがこの誤用の原因だと思われる。

感情形容詞を第三人称主語文で使えるようにするもう一つ方法は「がる」を接続して動詞にすることである。

- 6) 曾根は、ちょっとはにかみに近い表情をとって言った。ふしぎなことを恥ずかしがる人間もあるものだ、と克平は曾根の顔を見詰めた。(あした来る人)

- 7) あんなに草や竹を曲げて嬉しがるなら、脊虫の色男や、跛の亭主を持って自慢するがよかろう。(坊ちゃん)

前述した話し手の観察による第三者の心情の推察に対して、「～がる」はその形容詞を動詞化して、その内心的な動作を客観的に叙述することができる。感情形容詞文では第三人称が主語にならない制限と正反対で、「～がる」文では第一人称が主語にならない制限もある。5) は話し手自分の気持ちを表すので、形容詞だけで十分で、「～がる」をつけるとかえって誤用になる。

同じ理屈で、2) はそのパーティーは自分以外の人にとってはうれしいかどうかはわかるはずがないので、「私にとって」を加えると自分がうれしいことが明らかになる。3) は構文としては「私は犬が怖い」でもう十分で、「と思う」は過剰であることは明らかであるが、誤用の原因を問うと、中国語の「怖い」と相当する語「害怕」は動詞で、「我害怕狗」は「主謂賓 (SVO) 構文」で、「私は犬が怖い」にイコールと思わず、「怖い」は形容詞である以上、「私は犬が怖い」は「我 (认为) 狗是可怕的 (私は犬が怖いものだと思う)」と相当すると思込んでしまっていて、「认为」と相当する「と思う」を余計につけたわけである。

要するに、上で述べたように、日本語の感情形容詞はほかの多くの言葉にない特別な構文的制限をもつ存在であるので、外国人学習者の誤用しやすいカテゴリーでもあるし、これからの研究がなお必要な課題でもあると思われる。

## 10 副詞

### (1) 下位分類の分布

副詞の下位分類としては、情態副詞、態度副詞、時間副詞と陳述副詞の四つの種類がある。今回収集した誤用例からは4種類全てに分布が見られることが判明した。

#### 情態副詞

- 1) いつ中国へいらっしゃいますか。私たちはゆっくり (心から) お待ちいたしております。
- 2) こういう仕事は難しいながら(ながらも・が)、両親は勝手に(自由に)時間を支配する(使う)ことができるようになるから(ようになったから)、前より楽しく(楽しそうに)見えます。

#### 程度副詞

- 3) 霊岩山、天平山、天池山などの山はすごく(とても)有名な山とはいえないが、観光にいったら(行って・行っても)悪くないと思う。
- 4) 彼は(の)言葉における才能はまさ(非常)にすばらしいのだ(φ)。

#### 時間副詞

- 5) ご無沙汰しておりましたが、まだ(φ)お変わりございませんか。
- 6) 私の家は引っ越しました(引っ越した)ので「家はどこにあるか(あるのか・あるんだろう)、どうしようかな」と困りました。仕方がないので、先(先に・まず)、家に電話をかけてお母さんからアドレスをくれました(教えてもらいました)。

#### 陳述副詞

- 7) 毎朝きっと(必ず)ミルクを一本飲みます。
- 8) 1月22日、いとこさん(いとこ)の結婚披露宴に参加した。いとこさん(いとこ)は(が)お婿さんと会ってから結婚するまでただ(わずか・たった)2ヶ月ということにびっくりした。

### (2) 中国語からの干渉によるといえそうな誤用

副詞の分野では日本語のほうが中国語より豊富であり、対訳する場合訳語がよく2対1か3対1になることがある。たとえば、日本語の「きっと」、「かならず」、「ぜひ」3語と

も「一定」と訳し、「とても」、「よほど」、「なかなか」、「すごく」、「けっこう」、「かなり」、「わりあい」、「ずいぶん」、「だいぶ」、「たいそう」、「大変」、「非常に」、「すこぶる」、「おおいに」などはみんな「很」と訳せる。このような類の使い分けは中国人学習者にとってはもっとも難しい。

ア) きっと、かならず、ぜひ

- 9) 多くの上海人が日本で働いていますので、日本人と上海人はきっと(ぜひ)仲がもっと良くなって(もっと仲良くなって)、これからの日本と上海の共同の発展と友好関係のために一緒にがんばりましょう。/因为有很多的上海人在日本工作，所以日本人和上海人一定要更加友好，为日本和上海的共同发展和友好关系一起奋斗。
- 10) 毎年休み時(休みの時には)、ぜひ(必ず)面会します(会います)。/毎年休息时一定要会面。
- 11) 私は今度の試験に心細いから(自信がなく)、合格かどうか(できるかどうか)すごく心配したが(心配だった。) もしかしたら(もし)合格できなければ、冬休みは必ず(きっと)楽しくなくなると思った。/我对这次考试没有把握，能否及格非常担心。如果能及格，寒假一定会很快乐。

この三つの語の意味として、『広辞苑』(1998)ではこう解釈している。

- <きっと> 確実に行われることを予測・期待するさま。たしかに。必ず。相違なく。  
<必ず> 確かに。間違いなく。きっと。  
<ぜひ> どうあっても。きっと。

これだけ見れば大体同じではないかと思われる。言い換える場合があるが、しかし確かに違うところがある。だいいち「必ず」は客観的な叙述に対して、「きっと」は主観的な推測である。この二者と違って、「ぜひ」は意志的な願望を表すのが特徴である。次に正用例と使ってはいけない注意を示しておく。(例文は12)から20)までグループ・ジャマシイ1998より、21)は森田良行1977より、22)は市川保子2000より引用、○\*は筆者が加えた。)

- 12) 休むときは {○かならず きっと ぜひ} 連絡してください。
- 13) 宿題はかならず {○かならず きっと ぜひ} しなければならない。
- 14) ご招待ありがとうございます。{○かならず○きっと ぜひ} うかがいます。
- 15) そうですか。{○かならず○きっと ぜひ} 来てくださいよ。お待ちしておりますから。{○かならず○きっと ぜひ} ですよ。
- 16) 鈴木先生も {かならず○きっと ぜひ} 来るでしょう。
- 17) 彼女は { かならず○きっと ぜひ} あの知っているにちがいな

い。

- 18) { かならず きっと○ぜひ} 一度遊びに来てください。  
19) この大学を卒業する皆さんは、{ かならず きっと○ぜひ} 世の中の役にたつような人間になってもらいたいものだと思います。  
20) 彼女は有能だから結婚しても { かならず きっと○ぜひ} 仕事を続けてほしい。  
21) 朝になれば {○かならず\*きっと\*ぜひ} 日が昇る。  
22) 明日 {○かならず きっと\*ぜひ} 教科書を持ってきてください。

これらの例文から分かったことをまとめてみると次の表のようになる。

	例文番号	かならず	きっと	ぜひ
強い意志	14	○	○	
要望	12, 15, 22	○	○	
義務	13	○		
推測	16, 17		○	
依頼	18			○
願望	19, 20			○
客観的な事態実現の確立	21	○		

上の誤用例の9)は願望なので、「ぜひ」を使うべきだし、10)は強い意志なので、「かならず」が適切で、11)は推測なので「きっと」しか使えない。

イ) とても、よほど、なかなか、すごく、わりあい、けっこう、かなり、ずいぶん、だいぶ、たいそう、大変、非常に、すこぶる、おおいに

23) 霊岩山、天平山、天池山などの山はすごく(とても)有名な山とは(山だとは)いえないが、観光にいったら(行っても)悪くないと思う。

24) よほど(とても)お腹がすいていたので、歩きながらパンを食べました。

まず次の三つの特性について順序を考える。中国語の副詞はそれほどくわしいレベルはないから、一応知っておいたほうがいい程度にとどめておく。

①程度の高さが低から高の順

わりあい、とても、よほど、だいぶ、なかなか、大変、すごく、けっこう、かなり、ずいぶん、たいそう、非常に、おおいに、すこぶる

②客観性から主観性の順

かなり、大変、すこぶる、おおいに、たいそう、なかなか、けっこう、わりあい、ずいぶん、とても、すごく、だいぶ、よほど、非常に

### ③話し言葉的から書き言葉的の順

とても、すごく、けっこう、ずいぶん、かなり、よほど、なかなか、わりあい、だ  
いぶ、大変、非常に、たいそう、おおいに、すこぶる

多くの場合では上の複数の副詞が使えるが、ただしニュアンスが上の順によって異なる。  
表したい意味に一番適切な語をきちんと選ぶべきである。ところが、使ってはいけない場  
合もあり、その場合は誤用の原因となる。以下では先行研究を踏まえながら分析していく。

25) シベリアは {○とても\*よほど} 寒い。

「よほど」は「会費も払えないところを見ると、よほど金に困っているのだろう」のよ  
うな原因推定か、「教育制度に関していえば、わが国のほうがよほど進んでいる。」のよ  
うな比較形式が普通であるので、25) のような単なる断定的叙述には使えない。(森田 1977 を  
参照) 同じ理屈で 24) は変である。

26) 彗星は太陽に近づくにつれて次第に速度を増し、{○非常に\*とても} 速  
いスピードで太陽を迂回すると、…

27) 先様の {○一番\*とても} お好きな品をお選びください。

「とても」は主観的な特徴を持つので客観的な叙述を旨とする文章(26))や、未知(27))、  
未来のことがらなどの場合ではそぐわない。

28) 今日は {○えらく\*たいそう} さむいね。

「たいそう」はかなり丁寧な文体に用いられる語なので、上のようなぶっきらぼうな言  
い方には使えない。

「なかなか」は多くプラスの場合、極大の場合に使い、反対のマイナスの場合、極小の  
場合には使いにくい。たとえば「なかなか利口だ。」「なかなか美しい。」「なかなか重い。」  
は言えても、「なかなかばかだ。」「なかなか醜い。」「なかなか軽い。」とはいいにくい。

「けっこう」もプラス性な語なので、普通「けっこう狭い土地」、「けっこうサボった」  
と、マイナス評価の語には普通使わない。

話し手の直接の意見や判断には、「かなり」は使えるが「相当」は使いにくい。

29) 店を覗いても、実際に買って行く人は {○かなり\*相当} 少ない。

しかし、「…相当少ないらしい」とか「…相当少ないようだ」のように間接的な知識とし  
て述べるなら自然になる。

30) 接触部分が {○すこぶる\*大いに} 薄い。

「大いに」は量の大きさのことを表すのが特徴で、よく「大いに飲み」、「責任が大いにある」の量概念がある文に使われる。上の文は量概念の多さをもたないので言えない。一方、「すこぶる」は動詞にかかる場合は、よく「満足する」、「落ち着く」、「疲れる」などのような精神や体などの状態性を表すが、純然たる動作性のものをあらわしにくい。

- 3 1) 今日 {○ずいぶん\*すこぶる} 働いた。
- 3 2) 雨が {○ずいぶん\*すこぶる} 降った。

さて、誤用例の 23) の訂正理由を考えよう。23) はただ「すごく」と「とても」二つの語の選択の問題ではなく、後の文脈との呼応とも絡んでいる。「とても…ない」という呼応がよく見られるが、「すごく…ない」はないようである。それに、「すごく」は口語的であり、「とても」は別にそういう制限はない。であるので、「とても」にしなければならない。

### (3) 発音が似ていることからの誤用

中国人学習者によく悩ませる副詞に、「大体」と「大抵」、「ただ」と「たった」のようなものもある。これらの語には別に中国語干渉のしるしはあまり見られないし、ただ発音が似ていることから誤用を犯すので、言語内エラーと考えるべきである。

#### ア) 「大体 (だいたい)」と「大抵 (たいてい)」

- 3 3) ふるさとの気候は上海とたいてい(だいたい) 同じです。海洋性気候で全年(年間)の降水量がいっぱい(多い)です。
- 3 4) 紹興は近いので、土日はだいたい (たいてい) 家へ帰ります。

実は、このふたつの語の意味ははっきり異なっているところは大きいといえる。「大体」は量的なおおよそ、ほとんどという意味で、「大抵」はおおよその意味があるところという「大体」と近いが、頻度の高い、普通という意味では「大体」と異なっている。このふたつの語は発音が似ており、意味の重なっているところがあるので、外国人学習者をよく悩ませる。たとえば『広辞苑』に載っている「大抵」の次の例文は「大体」と言い換えても差し支えない。

- 3 5) {○大抵・○大体} のことは知っている。

ところが、次のものは言い換えられないようである。

- 3 6) 仕事は {○大抵・\*大体} 五時には終わる。

どちらかというとも前者は量的なもので、「大抵」、「大体」二語ともよいが、後者は普通という意味あいがあるので「大体」は無理になる。

イ)「ただ」と「たった」

37) 1月22日、いとこさん(いとこ)の結婚披露宴に参加した。いとこさん(いとこ)は(が)お嬢さんと会ってから結婚するまでただ(わずか・たった)2ヶ月ということにびっくりした。

38) ただ(たった)14,5平方メートルと見えますが(ですが)、8人が(も)住みます(住んでいます)。

「たった」は「ただ」の促音化で、「ただ」から分化してもっぱら連体詞のように、少ない数量を表わす名詞や数詞の前につけてその少なさを強調するのに使われている。また、「たったの～」という連体詞化したものもある。「ただの一度もない」のような「ただの」は少ない。それは従来「ただ」を用いていたが、その分化をしてからむしろ「たった」のほうが普通になっている。その代わりに、「ただ」のほうはだんだん抵抗感が出てきた。そういうことは辞書でも教科書でもあまり触れていないし、日本語母語話者の語感でしか判別できないものなので、一つの類型として意味深く示唆されている。

次では「ただ」と「たった」の使い分けがもっと分かるために例文を対照してならべる。

○ ただきただけです。

\* たったきただけです。

\* ただ2杯飲んだだけです。

○ たった2杯飲んだだけです。

○ たったの2杯飲んだだけです。

△ たった今ご紹介に預かりました田中と申します。

○ ただ今ご紹介に預かりました田中と申します。

要するに、従来副詞として使う場合は「ただ」を用い、「たった」はもっぱら少ない数量を表す名詞や数詞の前に来て、連体詞のように使われている。「ただ2杯」に関しては、昔の童謡に「ただ2人」というのがあるが、ある日本人ネイティブ・スピーカーは少しおかしいのではないかと思いつつ歌っていたそうである。古くはこうも言えたのかもしれないが、日本語学習者は使うべきではないだろう。「たった今」と「ただ今」は定着性が高い語であり、つまりあまり「ただ」+「いま」とは語源的にしか認められず、一つの語として認められるので、前に言った分化は有効になりにくい。それより「たった今」はかえって俗語的なので改まったところでは使いにくい。

## 11 助詞

助詞は高橋他（2005）では名詞の語形変化の中での単語にくっつける接辞として扱われる。しかし、形式的にしても単語と扱うほうが屈折語尾が皆無である上、膠着的な接辞も乏しい中国語を母語とする学習者に合っているといえる面があるし、使用に当たって間違いをおかしやすい存在であるため、一項目を立てて検討することにする。

### 11.1 格助詞

格助詞は中国人学習者がよく間違えるカテゴリーの一つである。動詞のところでも助詞の誤用にかかわる問題をもふれたが、それは一次的な原因は動詞にあつて、助詞にある原因は二次的なものの部類、たとえば他動詞の「を」自動詞の「に」やヴォイスの「に」と「が」などのようなものである。ここで扱うものは一次的な原因は相対的に助詞にあるものにしぼりたい。次ではいくつかのテーマに分けて分析を行なう。

#### ア) 存在を表わす「に」と「で」

- 1) 会社に（で）会議がある。
- 2) 父の目の前に（では）おとなしいふりをしましたが、見られなかった時（見られていない時は）、いたずらしてばかりしました（ばかりしました・してばかりいました）。
- 3) 中国で（に）、「新しい友達を造り（作り）、古い友達が（を）忘れない」ということわざがあつて、（ある。）私は（も）そうと（そうだと）思う。
- 4) 多くの外資企業は（が）浦東新区に入りました。あそこで（そこに）ビルを建てて海外子会社（海外の子会社・海外法人）を設立しました。

<場所名詞+に+もの名詞+がある>という存在を表す文型を初級文型として教わったことにより起きた誤用である。初級段階ではよく<存在の場所は「に」であらわし、動作をする場所は「で」であらわす>と学習者におしえる。大別すれば、そうであるが、<存在>と<動作>の判別は意外にむずかしい。「机」や「カバン」などのような具体名詞の存在は「に」を用いることは難しくないが、抽象名詞の場合においてはそう簡単にはいかない。同じ存在動詞「ある」なのに、1)の「会議」や「イベント」などの動作的な側面をもつ存在は「で」を用い、2)の「経験」や3)の「ことわざ」のような非動作的な存在には「に」を用いる。言い換えると、存在か動作かを区別するには動詞を見るだけでは足りない。存在動詞であらわすことがらには動作的存在と非動作的存在があり、一方、動作動詞であらわすことがらには存在的な動作と非存在的な動作がある。存在的な動作なら存在動詞でなくても、その場所は「に」であらわされる。たとえば

- 5) いすに坐る。

- 6) 北京に住む。
- 7) 電車に乗る。

などはその典型的な例である。4) の「建てる」もその例である。実例には次のようなものが見られる。

- 8) 若葉の山腹が西日を受けて、野の只中に、金屏風を建てたように見える。それを見ると私は、金閣を想像した。(金閣寺)
- 9) 東の隅に一夜作りの舞台を設けて、ここで所謂高知の何とか踊りをやるんだそうだ。(坊ちゃん)
- 10) 殖産政策は当初、軽工業の振興に重点をおき、製糸部門では上州富岡(群馬県) に官営の製糸工場をつくり、紡績部門では官営の堺紡績所(大阪府)などを設立した。(日本列島改造論)

特に10)の「作る」という動詞は典型的な動作動詞なのに、この文では存在的な動作をあらわすゆえに、「で」を使わず「に」を使ったのである。要するに、存在的な動作をあらわす場合、いつも「に」を使い、存在的な動作を表わす動詞(住むなど)もあれば、存在的な動作と非存在的な動作を、両方ともあらわせる動詞もある。例の「作る」は、非存在的な動作をあらわす場合では、

- 11) この職場で車を作る。

のように「で」しか使えないときもある。  
以上述べたことをまとめると、下表のようになる。

動詞種類	語例	で	表現事項	例文番号	に	表現事項	例文番号
存在動詞	ある	○	動作的存在	1	○	非動作的存在	2、3
動作動詞	I類	住む	*		○	存在的な動作	5、6、7
	II類	作る	○	非存在的な動作	11	○	存在的な動作

それから、存在の周延的な問題として次のような例のしめす問題がある。

- 12) 私の(は)ふとんの中に(で)こっそりラジオの番組を聞いたしかないのです(聞くしかなかったのです)。
- 13) 家に(で)唯一の独り子だけは(子供は)私です。

なぜ存在の周延的な問題なのかというと、上の問題例はいずれも中国語では「在」が来

るからである。12)の「布団の中」というところは静的な場所で、動的な活動をする場所ではないという印象があるせいか、非動作存在の「に」を使ってしまっている。13)の「家」は人間が存在する場所だとはいうものの、ここでは抽象的な範囲として使われている。すなわち「に」はもちろん使えないし、「で」も場所を表さず範囲として使われている。

#### イ) 「に」と「で」で残った問題

次の誤用も中国人学習者によく見られるものである。

- 14) 地下鉄を出たばかり(出てすぐの)大通りに人で(が)いっぱい立っていたことにびっくりした。
- 15) 1週間の実習を通じて、経験ばかりでなく、人間関係も勉強しました。そして、仕事のつらさも感じました。学校で勉強した知識が(では)足りなくて(足りず)、面(範囲)が狭いと思いました。
- 16) まず報告したいのは、今度私は(が)英語の試験が(に)合格しました(たということです)。
- 17) 日本の漫画を読むことと日本のアニメーションを見ることは(が)私の一日中に(で)一番大切なことでした。
- 18) 昨日まで(で)試験はやっと終わりました。

14)の「人で」は「いっぱい」の原因を表したいために使用されたものであるが、後に来る「立っている」の主語となり得るものは「人」以外にはないため、「が」を使うべきである。15)では「が」なら、「知識」は「足りず」までにしかかからず、何の「面が狭い」か分からなくなる。しかし、「では」なら、「知識」は「面が狭い」までにかかり、意味が通じる。16)の誤用は上級者でも犯しがちである。これは日中の発想の違いによってだと思われる。中国人の考えでは何が合格したかと言われれば、試験が合格したのであり、「試験」は合格の主語であることは当たり前であるが、日本語での合格はある条件や形式に適合すること(『広辞苑』の解釈より)で、つまり何に対して合格するかということになる。よって、「に」を使わなければならない。17)は時点の「に」と範囲の「で」の混同の誤用である。18)については、まず二つの助詞の用法を考えてみよう。「まで」は継続する事態の至る点をあらわすのに対して、「で」は期限の時点をあらわしている。「終わる」という動作は瞬間的な動作なので、ある時点までつづけることはできず、「で」のほうが適切である。また、「まで」を生かして直すなら、「昨日まで試験を受けてきました。」になるはずである。

#### ウ) 比較の基準の「より」と程度の「ほど」

- 19) バスは電車より(ほど)速くないです。
- 20) 私は母より(ほど)早く起きません。

この二つの問題例の誤りはどこにあるかという、まず言えるのは「より」が否定文で使えないということであろう。たしかに「より」文には否定がすくない。中日対訳コーパスで調べたところ、次の1例しかみられない。

21) 兵営も見た。麻布の聯隊より立派でない。(坊ちゃん)

そして、日本語母語話者に聞いてみると、次の文章が挙げられた。

22) キリンはアサヒより苦くない。

どちらかという、少なくとも「より」は普通は否定文に使わないが、使う例がまったくないとは言い切れない。特別な効果を求めるのでなければ、上の2例も「ほど」に取り入れたほうが自然であろう。「ほど」はその制限はなく、自由に使われる。

エ) 主格の「が」と「の」

「の」は規定語節の中で「が」の代わりに主語を表せる。しかし、ときには「の」を使うと抵抗を感じることもある。

- 23) ある人は、性格の(が)相似(似ていること)は友達になる条件だと思っています。  
24) 僕の(私が)10歳の時、母は仕事をやめて専門主婦(専業主婦)になりました。それ以来、家事は全部母に(が)一人でやられます(やっています)。  
25) 彼は神経の(が)太い(図太い)人だから、ちょっと失礼なことをしたら(しても)、許してください(あげてください)。  
26) 心が(の)こもってた贈り物を受けます(もらいました・いただきました)。

23) については、「～するの」や「～すること」などの準体節の中の主語は「の」はあまり使わない。たとえば、次の例文の「が」を「の」にしたら不自然に感じる。そのうち、29) は前節は準体節ではなく状況語であるが、「間」までは 27) 28) の「の」までと同じく連体修飾節なのでここにおさめることにした。

- 27) わたしが昨日あったのは田中さんです。  
28) 子供が泣いているのが聞こえる。  
29) 君が顔を洗っている間に、わたしはシャワーを浴びてしまおう。

「の」が主語をあらわす場合は用言の前に位置する場合に限られており、名詞の前に置いてはならない。それゆえ、24) の「10歳の時」の主語は「が」であらわさなければならない。25) は「象は鼻が長い」いわゆる「ハガ構文」であり、「ハノ構文」はあまり見られな

いというのが訂正の理由である。26) は「の」で主語をあらわす構文の典型的な例であるにもかかわらず、「が」が使われてしまったため、違和感をもつ。

## 11.2 取り立て助詞

ア) 「は」

- 30) 山田さんはいつも (は) 口が重いが (のですが)、彼の好きな野球のこととなるとよく話します。
- 31) 私はサラリーマンという人 (もの) に (は) なりたくない。
- 32) 国際都市としての上海に (は) 高層ビルがずらりと並んでいる。一中略—いろいろな催し物も開催して (開催されて) 市民の文化生活を豊かにする (している)。
- 33) 嫌い (いやだ) と いったら (というなら) 無理に (は) 頼むまい (まない)。
- 34) 先生から私たちの水準 (レベル・学力) で (は) 日本語能力試験に合格できる可能性が小さい (は少ない・は低い) ということを知り、もっと頑張 (ら) なければならぬのかと考えさせられた。
- 35) 今、中国では (φ) 顔の一番 (一番顔が) 売れているスターは誰ですか？
- 36) 寮の正対面 (真正面) はバレーボールコート、そのバレーボールコートの後ろ(は) 教育ビル(教学楼)、寮の左がわは図書館、後ろのほう (その後ろ) には (φ) 先生の寮があります。

「は」はとりたて助詞の中でどちらかといえば難しいものの一つである。理論上では、そのとりたて機能が一応分かっている、具体的に使う場面になると迷ったり誤ったりするのはしょっちゅうである。要するに、中国人学習者にとって、それほど取り立てる必要がないと認める場合が多いようである。収集した誤用例集もそういう事実をものがたっている。とりたて不足は過剰よりはるかに上回っている。不足の例は上の5例以外にもまだまだあるのに対して、過剰は上の2例しかない。

30) では「いつも」と「野球のこと」は対比的な意味があるので、「は」で取り立てる必要がある。31) では文末に否定の述語がきている。この場合、「に」より前のことを強調するために「は」は不可欠である。この2文ではその取立ての必要性があきらかであるので、説明すればすぐ分かっもらえるだろう。後の3例ではその対比の性質はそれほどあきらかでないし、強調しなくてもいいと思われるものなので、不足になりがちである。32) の「は」で取り立てられる「上海」はここでは別に上海以外の都市との対比的な意味を含まないと思えるのだが、「は」はなくてはならない。その理由は何だろうか。寺村(1991)でいう「は」の対比的な意味と単なる主題という分類から見れば後者とするほかはない。つづく33) も同じ部類と認められる。34) は「ほかの人のレベル」との対比も考えられるが、強調のほうの方がより濃いのではないだろうか。つまり、機能が重なることもあるのである。35) と36) はその取立ての過剰使用の2例であるが、そのうち、36) のほうは人によって揺れがある例でもある。35) は疑問文のせいでもとりたては要らないと言えよう。疑問文であるから、

その重きは「誰」という述語におかなければならない。そのため、中国以外のものと対比する必要はないのである。もし平叙文「中国では一番顔が売れているスターは〇〇です」なら、その対比的意味が生じて「は」は過剰ではなくなる。36) では、「は」がないと、ただその場所にあることをのべるに止まり、「は」があると、後ろ以外のある位置と対比する意味を含んでいることになる。要するにニュアンスが違うのである。

イ) 「だけ」と「しか～ない」

- 37) その上( $\phi$ )、学校の食堂のご弁当はあまりおいしくなくて、種類もいつまでも(いつでも)ほんのすこしだけの(しか)料理が並んでいます(並んでいません)から、一週間に一回ぐらい校内のレストランへ食べにいきます。
- 38) その時、交通が通行禁止だから(通行禁止だったから)、バンドへの道路は自動車が(は)できなくて(行けなくて・通行できなくて)、歩くことだけできた(歩いていくしかなかった)。
- 39) 仕事の関係で母はひと月に一週間ぐらい家にいます(一週間ぐらいしか家にいません)。それで、平常(普段)、家に(は)父、私と弟(父と私、弟)3人だけいます(しかいません)。
- 40) 中国は一子(一人っ子)政策だから私の家族は3人だけいます(3人しかいません)。

「だけ」と「しか～ない」は同じく中国語の訳語が「仅仅・只」であるので、中国人学習者によく混同されてしまう。この2語の使い分けについての先行研究は少なくないが、そのうち、比較的理解しやすく、扱いやすいものは沼田(1992)での説である。ここではそれを取り上げたい。

排除されるほかの要素について「それがあるのが当然で、ないと困るのに」といった意味の強い場合はしかが使われ、だけが使われると不自然になることがある。(沼田、1992, p. 24)

沼田(1992)に更に補足しておきたいことは、「しか～ない」では排除される要素は話者が好ましく、また望ましいことだと思っているニュアンスが伝えられているが、「だけ」にはそのニュアンスがないということである。37)の「いくつか」以外の料理もあること、38)の「自動車で行くこと」、39)の「母のいること」、40)の「四人目以上の家族」などはいずれも望ましいことなので「しか～ない」しか使えないのである。

「しか～ない」と「だけ」の使い分けをもっとはっきりさせるために、沼田(1992)にある例文を紹介すると、

- 41) 日本語が少ししかわからないので困りました。
- 42) ??日本語が少しだけわかるので困りました。
- 43) 財布の中に5千円しか入っていなかったので、7千円のシャツは買えませんでし

た。

44) \*財布の中に5千円だけ入っていたので、7千円のシャツは買えませんでした。

となる。42)と44)がおかしく感じられる理由は、やはり「もっとたくさんわかること」と「5千円ではなく7千円が入っていること」が望ましいことであるためである。

### 11.3 「は」と「が」

日本語学習者にしろ日本語教育者にしろ、「は」と「が」の使い分けの難しさを認めないものはいないだろう。これについての先行研究はかなりあり、そのうちの高橋他(2005)と野田(1996)がかなり代表的なものだと思われるので、下に紹介写しておく。

高橋(2005, P.19-20)

①主語になる「～は」と「～が」のかたちは、情報伝達のはたらきによって、つぎのように対立する。

ニュースが述語グループでのべられるときは、主語は「～は」になる。ニュースが主語グループ、または全体にあるときは、主語は「～が」になる。

②主語になる「～は」と「～が」のかたちは、全体があたらしい情報であるとき、または、中立的な用法のなかでつぎのように対立する。

できごとをあらわす文では、主語は「～が」のかたちをとり、ものの特徴をあらわす文では、主語は「～は」のかたちをとる。

③主語になる「～は」と「～が」のかたちは、いくくみたくみだての文のなかでつぎのように対立する。

文の主語は「～は」になる傾向がつよく、従属節の主語やあわせ部分の主体をあらわす単語は「～が」になる傾向がつよい。

野田(1996, p.117)

1) 「は」と「が」の使い分けの5つの原理

- |                   |                |
|-------------------|----------------|
| A) 主題をもてるかどうかの原理  | ←3) 文と節の原理     |
| B) 主題をもつかどうかの原理   | ←2) 現象文と判断文の原理 |
| C) 何を主題にするかの原理    | ←1) 新情報と旧情報の原理 |
| D) 主題を明示するかどうかの原理 | ←5) 措定と指定の原理   |
| E) どうとりたてるかの原理    | ←4) 対比と排他の原理   |

2) 「は」と「が」の使い分けの原理の体系

- A) から E) の5つの原理は、それぞれ、(23)のAからEの分岐点で働く。

(23)

	「格成分が主題」	→ 「は」
	「主題をもつ - C - 述語が主題 - D - 主題を明示」	→ 「は」
	「主題をもてる - B」	↳ 主題を暗示 → 「が」
「主題 A」	↳ 主題をもたない	→ 「が」
	↳ 主題をもてない	→ 「が」
↳ とりたて	E - 対比	→ 「は」
	↳ 排他	→ 「が」

以下では上の説明を踏まえて、あえて筆者なりの整理をこころみて仮規則を並べておく。

- ① 文のどこまでにかかるかによって違う。文の最後までにかかるなら「は」を、節の終わりまでなら「が」を使う。ただし、対比的な意味をあらわす節なら、「は」を使う。
- ② 伝えようとすることの重点が主語（節）にあるなら「が」を、述語（節）にあるなら「は」を使う。

ここで、この規則に基づいた誤用実例を分析してみよう。

ア) 「が」を使うべきところを「は」に間違えたもの

- 45) 趙君は(が)料理に忙しいうちに(間・間中・というのに、その間)私はテレビばかり見た(見ていた)。
- 46) 結婚式に参加するのは3回目になって(なったが)、今回は(が)一番面白いのだ(面白かった)。
- 47) 多くの外資企業は(が)浦東新区に入りました。あそこで(そこに)ビルを建てて海外子会社(海外の子会社・海外法人)を設立しました。浦東は今日ごろに(日増しに)繁栄になっています(しています)。
- 48) 母が(は)定年後、料理を作ることは(が)もう一つの趣味になりました。

45) には規則①が適用される。つまり「趙君」は該当の節のみにかかっているし、後の節と対比的な意味もないので「が」は適切である。46) については規則②が適用される。すなわち、三回のうちのどれかが面白かったということを知らせたいので、「今回」に「が」をつけるべきである。47) の訂正も規則②が適用される。実はこの一文だけなら「が」でも「は」でもよいが、後の文があるため「が」にしなければならない。つまり「海外の子会社」の設立はほかの国内企業が浦東新区に入ることとは関係なく、「外資企業」が入ることとかかわっている。だから、「外資企業」は伝えたい内容となるのである。48) では、「母」は文の最後までかかっているため、「は」を使うべきであり、「作ること」は本節の主語なので「が」をつかうべきである。

イ) 「は」を使うべきところを「が」に間違えたもの

- 49) 別の学校に比べて、生活条件が(は)よくないかもしれないが(しれませんが)、私はやっぱり大学の生活が好きです。
- 50) 去年の統計によると、私の區(区)の総生産収入は上海で第3位だそうだ。もちろん、それには市民の努力が(は)言うまでもなく、日系企業と(との)つながりも(理由のひとつとして)あると思う。
- 51) 父は気が長く、無口な人ですが、母は気が(は)短く、(短い)朗らかな人です。
- 52) 彼女は大金持ち (大金持ち)の娘、あなたは貧乏人の息子、これでは月とすっぽんで結婚が(は)許されません。
- 53) 中国の国土が(は)広いので、違い地方の(地方によって)料理もだいぶ違います。
- 54) しばらくの将来(近い将来)、崇明が(は)もっと進んで発展する(発展する)と信じます(信じています)。
- 55) 友達と一緒にスポーツをすることが(は)非常におもしろいと思います。例(例えば)、友達と一緒にサッカーをした後、みんな汗を(が)いっぱい流れました。どうして負けるか(負けるのか)、どうして勝るか(勝つのか)と議論しました。
- 56) 彼と初めて会ったのは、小学校の3年生の時です。彼は両親と一緒に田舎から都会へ引っ越しました(引っ越してきました)。彼は丸い顔です(で)ちょっと太く、質素で飾り気がない服を穿きました(着ていました)。私は、彼の性格が(は)内向(内向的)だと思いました。

49) 生活条件以外のもの、たとえば学習条件などとの対比的意味があるので、規則①にしたがい、「は」を使う。50) 51) 52) も対比的な表現なので「は」を使うべきである。それに5249)は文の最後までかかることもその理由となる。ところが、53)以下は事情が少々異なってくる。53)では「国土」は「ので」までにしかかかっているのになぜ「は」でなければならないか。実例を調べてみると、「ので」節内部の主語は「は」も「が」も見られるのである。

- 57) フレジャーは適当に取ってあるので、スカートの感じもゆるやかで上品である。(あした来る人)
- 58) 夫の克平は会社の客と食事をするといていたので、どうせ帰宅は遅くなるだろうと思って、八千代は先きに風呂にはいった。そして自分が風呂からあがると、女中のりかをも入浴させようと思った。(あした来る人)
- 59) 帽子を八千代が受取らないので、克平はそれを廊下の上に置いた。(あした来る人)
- 60) 藤川に來客があったので、それをしおに曾根と八千代は社長室を辞した。(あした来る人)
- 61) 既にホームには電車がついていたので、杏子はすぐそれに乗り込んだ。(あした来る人)

実例から次のことがわかった。「ので」のような独立度が高いあわせ文では、「佐藤さんは今年八十歳になるが、足が丈夫なので富士山に登るそうだ。」のような前節後節同一主語の場合を除くと、前述した仮規則が適用されにくい。要するに、このようなあわせ文では「ので」節内部の主語を「が」で表すか「は」で表すかは、文全体の都合にこだわらずに、まったく節を一つの独立文として考えればいいのである。そうすると、「が」が使えるものも見られれば、「は」が使えるものも見られることとなる。53) ではその節の文はいわゆる「ハガ構文」で、すなわち「象は鼻が長い」文であるので、後節を全然考慮しないなら、「中国の国土は広い」か、あるいは「中国は国土が広い」のどちらかにしなければならない。

また、独立度の高い節というと、「ので」のほかに、そして「ので」以上に「から」もあげられる。

62) あの人には来そうもないから、もう帰ろう。

63) これは難しいだろうから、辞書を使ってもいい。

また、54)、55)、56) の訂正の理由は 53) と似ている。やはり独立度の高い節とそうでない節という問題である。引用節は「ので」や「から」とまったく違う類いの節であるが、「独立度の高い節」という点から見れば同じであろう。引用節内部ではやはり自分の都合によってどちらを使うかを決まる。問題例はいずれも節の都合で「は」が適切なのでそう訂正したのである。

ちなみに、上の考察は用語は異なるものの野田(1996)と一致する。ただし、ここの「独立度の高い節」は野田に「弱い従属節」と呼ばれている。野田は「強い従属節」は「が」が可、「は」が不可、「弱い従属節」と「引用節」は両方とも可と指摘している(野田 1996. p. 171 参照)。

ここまで分析してきた結果、やはり上の仮規則を修正しなければならなくなる。つまり、①をこうなおすことにしたい。

- ① 文のどこまでにかかるかによって違う。文の最後までにかかるなら「は」を、節の終わりまでなら「が」を使う。ただし、例外といえる場合がある。それは対比的な意味をあらわす節では、「は」を使うこと、独立度が高いあわせ文では、その節を一つの独立文とみなし、その都合によって判断することであるのは例外であると言える。

## 12 指示詞

外国人にとって特に難しいのは指示詞だと言われている。中国人学習者も例外ではなく、よく誤用が見られるカテゴリーの一つである。指示詞の用法は、普通「現場指示の用法」と「文脈指示の用法」(正保勇 1981)に二分されている。前者を「眼前指示」(金水敏 1987)や「直接的な(空間的な)用法」(高橋他 2003)という人もいる。ここで使用する誤用例集は主に作文から収集したもので現場指示はまず含んでいない。ちなみに、現場指示は文脈指示より比較的難易度が低いと思われるため、それを扱わないのは易しすぎるものを省くという本研究の主旨に合致している。もう一つことわっておきたいことは、指示詞は一つの品詞ではなく、名詞(「これ」、「ここ」など)、連体詞(「この」など)、副詞(「こう」など)にまたがり、コソアドという指示の体系に統一された存在であるということである。つまり、「指示詞」と呼ばずに「指示語」と読んだほうがより正確であるのだが、中国人学習者がまだきき慣れていないという点から、本研究ではふるい言い方である「指示詞」を用いることとする。

本研究の誤用例集に見受けられる例文には主に次の特徴がある。

### 12.1 空間的な語を使っているも文脈指示の用法に従わなければならないもの

- 1) 上海で一番有名な料理店は「緑波廊」という名前だ。鄧小平はあそこ(そこ)の料理が大好き(大好きだ)そうで、あとで(後に)アメリカの大統領やイギリスの女王もあそこ(そこ)へ行ったことがある(行っていた)。
- 2) 去年、京都へ行きました。あそこ(そこ)で、たくさんのお寺を見ました。
- 3) 多くの外資企業は(が)浦東新区に入りました。あそこで(そこに)ビルを建てて海外子会社(海外の子会社・海外法人)を設立しました。浦東は今日ごろに(日増しに)繁栄になっています(繁栄しています)。
- 4) 上海博物館へ行った。あそこ(そこ)に(で)「日本文物展覧会」が行っていた(行われていた)。

「話し手に近いのは「こ」系で表し、聞き手に近いのは「そ」系で表し、話し手にも聞き手にも近くないのは「あ」系で表す」という文法知識が学習者の頭に焼き付けられていることがこの誤用の原因であろうと認められる。文の作成者は今学校におり、読み手としての先生もクラスメートも学校にいる。つまり、料理店、京都、浦東、上海博物館は書き手からも読み手からも遠いところとなる。だから、「あ」系を用いるべきだと推定したのであろう。実はここでは、文脈指示の「①同一文章中の先行叙述内容と、②相手の発言内容とは<コソ系>の他称の代名詞で指示される」(正保勇 1981p.76)という決まりが有効となる。三つの誤用例の指すものは「先行叙述内容」であるので、「あ」ではなくて、「そ」を用いるべきである。要するに、現場指示か文脈指示かを判定する基準としては、文の中に空間指示詞「～こ」が登場するかどうかではなくて、その指示詞の指向目標は文の中にあ

るか現場のあるところにあるかということである。前者は文脈指示で、後者は現場指示である。(また、「空間的な用法」という言い方はこの場合においては邪魔になる恐れがあるため取らない。)なお、叙述文章の中で起きた指示を文脈指示とし、会話の中で起きた指示を現場指示とする考えがあるかもしれないが、それも危険である。上の4例にあてはめればその仮説が成り立ちそうであるが、会話の中で文脈指示がしばしば見られる。

5) 「きのう1万円ひろったんだよ。」「それがどうしたの。」(高橋他 2005、p. 55)

によって、この仮説をこう修正しなければならない。「叙述文章の中で起きた指示を文脈指示とし、会話の中で起きた指示は二分して、この目で見られるものの指示を現場指示、話の中のことをさす指示を文脈指示とする」としたほうが落ち着く。

## 12.2 「そ」系を「あ」系にしたもの

誤用例集に集めた指示詞についての誤用例は21箇所、そのうち「そ」系であるはずのものを「あ」系にした誤用は12で、量としてはこちらのほうが多数を占める。

- 6) 彼女と一緒に(の)旅行は楽しかった。あの日(その日)、春のピクニックをした。
- 7) 好きなこともありました。でもあれは(それは)家のしごとよりずっと体力かかりました(体力が必要でした・体力を使いました)。
- 8) 一人は(が)「今夜はだれでも(だれも)寝ることが(寝ては)だめ」と言って(言い)、私たちも賛成したが、結局、あの人(その人)を除いて、私たち3人は眠りたくてたまらなくなり、結局みな寝た(寝てしまった)。
- 9) 私は○月○日に帰るつもりです。あの時(そのとき)もう一度お便りします。

「そ」を「あ」にしてしまうという点において、一見したところ(1)と同じようだとと思われるかもしれないが実は違う。この(2)は空間指示詞ではなく、現場指示と誤解したとは考えられないのである。つまり、(1)に比べてもっと初歩的な誤りで、上の文脈指示の決まりを覚えるか、或いは見方を変えて、聞き手、読み手の知らないことに「あ」は使えないと言ってしまうと簡単に解決できる問題である。

それよりもっと大切なことは、ここにおける誤用の原因ということである。指示詞について言えば、日本語の「こ」、「そ」、「あ」という三項対立に対して中国語では「这」、「那」という二項対立である。つまり、日本語の「そ」も「あ」も中国語の「那」にあたる。しかし、不思議なことに、同じ「那」に対応する「あ」と「そ」において、「あ」を「そ」にした誤用はめったに見られない。本誤用例集には1例もないし、手もとにある先行研究にも1例もない。迫田(1998)での調査も同じ結果を示している。中国人被調査者3人では、ア→ソ型誤用は1例もない。ソ→コは104例で、ソ→アはやはり一番多く、119例もある。(p. 160, 161、合計は筆者が行った。)(ちなみに同じ被調査者である韓国人3人がわずかながら3人ともに見える(6, 2, 1)。偶然であるのか、それとも何か理由がある

のか、更に考察する必要があるが、少なくともア→ソ型誤用は稀で、中国人学習者はほかの外国人学習者に比べてその誤用頻度が極めて低いということは事実である。要するに、ここでは一応「そ」を使うべき場合に「あ」を誤用し易いということを、学習者に注意しておくにとどめる。

### 12.3 「こ」系を「そ」系にしたもの

- 1 0) 冬やすみの時は(の時期は・は)いつもそんな(こんな)に寒くて、起ろうとも(起きようとしても)起きられなくて本当にしかたがないんだかった(しかたがなかった)。実は今学校にいてもそんな状況もうあって、(同じような状況だ。)
- 1 1) 宴会の時) 私たちが美味しい料理を食べているうちに(あいだ)彼らは一口も食べていなかった。大変だった。それは(これは)風習だ。私は(が)将来結婚すれば、(するときは)こんな結婚式はしない。

まず1 1)の例を見てみよう。(2)の「そ」系を「あ」系にしたものは「①同一文章中の先行叙述内容と、②相手の発言内容とは<ソ系>の他称の代名詞で指示される」という決まりに聞き手或いは読み手の知らないことに「あ」は使えないという決まりをプラスすれば十分だと思われるが、この「こ」系を「そ」系にした用例では、上の決まりは役に立たない。先行叙述内容であり、「あ」も使っていないにもかかわらずそうなると思われる。

これについては高橋他(2005, p. 55)での説明は簡潔且つ明解であるため以下に引用する。(例文の番号を本節に統一する。)

はなし手がすぐまえにいったことや、これからいうことは、コ系であらわす。はなし手がすぐまえにいったことで、きき手によく理解されたとおもわれることや、きき手がすぐまえにいったことは、ソ系であらわす。…

- 1 2) 「花子の 子どもは 花子じゃ ないのに、 人間の 子どもは 人間だ。これは おもしろいね。」
- 1 3) 「ここは おんなの子の へやだ。 この ことを わすれるな。」
- 1 4) 「これは その ときに きいた 話です。」(といて、はなしはじめる)
- 1 5) 「きのう 1万円 ひろったんだよ。」「それが どうしたの。」
- 1 6) 「花子の 子どもは 花子じゃ ないのに、 人間の 子どもは 人間だよ。」「それは おもしろいね。」
- 1 7) 「ここは おんなの子の へやだ。 その ことを わすれるな。」

要するに、話し手がすぐ前に言ったことだけでは聞き手が十分に理解出来ていないだろうと思われることなら、コ形を使う。話し手がすぐ前に言ったことである上に、聞き手に十分理解されたと思われることなら、ソ系を使う。聞き手がすぐ前に言ったことなら聞き

手に十分理解されたと思っているかどうかにかかわらず、ソ系を使う。12)と13)はただ話し手がすぐ前に言ったことだけで、14)の「これ」はこれから言うことをさしているので、コ系を使う。15)、16)は聞き手がすぐ前に言ったことであるから、ソ形を使うのである。17)が13)と違う点は、聞き手に十分理解されたと思われることで、ソ系を使う点である。

11)は話し手がすぐ前に言ったことだけでは、聞き手に十分理解されたとは思えない場合で、言い換えるとはなし手が自分の縄張りに属するものと認定したものであるので、コ系しか使えない。

ところで、10)は上の決まりで説明がきかなそうである。これは話し手がすぐ前に言ったことではないことはあきらかである。10)にあるような指示副詞は指示副詞としての特殊性を持っているのでさらにことは難しくなる。ところが、指示詞についての先行研究は少なくないが、指示副詞を取り立てて論じたものはめったに見られない。指示副詞の事情を明らかにするために、少し実例を引こう。

#### <コ系>

- 18) さすがに身体は疲れている。リュックサックの重みが、ずっしりと肩にくいこんでいる。どこを見ても人間が多い。こんなに多くの人間が一体ここで毎日何をしているのか。(あした来る人)
- 19) 「初めてです、こんなにお酒をいただきましたのー」(あした来る人)
- 20) あくる日眼が覚めてみると、身体中痛くて堪らない。久しく喧嘩をしつてなかったから、こんなに答えるんだろう。(坊ちゃん)
- 21) そうして玉枝の淋しそうな物言いや、めっきりやせてしまった腰のあたりや、透けてみえるような白い肌をみていると、正月前に見た健康そうな躯が、患ったということで、こんなに変わるものかと驚いた。どことなく玉枝は老けてみえた。(越前竹人形)
- 22) また克平は犬のはいつている帽子を取り上げて、胸のところで抱くようにした。相手が犬だと、どうしてこんなに優しくなるのだろうと、そんな夫を、八千代は少しはなれたとからから見守っていた。(あした来る人)
- 23) 「二人が、こんなに静かに話したのは、今夜が初めてですわね」(あした来る人)
- 24) 律子の方は先刻から黙ったまま、若い女主人の顔に眼を当て続けていた。どうして、今日はこんなに美しく見えるのだろうと思う。(あした来る人)

#### <ソ系>

- 25) 「もう結構です。そんなに幾口もできたら多すぎますよ」(あした来る人)
- 26) 杏子は自分でも篤いたほど素直に言った。もっともっと克平から登山の話をかきたかった。「山の話が、そんなに面白いですか」(あした来る人)
- 27) すると赤シャツはそれじゃ昨日の事は君の参考だけにとめて、口外してくれるなど汗をかいて依頼に及ぶから、よろしい、僕も困るんだが、そんなにあなたが迷惑ならよしましよと受け合った。君大丈夫かいと赤シャツは念を押し

た。(坊ちゃん)

- 28) 天麩羅蕎麦もうちへ帰って、一晚寐たらそんなに肝癩に障らなくなった。学校へ出てみると、生徒も出ている。(坊ちゃん)
- 29) 「そんなに一銭五厘が気になるなら取ってもいいが、なぜ思い出した様に、今時分返すんだ」(坊ちゃん)
- 30) 父の生きている時は、まだそんなにひげ目を感じなかったのに、父が死んでしまうと、いっそうそれは劣等感となって喜助を苦しめた。(越前竹人形)
- 31) 芦原の遊廓は、だるま屋の並んだ町で、正式な遊廓とはいえなかった。そんなに大きなものではなかった。もともとここは温泉町であるから、芸者はいる。(越前竹人形)
- 32) 「よい人形は数少ない。陶器でも、漆器でも、名工はそんなにたくさんの作品をつくりはしません。数のないほど値うちが出るも・ですよ。喜助さん」(越前竹人形)

前で見えた「これ」、「そこ」、「あの」などと違い、「こんなに」は指示対象は文の中に現れない。すぐ前にいったことの文脈指示のマーカ―も、話し手に近いかなどの現場指示のマーカ―もないので難しい。ところが、指示詞の基本的原理、縄張り原理はこの系列においてもまだ有効である。18)の「多くの人間」は自分の周りのこと、19)の「お酒」は自分のもらうもの、20)の「答え」の主体は自分の体であるから、自分の縄張りに属する。それに対して、25)は相手の行動を中止する時の話しであり、26)は杏子にとって「山の話」は相手(克平)のことであるから相手の縄張りに属する。そして21)は自分のことではないが、話者が玉枝の立場に立って、かわいそうな気持ちで言うから、自分の縄張りの「こんなに」をつかっているのである。また、「こんなに」と「そんなに」はウチとソトの対立をなしている。によって、「こんなに」は丁寧、かわいがるキモチがつたわり、「そんなに」は軽蔑、軽視するキモチがつたわる。22)、23)、24)は前者の例で、28)から32)までは後者の例である。特に、28)と30)は自分のことを言うのに、「そんなに」をつかったのはこの点においてであろう。つまり、<縄張り>の決まりと<きもち>の決まりが矛盾するとき、<きもち>の決まりが優先されるといえるのではないだろうか。

さて、以上の分析から、10)の寒く感じる人は作者自身であり、その寒さは大したものではないという軽視の気持ちもないので、コ形しか使えないと言えるであろう。

また、立場を変えて、学校にいる時の寒さが冬休みの寒さと同じ程度であるため、「こんなに」を使ったほうがいいという理由もありえる。そういう理由で「こんなに」を使うのが妥当だと言うなら、「冬休みの時は」を「冬休みの時期も・も」にすることもしなければならない。

## 13 接続

### 13.1 接続助詞で(で)、ので、から

「て(で)」、「ので」、「から」に関する誤用例は誤用例集中の「接続」全部の85例のうち半分以上占めている。このような類いの出やすさを十分ものがたっている。それらの中国語の訳語はみな「因为～所以～」であることが原因だといえよう。

- 1) 父の会社は家から遠いですから(遠いので)早起しなればなりませんが(から)とても疲れています。
- 2) 天気がよくて(いいから)、散歩に行きましょう。
- 3) この魚は古くて(古いから)、食べてはいけません。
- 4) 寒くて(寒いので)、窓を閉めてください。
- 5) 日曜日に父と母が杭州に来たから(ので)、私たち一家はショッピングに行った。
- 6) 私も暇で(暇なので)、行きます。
- 7) うるさいため(から)、静かにしてください。
- 8) 五位のいい先生に会って(五人の立派な先生と出会えたので)、必ず日本語は上達すると思います。
- 9) ペンを忘れたから(忘れたので)、ちょっと貸してくださいませんか。
- 10) 母はうらやましそうな顔をするので(して)、広い家をほしがっています(るようでした)。
- 11) 普通の人是一日に3食ですが、私は3食に(では)足りません。私は寝ていても、おなかがすいたから(すいて)目が覚めることはが(が)あります。そのために、私は寝る前にいつもパンとか、ビスケットなどを食べ、ミルク一杯を飲みます。

ここではまず横林・下村(1988)での解釈を借用する。

<から>原因や理由を主観的に表す。後の文に推量、要求、命令などの形が使える。

<ので>原因、理由などを客観的に表す。後の文に推量、要求、命令などの形は使えない。

<て/で>理由を表すが、「から」「ので」より原因と結果の関係は弱い。後件には積極的な意志を表す表現は使えない。前件の結果自然にそうなる、そう感じる、やむを得ずそうするというような表現が続く。

1) の「遠い」は客観的な表現なので、「ので」のほうが適切である。後の「なければなりません」は「疲れる」の原因として、原因を表す接続助詞を使う必要があるが、その客観的か主観的かは判断しにくく、両方とも使えるような気がするが、前では「ので」を一

回使ったから、重ならないように気配して「から」をつかったのである。この両方とも使える場合は原則として主観性が客観性が特に目立たない表現であればいいといえよう。

- 1 2) 電車に間に合わなかった[ので・から]遅刻した。
- 1 3) 花があまりにきれいだった[ので・から]みんな買った。

2)、3) は後項が意志、勧誘、命令なので「から」が適切である。5) は後項は客観的に事柄を述べるので、「ので」のほうが適切である。

ここまでは横林・下村(1988)での解釈は通じるが、4) 及び6) から9) までは通じにくそうである。実例でもこの気配が見られる。

- 1 4) 「じゃあ、退院していただくとしまして—父が気を病むといけませんので、お食事でも御一緒にさせていただきますでしょうか」(あした来る人)
- 1 5) そう言ってくれたので、八千代はやはり行こうと思った。(あした来る人)
- 1 6) これは八千代からの依頼であるし、自動車でひっかけたという縁故もあるので、何とかしてやらねばならぬ。(あした来る人)
- 1 7) 返事代わりに、女はじっと目を閉じた。いましめを解いてもらえないので、すねているのだろうか？馬鹿な女だ。(砂の女)
- 1 8) 男子の先頭はボクだったので、どうしてもボクのクラスは遅れてしまおう。(五体不満足)
- 1 9) それから間もない昭和六十一年四月一日、私は社長に「体調が悪いので、営業本部長を辞めさせてください」とお願いした。(心の危機管理術)

上の例はいずれも推量、要求、命令なのに、「ので」を使っている。しかも、「から」に置き換えてみても違和感が出てくるようである。そして、次の「から」の実例を比べてみよう。

- 2 0) いかがでしたでしょうか、正式な検査ではありませんから、気軽に考えてください。(ひとりっ子の上手な育て方)
- 2 1) 「待ってくれ！ ちょっと、聞いてほしいんだ！ 聞くだけでいいから、待ってください！」(砂の女)
- 2 2) 4組の体の大きな男の先生も、「いざとなったら、私が背負って歩きますから、心配せずに乙武を連れていってください」と言ってくれていた。(五体不満足)

実例から少なくとも次のことがわかる。①「ので」の前には他人の動作や自分の過去の動作などもうすでに客観事実になったことがらであり、その代わりに、「から」の前には自分のこれからする動作が多いこと、②「ので」の文は原因理由の前項を強調するに対して、「から」の文は後項の話者の積極的なモダリティを重きとすること。そこで、「から」と「ので」の主観性、客観性の相対的な特徴は大別としては成り立つが、実際の言語使用ではお

互い領域を進出することもあるといえる。「ので」は「後の文に推量、要求、命令などの形は使えない」と言い切ることはちょっと言い過ぎるのではないかと思われる。同じ命令などの形は使えるものでも、4) は「寒い」が聞き手の主観的な原因ではないため「ので」を用い、7) は「うるさい」が聞き手の主観的な原因であるため「から」を用いるのである。寺村(1981) (p. 45) でも次の表を掲げている(要る部分のみを引用する)。

文のムード つなぎの形式	事実の 描写	判断・ 断定	判断・ 推量	意志・ 意向	勧誘	命令	疑問
～て	○	△	△	*	*	*	*
から	○	○	○	○	○	○	△
ので	○	○	○	○	△	△	△

寺村(1981)の考察を踏まえたうえ、さらに付け加えたいのは、日本人は発話にゆとりをもたせて、客観性を強調することが好きなので、「から」より「ので」のほうが愛用される傾向が見られる。によって、もともと横林の理論で使えない「ので」は使えるようになって、さらに使えるだけにまでとどまらず、さらに「から」より自然に感じるようになってきた。

10) は原因理由ではなくて、二つの動作が同時に進行することを表しているので、「て」が適切である。11) は原因理由ではあるが、「前件の結果自然にそうなる、そう感じるというような表現が続く」ので「て」を使うべきである。

### 13.2 接続詞「そして」などについて

- 23) 幸いことには(幸いなことに)文系と理系にクラス分けされる高校二年生になった時、彼と私はクラスメートになりました。それに(そして)彼は私のいい友達になりました。だから彼のことについて私はよく知っています。
- 24) 今、プールの入場券が(は)高くて、(い。)そして(それに)公園の湖で泳ぐことも禁止する(された)。海に行くチャンスは少なくない(少ない)。だから、毎日泳ぎには(泳ぐのは)無理だ。
- 25) 各国の商人が上海へ商売しに行ったから(来たから・来たので)立派な港や近代化な工場が立てられた。すると(そして)近代中国の最初の工業都会(工業都市)となった。

「そして」、「それに」、「すると」について三種の辞典の説明は次のとおりである。

	そして	それに	すると
広辞苑	そうして。その上に。	加えて。そのうえ。かつ。	前の事柄に続いて後の事柄が起ることを表す。そうすると。
日中辞典	而且，然后，于是	而且，更兼	于是
新日汉辞典	然后，于是；而，又	而且，再加上	于是就

日本語の辞典では「そして」と「それに」は「その上」という意味で重なっており、中国語の辞典では「そして」と「それに」は「而且」という意味で重なって、「そして」と「すると」は「于是」という意味で重なっている。それらの事情が中国人学習者の誤用を引き起こしたのであろう。角度を変えていうと、辞書の説明だけで正確に使えるようにすることはちょっと無理ようである。おなじ「そのうえ」、「而且」、「于是」の説明であるのに、それぞれの使う場面が違うのである。次ではまず実例を見てみよう。(括弧内はコーパスの原訳で、「一」がついているものは、原訳では訳されないから筆者が付け加えたものである)

- 26) 曾根は入口でゆっくりと内部を見渡した。そして (一随后) 空いて三つの席の中で、若い婦人客の前の席を選択した。(あした来る人)
- 27) この分では空席を占領するのは容易なことでないと思った。そして (于是)、曾根はこうした場所を指定して来た旧友山田喬に軽い反感を覚えた。(あした来る人)
- 28) 八千代は品のいいしま柄のネクタイを抜き出して行って、父の首に当てがってみた。娘のころ、家で外出する父に、同じようにしてネクタイを選んでやったことを思い出した。そして (一并且) 娘がにしてやることでは、こういうことが、一番娘らしい気持になることかも知れないと思った。(あした来る人)
- 29) 夫の克平は会社の客と食事をするといっていたので、どうせ帰宅は遅くなるだろうと思って、八千代は先きに風呂にはいった。そして (一并且) 自分が風呂からあがると、女中のりかをも入浴させようと思った。(あした来る人)
- 30) 杏子は、克平の言った事実に驚いたのではなくて、克平のびしゃりとした言い方にはっとしたのである。そして (一并且)、その容赦ない決めつけ方が、少し憎らしかった。その時、ホーイがやって来た。(あした来る人)
- 31) ときどき雑巾掛けをしなさい。そして (一并且)、いつも部屋をきれいにしておくんですよ。(森田良行・基礎日本語2)
- 32) 「会社の方は心配ありません。金は期待できませんが、その間の暇はくれます。多少、会社をも宣伝することになりますから。一それに (再说) 社長が派手なこと好きですし」(あした来る人)
- 33) 彼だけは少し他の人たちよりも速い。足を運ぶ速度が早いだけでなく、歩幅が他の人たちより少し広いのである。それに (并且)、克平は歩き出すと、めったに自分のペースも変えなければ、途中で立ち停まることもない。(あした来る人)

- 34) 「こんどは大丈夫です。リュックを持っていないから—。それに（再说）、上京する度にひかれていてはやりきれんです」（あした来る人）
- 35) ちょっと眉をしかめて言った。すると（于是）、受話器の中からは、「来てくれるかい?」と、渋い低声が響いて来た。（あした来る人）
- 36) 「外務省に運動してもらわなければならぬが、まあ、その方法はあるだろう」克平の声は、反対に静かだった。すると（紧接着）、また大声が響いて来た。（あした来る人）
- 37) 喧嘩したあとは、いつもこうである。こうした日がまる一日ぐらい続いて、結局は八千代の方から言葉をかけて行く。すると（于是）、克平の方もけろりとして、たちどころに講和は成立する。（あした来る人）

「そして」は主観的な叙述につかい、「それに」は客観的な叙述につかうという点で大別できるだろう。31) の命令文では「それに」が使えない。29) は話者が八千代の立場に立って話していて、主観性が強いので「そして」しか使えない。それに対して、30) は原文での杏子の立場に立って述べることの代わりに、特に杏子の立場に立たずにただ語り手の立場で客観的に叙述する場合も可能である。その場合は「それに」が使える。また、26) のような時間的順序的な叙述では「それに」は使えない。ちなみにここで「すると」はありえる。「すると」は前件の事柄に続いて後件の事柄が起こる意味をあらわす。時間的順序的な叙述の点では「そして」と重なる。ただし、「すると」は具体的な動作、前件が終わるとすぐ後件が起こる物事をあらわすのが特徴である。それから、「そして」は事柄、出来事を述べるによくつかう。一方、「それに」は評価、結論を下すによく使う。上の实例は26) の時間順序のものを除いてほとんどその傾向を示されている。最後、「そして」は「そうして」のつづまった語から定着した語なので、前のことを貫いて述べることはただの累加の「それに」と区別するもう一つ特徴である。この特徴も上の实例に見られる。

以上の分析に基づいて、23) は前のことを受けて貫いて述べるものだし、それに時間順序的な関係もあり、さらに主観的な性質も持つので、「そして」はしっかり来る。24) は入場券が高いことや水泳禁止のことは前後の貫きが見えないし、客観的な叙述でもあるので、「それに」は適用する。25) は後の26) と同じく時間的順序的な叙述であり、「すると」も「そして」も使えるはずが、しかし、25) は具体的な動作、前件が終わるとすぐ後件が起こる物事ではないから、「すると」はそぐわない。

中国語訳からみたら、辞典とおなじように「そして」と「すると」はおなじく「于是」と訳されることがある。ちなみに辞典にない「并且」はたしかに「而且」より文の中では適切である気がする。「そして」と「それに」はおなじく「并且」と訳されることがある。このような事実は母語干渉の種になるから、特に気をつけなければならない。

### 13.3 他の接続の問題

接続の問題はかなり複雑で、前では接続助詞、接続詞を取り上げたが、本節では残ったいくつか代表的な問題をあつかうことにする。

まず、接続の形の混同のものである。

- 38) 国際市場の米ドルの変動のわけ (変動により・変動のため)、輸出が大変になりました。
- 39) もう夏になりましたが (夏になり・夏が来て)、雨季も終わりました。
- 40) 先生が元気でいらっしゃることが分かるのが (分かって)、本当に嬉しいです。
- 41) 夏休みも終り(終りましたが)、先生は今年の夏はどこへ(どこかへ)お出かけになりましたか?昨日、ご郵送くださいました留学生入学申し込み書類をいただき、(受取りました。)

38) はまず「わけ」だけでは中止形にならない。「わけで」なら接続形式としては成り立つが、まだ何か抵抗感があるようである。「わけで」と「ため(に)」は中国語では2語とも「因为」と訳すせいか、中国人学習者にこういう誤りがみられるが、日本語ではそれらを類義語とみなさないためにそれについての先行研究がなかなか見つからない。でも、このような誤用を解明するためには、ここであつかっておかなければならない問題なので、少しふれておくことにする。まず次の実例をインフォーマントに置き換えてみてもらうテストをした。

<わけで>

- 42) 「—そんなわけで、気がくしゃくしゃしておりますのよ」(あした来る人)
- 43) 生活史、つまりその魚の一生がわからない限り、厳密に言って、進化か環境による適応かはっきり判らないわけで、学説としては弱いと思うんです。(あした来る人)
- 44) 秋冬に伐ると、地めんは冷たい。伐った根はそのまま生きていた。藪としては死根にそれだけ肥料をとられるわけで、損失といえた。(越前竹人形)
- 45) 世襲制度の禁じられていた当時は、住持の進退に関する規定は、まず法類が集議し、のち本山執事長、管長、老師の間で論議され、その結果が発表されるわけで、孤峯庵の法類には、源光寺、瑞光院、妙法寺、明智院などの末寺仲間があった。(雁の寺)
- 46) 老役員たちの会話は、こうしたわけで、私の心に、凡庸さの移り香のようなもの、かすかな嫌悪だけを残して飛び去った。(金閣寺)

<ために>

- 47) しかし私には、外界というものとあまり無縁に暮して来たために、ひとたび外界へ飛び込めば、すべてが容易になり、可能になるような幻想があった。(金閣寺)
- 48) 丸木橋をわたると、右に三重塔が、左に紅葉の林があって、その奥に百五段の苔蒸した石段がそびえている。石灰石であるために滑りやすい。(金閣寺)
- 49) 火がつけられた。配給の油が、住職の死のためにたっぷり用意されたの

で、火は却って雨に逆らって、鞭打つような音を立てて募った。(金閣寺)

置き換えられるものは43)と44)2例しかないそうである。2語の大別という、「ため」は原因をあらわし、後件の事柄、現象はその原因があつてはじめて起こるわけである。後件に出来事のほかに48)のような自然現象も可能であるし、テンスでは過去非過去を問わない。「わけ」は理由を表し、後件の事柄はここまで至る理由を述べるのに使う。多くはアクチュアル的な表現に使い、すでに行い始めたことがらや行ったことがらが後件によく来る。48)のような自然現象文はむりである。43)と44)2例は「ため」と交換できるという理由もやはりこの2文は多少自然現象の性格を持つわけである。それから、「こんな」、「こうした」などの後ろに「ため」を付けにくいという接続の問題もある。38)は接続の問題のほかに、やはりその文はすでに起こった出来事を引き出す理由をいうより、むしろ先に「ドルの変動」という原因があつてから後に「輸出が大変になる」という結果があるという意味をあらわしたい文であるように見える。それゆえ、「ため」はより適切である。

39)は接続の形の問題である。「が」は逆接のほかに順接の用法もあるが、それは(『日本語文型辞典』による)「山田と申しますが、洋子さんいらっしゃいますか」のようなく前置き>と「あのう、ちょっと1枚だけコピーしたいんですが。」のようなく言いよどみ>の部類である。39)の「が」はどうもその類いとは認められない。逆接なら文の意味は通じなくなってしまう。だから、ほかの順接の形にしなければならないので、動詞の中止形に訂正したのである。41)はちょうど39)の反対である。ここではただ動詞の中止形だけでは後の文とつながらない感じがするので、「が」の順接の用法を使ったほうが収まりがいい。

40)は文の成分は整わない問題である。「うれしい」は感情形容詞なのでその主語は「わたし」のはずで(5.5 形容詞を参照)、「分かるの」ではありえない。そして「分かる」と「うれしい」と二つの用言が並列して「わたし」の述語になるわけである。もし、「分かるの」を主語として生かしたいなら、次のような構文にしなければならない。

50) 「それはきつとなれるよ。君がいてくれるのがどんなにうれしいだろう。日本もこれからおもしろくなる。本当に仕事らしい仕事をしなければ不名誉だ。」  
(友情)

51) やはり子どもにとって、父親がいつまでもカッコつけていてくれるのは、うれしいことだ。(五体不満足)

つまり、「…のは…うれしいことだ」にするべきである。

次ぎは文の流れを整えるものである。

52) みんな (みんな)で すしを食べて酒やビールを飲んだ。 終わってから雨 がやんだ (食べ終わって外に出てみると雨がやんでいた) から (φ。それで) 気をつかないで (うっかりして) 傘を忘れて帰ってきた。

53) 来学期、すぐ就職活動で忙しくなるから (なりますから)、まだお聞きしたいことはいっぱい (たくさん) あるから、(あります。) 申し訳ございませんが、

先生のお暇の（お暇な）時、もういちどおうかがおう（おうかがいしてもよいでしょうか）。

- 5 4) たとえば、中華料理には(で)有名は(な)「碧緑蝦仁」と言え、赤いえびと緑のグリンピースを合わせて、(合わせる。) そして、サラダオイルのため、えびは(そのえびは油のために)つやつやして、(している。) こんなきれいな色を見て、おいしそうと思わない人はたぶんいないでしょう（いないだろう）。
- 5 5) 「こんな(こんなに)長い時間が経った。(時間が経っているのに、) どうして私(自分)の成績が今まで(まだ)しりません(わからないんだ。)」と思った。ぱっと緊張になった(緊張した)。

文の流れを整える問題というのは、すなわちどこで文をきるのがいいかということである。文が長すぎると「やさしいことも難しくなり、分かりにくくなる」（武部良明 1982、p. 120）が、文が短過ぎると「軽すぎて説得力に欠けてしまう」（武部良明 1982、p. 121）ということである。武部（1982）では次の文章を模範文として掲げている。

- 5 6) 夜遅くまで勉強していると、夜食を食べることになる。その時、おいしいもの、好きなものといって、油やバターを使った脂肪の多い料理はよくない。こういうものは消化に時間がかかり、胃に大きな負担をかけるからである。せっかく夜食を作っても、かえって眠けを誘うことになりかねない。めん類とかサンドイッチのような、あっさりしたものの方がよいのである。

そのあと、武部は「このように、文章の長さというのは、三十字ぐらいが適当なのである。」と述べた。数えてみると確かにそうであるが、しかしそのきれいな文章になるのはすべてこういうわけだとは筆者は思わない。もちろん、30 字というのは適当な長さであるが、文字数を合わせるだけではかならずしもいい文章にならない。それより、文の部分から言ったほうがもっと確実であろう。ようするに、一つの文は二つぐらいの節からなり、一つの節にある一次的な述語関係はひとつであるのが理想的だと思われる。それに、連体節が多すぎると読みにくいことも注意する必要がある。図にしたら次のようになる。

## 文

### 節 1

### 節 2

[夜遅くまで] 勉強していると、 || (夜食を食べる) ことになる。

[その時、] (おいしいもの、好きなもの) といって、 || (油やバターを使った) (脂肪の多い) 料理はよくない。  
(こういう) ものは消化に時間がかかり、 || 胃に大きな負担をかけるからである。

[せっかく] 夜食を作っても、 || [かえって] (眠けを誘う) ことになりかねない。  
(めん類とかサンドイッチのような、) || (あっさりしたもの) の方がよいのである。<sup>2</sup>

<sup>2</sup>       は二次的な述語関係を持つ連語を、      は一次的な述語関係を持つ連語を、[ ] は状態語を、[ ] は修飾語を、( ) は規定語を示す。

44) は「から」までもう三つの述語関係があり、後にはまた三つあって、これでは多すぎるので、切らなければならない。45) はちょうど「あります」までは2節あるし、各節の中では一次的な述語関係の連語が一つずつあり、バランスがよい。46) もおなじく、述語関係を持つ節の二つ目に文を区切ると、いい流れになる。

47) は前のと正反対で、短すぎる文を長くすべき類型である。ここでもやはり、前の原則に従うことができる。つまり、述語関係を持つ節の二つ目に文を区切るのが適切である。そしてここでのなおす理由としてもう一つ挙げられるのは、引用節はなるべく区切らないでまるごとにするとのことである。

もちろん、意味を全然考えずに、ただ文字数や節数、連語数ばかりに目を掛けるなら何にもならない。上の原則は一応意味が通じるという前提のもとで適用されるものだとことわりたい。

## 14 文型

### それにしても・それにしては

- 1) かれは日本に5年いたそうだが、それにしても（それにしては）日本語が下手だ。  
/听说他在日本呆了5年，可尽管如此日语还是很差。
- 2) この学校は宿題が多いと聞いていましたが、それにしても（それにしては）行きたい人は多いです。/听人讲过这个学校作业很多，可尽管如此要去的人还是很多。

中国の日中辞典でも表現文型例文書でも、多く（周炎輝 1979、孫明久 1985、劉桂雲、常波濤 2002、常波濤 1999 などではいずれも）が「それにしても」を「尽管如此」と訳していることがこの誤りになる起因だろう。句末の「ても」そのものが「即便、尽管（たつて・けれどもなど）」という意味を持っているに対して、「それにしては」の「ては」にはそういう意がない。

「それにしても」は前件のことを一応認めながらも、それと食い違う話し手の主観的な自分の感情をこめた意見、感想、特に驚き、疑問、不平不満、怒りなどを述べるのに使う。一方、「それにしては」は前件に述べたことから予想されることと比べて、それとは反対にという意味である。要するに、「それにしても」は話し手が前件を一応認めたうえでそれに対する自分の感情をこめた意見を述べるのが特徴であり、「それにしては」は話し手が前件を認めることではなく、後件が前件に対する話し手の感情をこめた意見よりむしろ客観的な事実に近いものである。もう一つの立場で言うと、「それにしても」では後件は前件の延長線にあり、「それにしては」ではそのような線的な関係は見られないというか、しいて線の話しで言えばその線は前へ行くのではなくて、後ろへもどるというのである。

上の例はその認めることとそれに対する話し手の主観的な自分の感情をこめた意見ではないので「それにしても」は使えないわけである。もし、「それにしても」を生かして修正すれば、次のような文になるだろう。

- 1)' A: かれは日本に5年いたそうだ。B: それにしても日本語がすごいね。
- 2)' この学校は宿題が多いと聞いていましたが、それにしても一日50枚は多すぎますね。

以上では、このふたつの文型の異なり及び使い方について説明した。中国人学習者の誤用が多いので、さらにくわしく検討する必要があると思われる。次では実例を引いて訳語の観点から考える。

#### (1) 「それにしても」の実例と中国語訳

- 3) 「そうでしょうなあ。それにしても、東京にはこういうところがあるので、うらやましいですよ」/“嗯。不过，东京能有这等地方，真叫人羡慕啊！”（あした来る人）

- 4) それにしても、克平が八千代にこんなことさえも伝えてないことも不思議だし、八千代は八千代でそれを今まで知ろうとしないであったということも、普通の夫婦というものの概念からすると理解できないことであった。/尽管如此，杏子还是感到不可思议：克平居然连这种事都没讲给八千代；而从一般的夫妇的关系来说，八千代至今什么都不想知道这点也是令人纳闷的。（あした来る人）
- 5) それからこんどは、涙のない顔を梶の方へ向けた。「それにしても、どうして出版を延ばすんです」梶はきいた。/然后把擦去眼泪的脸转向梶大助。“话说回来，你为什么推延出版呢？”梶问。（あした来る人）
- 6) 「それにしても、結局はどうしましょう？ 芳子さんを伴ってお帰りになりますか」/“那么，您打算怎么办呢？是带芳子回去吗？”（布団）
- 7) 彼が金閣へやって来たのも、月の照る間の金閣だけを索めて来たのに相違なかった。それにしても音楽の美とは何とふしぎなものだ！/这次前来，他可能是单为探望一下月照清明的金阁到底是什么样子。然而音乐之美是多么地不可思议！（金閣寺）
- 8) が、それにしても、若しも彼女が再び雑魚寝をしようなどと云い出したら、自分は何と云うべきだろうか？/就算是这样，可是如果她再提出大家挤在一起睡之类的要求，自己该怎么回答呢？（痴人の愛）

上の実例から分かるように、「それにしても」と対応する中国語訳語は8種類もあるが、そのいずれも「尽管如此」を用いれば当てはまる（言い換えられる）ようである。

(2) 「それにしては」の実例と中国語訳

- 9) 温泉へ来て村へ帰る若い衆かも知れない。それにしては唄もうたわない。存外静かだ。/也许是来温泉洗完澡后回村子里的年轻人吧，可如果真是那样，不知为什么连只歌也不唱，分外的安静呢。（坊ちゃん）/（可能と思う訳案：△也许是来温泉洗完澡后回村子里的年轻人吧，尽管如此，那为什么连只歌也不唱，分外的安静呢。）
- 10) 私も或はそうかも知れないと思った。然しそれにしては少し変だとも考えた。/我也觉得有可能，却又觉得有些奇怪。（こころ/心(訳文1)）/（可能と思う訳案：○我也觉得有可能，尽管如此，却又觉得有些奇怪。）
- 11) 私は思わずぎよっとしました。私にはKがその刹那に居直り強盗の如く感ぜられたのです。然しそれにしては彼の声が如何にも力に乏しいという事に気が付きました。/我不由地一愣，我觉得K在这一眨眼间，象是小偷突然被人发现而变成了明目张胆的强盗一样。我虽这么比方，但我又注意到他的声音非常缺乏力量。（こころ/心(訳文2)）/（可能と思う訳案：○我不由地一愣，我觉得K在这一眨眼间，象是小偷突然被人发现而变成了明目张胆的强盗一样。尽管如此，但我又注意到他的声音非常缺乏力量。）
- 12) 「このよろこびは何処からくる。これを空と云うか。空にしてはあまりに深すぎる。彼女の美しさは何処からくる。これを空と云うか。それにしてはあまりに美しい。彼女は何処から来た。何の為に来た。彼女の存在を空と云うか。空にしてはあまりに清い。すぎゆく美か。それにしてはあまりに貴い。魔力か、魔力か。

それにしてはあまりに強すぎる。愛しないではいられない、失うわけにはゆかない。断じてゆかない。 / “这种喜悦从何而来？这能叫‘空’吗？如果是‘空’，却太深沉了！她的美丽从何而来？这能叫‘空’吗？如果是‘空’，却太迷人了！她从何而来？为何而来？能把她的存在叫做‘空’吗？如果是‘空’，却太实在！美得超群吗？然而却太富贵了！这是魔力，魔力吗？然而却太强烈了！令人不能不爱，不忍失去，无法抗拒！（友情） / （可能と思う訳案：△“这种喜悦从何而来？这能叫‘空’吗？尽管如此，却过于深沉了！她的美丽从何而来？这能叫‘空’吗？尽管如此，却过于美丽了！她从何而来？为何而来？能把她的存在叫做‘空’吗？尽管是‘空’，却过于清澈了。是超级的美吗？尽管如此却太贵重了！这是魔力，魔力吗？尽管如此却太强烈了！令人不能不爱，不忍失去，无法抗拒！）

可能と思う訳案とは「尽管如此」を強いて用いてみる試みである。このような試みで分かったように、上の実例にある「それにしては」の訳語はさまざまであるが、「尽管如此」で言い換えてみると、言い換えられるものが多く、言い換えられずに残ったものも、まったくできないとはいえず、やや不自然に感じる程度である。

### （3）「尽管如此」の日本語訳

- 13) 由于她的热心和努力，学生们喜欢她；连严格的校长——晓燕的姑姑王彦文也很赞赏哥哥介绍来的这个年轻女教员。尽管如此，但是空虚、怀念过去和向往未来的焦灼之感，仍与日俱增地烦扰着她。她常常幻想着，有一天卢嘉川或者其他的革命同志会突然来找她——那该是个多么幸福的日子啊。 / かの女の仕事に対する熱意と努力は、生徒たちに好感をもたれ、やかましやの校長——王曉燕の叔母の王彦文さえも、兄が紹介してきたこの若い女教師を、ほめそやすようになった。だがしかし、道静の心はむなしかった。過去への追憶と、未来に対するあせりが、日とともにひどくなって、かの女を悩ますのだった。——かの女はいつも空想した、ある日、とつぜん、芦嘉川か、またはだれか革命の同志が、じぶんを訪ねてくると……ああもしそうだったら、なんとすばらしいだろう……（青春之歌）
- 14) 我们的婚姻，我对他的感情，我内心是明白的。尽管如此，我们也还是在—起生活了近二十年了。 / 我々の結婚と、彼に対する私の感情は、自分の心の中でははっきり分っている。とはいっても、我々はともかく二十年近く共に暮してきたのだ。（天云山传奇）
- 15) 因为，中国的革命，不是依靠任何一个人，而是依靠千千万万志同道合的革命者的集体奋斗，才最终取得成功的。陈独秀的悲剧正在于此。尽管如此，对于中国共产党的创始人和早期的领导人，无论他犯过什么样的错误，无论他的错误曾造成过多么大的危害，但只要他没有走向反共、反人民，甚至充当汉奸卖国贼的道路，后世的人们，总会全面评价其功过，总会把他放在他应得的公正的历史地位上的。 / というのは、中国革命は誰か一個人に依拠したのではなく、何千何万という志と信念を同じくする革命家に依拠した、集団の奮闘の賜物であり、それでこそ最終的に成功したからである。陳独秀の悲劇は、そこにあった。いずれにしても、中共の

創設者にして、初期党指導者の陳に対しては、どのような誤りを犯したにしても、またその誤りがどれほど大きな危害をもたらしたとしても、反共や反人民、あるいは漢奸、売国奴の道を歩まなかった以上、後世の人々はその功罪を総合的に評価するはずで、相応の歴史的地位を与えることだろう。(毛毛・我的父亲邓小平)

- 16) 我们破除了林彪和“四人帮”所制造的精神枷锁，坚持领袖是人不是神；坚持完整地准确地掌握马列主义、毛泽东思想的科学体系；坚持从实际出发，实事求是。这就恢复了毛泽东思想的本来面目，维护了毛泽东同志作为一个伟大革命家在中国革命史和世界革命史上应当享有的崇高地位。尽管如此，中央认为今天还是有很大的必要来强调宣传这四项基本原则。/われわれは林彪と「四人組」のつくり出した精神的なカセを粉碎して、指導者は神ではなくて人間であるという考え方を堅持し、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想の科学的体系を全面的かつ的確に把握することを堅持し、実際から出発し、实事求是の態度をとることを堅持した。こうして、毛沢東思想は本来の姿をとりもどし、中国の革命史と世界の革命史における偉大な革命家として、毛沢東同志の当然しめるべき崇高な地位は守られたのである。それでも、中央はいまなおこの四つの基本原則の宣伝を大いに強調する必要があると考える。(邓小平文选第二卷)

- 17) 同年十二月八日，日本突然偷袭美国在太平洋的主要海军基地珍珠港，太平洋战争爆发。英、美立即对日宣战。美国同德、意之间也相互宣战。国民党政府在中日战争已进行了四年多以后，这时才正式对日本宣战，同时对德、意宣战。这样，反法西斯的国际统一战线形成了，中国国内的国共关系也得到进一步的缓和。尽管如此，中国共产党和它所领导的抗日根据地军民面对的局势依然十分严峻。/同年十二月八日、日本はアメリカの太平洋における主要海軍基地である真珠湾に奇襲攻撃をかけ、太平洋戦争が勃発した。イギリス、アメリカは直ちに対日宣戦を布告した。アメリカはドイツおよびイタリアとの間でも相互に宣戦を布告した。国民党政府は中日戦争がすでに四年余りも経過したこの時になって、はじめて日本に宣戦し、同時にドイツ、イタリアに宣戦をした。こうして反ファシズムの国際的統一戦線が形成され、中国国内の国共関係もいっそう緩和されるようになった。それにもかかわらず、中国共産党とそれが指導する抗日根拠地の軍民が直面している情勢は依然としてきわめて厳しかった。(毛泽东传)

上の「尽管如此」の訳語には、「それにしても」も「それにしては」も現れないが、日本語ネイティブ・スピーカーに入れ替えてもらって見たところ、13) は「それにしては」に、14) から 17) までは「それにしても」に直してもいいそうである。このことでは、中国語の「尽管如此」は日本語の「それにしても」と「それにしては」とのどちらかに訳せるはずであるともものがたっている。また、「それにしても」も「それにしては」も中国語の「尽管如此」という意味を表すが、逆の方向へ行くと、つまり、「尽管如此」を日本語に直す場合そう簡単にあつかうわけには行かない。まず自分の言いたい「尽管如此」の意味は「それにしても」と「それにしては」とのどちらに当たるかを判別しておいてから使うなら安心できる。

前にすでに述べた解釈にしたがって、このふたつの文型の一番典型的な用法として、次の『日本語文型辞典』の例文をあげることができる。しかも、その中国語訳にはいずれも「尽管如此」が来ることが可能である。

#### それにしても

- 18) この車はドイツ製ですが、それにしても、3000万円は高すぎます。/这车是德国制造，可尽管如此3000万日元也太贵了。
- 19) 最近、夫は大変忙しい。それにしても、こんなに大切な約束を忘れるなんてひどい。/最近丈夫非常忙，可尽管如此把这么重要的约定忘掉也太过分了。
- 20) 「坂本さん、あの高校に受かったんだってね。」「必死で勉強してたらしいよ。」「それにしてもすごいね。」「听说坂本考上那个高中了？」“他可是拼着命学过来的呀。”“尽管如此那也算是厉害的呀。”

#### それにしては

- 21) 「昨日ほとんど寝てないんです。」「それにしては元気がいいね。」「昨天我基本上没睡觉。”“可即便那样精神还是很好的嘛！”
- 22) 「これは輸入の最高級品だよ。」「それにしては安いよね。」「这可是进口的最高级品哟。”“尽管如此，价钱可是不贵啊！”
- 23) かれは一流の大学を出ているそうだが、それにしては仕事はできない。/听说他是一流大学毕业的，可尽管如此却不太会工作。

このような正用例をよく覚えるのが誤用を避ける方法としてすすめたい方法の一つでもある。

## 15 敬讓語

尊敬語と謙讓語はコトガラを伝えるレベルでは不要であるため、普通の文章語では使われないが、特定の個別的な相手に内容を伝えるレベルの話し言葉や書簡などでは使用される点で、日本社会ではそれなりに大切な表現である。しかし、現代中国語では敬讓語といわれる表現は、もっぱら語彙的なものに限られるが、それもうしなわれていく一方であると言える。中国人学習者には使う自覚が足りないため、使用不足が多く見られるが、意識しすぎる使用過剰も見られる。以下分けて見ていく。

### 15.1 使用不足

- 1) その図書館には古い資料がたくさん有って（あるので・ありますから・ありますし）、行って見てください（いらっしやってご覧になってみてください）。
- 2) 松本先生に初めて見た（初めてお会いした）とき、なんだか親切だ（やさしそうな先生だ）と思いました。
- 3) 先生はちょっとやせるようになった（おやせになった）みたいです。
- 4) 先生は中国人のことをよくご存じですからあまり気にしないんですが（あまり気にはなさいませんが）、ほかの人だったら「この学生は礼儀正しくない（礼儀を知らない）」と思われてしまったかもしれません（思われたかもしれません）。

1) は目上の人に対しての会話である。日本語の尊敬語に文法のカテゴリーに属するものと語彙のカテゴリーに属するものがある。両方ともできる場合では語彙的なものは優先される。たとえば、「お行きになる」は言わないとは言えないが、「いらっしやる」より普通ではない。1) は尊敬語を使わない誤用で、ちゃんと使うと正用になる。ちょうど「行く」と「見る」はそれぞれ対応する語彙的な尊敬動詞があるから、「いらっしやってご覧になって」にしては一番簡単ななおし方である。ちなみに、「見る」という動詞には、文法的尊敬動詞＝「お見になる」がないし、「行く」のほうは「お行きになる」の言い方はあるが用例はかなり少ない。新潮文庫 100 冊コーパスと中日対訳コーパスを検索してみたところで、2 語とも用例は全然なし。2) は謙讓語の使用不足の誤用例である。謙讓語というのは、文中の人物や聞き手に対してうやまってあらわすために、自分のことをへりくだった態度で言う文法形式である。中国語にはわずかの語だけに限られるし、そしてかなりかたい文章語でなければ使わない。つまり、「拜读（拝読する）」「久仰（お名前はかねて承る）」のような語彙的なものしかない。日本語のように文法的なてつづきで一般化されるものはあまりない。2) の「お会いする」と「会う」の区別は中訳に見られないせいで、使用不足を引き出す。3) では「やせる」という動作は先生なので敬語を使うべきで、「やせる」に対応する語彙的な敬語動詞はないから「おやせになる」という文法的なてつづきを利用して文法的な敬語動詞をつかうほかはない。4) では「気にする」の動作主はやはり

先生なのであるが、「する」に対応する語彙的な敬語動詞（なさる）があるのでまずはそれを使うべきである。

## 15.2 使用過剰

- 5) 私は昨日大学の映画館で映画を拝見しました（見ました）。
- 6) 私は外国語学院にお入りし（入り）ました。入学したばかりの時ちよつとお慣れしなかつた（慣れませんでした）が、今はすっかりお慣れし（なれるようになり）ました。（胡 1986 より）
- 7) うれしいことに父は来週出張からお帰りになります（帰ります）。（穂積 1987 より）

現代中国語には敬語体系がないから過剰使用のことは起きにくいと思われるが、うえに示してあるように複数の誤用例集に見られる。その原因は母語干渉ではなく、学習者が学習不足によって作る独自の文法のせいである。その独自の文法は、「自分の動作は謙讓語を使い、目上の人動作は尊敬語を使う」と考えられる。実はそう簡単になるわけではない。

「全体として日本の現代敬語は相対敬語の性格が強いと言えよう。」（宮地裕 1982、p. 230）日本語の敬語体系は外の人、上の人をうやまい、内の人、下の人を下げるというきちんと相対性をもつ。尊敬語は内の立場からの外の人に、下の立場からの上の人に対しての場合で使用し、謙讓語は外の立場からの内の人に、上の立場からの下の人に対しての場合で使用する。その対立する関係がない場合では使うと不適切である。5) と 6) 例は自分の動作は自分の動作であるが、相対する外と上の一方がないので、敬語体系を成していない。そこで、謙讓語が使えない。7) の父は作者の目上であるものの、聞き手にとっては作者側の人物、つまり作者の立場から見ると内のものである。そして、上下の関係と内外の関係と矛盾するとき、内外の関係が優先される。それゆえ、外の人に対して内の人のことを言う時、敬語を使わない原則にしながら「帰ります」が適切である。

## 15.3 混乱

- 8) お忙しいと思いますが、ご参加なさいと思います（ご参加ください）。
- 9) その先生は、『〇〇』という本を貸して下さった代わりに、その感想を書いてください(書きなさい)と宿題を出されました。
- 10) 先生、機会があつたらまた中国へいらっしゃい（いらしてください）。（穂積 1987 より）
- 11) だんだん暖かくなってきましたが、お元気で毎日を過ごされる(過ごしていらっしゃる・お過ごしの・過ごされている)ことと存じます。
- 12) 先生はパソコンをほしがっていらっしゃいます（がほしいとおっしゃっています・をさがしていらっしゃいます）。
- 13) 参考文献をお送りいたしますのでご参考になつて（になさつて）くださ

い。

たしかに、日本語の敬語体系は内外、上下のような相対的な関係が立体交差の構造を成しているし、そのレベルが何層もある。であるので、学習者に戸惑わせることもよくある。8) は尊敬のレベルの混同の問題である。中国語にはそのレベルがないことはそのような誤用を引き出す種だと思われる。「なさい」も「ください」も中国語になおすとおなじく「请」になる。しかし、同じ誘うことなのに、日本語の場合目上の人に対して「ください」といい、目下の人に「なさい」と言うのである。また、「なさい」は「する」の尊敬動詞「なさる」の命令形であるから、その尊敬の度合いが高いと誤解されることがある。「日曜日にはなにをなさるおつもりですか」のように動詞ののべたて形として使われると確かに尊敬の度合いが高いものの、「なさい」のような命令形として使われるとそれほど高くなる。8) は、前節から尊敬のレベルがかなり高いことが分かったので、後節では「なさい」と言うと不適切である。また、「なさい」、「ください」の後ろに「と思います」は来にくい。その反対に、9) の中の「その先生」は自分より目上なので自分に対して「ください」とは言わなくて「なさい」と言うべきである。10) も8) と同様の理由によるのである。「いらっしゃる」は「行く」、「来る」、「居る」の尊敬語で、のべたて形として使われるなら、尊敬の度合いは高いが、命令形「いらっしゃい」の形で使われると、その度合いは低くなる。尊敬語の命令でも命令の類いなので、命令形を目上の人に使ってはいけないという決まりは有効である。

11) はアスペクトの誤りと見てよいもので、つまり「過ごされている」と訂正したにとどまっていが、それより「過ごしていらっしゃる」、「お越しの」のほうがもっと美しい日本語になる気がするので、ここにもおいたのである。じつは「過ごしていらっしゃる」より、「お越しになっていらっしゃる」のほうがもっと尊敬の度合いが高いが、やや堅すぎる感じがする。この場合文末の動詞を変えるだけでも十分敬意を表されるから、後者のほうは過剰敬語と見る人もいる(川口義一「待遇表現」)。なお、「お越し」のように、動詞の代わりに「お+連用形」の名詞の形で動作をあらわすと、もっとやわらかい感じになる。

12) は厳密に言えば誤用とはいえないが日本語母語話者の使用は少ないと考えられる。「欲しがる」という動詞は目上の人にもちいないことが原因である。新潮文庫100冊コーパスと中日対訳コーパスを検索してみたところ、目上の人に「欲しがる」をもちいる用例が一例もないということは少なくともそのような用例はあまりないからだといえると思われる。訂正する方法としては原文の意味をすこし変えて、12) のようにもっと婉曲な表現にすることが考えられる。

13) については、確かに「ご+行為をあらわす漢語名詞+になる」という尊他形式(『日本語文型辞典』p.53)があるし、「参考」という語は、「行為をあらわす漢語名詞」とみなしてもよいのに、どうしていけないか。実はここでの「行為をあらわす漢語名詞」という限定は厳密さがたりない。この公式は「行為をあらわす漢語名詞」ではなくて、「サ変動詞」とすれば説明できる。つまり、「参考」というのは行為であるかということは日本人と中国人の判定は食い違っている。その判定によって、日本人は「参考」を名詞にし、中国人は

動詞にする。これが問題例の誤用の原因になる。そして、「参考」はサ変動詞ではないからその公式が適用しない。さらに、「参考」という語のよく見られる使い方として「参考にする」は知られて、「する」の敬語は「なさる」であるので、上の訂正にしたのである。

## 16 モダリティ

モダリティは命題＝言表事態に対する話し手の捉え方、発話・伝達的な態度のあり方を表した部分である。モダリティを担う形式はさまざまであるので、以下例文ごとに分析していくことにする。

### 16.1 「しましょうか」について

- 1) 今隣の部屋でゲームをやっているところです。林さんもやりましょうか (やりませんか)。

仁田 (1991) では「しょうか」に<意志の疑い>、<誘いかけ>と<意向の問いかけ>とがあると指摘している。そのうちで、二人称が使えるものは<誘いかけ>だけで、それでも二人称が独立使用できなくて、その人称性という点、話し手と聞き手を含んだ一・二人称である。実例を調べてみても聞き手のみの動作に使う例は見つからなかった。

- 2) 「あてましょうか。いまシャボンこすりつけられているんでしょう。仰向けにされてー」(井上靖・あした来る人)
- 3) 「じゃあ、退院していただくとしましてー父が気を病むといけませんので、お食事でも御一緒にさせていただきますしょうか」(井上靖・あした来る人)

2) は自分の動作で、3) は聞き手を含む複数一人称「私たち」の動作であるからよいが、問題例は相手だけの動作に使ったため、まちがったのである。

### 16.2 「だろう」について

- 4) 私は来年結婚するでしょう (かも知れません)。

「でしょう」、「だろう」と「かもしれない」は中国語訳がおなじく「或许……吧」にされるのが普通である。そのせいで問題の誤用が起きたのであろう。「でしょう」、「だろう」という表現は普通第一人称が来ないと知られている。それに、『日本語文型辞典』にある「だろう」の21の例文に第一人称のものは一例もない。一方、「かもしれない」はどんな人称にも自由に使えることもみんなに知られている。ここまでの解説で問題例の訂正を十分説明できるだろう。それはそうであるが、問題例はともかく、「だろう」は本当に第一人称は使えないだろうか。実は仁田 (1991) では<未来における話し手の意志的動作の遂行>としてあげた例文には「僕は彼に投票するだろう」(p. 101) というものもあるし、コーパスの実例には次のような例文もある。

- 5) ……そのときこそ、私は早春の凜烈な大気に鼓舞されて、世にも晴れやかな裏切りでこの慣習を踏みにじるだろう。(金閣寺)
- 6) 私はあした山を越すだろう (日本戦後名詩百家集)
- 7) 私はまだこんなに若いのに、醜い頑固なおでこの下で、父の司っている死の世界と、若者たちの生の世界とが、戦争を媒介として、結ばれつつあるのを感じていた。私はその結び目になるだろう。(金閣寺)

動作はまず主動的に「する」動作と受動的に「なる」動作とに二分できる。5)、6)、7)はみんなある条件の下である動作をすることになるタイプであるので「だろう」を使っても不思議ではない。動作はまたウチの領域での場合とソトの領域での場合とに二分できる。問題例の「結婚する」という動作はウチの領域での動作で、他人と関係せずに自分だけでコントロールできる動作なので、「でしょう」を使うと抵抗が出てくる。それに対して、「投票する」という動作は他人とは関係がある動作で、つまりソトの領域での動作に属するため、使ってもさしつかえない。

ところで、同じ「結婚する」という動詞は、「だろう」にしたらどうであろうか。次の文をインフォーマントにチェックしてもらって見たらまったく思いがけない結果が出てきた。

- 8) 僕は彼女と結婚するだろう。○
- 9) 私は彼女と結婚するでしょう。○
- 10) 僕は来年結婚するだろう。○
- 11) 私は来年結婚するでしょう。△
- 12) 僕は彼に投票するだろう。○
- 13) 私は彼に投票するでしょう。○

このインフォーマントチェックに適當さがあるとすれば、さらにおもしろくなる。ほとんどの教科書、文法書、辞書では「だろう」と「でしょう」は文体の普通体と丁寧体の点で対立するが、意味としてはイコールすると解釈している。しかし、この説は前のテストで否定されたと言える。10) は言えるが、11) は抵抗感がある。これはどういうわけであろうか。やはり前述のウチの領域とソトの領域の問題にほかならない。「彼女と結婚する」と「彼に投票する」とは他人と関係する「ソトの領域で」の動作のため、「だろう」でも「でしょう」でもつかえるが、自分が「来年結婚する」は「ウチの領域で」の動作で、「だろう」は大丈夫が「でしょう」は不自然である。つまり、「でしょう」は「だろう」よりもっと領域性を気にし、もっと制限があるのである。そしてさらに仁田(1991)での「でしょうか」と「だろうか」の「聞き手存在発話」と「聞き手不在発話」の視点を導入してみてもっと明らかになる。「ソトの領域で」の動作なら、聞き手が存在するにしろ不在にしろ不自然でない。いっぽう、「ウチの領域で」の動作のほうでは、聞き手が不在なら、自分で独り言と考えられて納得できるが、聞き手が存在なら、つまり自分のうちの領域のことを聞き手に聞くことはありえないのである。

### 16.3 「はず」について

- 1 4) 学生は政治に関係するはずでしょうか（関係すべきでしょうか・関心をもつべきでしょうか）。学生は、勉強だけやればいいと言う人がいますが、私は（φ）成人している学生には、政治に関する（かかわる）権利と義務があると（私は）思います。
- 1 5) 私たちは明日までにこれを読むはずですか（読まなければなりませんか）。
- 1 6) この病気は治らないはずだろうか（のだろうか・はずだ）。

「はず」と「べき」はそれぞれ「成り行きの事態」と「当為判断」をあらわすモダリティ形式で、日本語では類義語とはみなさないのが普通であるが、中国語の訳語では同じ「应该」になるため、よく混同される。この2語の区別は実は上のモダリティの分類で十分明らかにしてある。問題は中国語の「应该」はその二つの意味をあらわしていることである。

- 1 7) 知识青年的到来，应该算是古今罕事，却也不给他任何惊动。/都会から若者が来たことは古今稀なことのはずなのに、老人には何の驚きももたらさない。（插队的故事）
- 1 8) 按照公认的标准，这位先生显然应该算是属于“资产阶级”的。/中国お家芸の物差しで計ると、氏はあきらかに「ブルジョアジー」に属するはずなのだ。（活动变人形）
- 1 9) 她说：“那时候刘溪几次说，男女生应该一起照张相。”/。「あの時劉溪が男女全員の写真を撮るべきだって何度も言ってたわ」と彼女が言う。（插队的故事）
- 2 0) 她是一个典型的贤妻良母，至少母亲对于我们解释贤妻良母的时候，她以为贤妻良母，应该是丈夫和子女的匡护者。/彼女は典型的な良妻賢母だった。少なくとも良妻賢母とはどんなものか、私たちにわからせようとするときには、夫と子どもの保護者であるべきだと考えていた。（关于女人）

14) は「成り行きの事態」の「はず」と「当為判断」の「べき」のモダリティ形式の混同のあやまりである。「应该」という訳語はやはりその類いの誤用の種だといえる。そして、中国で出版された中国語のかなり権威のある辞書、『现代汉语词典』での「应该」についての説明には「べき」しかないことは示唆に富んだことだと思われる。15) はやはり「成り行きの事態」と「当為判断」のモダリティ形式の混同のあやまりであるが、後者の形式は「べき」ではなく「なければならない」というところだけで14) とちがう。16) については、「はず」と「だろう」は2語とも「成り行きの事態」を表す形式であるが話者の自信の度合いには差がある。「はず」は自信に満ちたときに話す語で、「だろう」はあまり自信がないときに話す語である。文が成り立つというレベルで言うと両方ともいいが、あらわすニュアンスが違う。それゆえ、一緒に使うと意味が矛盾してしまうので不可である。

## 16.4 伝聞の「そうだ」について

- 2 1) 父は、夕食のとき、今日会社の近くに(で)火事があって20軒も家が焼けたそうです (という話をしました)。

伝聞の「そうだ」構文での命題とモダリティの関係は次のようである。

<u>彼は風邪を引いた</u>	<u>そうだ。</u>
命題	モダリティ

命題内の主語はせいぜい命題いっぱいにかかるだけだが、モダリティまではかからない。問題例では作者は主語を文の最後までかからせたがったようだが、実際「やけた」までしかかかっていない。主語の「父」を話者にするなら、「話をする」にしたほうがすっきりしている。

- 2 2) 祖母は若いとき、きれいだった (きれいだったそうです)。  
2 3) 祖母は背が高かった (高くなかったそうです)。  
2 4) 祖母は背が高かった (高いと聞きましたか)。

伝聞の「そうだ」は様態の「そうだ」と比べて、違いの一つとして、過去、否定、疑問の形式がない。訂正の方法としては過去、否定の場合(22)、23)、過去、否定を「そうだ」の前にして、疑問の場合(24)、ほかの言い回しにするほかはない。

## 16.5 「ようだ」について

- 2 5) たとえば、知らぬ(ない)人を見ると (見て) おとなしくなる (人・ことを)「借りてきた猫」(のようだ)といえます。  
2 6) 母はうらやましそうな顔をする (して)、広い家をほしがっています (るようでした)。

同じ「ようだ」の形であるが、25)と26)は異なるものである。前者は比況であり、後者は推量であるのである。中国語の訳語も区別せずにみんな「好像」と言う。もっとも、中国語の場合、「好像」を言っても言わなくても大した間違いにはならない。たとえば、「把……说成是借来的猫」と「把……说成好像借来的猫一样」とのどちらを言っても正しい文であるが、日本語の場合では「ようだ」がないと不自然になる。このような場合、中国人学習者は「ようだ」を用いない傾向がある。ようするに、確実にないことや徴候の存在を表現する場合、日本語は普通いきる文を使わず、推定・推量の外形が明示される文を使う。この日本語と中国語の特徴の違いに気をつけないと問題例の誤用をおかしがちである。

## 17 文体

日本語の文体はまず普通体と丁寧体と分けられ、さらに分けていくと普通体には文章に書く場合で使う「である体」と親しい友人、家族同士の場合で使う「だ体」がある。「である体」と「だ体」と対応する丁寧体の呼び方は「です・ます体」という。現代中国語のほうは一応「書面語句式（書き言葉文体）」と「口語句式（話し言葉文体）」があるが、近代の「言文一致運動」までのものと比べると、ほとんどかわらないと言っていいほど同じである。「しかし、『句式』の使用の頻度から見て、口語と書面語にはやはり区別がある。」（黄伯榮，廖序東 1983 p. 501）黄伯榮，廖序東 1983 ではその区別を下の三つにまとめた。①文の長さ＝口語は短い、書面語は長い。②接続詞＝口語は少ない、書面語は多い。③文語体＝口語では使わないが、書面語では使うことがある。それでも、中国語の文体の干渉は日本語学習にあまり影響を及ぼすことはないと思われる。日本語の文体は形と使い分けがはっきりしているためであろう。中国人学習者にとって文体のことは難しくないので、以下簡単にふれるにとどめることにする。

### 17.1 文末の文体

- 1) おまえはおれを甘く見るのですか（見ているのか）。
- 2) あいつは友達がどんなに困っていても、力を貸そうともしません（ない）。

宮地裕（1982）では日本語の待遇表現には語のレベルでは敬語、常語、卑語があり、それに対応して、文のレベルでは敬体、常体、卑体があると指摘している。上の1)の「おまえ」は常語としても卑語としても使えるが、少なくとも敬語として使わないので、それに対応する文体は常体であるべきである。2)の「あいつ」はあきらかに卑語であるが、2)の文では特に常体と卑体との区別がされていない。

### 17.2 節末の文体

- 3) 翻訳はまだいいが（ですが・のですが）、通訳は今の自分の手に余るものです（余ります）。

文体は文末で表現するのが普通であるが、節末の文体はより難しいと思われる。もしいつも節末の文体が文末の文体と一致していればいいが、一致しなければならない場合もあれば、一致した場合くどい感じを与えることもある。このようなケースは丁寧体文にのみ見られる。普通体の場合、文末は常体である以上、節末は常体であることは当たり前のことであると知られているが、丁寧体の場合、文末は敬体であるが、節末は常体も敬体も可能である。調べてみると、ほとんどの接続助詞は文末が敬体であっても、前節末は必ずしも敬体に限らない。その制約に限られるのは問題例の「が」のほかに、一部の「から」で

ある。次ではその類の実例を挙げる。

- 4) 「ぼくは酒三本とトンカツを食べて三百円払いました。その時は安いなと思って払ったんですが、あとで考えてみると、どうも、貴女の伝票ととつかえたのではないかと思うんです」(あした来る人)
- 5) 「お仕事は、大体お手紙で承畑していますが、しかし、出版はまず難しいですな」(あした来る人)

「が」のほうは文末が「ですます体」であるなら、前節末はかならず「ですます体」になる。によって、問題例3)は「ます」を補わなければならない。ところが、「から」のほうは必ずしもそうではないから、事情は複雑になる。

次は原文では「丁寧体+から」の形であるが、「普通体+から」で言い換えられる例である。

- 6) 「あれから毎日東京を方々歩き回ったんですが、その挙句の果に自動車にぶつかったんです(だ○)から、どうもあまり名誉なこととは言えません。東京の土を踏んだとたんに、少しどうかしてしまいました」(あした来る人)
- 7) 「今日は日曜です(だ○)から、静かです。いつもこんなではありません」(あした来る人)

次は原文では「普通体+から」の形であるが、「丁寧体+から」で言い換えられる例である。

- 8) 三沢のそこへ電話してみましよう。あいつ、ねちねちしたやつだ(です○)から、いつも一番遅くまで会社に居るんです。(あした来る人)
- 9) 会社の方の仕事が大変なんですよ。今夜は遅くなる(なります○)からやめましよう。それから、三沢が先刻来て明日みんなで会食したいというんです。お店の二階でやるようにしました。いいですね」(あした来る人)

次は原文では「丁寧体+から」の形であるが、「普通体+から」で言い換えると違和感がある例である。

- 10) 「そりゃあ危険でしょうね。雪崩も怖いですが、しかし、それより、文明国から遠ざかっています(る△)から、病気が怖いでしょうね。できれば、医者仲間を一人連れて行きたいですが」(あした来る人)

次は原文では「普通体+から」の形であるが、「丁寧体+から」で言い換えられない或いは違和感がある例である。

- 1 1) 暑い (暑いです△) から、お帰りになっていませんか。僕は夕方になると  
 思います。冬なら漁船の底びきに頼むんですが、夏は底びきをやらないので、一匹  
 一匹すくわなければならんです。(あした来る人)
- 1 2) 「そんなことなさる (なさいます\*) から、三沢さん一人お忙しくなるん  
 ですね。ほっとけばいい」(あした来る人)
- 1 3) リーダーということにしてやってあるんです。あいつが口をきくと、みん  
 な命令になる (なります△) から奇妙です。自分は何もしないで、命令するんだ (で  
 す○) から不思議ですよ。(あした来る人)
- 1 4) 浅井は百姓だから、百姓になるとあんな顔になるかと清に聞いてみたら、  
 そうじゃありません、あの人はうらなりの唐茄子ばかり食べる (食べます\*) か  
 ら、蒼くふくれるんですと教えてくれた。(坊ちゃん)
- 1 5) なに誰も居ない (ないです△) から大丈夫ですと、一寸おれの方を見た  
 が、わざと顔をそむけてにやにやと笑った。(坊ちゃん)

6)、7)、8) は名詞、ナ形容詞の場合、「ですから」も「だから」も使えることをもの  
 がたっている。しかし、「ですから」のほうがより多く使われる。1 0) から1 5) までは  
 動詞、イ形容詞の場合、「普通体+から」のほうが多用されることを意味する。ただし、「て  
 いる」の場合、「ているから」より「ていますから」のほうがより普通である。1 0) のほ  
 かに、中日対訳コーパスで調べた結果に、「ていますから」の例は3例あるが、「ているか  
 ら」は1例もない。といっても、「から」節の文体の問題はやはり、すなわち違和感がある、  
 不自然なものが多く、誤用にまで至るものはまだ少ない。

### 17.3 引用節の中の文体

- 1 6) 「日本語の勉強はとてもやさしいです (とてもやさしい・なんでもな  
 い。)」という人がたくさんいます。
- 1 7) 指導教官はやさしいですか (やさしいか)、よく指導してくださいますか  
 (指導してくださるか)といつも心配しています。
- 1 8) 会社の人、華僑大学はほかの大学と比べて少しも劣りません (劣らな  
 い)と考えを変えました。

「と思います」や「と言います」などの引用節の中の文体については初級の段階では、  
 誤用がそれほど多く見られないが、上の文は典型の引用文よりすこし変形しているため、  
 間違えたのであろう。実はいくら変形しても性質は不変で、つまり引用節内の文体は常体  
 にするのが原則である。1 6) は引用節+動詞の形で「人」を修飾する規定節を成してい  
 る。その規定節内部の引用節は節が節を含んで込み入ってくるのを避けて簡潔さを求める  
 ためにも、常体にすべきである。もう一つの理由としては、引用節のすぐそとにある引用  
 節を表す述語動詞「言う」は規定語になるため、常体の形であらわれている。つまり、引  
 用節の外さえ常体であるから引用節内部ではさらに常体にすべきであろう。言い換えると、

もし規定語ではないと、このようなかぎ括弧（「」）を使って直接引用というものは普通の引用文ではすすめたくないがまた許せる。なぜなら、『日本語文型辞典』p.18 では直接引用の例として「道子さんは「すぐに行きます」と言いました」という例を挙げて、その許せることを示しているが、すすめたくない理由は話し言葉では、「」があるかどうか表現できないからである。それに対して、17) は間接引用なのでどうしても常体であるべきである。18) はさらに典型的な引用文から遠ざかっており、直接引用とも無縁であるので、常体にしなければならない。

#### 第四部 結び 誤用の体系

以上で典型的な中国人学習者に見られる誤用例の一部を具体的に分析してきた。それらの一つ一つの、具体的な誤用例は決して雑然として無秩序なものではなく、それらの具体例から、それなりに対立と統一の両側面を有する系列として存在しており、全体的な構造＝体系をなしていることが見て取れる。このような体系をどのようにとらえるか、どのようにえがくか、そしてその体系はどういうことをものがたるかを、この第四部でかんがえることにしたい。

## 18 分布から見た体系

日本語学の研究にせよ日本語教育の研究にせよ、普通言語を音声、文字、語彙、文法などに分けて記述していく。このいくつかのカテゴリーに属する内容を学ぶ以上、これらのいずれのカテゴリーに誤用が現れるのはあたりまえのことである。ところが、誤用は、均等な分布を呈しているわけではない。まず、ある言語の母語話者がよく間違えやすい個別的な領域が異なる。たとえば、欧米などのような漢字を使わない言語を母語としての学習者より、中国人学習者は漢字の表記の誤りが少ないだろう。また、母語が違って学習者がひとしく難しく思うカテゴリーとやさしく思うカテゴリーがある。そのことによっても分布不均等を引き起こすのである。そういうことには注目すべきである。ここでの作業は、まず見られるかぎりの中国人学習者の誤用例、すなわち今度の研究のために収集したもの、および穂積（1987）にあるもの、国際交流基金（1980）にあるもの、佐治（1992）の第2部第2章と第3章で取り上げたもの、胡（1986）にあるもの、張（2001）で取り上げたものにもとづいて、日本語の各カテゴリーへの分布事情をしらべた。それから、その分布を面と量の両面から検討した。例えば前述した漢字の表記のあやまりは中国人学習者には全然ないわけではないが、英語系の学習者にくらべるとだいぶ少ないことは量的側面にも明確に出ていると思われる。

### 18.1 日本語のカテゴリー表で見た分布

まず日本語言語記述の体系に基づいて所有する誤用例を分類した。分類に加わる誤用例文の数は異なり例文数は1110で、延べ例文数は1385である（延べ例文数とはひとつの例文には複数の箇所に誤用があり、複数のカテゴリーに出るため文として重複計算するものである）。これらの誤用例は本研究のため、上海理工大学、蘭州商学院、浙江大学、浙江工业大学、浙江桜花外国語専修学校などの3年にわたる学生作文と（千葉大学松本先生の授業で取り扱った）中国出版物『日本語習慣表達速成』から取ったものなので、かなりの代表性を持つといえる。その誤用例集に該当カテゴリーにあたるものがない場合、前述した参考文献から借用した。ただし、借用するものは誤用例数と%の計算を省略する。その結果は次の表で示してあるようである。

日本語のカテゴリ		中国人学習者の誤用例	誤用例数	%	
音声	母音	へい (はい)、けいしゃ (かいしゃ) へ行きます			
	子音	有声音	「きれいで頭もいい」とひょうばん (ひょうばん) です。		
		無声音	日本語のぶんぼう (ぶんぼう) は難しいです。		
	音節	講師をはっけん (はけん) します。			
文字語彙	語類義語	名詞	そこには故宮や万里の長城など中国を代表する建物 (建造物・建築物)があります。	87	6.3
		動詞	改革開放以来、中国はきわめて大きな発展を <u>取りました</u> (遂げました)。	101	7.3
		形容詞	趣味はたくさんある。その中で一番 <u>久しい</u> (長い)のはピアノを弾くことだ。 勉強の中で一番 <u>上手な</u> のは(得意なのが)数学である彼女は…	22	1.6
		連語	(テニス)は大学で友達から教えてもらって、 <u>鍵を把握</u> しました(コツをつかみました)。	24	1.7
	慣用句	母は <u>気が早い</u> (気が短い)おこりっぽい人です。	16	1.2	
	交錯するもの	最近、徐志摩を <u>懐かしい</u> 思いため (偲ぶ動きが出てきて)「人間四月天」は映画になりました。	39	2.8	
	漢字・読み・表記	<u>こ使い</u> (小遣い) だけでは買えなかったので、アルバイトをして、欲しかったパソコンをやっと手に入れました。 ・ <u>気色</u> (気色) が悪い。 ・来月になれば体が <u>明る</u> (空く) と思うから、それでよければ、その仕事をお引き受けたいと思います。	7	0.5	
文法	品詞	東京の生活は <u>緊張だ</u> (緊張する) し、ストレスも多いし、大変だった。	25	1.8	
	名詞	テンス	その日は日曜日 <u>ですから</u> (でしたから)、道は人でいっぱいでした。	4	0.3
		代名詞	父は人を助けることが好きなので、みんな <u>彼</u> (父)を尊敬します。	7	0.5
		形式名詞	実は、ちょっと言いにくい <u>もの</u> (ん・こと) ですが…	43	3.1
		数量名詞	<u>五位</u> (五人) の立派な先生と出会えたので、必ず日本語は上達すると思います。	8	0.6
	動詞	アスペクト	小さい子供は外で <u>遊びたがっています</u> (遊びたがりません)。	61	4.4
テンス		私が彼女と友達に <u>なる</u> (なった)のは家が <u>近い</u> ですから (近いからです)。	36	2.6	

ヴォイス	受身・使役	英語が大好きだけれども、両親に日本語を勉強 <u>させ</u> ました(勉強させられました)。	27	1.9
	可能動詞	工業化があまり <u>進め</u> (進ま)ないため、村の若者はほとんど町や大都市へ行ってしまっ <u>て</u> 、そこで仕事を探して頑張っています。	18	1.3
	自発	私は <u>泣</u> いて(泣けて)しかたがありませんでした。	2	0.1
	やりもらい	まずきれいなプレゼントを選んで、店員にそれを <u>包</u> れました(包んでもらいました)。	16	1.2
	自動詞・他動詞	長い歴史は中国に豊かな文化遺産を <u>残</u> って(残すと)同時に根強い封建思想が(を)今でも <u>残</u> っています(残しています)。	24	1.7
	意志表現	なんとかうまく行 <u>こう</u> と(くように)工夫を凝らしました。	7	0.5
形容詞、連体詞		上海は、人の生活レベルも高いし、リズムも速いし、毎日 <u>忙</u> しいだ(忙しい)。	16	1.2
指示詞		2月5日、高中時代の友達3人と会った。 <u>あ</u> の日(その日)、私たちは一緒にインターネットをやったり、…	20	1.4
副詞		毎朝 <u>き</u> つと(必ず)ミルクを一本飲みます。	48	3.5
接続詞		春節はたのしいですが、忙しいです。特に大人がいそがしいです。一年間苦労したのだから、ちゃんと休むべきなのに、春節のために、もっと忙しくなってしまう。(また、)私のような世代にとっては、春節はつまらないと感じます。(しかし)例外の人たちもいます。子供です。春節にはお年玉をもらえるからです。	8	0.6
後置詞		改革開放につれて、欧米と日本を <u>始</u> めて(始め)、有名な外国の会社は北京で子会社を設立しました。	9	0.6
助詞	格助詞	足 <u>が</u> (を)怪我したからといって歩けないわけではない。	143	10.3
	並列助詞	毎日、親 <u>と</u> か(や)友達 <u>と</u> か(から) <u>か</u> かってくる電話が一杯です。	5	0.4
	接続助詞	私は今外地 <u>で</u> (の)大学で勉強しています <u>が</u> (から)、一家(は)一年に <u>二</u> 三 <u>月</u> (2, 3ヶ月)しか揃いません。	39	2.8
	取り立て助詞	鯨ほど大きい動物 <u>も</u> (は)いない。	51	3.7
	「は」と「が」	実は、僕と楊君の性格 <u>が</u> (は)逆だった。彼は正義感が強いし喧嘩上手で衝動的なひとだ。一方、僕は楽観的だし口がうまくて慎重なひとだ。こんなに違う2人は <u>が</u> どうしていい友達になれるのだろうか。	51	3.7

文 の 組 み 立 て	主語	(それを) <u>できるだけに作るようにしているが</u> (たくさん作ったほうが) ほかの人たちにも便利だと思います。	12	0.9
	述語	来年結婚するつもり (だ) から, お金を貯めるのは当たり前だ。	1	0.1
	題目語	上海に(は) どこへ行っても人も自転車も多くて道もバスもひどく込んでいる。	1	0.1
	状況語	<u>仕事、学習で、</u> (仕事や勉強のために) 昼食も簡単です。	32	2.3
	規定語	たぶん家に帰る前に(の) 上海は寒くなかった。だから <u>かえって</u> (帰った) あとは適応できなかったと思う。	13	0.9
	修飾語	<u>こんな(こんなに)</u> 時間が経っているのに、どうして自分の成績がまだわからないんだと思った。	10	0.7
	条件節	もう4年生ですから授業が少なくなって、以前より(と比べれば) そんなに忙しくはありません。毎日のんびり過ごしています。	26	1.9
	譲歩節	霊岩山、天平山、天池山などの山はとても有名な山だとはいえないが、 <u>観光にいったら</u> (行っても) 悪くないと思う。	4	0.3
	他の接続問題	母はうらやましそうな顔をするので (して), 広い家をほしがっているようでした。	39	2.8
	語順	主食はギョーザです。 <u>これはわたしが</u> (わたしはこれが) 大好きです。	8	0.6
	慣用的文型	朝から晩まで立ち <u>続いて</u> (っぱなしで) 仕事をしていたため、足が棒になりました。	60	4.3
	文のレベルの交錯するもの・文のすわりが悪い	<u>そんな仕方があった人はばかなんだと思った。</u> (そんなやりかたをする人はばかだとおもった)。 ・かれは首を長くして恋人の到着するの (φ) を待っています。	146	10.5
	敬讓語	先生は私のことを覚えてくださっているのでしょうか。長い間お会っていないから、 <u>忘れる</u> (お忘れになった) かもしれませんね。	19	1.4
モダリティー	このセーターは触ってみると確かにカシミヤ 100% <u>らしい</u> (のようだ)。	36	2.6	
文体	おまえはおれを甘く <u>見るのですか</u> (見ているのか)。	14	1	

## 18.2 言語記述の体系と誤用の体系—分類する作業について—

科学的な分類をしておかなければ正確な分布事情が見られない。かつ分類する前に項目を設定しなければならない。本研究の項目の設定と分類は日本語の言語記述の一般的な体系にしたがっておこなってきた。しかし、設定と分類とはまったく異質な仕事である。設

定は言語記述の決まった説に基づいておこなうので、わりあい簡単にできるが、分類は従える前例が少ない。具体的なあつかい方は次のようである。

(1) 語彙にある下位分類と文法にある下位分類にはそれぞれ名詞、動詞などの項目を設定しておくが、扱い分けは違う。語の意味に関するもの、例えば類義語すなわち異なる語の意味的選択などは語彙におさめ、それに対して同じ語の違う形式にする使用や文法的選択(例えば形式名詞の「もの」「こと」など)は文法にいられておいた。次の1)、2)、3)はそれぞれの例である。

- 1) 大学に入ってから、お金が自由に支配する(使う)ことが出来るので、友達と一緒に掛けるのはもう夢じゃなくなった。〈語彙〉
- 2) 崇明島は工業地区として開発しない(開発されない)から、汚染もひどくないし、空気もいい。〈文法〉
- 3) 先生は「ああ、今年は19年ぶりに国慶節と中秋節がいい塩梅に合うもん(ん)だね。1週間休めて、よかったね。」とおっしゃいました。〈文法〉

(2) 指示詞、副詞、接続詞、後置詞などは文法で扱うのが普通であるので、形式はほとんど語の選択しかないながら、〈語彙〉のほうでは扱わないことにした。それから、助詞は意味的選択よりむしろ文法的のほうへアプローチしているので、やはり〈語彙〉ではあつかわないことにした。このようなものは〈語彙〉に見出しだけ設けて「参照」のかたちであつかった。

(3) 特に多く見られるものは特別に項目を設けることにした。例えば、「は」と「が」の混用は比較的多いので、格助詞と取り立て助詞から分離して「は」と「が」という項目を作った。また、特別に項目を設けないまでも、接続に関するものは多いから、接続助詞、接続詞の項目を設けたうえに、さらに文の組み立ての下位項目として接続という項目を設けた。そこで接続助詞同士と接続詞同士以外の接続のものをあつかう。そこでは、

- 4) 「父は気が長く、無口な人ですが、母は気は短く、(短い)が朗らかな人です。」
- 5) みんなですしを食べて酒やビールを飲んだ。食べ終わって外に出てみると雨がやんでいたから(φ。それで)うっかりして傘を忘れて帰ってきた。
- 6) もう夏になりましたが(夏になり)、雨季も終わりました。

のようなものを対象とする。4)は接続助詞「が」のついた形を形容詞中止形にまちがえる例であり、5)は接続助詞と接続詞の間の誤用で、6)は動詞の中止形と接続助詞「が」のついた形の誤りである。いずれも単なる接続助詞だけ或いは接続詞だけに属するものではないものである。

(4) 一つのカテゴリあるいはレベルの中で選択して済まないものを交錯するものという項目を設けてあつかうことにした。

- 7) 「多くの日本人は中華料理が好きです。でも、中華料理は日本料理より(と比べる

と)かなりあぶらっこいです。」

- 8) ふるさとの気候は上海とだいたい同じです。海洋性気候で年間の降水量がいっぱい(多い)です。
- 9) 父の休みの時間は多いですから、私は子供のときから、母より父のほうが好きで親しいです(慕っています・仲がいいです)。

7) の「より」と「比べる」は品詞が違うので、助詞に入れるにしろ動詞に入れるにしろ不適當である。これと同じように、8) は名詞と形容詞とのまちがいで、9) は形容詞と動詞や慣用句との誤用である。このような複数のカテゴリーの間で用い違う誤用例を交錯するものとして捕らえる。そしてさらに、語より大きい単位の誤用をあつかうために、文のレベルの交錯するものという項目も設けられている。

(5) 主語、述語などの「語」と条件節などの「節」と区別して設けている。そのわけはというと主語節や述語節などのものはそれぞれ主語や述語の項目であつかうことができるが、条件節と譲歩節はその対応する「～語」という項目がないので別に設けるほかないからである。それに、条件節と譲歩節はほかの節より誤用が出やすいことも考えられる理由の一つである。

(6) 慣用的文型について。文型は『日本語文型辞典』(グループ・ジャマシイ 2001) では「文や節の意味・機能・用法にかかわる形式」と定義されている。かたちの慣用性、安定性、意味の専用性はその文型というものの特徴だといえよう。どちらかという、その組み合わせを統一体として捕らえなければならないといえる。たとえば、

- 1 0) 祖母の家は面を主食として(とする)、典型的な北方の食習慣をもっている。
- 1 1) 新学期の始まるにつれても(始まりとともに)、4年生になりました。日本語科の大学院生の試験を受験しようと思っておりますので……

のようなものは格助詞「と」、動詞「する」、接続助詞「て」とばらばらにとらえては問題解決にならないのはいうまでもないことである。このようなものは単語のレベルでは捕らえにくいし、誤用の注意もその組み合わせを統一体として行うことは便宜的であろう。によって、慣用的文型という項目を設けたのである。

(7) 文のレベルの交錯するもの・文のすわりが悪いものについて。この項目であつかうものは見出しで示してあるよう2種類である。前者は次のようなものである。

- 1 2) この人のやりかたは全然理解できない。そんな仕方があった人はばかなんだと思った。(そんなやりかたをする人はばかだとおもう)。
- 1 3) みんなですしを食べて酒やビールを飲んだ。終わってから雨がやんだ(食べ終わって外に出てみると雨がやんでいた)。それでうっかりして傘を忘れて帰ってきた。

これらの類いは交錯する点では<語彙>の 1.1.4 の「交錯するもの」と同じであるが、単位が違っている。語彙の交錯するものはただ語のレベル、すなわちふたつの異なる品詞の語を入れ替えるとすむものであり、「文のレベルの交錯するもの」は文字通り語より大きい単位＝文、句などの交錯するものをあつかう。

なお、「文のすわりが悪いもの」というのは、文の全体から見ると、なにか気にかかること、落ち着かないところがある文を指している。

- 1 4) 私と彼は切っても切れません (ない仲です)。
- 1 5) かれは首を長くして恋人の到着するの (φ) を待っています。
- 1 6) 問題の急所を突きます (突く)。

その文のレベルの交錯するものと文のすわりが悪いものの 2 種類にわければもっと理想だと思うが、分量の点からも、作業の難しさの点からも今回はそこまでできなかった。

## 19 間違えやすい特徴から見た体系

間違えやすい特徴はまず量から見られる。前掲した1.にある表で示した各項目間の量と比率の対照、および各項目内のよく見られるものからその体系を成している。量的に多いものは量的に少ないものと対立して存在している。その相対的な量から誤用の起きる事情が分かる。

### 19.1 語彙

<語の選択>にかかわる誤用が圧倒的で、語彙全296のうち289あり、98%を占めている。<語の選択>の全貌をつかむため、参照先の文法においてある指示詞、副詞、接続詞、後置詞、助詞を語彙に戻すことにした。そしてその総数は $285+373=658$ になる。そのうち助詞が一番多くて、288あり、間違えやすさをものがたっている。助詞の中でも格助詞が圧倒的で、141あり、約半分占めている。それからとりたて助詞と「は」と「が」で、それぞれ51と50ある。助詞に次ぐものは動詞と名詞で、それぞれ99と86ある。その次は48例の副詞である。

助詞が一番多い原因というと、まず中国語に日本語の助詞に対応するものはないことが挙げられる。中国語に助詞という品詞がちゃんとあるが、機能は日本語の助詞とまったく違う。たとえば動態助詞「着」「了」「过」はアスペクトを表わし、構造助詞「的」「地」「得」はそれぞれ規定語、状語、補語を表している。日本語のように名詞にかならず付けて名詞の語形をなしたり、複数の節をつないだりする働きを持つ助詞はまずない。日本語の助詞は中国人学習者にとってまったく不案内な、あたらしい存在であるので、よく間違えてしまうことは不思議ではないことである。中国語文法が分かっている学習者も中国語の助詞と日本語の助詞と同質なものと思ったり、対応して覚えようとしたりする人はいないだろう。一方、似ているカテゴリーに誤用が出やすく、まったく不案内なカテゴリーに誤用が出にくいという見方はありえそうだが、中国人学習者にとってはどちらかといえば、助詞の誤用に関しては、そうとも言えないのは事実であろう。

格助詞で一番多いのは「に」で、74例であり、2番は「で」で36である。「に」と「で」の混同する誤用以外に、「に」のほかの誤用も多いことが示されている。格助詞に誤用が多いということは以上の中国人学習者の不案内の理由のほかに、また格助詞そのものの量が多く、使用頻度もほかの助詞より高いこともあげられる。また、「は」の誤用が多いことは目立っている。「は」と「が」の項目の数も多いし、とりたて助詞にも一部（「が」とかわらないもの）はいつている。「は」は学習者にとっての難しさを示している。今回収集した誤用例集であまり見られない終助詞「ぞ」、「ぜ」などは、中国人学習者にとって難しくとはいえないが、学習者における使用頻度が低いことはその見つからない原因である。

誤用をめぐっては、名詞と動詞に関する数量が多い。まずあげられる原因は、中国語の場合と同様、日本語の名詞と動詞には類義語がたくさんあることである。名詞の例としては、「あと」と「のち」、「うち」と「あいだ」、「方面」と「面」、「見本」と「手本」などの

ようなものが挙げられる。動詞はたとえば「知る」と「分かる」、「困む」と「周る」、「申し込む」と「申請」、「定まる」と「決まる」、「独立」と「自立」、「思う」と「考える」などである。次に、日本語の名詞、動詞の中には漢語が多く、その中には中国語で使用されている語が日本語でもそのまま使用されているものがある。そこから生じる誤用として、中国語と日本語にともにあるが意味にズレがある語や日本語にない中国語の語を使ってしまう例が多く見られる。この種の誤用はほかの品詞にくらべて名詞と動詞に目立つ。第三に、助詞と同じように、語彙の総体の中で、名詞と動詞は数が多く、使用頻度も高いことが理由としてあげられる。

副詞も誤用の多い品詞である。しかし、その事情は前の助詞とも、名詞、動詞とも違うと思われる。副詞は中国語では名前も働きも同じ品詞があり、中国語の語を漢語としてそのまま使う恐れも少ないがよく間違える。実は副詞の類義語が一番難しいといえる面がある。日本語の副詞自体での類義表現の区別が複雑である。それに、副詞を中国語に訳す時、類義副詞間の訳し分けがなされていないことがある。その訳しわけされない訳語が原因になる。その訳し分けができないわけでもないが、ただ対応する訳語だけでは難しい。つまり訳語の上に説明や例文が加わるなら区別しやすくなる。たとえば「ぜひ」、「きっと」、「かならず」3語とも訳語は「一定」であるので、その使い分けは中国人にとってむずかしい。また、日本語の表現上の特徴、あるいはそれをもたらす民族性の下での細かな心理描写の必要があるのかとさえ思われるのだが、日本語の副詞系統は中国語より複雑で膨大であり、中国語との対応はよく複数対一の形を呈する。「とても」、「よほど」、「なかなか」、「すごく」、「けっこう」、「かなり」、「相当」、「わりあい」、「ずいぶん」、「だいぶ」、「たいそう」、「大変」、「非常に」、「すこぶる」、「おおいに」などがすべて「很」と訳せることはその一例である。

## 19.2 文法

文法にあらわれる誤用を量的に多いものからは順を追ってしめせば次のようになる。動詞が 227 (そのうちアスペクトが 63、ヴォイスが 62、自動詞・他動詞が 24 である)、名詞が 57 (そのうち形式名詞が 38 である)、接続が 39、モダリティが 36 である。

動詞のアスペクト、「ている」の問題が一番多く、45 例ある。その中で動作の持続や変化の結果の持続だとはっきり判断されるものはあまり多くない。それより事情が複雑で、「ゆるがせににした(にしていた)朝食が(を)重視されて(重視して)、栄養と便利さとおいしさ3つの方面(面)に配慮を加えるべきだ。」のように過去持続相を過去にしてしまうものや、「小さい子供は外で遊びたがっています(遊びたがります)。」のようになりたつ時間に関係のない命題のなかでの運動をなりたつ時間に関係のあるアクチュアルな運動を示す持続相の形にしてしまうものが多い。それから、「もう(φ)1級試験に合格してしまいました(合格しました)。」のような「てしまう」過剰使用と、「ものをむやみに食べて(しまったため)食中毒にした(になった)。」不足も見られる。それは「てしまう」と対応する表現は中国語にはないし、「話の展開のなかで場面を転換させるような変化や動作が成立することをあらわす」(高橋他 2003. p. 103) ことへの理解が不足していることに原因があるとい

える。「てくる」、「ていく」の誤用例はあまり見られないことはそれぞれ中国語に「～过来」、「～下去」という対応表現があるからそれほど難しくないことをものがたっている。

ヴォイスの誤用も少ないとはいえない。広義のヴォイスの内部つまり受身、使役、可能、ヤリモライにあらわれる分布は、大体 15 ずつで均等にみえる。そのなかで、ヤリモライを除いて残ったカテゴリーはいずれも中国語に対応表現があるが、表現のズレ、属性の判定（たとえば「可能」であるかどうか）など日中両国語が食い違うところが多いので、間違えやすいのである。

自動詞・他動詞の間違いは大体二分していいと思われる。一つ目は有対自他動詞をきちんと覚えておかないために起きた誤りで、たとえば「済む」と「済ませる」、「残る」と「残す」、「生まれる」と「生む」などである。二つ目は文法的自他動詞と論理的自他動詞による誤りで、たとえば「反対」などは「文法的自動詞である論理的他動詞」で、つまり「他のものにははたらきかける運動をあらわすもの」であるのに、「名詞の対格を支配するもの」でない類である。いいかえると日本語の立場から見ると自動詞であるが、中国語の立場から見て他動詞であるものは中国人学習者に誤用が多いところである。

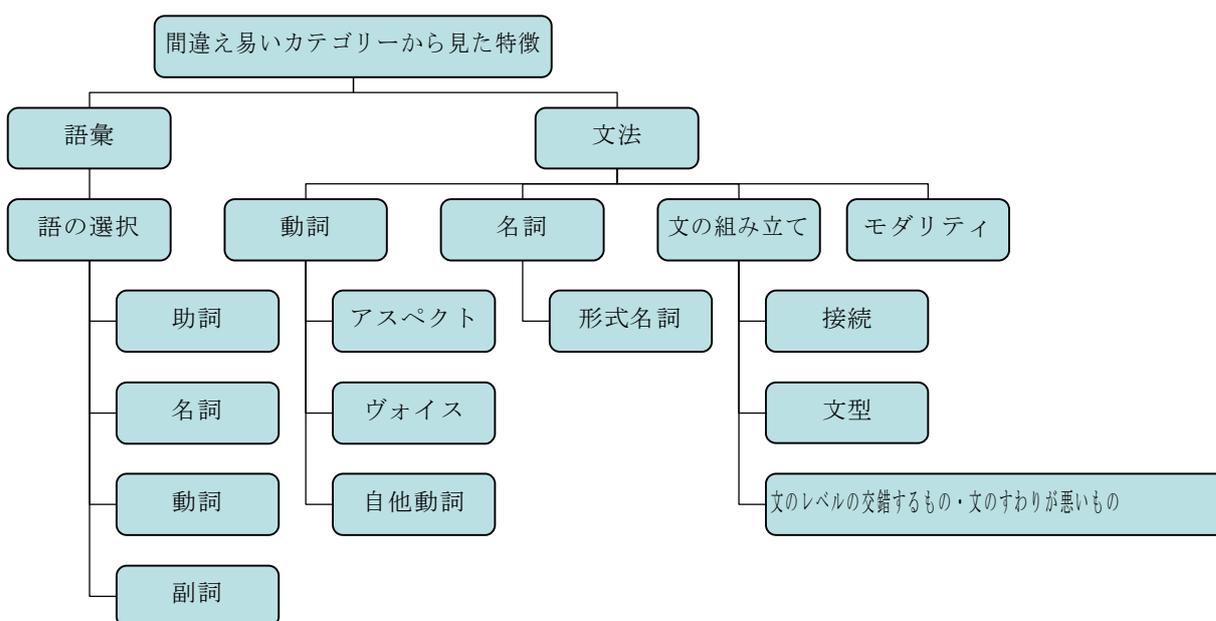
名詞の文法的な誤用には形式名詞が一番多く、38 例ある。「明日友達がアメリカから来るんです（来ます）から、空港へ迎えに行きます。」のような原因・理由をあらわす「のだ」の過剰使用は圧倒的に多く、15 ある。「のだ」は別に扱うべきだと思われるが、「もの」、「こと」という典型的な形式名詞と一緒にあつかうことができるという便宜をはかって、「の」もここにおさめたのである。「わがコーチは（が）私を水泳のプロ選手になりたい時（させたかった時）、私は学校教育を受け続くの（受け続けること）を選びました。」のような「こと」、「もの」、「の」の混用は 13 ある。「結婚式では、赤ほど楽しみの気持ちを表すのが（に）いい色のこと（ $\phi$ ）はないと思っています。」のような形式名詞の使用過剰と「日本語の勉強を始めたばかりのころはその中で（ $\phi$ ）難しい言葉を（や）わからない（こと）や（を）日本語で先生と（に）相談できないに（ないので・なかったので）心配しました（困りました）。」のような使用不足は 6 例ある。形式名詞は中国人学習者にとってはまったく新しい概念であるため、どんな場合に使うかわかりにくい上、また「の」、「もの」、「こと」の使い分けもむずかしい。とくに「の」とほかの 2 語の使い分けが身につけにくいという嘆きをよく耳にする。

接続はそもそも接続詞、接続助詞とそれら以外の接続問題の三部分からなっているが、前二者は語の選択の問題であるので、この 39 例はもっぱら後者のものである。実はこのような接続問題は事情がさまざまであり、まとめて言うことは難しい。ようするに、長い文章を作る場合、どこで文を切って、どこでつながっていいか、その切ったりつながったりするところで何の接続形式を用いるかは実に困る作業である。その数が多いのはいろいろな接続のケースが多いことも原因の一つで、そのなかに特に中国語母語話者にとって難しいものもあれば、ほかの外国語母語話者にとって難しいものもある。「国際市場の米ドルの変動のわけ（変動により・変動のため）、輸出が大変になりました。」は「わけ」と「ため」の中訳語はおなじく「因为」であることから前者の例だと見られ、「夏休みも終り（終りましたが）、先生は今年の夏はどこへ（どこかへ）お出かけになりましたか？」は誤用も正用も中国語とは関係がないので後者の例だとみなされる。

モダリティは、命題を包みこんでいる層状構造をなし、内容も多岐にわたっているカテゴリーの一つである。その誤用はモダリティを担う具体的な形式に現れる。推量の誤用は一番多く、10例あり、つづいて意志、比況、誘いかけなどが多い。また「成り行き的事態」の「はず」と「当為判断」の「べき」との使い分けが中国人学習者にとって特に難しく、そこは誤用を犯しやすいところである。

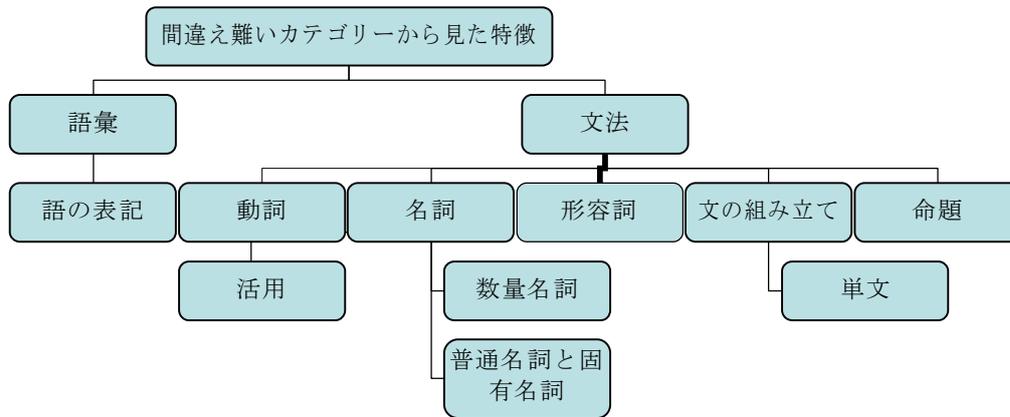
以上のほかに<慣用的文型>と<文のレベルの交錯するもの・文のすわりが悪いもの>に属するものは多くて、それぞれ60と144ある。<文型>に入れたものは、『日本語文型辞典』にある項目を基準にして収録した。そのなかに「彼は打ち出す矢玉も（を）事（もの）ともせず、突進しました」のように文型の形式を間違えてしまうものもあれば、「それにしても（それにしては）」のように意味論上の類義語的文型の誤りもある。「交錯するもの」は文字とおり複数の原因による誤用の部類である。学習が進むにつれて複雑な内容を一文にもりこもうという学習者の意図も強くなるせいもあって、誤用が単一のものから複数のものにかけて発展していく。たとえば、「最近、徐志摩を懐かしい思いため（偲ぶ動きが出てきて）「人間四月天」も（は映画に）になりました。」の誤用を見ると、語の選択、文型、接続の3方面にわたって問題がある。「文のすわりが悪いもの」というのは誤用とまでは言えないがなんか違和感が感じられるものである。それと判定する際に、他の誤用に比べてよくゆれが見られることもあって、扱った例はわずかしかないが、ほかの原因と交錯しているものは、「交錯するもの」と一項目にした。例えば「私と彼は切っても切れません（ない仲です）。」のようなものである。この項目は総合的な性格を持って、つまり、今までの単一のものと違って、単一のものの集まりからなるものなので、数が多いのは当然であろう。

この間違いやすいカテゴリーから見た特徴を図にすると次のようになる。



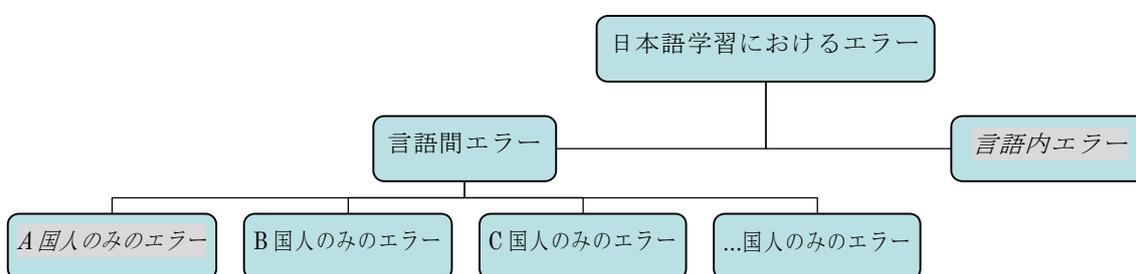
ちなみに、間違いやすいものと間違いにくいものとの対立・統一からなる体系をみるため、上図と対立する間違いにくいカテゴリーについて簡単にふれておきたい。上図を対照

的に参照する上に、誤用例集を全面的に検討したところ、相対的に間違いにくいカテゴリーから見た特徴は下図で示せる。



## 20 原因から見た体系

前2章の分析にも出ていたことだが、誤用の原因から見ると、中国人学習者の誤用は大別すれば、中国語母語話者のみが犯す誤用と他言語を母語とする日本語学習者もともに犯す誤用の2種類がある。前者は中国語に原因があり、第二言語習得研究で言語間エラーと言われるものである。後者は日本語に原因があり、第二言語習得研究では言語内エラーと言う。言語間エラーは中国語母語話者の日本語学習の際の誤用だけに限られるものではなく、各言語の使い手の日本語学習の際にもあらわれるものである。つまり中国人のみが犯す誤用とはイコールの関係ではなくて、中国人のみが犯す誤用を含んで、一つ一つの国の人のみが犯す誤用の全体が言語間エラーといえるはずである。その対立する関係は下図で示される。



ある一国の学習者に見られるエラーはその国の人のみ犯すエラー=A 国人のみのエラーと、どの国の人も犯すエラー=言語内エラーからなっている。以下、日本語学習におけるエラー全体を構築する一部分である、中国人学習者に見られるエラーを原因別で見えていくことにする。

### 20.1 中国人の誤用における言語間エラー

中国語の母語干渉には漢字語彙の干渉と訳語の干渉がある。漢字語彙の干渉というと、たとえば、「士兵(兵士)」、「大賽(大会)」のように日本語にない漢語を中国語のままに使ってしまうことがまず挙げられる。二つ目は「うれしいのは日本語科の学生を招募している(募集している)会社が…」、「日本語の専業(専攻である日本語)を勉強(勉強する)にしたがって、…」のような日本語にある語であるが、意味とか使う場面とか使いやすさなどが日中では違うもの、つまり同字異義語とのものである。漢字語彙の干渉は語彙の領域だけではなくて文法の領域にも入り込んでいることがある。たとえば、「乾燥は雨が少なくて空気が乾燥です(乾燥しています)」、「自分の大学生生活を充実に送る(充実させる)つもりです。」は品詞の誤用の例である。「乾燥」や「充実」はそのまま中国語にあるが、2語とも中国語では形容詞であるため、上の誤用が起きたのである。名詞、動詞などの主な品詞以外にも漢字語彙の干渉が見られる。「私の父はコックです。だから私に対して(とって)一番幸せな事は父の作った料理を食べるの(こと)です。」は後置詞の誤用の問題である。中国語では「に

対して」も「にとって」も同じく介詞「对」が用いられることから、中国語の漢字語彙「对」をそのまま日本語に持ち込んだのである。

訳語の干渉というのは、日本語の中国語訳に由来する干渉を指している。この場合漢字と関係ない。たとえば、「彼女のお母さんはとてもやさしくて、たくさんの料理を作ってくれた。料理はけっこう(とても)おいしかった。」の「けっこう」と「とても」は中国語になると同じく「很」になるので、中国人が「很」という意味をあらわしたい場合適語を選ぶことがむずかしい。「毎朝きっと(必ず)ミルクを一本飲みます。」「毎年休み時(休みの時には)、ぜひ(必ず)面会します(会います)。」のなかの「きっと」、「かならず」、「ぜひ」は中国語になおすとみんな「一定」であり、「おいしかったため(ので)、たくさん食べました。」場合の「ため」と「ので」はみんな「因为」であることもその例である。訳語の干渉は単語だけではなく、連語や文型のレベルでもみられる。「この学校は宿題が多いと聞いていましたが、それにしても (それにしては) 行きたい人は多いです。」のなかの「それにしても」も「それにしては」も中国語訳は同様で「尽管如此」であるのでそれによる誤用に中国語訳語の干渉がはっきり見える。「とおりがいい」という連語は辞書の訳語に「評判がいい」の意味の「名声好」「受欢迎」があるせいで、中国人学習者は辞書の訳語から理解して、中国語の「名声好」「受欢迎」という意味を表したいときかかってに「とおりがいい」を使ってしまうのである。「彼女に仕事をやめたほうがいと謎をかけ (アドバイス) しました。」の原因はやはり「謎をかける」の訳語には「委婉地说 (遠まわしに言う)」があるからである。

中国人における言語間エラーにもう一つあるのは中国人学習者の特有のストラテジーによるものである。これは間接的な母語干渉と考えられる。たとえば、中国語はテンス性が弱いために、中国語母語話者にはテンスのイメージが薄い。によって学習者はよく「現在まで起きたことはすべて『た』形を使う」という学習者独自の単純化されすぎた文法を作りがちである。そのストラテジーは日本語の絶対的テンスの<過去>と相対的テンスの<前過去>の区別を無視して前過去の「していた」を「した」に間違える原因となる。「張さんは料理作りに忙しいうちに私は (料理に忙しいというのに私はその間) テレビばかり見た (テレビばかり見ていた)。」はその例である。それから、「私は昨日大学の映画館で映画を拝見しました (見ました)。」の謙譲語過剰使用の誤用は、学習者の「自分の動作は謙譲語を使い、目上の人の動作は尊敬語を使う」という日本語敬語の相対的な特徴を無視する独自の文法が原因であるとおもわれる。

## 20.2 日本語の言語内エラー

言語内エラーとみなすことのできる誤用は少なくとも次の二つの条件に適合している必要がある。一つ目は母語干渉によるものでない誤用、二つ目は複数の外国語母語話者が共通して犯す誤用のことである。次では分けて見ていくことにする。

### 20.2.1 中国人の母語干渉によるものでない誤用

このようなものについては今回の誤用例集で調べてみたところ、下記の特徴は見られる。

1. 数量と比率。延べ例数 1378 のうちに、母語干渉によるものと認めるもの（誤用例集に「●」がつけてあるものである。その判別基準という、まず今回の誤用例集にある、対照研究方法論開発班（1980）『日本語教育教材（母語別）シリーズ 2・外国人の日本語作文に見られる誤用例集』にないものを、それから両方ともあるが、中国語の干渉がはっきり見られるいわゆる母語干渉によるものと複数の外国語母語話者が共通して犯す誤用が重なるケース（20.2.3 を参照）を母語干渉によるものと認める）は 502 例あり、残ったものは母語干渉によるものでないもので、876 例あり、それぞれ 36% と 64% を占めている。その統計結果は中国人学習者の誤用における母語干渉、つまり中国語からの干渉が原因になるものの比率が、それほど高くないことを物語っている。言い換えれば、中国人の日本語学習に見られるエラーのうちでは、言語間エラーより言語内エラーが多い。項目別で見ると、格助詞、「は」と「が」、接続などが比率から見て高いほうであり、語の選択の名詞、品詞、使役と受身などが低いほうである。高い上 10 位と低い上 10 位は下の表で示すとおりである。

項目	総例数	母語干渉によるものでない誤用例数	%
2.3.5 意志表現	7	7	100
2.9.1 格助詞	142	142	100
2.9.2 並列助詞	5	5	100
2.9.5 「は」と「が」	51	51	100
2.10.1 主語	12	12	100
2.10.5 規定語	13	13	100
2.10.6 修飾語	10	10	100
2.10.7 条件節	26	26	100
2.10.8 譲歩節	4	4	100
2.10.9 接続	39	39	100
1.1.1.1 名詞	86	31	36
1.1.3 慣用句	14	5	36
2.1 品詞	25	11	44
2.2.1 (名詞) テンス	4	0	0
2.2.2 代名詞	7	1	14
2.2.4 数量名詞	8	1	13
2.3.3.1 使役と受身	26	11	42
2.3.3.3 自発	2	0	0
2.3.3.4 やりもらい	16	6	38
2.5 指示詞	20	6	30

2. 上の統計からわかるように、誤用の原因が母語干渉でないのに多く犯すものは語彙よ

り文法のほうが多いように見える。さらに深く言うと、文法の内部では動詞より助詞のほうが多いように見える。助詞の中では<「は」と「が」>はわりと多い。ようするに、特徴というと、内容的なものより形式的なものほうには、意味とかかわるものよりかわらないもののほうには母語干渉が少ない。動詞のテンス、アスペクト、ヴォイスなどはこの例である。また、中国語にあるがズレをもつ項目より中国語にまったくない項目のほうに母語干渉が少ない。助詞はこの例であるといえる。そして語彙の中でもその特徴が見られる。つまり、中国語にあるが意味やニュアンスが違う語は母語干渉の影響を受けやすく、中国語にない語はその影響を受けにくい。「学校で勉強した知識が(では)足りなくて、面(範囲)が狭いと思いました。」は前者の例であり、「(宴会の時) 私たちが美味しい料理を食べているうちに(あいだ)彼らは一口も食べていなかった。」は後者の例である。

3. 誤用の原因が母語干渉でないのに中国人学習者が多く間違いを犯すのはいったいどういうわけであろうか。それは少なくとも次の理由を挙げられる。まず中国語と日本語は同じ系統でないと言っても、同じように漢字語が大量に使われる。漢語の語の意味だけでなく、語構成のルールまで両国語と同じものがたくさんある。このことに恵まれると、中国人が日本語を勉強する場合、母語干渉という負の転移だけではなく、正の転移も多くあることになる。だとすれば負の転移の多い言語の母語話者より、母語干渉による誤用は少ないはずである。その代わりに相対的にその母語干渉によるものでないものが多いように見えてくるのではないか。次は日本語自身に原因があると言われている。そのために類似点を持つ少数の言葉以外に多種の言語を母語とする学習者にとっては日本語はまったく面識がないものである。すると、日本語学習にあたって出現する母語の影響が薄いから、目標言語の影響にしたがって誤用が起きるほかはないので、複数の学習者が単数の同じ影響を受けて同じ誤用を犯すことになったのである。

## 20.2.2 複数の外国語母語話者が共通して犯す誤用

複数の外国語母語話者が共通して犯す誤用という、文字どおり日本語を学習すれば、かならずどの国の学習者も犯す可能性があるものである。すなわち、そのような誤用は中国人も例外なく犯すものである。本研究の誤用例集と対照するため、対照研究方法論開発班(1980)『日本語教育教材(母語別)シリーズ 2・外国人の日本語作文に見られる誤用例集』に載っている中国人以外の国の人によって作られた実例を借用してその辺の事情を解明したい。その本から借用するものの訂正する方法はうちのと違うところと言うと、1文のなかで複数の箇所にも誤用がある場合、該当項目に当たるもののみ訂正するという断っておきたい。

中国人以外の学習者が犯す日本語言語内エラーの誤用例は次のようなものがある。

日本語のカテゴリ			誤用例	原書ページ
語彙	語の	名詞	あっちこっち畑で働いている <u>人々</u> (人たち)を見えていた。	1

の 選 択	動詞	それを見てみたいへん <u>喜んだ</u> (うれしかった)。	23	
	形容詞	文法の規則の説明は <u>明らか</u> (明確) です。	35	
	指示詞	私にとって <u>その</u> (この) 夏休みのことをいい経験でした。	21	
	副詞	電車とバスはよく (しょっちゅう) 満員です。	36	
	接続詞	そして私は日本のしろのちしきを少し知りました。 <u>そして</u> (それで) 日本のれきしが少しわかりました。	176	
	連語	このしけんは9月6日と7日にある <u>にちがいありません</u> (ことになっています)。	148	
文 法	名 詞	テンス	全部美しい所です (だった) から又見たいとおもいます。	64
		代名詞	毎日毎日彼は林へはたらきに行きました。 <u>彼</u> (父) の帰ると私たち子どもと母がうれしかったです。	3
		形式名詞	冬休みの終りに大阪へ帰る <u>こと</u> (の) がたいへんでした。	46
		数量名詞	その後 <u>に三つ</u> (三本) たいまつ使いました。	16
	動 詞	活用	一週間に五日月曜日から働き (働い) っていました。	49
		アスペクト	私は学生です、アムステルダムの大学で歴史学を勉強し (してい) ます。	57
		テンス	この読んだ <u>だ</u> (む) 本はたいてい図書館でかりました。 時々私は自分で本をかいました <u>した</u> (す)。	68
		ヴォイス	占いの重要さをびっくりさせ (られ) ました。	51
		自動詞・他動詞	お父さんとお母さんはクリスマスのパーティの写真をよ <u>くうつし</u> (によくうつってい) ました。	51
		可能動詞	そのように、起こったときの出来事についての意見を <u>知られた</u> (知ることができた) から、大変おもしろかった仕事である。	52
		やりもらい	みんなが婚約者と私のしあわせを祈って乾杯し (てくれ) ました。	192
		意志表現	私は九大でDNA代謝の研究をする (しよう) とおもいます。	68
	形容詞	<u>もっとおそく</u> 、(もうすこし大きくなって) フルートを習いました。	33	
	接続詞	ことはきれいなおとと <u>と</u> (で、また) きれいなかたちをしています。	173	
	助 詞	格助詞	仙台の町は車 <u>で</u> (が) いっぱいで、たいへんさわがしいです。	96
		並列助詞	電車に乗っている間外の山 <u>とか</u> (や) 村 <u>と</u> (や) 村の人々 <u>とか</u> (や) 畑を見えていた。	139

	取り立て助詞	ですから音楽会へ（は）たびたび行きます。	91
	「は」と「が」	ほとんどみなさんは（が）大阪外国語大学でべんきょうしました。	76
	慣用的文型	私の日本のたいざいは <u>ためになります</u> （有益です）。	35
	敬讓語	今ごろ先生 <u>どんなことを研究して</u> い（おられ）ますか。	190
	文体	日本史は全部の時代に興味を <u>持っているが</u> （いますか）、とくに政治と経済の長い発達がおもしろいです。	209

言うまでもなく、これらの外国人は自分の国の言葉の影響を受けて、言語間エラーもかならず犯すのである。たとえば、英語の複数表現の影響で「その南米の人々（人）は四人すんでいました」（p.4）と言ったり、「play football」の干渉によって「サッカーをあそびます」（p.143）と言ったりすることもある。このようなものは日本語学習者のエラー体系の一部になるが、本研究の対象にはならない。それに対して、上の表のなかのものは作者は同じであるが、本研究の対象になる。その関係は次のようになる。

中国人が犯す言語間エラー＋中国人が犯す言語内エラー＝中国人が犯すエラー  
 アメリカ人が犯す言語間エラー＋アメリカ人が犯す言語内エラー＝アメリカ人が犯すエラー  
 インド人が犯す言語間エラー＋インド人が犯す言語内エラー＝インド人が犯すエラー  
 韓国人が犯す言語間エラー＋韓国人が犯す言語内エラー＝韓国人が犯すエラー  
 ……  
 そして、中国人が犯すエラー＋アメリカ人が犯すエラー＋インド人が犯すエラー＋韓国人が犯すエラー＋……＝日本語学習者の誤用体系

### 20.2.3 母語干渉によるものと複数の外国語母語話者が共通して犯す誤用が重なるケース

ふつう、母語干渉によるものでない誤用と複数の外国語母語話者が共通して犯す誤用と一致するはずである。そういうことはもはや例の二つの誤用例集で調査した結果でも実証された。たとえば、本研究の誤用例集にある母語干渉でないものの多くみえる文法、文法の内部の助詞、助詞の中では<「は」と「が」>は、ちょうど複数の外国語母語話者が共通して犯す誤用の多く見えるものであって、前述の結論に見事にあてはまっている。ところが、これとまったく逆で、母語干渉によるものと複数の外国語母語話者が共通して犯す誤用が重なるケースも多くはないが見られる。たとえば、

- 17) 父は人を助けることが好きなので、みんな彼（父）を尊敬します。
- 18) 彼（父）の帰ると私たち子どもと母がうれしかったです。（p.3）
- 19) 上海で一番有名な料理店は「緑波廊」という名前だ。鄧小平はあそこ（そ

こ)の料理が大好き(大好きだ)そうで、…

20) 十二月三十一日に「          」(原文のまま)へ行きました。あそこ(そこ)は  
天気が暖かくなりました。(p.17)

17) については中国人は平気で自分の家族のことを「彼」と言うのに対して日本人は言わないという事実を前の『7.2 代名詞』の章で述べたが、18) では同じ誤用が見られる。それはスウェーデン人学習者の手によって作られたものである。少なくともスウェーデン語では「彼」を言うことを許すと認められる。19) については日本語の三項対立と中国語の二項対立の違いによるものと指摘されたが、後の誤用例集には20) およびおなじような誤用はまたいくつか見られる。国別と言うと、20) はイタリア人で、そのほかにタイ人 (p.18)、カナダ人 (p.19)、フィリピン人 (p.21) にもその誤用が見られる。それは日本語の三項対立と反対する言葉が中国語だけではなく、もっと多いことを物語っている。この場合では中国語母語干渉によるものと複数の外国語母語話者が共通しておかす誤用が重なるケースとなっている。このケースはこのケースよりずっとおおくの前述の「母語干渉によるものでない誤用と複数の外国語母語話者が共通しておかす誤用と一致する」ケースの補充だと言えよう。このことは複数の外国語母語話者が共通しておかす誤用はかならずしも母語干渉によるものでない誤用だけとは限らないことも物語っている。

## 21 終りに

以上第二部と第三部で語彙と文法に分けて中国人学習者に見られる誤用を具体的に分析してきた。第四部はその体系をちがう角度からとらえるようにつとめてきた。一つの研究対象に対して、分析的な方法と総合的な方法とむすびつけて研究すれば一番理想的だともわれる。誤用の研究も例外ではない。項目別にあるいはさらに例文別に研究することは分析的な研究であり、その項目別の研究の集合として、誤用を全面的にとらえるための体系への研究は総合的な研究である。誤用は言語学習上の病気である。項目別の研究は具体の病気をなおすために不可欠なことで、体系の研究は総合的に病因をとらえて、とりのぞくストラテジーをたてるには役にたつことである。このように、本研究は中国人学習者に見られる誤用という病気を根本的になおす方法をあきらかにすることを目指してのこころみである。筆者のレベルと時間の関係で不十分なところはまだまだあると思われる。このテーマに関心をもつかたがたからの批判・助言を待ちたい。

## 参考文献

(日本で発表したものは50音順、中国で発表したものはピンイン順)

- amazon ホームページ (<http://www.amazon.co.jp>) (2004年12月31日) 和書、誤用
- 愛知大学中日大辞典編纂処編 1986『中日大辞典増訂版』大修館書店
- 天沼寧、大坪一夫、水谷修 1987『日本語音声学』くろしお出版
- 荒川清秀 1997「日本語名詞のトコロ(空間)性—中国語との関連で—」大河内康憲編『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版
- アンリ・フレエ著小林英夫訳 1973『誤用の文法』みすず書房
- 庵功雄、高梨信乃、中西久実子、山田敏弘 2001『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』株式会社スリーエーネットワーク
- 石綿敏雄、高田誠 1990『対照言語学』桜楓社
- 市川保子 1997『日本語誤用例文小辞典』凡人社
- 市川保子 1989「取り立て助詞『ハ』の誤用」『日本語教育』67pp159-172 日本語教育学会
- 市川保子 1990「中国系留学生の誤用とその対策—『は』と『が』を中心に—」井上和子編『日本語の普遍性と個別性に関する理論的及び実証的研究研究報告(6B)』平成元年度科学研究費補助金特別推進研究(1) pp395-408
- 市川保子 2000『続 日本語誤用例文小辞典』凡人社
- 稲垣滋子 1985「誤用分析(1)-(6)」『日本語学』4.1-4.6 明治書院
- 岩岡登代子、岡本きはみ 1993『外国人のための日本語例文・問題シリーズ3 動詞』荒竹出版(ppxxiv-xxv)
- 遠藤織枝 1978「作文における誤用例—モスクワ大学での場合」『日本語教育』34pp35-46 日本語教育学会
- 王忻 2001a「受身構文の成立に関する動詞条件」『国文学解釈と鑑賞』66-7pp76-85
- 大曾美恵子 1986-1987「誤用分析(1)-(6)」『日本語学』5.9-6.2 明治書院
- 北川千里、鎌田修、井口厚夫 1988『外国人のための日本語例文・問題シリーズ7 助詞』荒竹出版
- 金田一京助(ほか) 1989『新明解国語辞典』三省堂
- 金田一春彦 1988『日本語 新版』岩波書店
- 国広哲弥 1992『日本語誤用 慣用小辞典』講談社
- グループ・ジャマシイ 1999『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 言語会研究会 1983『日本語文法 連語論』(資料編) むぎ書房刊
- 小池生夫(監) 1994『第二言語習得研究に基づく最新の英語教育』SLA研究会(編) 大修館書店
- 小泉 保等 1989『日本語基本動詞用法辞典』大修館書店
- 小金丸春美 1990a「『のだ』の誤用例分析」井上和子編『日本語の普遍性と個別性に関する理論的及び実証的研究研究報告(6B)』平成元年度科学研究費補助金特別推進研究(1) pp419-430

- 小金丸春美 1990b 「作文における『のだ』の誤用例分析」『日本語教育』71pp182-196 日本語教育学会
- 国際交流基金 1995 『日本への招待一文法と語彙一』 凡人社
- 国際交流基金 2004 「『2003年海外日本語教育機関調査』結果概要(速報)」国際交流基金ホームページ([http : www.jpf.go.jp](http://www.jpf.go.jp)12月31日)
- 国立国語研究所 1984 『日本語教育指導参考書 13 語彙の研究と教育 (上)』 大蔵省印刷局
- 国立国語研究所 1985 『日本語教育指導参考書 13 語彙の研究と教育 (下)』 大蔵省印刷局
- 国立国語研究所 1987 『日本語教育指導参考書 8 日本語の指示詞』 大蔵省印刷局
- 小林典子 1987 「外国人日本語学習者による副用語の誤用一誤用例の分類の試み一」『日本語教育論集』3pp29-47 筑波大学留学生教育センター
- 迫田久美子 2002 『日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク
- 迫田久美子 1999 『中間言語研究』溪水社
- 佐治圭三 1978 「共起の条件一外国人の誤用例から一」阪倉篤義監修『論集・日本文学・日本語 5 現代』pp246-265
- 佐治圭三 1978 「誤用例の検討一その一例一」『日本語教育』34pp21-34 日本語教育学会
- 佐治圭三 1991 「誤用例分析の一例」『日本語学』10-2pp26-33 明治書院
- 佐治圭三 1992 『外国人が間違えやすい日本語の表現の研究』ひつじ書房
- 白石大二 1979 『国語慣用句大辞典』東京堂出版
- 鈴木重幸 1996 『形態論序説』ひつじ書房
- 鈴木忍 1978 「文法上の誤用例から何を学ぶか一格助詞を中心にして一」『日本語教育』34pp1-14 日本語教育学会
- 関正昭 1990 『外国人に教える日本語の文化』一光社
- 対照研究方法論開発班 1980 『外国人の日本語作文に見られる誤用例集』
- 高橋太郎 [他著] 2005 『日本語の文法』ひつじ書房
- 高見澤孟ほか 1999 『はじめての日本語教育[基本用語事典]』アスク
- 田窪行則 1987 「誤用分析(1)-(7)」『日本語学』6、4-10 明治書院
- 武部良明 1982 『文章の書き方』第一法規
- 武部良明 1989 『講座日本語と日本語教育・第8巻 日本語の文字・表記(上)』明治書院
- 武光 誠 1995 『誤用だらけの日本語の謎』青春出版社
- 玉村文郎 2001 『日本語学を学ぶ人のために』世界思想社
- 茅野直子、仁科喜久子 1978 「学生の誤用例の分析と教授法への応用」『日本語教育』34pp57-66 日本語教育学会
- 張威 1998 『結果可能表現一日本語・中国語対照研究の立場から一』くろしお出版
- 張麟声 2001 『日本語教育のための誤用分析』スリーエーネットワーク
- 寺村秀夫 1981 『日本語の文法(下)』国立国語研究所
- 寺村秀夫 1982 『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版
- 寺村秀夫 1984 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 寺村秀夫 1991 『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版

- 徳川宗賢、宮島達夫 1972 「類義語概説」『類義語辞典』東京堂出版 pp1-9
- 長友和彦 1993 「日本語の中間言語研究—概観—」『日本語教育』81pp1-18 日本語教育学会
- 中村一男 1965 『反対語大辞典』東京堂出版
- 名柄迪、茅野直子 1989 『外国人のための日本語例文・問題シリーズ9 文体』荒竹出版社
- 新村 出編 1998 『広辞苑』岩波書店
- 西尾実、岩淵悦太郎、水谷静夫 1979 『岩波国語辞典』岩波書店
- 仁田義雄 1991 『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 仁田義雄 1997 『日本語文法研究序説—日本語の記述文法を目指して—』くろしお出版
- 仁田義雄 1999 「モダリティを求めて」『言語』p 34 大修館書店
- 日本語教育学会 1978 『日本語教育』34 特集「文法上の誤用例から何を学ぶか」
- 日本語教育学会編 1982 『日本語教育事典』大修館書店
- 日本語誤用例学会 1997 『類似表現の使い分けと指導法』アルク
- 沼田善子 1992 『「も」「だけ」「さえ」など—とりたて—』くろしお出版
- 野田尚史 1996 『「は」と「が」』くろしお出版
- 林四郎、元菊郎、南不二男 1987 『例解新国語辞典』三省堂
- 平林よしすけほか 1988 『外国人のための日本語例文 問題シリーズ2 助詞』荒竹出版
- 馮富栄 2000 『日本語学習者にむける母語の影響—中国人を対象として—』風間書房
- 広田紀子、中西家栄子 1996 『外国人のための日本語例文・問題シリーズ2 助詞』荒竹出版
- 文化庁編 1971 『外国人ための基本語用例辞典』大蔵省印刷局
- 北京・対外経済貿易大学、北京・商務印書館、小学館共同編集 2002 『日中辞典』小学館
- 松村明 1971 『日本文法大辞典』明治書院
- 水谷信子 1984 「誤用分析(1)-(6)」『日本語学』3.4-9 明治書院
- 水谷信子 1994 『実例で学ぶ誤用分析の方法—日本語の教え方実践マニュアル』アルク
- 宮崎茂子、新屋映子 1985-1986 「誤用分析(1)-(6)」『日本語学』4.11-5.4 明治書院
- 宮地裕 1982 「相對敬語」『日本語教育事典』大修館書店 p.230
- 宮島達夫、仁田義雄 1995 『日本語類義表現の文法(上)(下)』くろしお出版
- 宮島達夫 1996 「カテゴリー的多義性」『日本語文法の諸問題』ひつじ書房(鈴木泰、角田太作編) 収
- 村木新次郎(1991) 『日本語動詞の諸相』ひつじ書房
- 明治書院企画編 1997 『日本語誤用分析』明治書院
- 森田良行 1980 『基礎日本語2—意味と使い方』角川書店
- 森田良行 1983 「誤用分析(1)-(10)」『日本語学』2.6-3.3 明治書院
- 森田良行 1984 『基礎日本語3—意味と使い方』角川書店
- 森田良行 1985 『誤用文の分析と研究—日本語学への提言—』明治書院
- 森田良行 2000 「同音語・多義語」『講座 日本語と日本語教育 第6巻 日本語の語彙・意味(上)』明治書院(玉村文郎編) 収
- 葉照子 1990 「初級日本語学習者における『ノダ』使用例からみた誤用の類型について」『九州大学留学生教育センター紀要』2pp171-183 九州大学留学生教育センター

- 横林宙世、下村彰子 1988『外国人のための日本語例文・問題シリーズ 6 接続の表現』荒竹出版
- 吉川武時 1978「誤用例による研究の意義と方法」『日本語教育』34pp15-20 日本語教育学会
- 吉川武時 1982-1983「誤用分析(1)-(6)」『日本語学』1.11-2.4 明治書院
- 吕叔湘主編、牛島徳次、菱沼 透監訳 2003『中国語文法用例辞典』東方書店
- 北京大学汉语语言学研究中心 语料库 2005年1月29日 <http://ccl.pku.edu.cn/>
- 常波涛『日语惯用句型手册』1999年1月
- 大连外国语学院『新日汉辞典』增订版编写组 1997『新日汉词典』辽宁人民出版社
- 段克勤 2001『日语习惯表达速成』世界图书出版公司
- 胡振平 1986『日语病句剖析二百例』上海译文出版社
- 黄伯荣、廖序东 1983『现代汉语（修订本）（上、下）』甘肃人民出版社
- 黄长春、林书武等译 1981『语言与语言学词典』上海辞书出版社
- 吉林大学汉日词典编辑部 1982『汉日词典』吉林人民出版社
- 金健生 1988「日语敬语的误用」『日語学习』1pp57-58
- 鈴木康之主編日本大东文化大学日语语法研究会編纂彭广陆编译 1999『概说现代日语语法』吉林教育出版社
- 刘桂云、常波涛『标准日语惯用句』2002年7月
- 青兰 1989a「正误辨析 1」『日语知识』5pp24-26
- 青兰 1989b「正误辨析 2」『日语知识』6pp12-16
- 青兰 1989c「正误辨析 3」『日语知识』7pp7-9
- 青兰 1989d「正误辨析 4」『日语知识』8pp7-9
- 张青蓝 1989「正误辨析 5」『日语知识』9pp14-17
- 青蓝 1989a「正误辨析 6」『日语知识』10pp24-26
- 青蓝 1989b「正误辨析 7」『日语知识』11pp33-36
- 青蓝 1989c「正误辨析 8」『日语知识』12pp13-17
- 人民教育出版社光村图书出版株式会社编 2005『新版中日交流标准日本语 初级上』人民教育出版社
- 森田良行著张青蓝編訳 1990 a「病句分析与研究」『日语知识』1pp2-6
- 森田良行著张青蓝編訳 1990 b「病句分析与研究」『日语知识』2pp2-5
- 森田良行著张青蓝編訳 1990 c「病句分析与研究」『日语知识』3pp2-5
- 森田良行著张青蓝編訳 1990 d「病句分析与研究」『日语知识』4pp2-7
- 森田良行著张青蓝編訳 1990 e「病句分析与研究」『日语知识』5pp2-6
- 森田良行著张青蓝編訳 1990 f「病句分析与研究」『日语知识』6pp2-7
- 森田良行著张青蓝編訳 1990 g「病句分析与研究」『日语知识』7pp2-7
- 森田良行著张青蓝編訳 1990 h「病句分析与研究」『日语知识』8pp7-11
- 森田良行著张青蓝編訳 1990 i「病句分析与研究」『日语知识』9pp6-9
- 森田良行著张青蓝編訳 1990 j「病句分析与研究」『日语知识』10pp6-10

- 森田良行著张青蓝編訳 1990 k「病句分析与研究」『日语知识』11pp6-10
- 森田良行著张青蓝編訳 1990 l「病句分析与研究」『日语知识』12pp7-10
- 沈国华 1988「病句两例析」『日语学习』5pp51-56
- 穗积晃子著、顾海根、李强訳 1987『中国人学日语常见病句分析一百例』科学普及出版社
- 穗积晃子 1984「教室误用例」『日语学习与研究』6pp94-112
- 思净 1985「病句分析」『日语学习与研究』5p87
- 孫明久『日语词组与句型手册』1985年12月中国农业机械出版社
- 王忻 2001b『新日语语法—时、体、态、语气』外文出版社
- 王忻 2005「“に”格动作主功能统一下的语态性表达——日语态范畴及“に”格方向性的再认定」『日语学习与研究』3pp10-16
- 王运丽编译 1992a「被动表现的误用问题（上）」『日语知识』3pp6-7
- 王运丽编译 1992b「被动表现的误用问题（下）」『日语知识』4pp11-12
- 王振昆、谢文庆、刘振锋 1983『语言学基础』中央广播电视大学出版社
- 吴爱莲 1989「容易误用的词及惯用语」『日语知识』1pp27-30
- 夏征农主编 2000『辞海（缩印本）』上海辞书出版社
- 徐宝妹、许慈惠 1995『留日学生学日语错句解析』上海外语教育出版社
- 徐一平 1999『日本语言』高等教育出版社
- 于进江 1991「日语误用琐谈」『日语知识』12pp22-23
- 赵福泉 2000『日语语法疑难辨析』上海外语教育出版社
- 赵福泉 1988『日语常用同义词词典』商务印书馆
- 中国社会科学院语言研究所词典编纂室编 2005『现代汉语词典 第5版』商务印书馆
- 周炎輝 1979『日语惯用型』人民教育出版社
- 佐治圭三、刘金才、郭胜华 1983「誤用例の検討（1）——動詞の誤用例（その1）」『日语学习与研究』1pp75-82
- 佐治圭三 1983a「誤用例の検討（2）——動詞の誤用例（その2）」『日语学习与研究』2pp83-89
- 佐治圭三 1983b「誤用例の検討（3）——動詞の誤用例（その3）」『日语学习与研究』3pp83-89
- 佐治圭三 1983c「誤用例の検討（4）——動詞の誤用例（その4）」『日语学习与研究』4pp83-90
- 佐治圭三 1983d「誤用例の検討（5）——動詞の誤用例（その5）」『日语学习与研究』5pp73-79
- 佐治圭三 1983e「誤用例の検討（6）——動詞の誤用例（その6）」『日语学习与研究』6pp75-82
- 佐治圭三 1984a「誤用例の検討（7）——動詞の誤用例（その7）」『日语学习与研究』1pp99-106
- 佐治圭三 1984b「誤用例の検討（8）——動詞の誤用例（その8）」『日语学习与研究』2pp97-100
- 佐治圭三 1984c「誤用例の検討（9）——動詞の誤用例（その9）」『日语学习与研究』4pp92-97
- 佐治圭三 1984d「誤用例の検討（10）——動詞の誤用例（その10）」『日语学习与研究』5pp94-99
- 佐治圭三 1984e「誤用例の検討（11）——使役、受身、自発、可能に関する誤用例」『日语学习与研究』6pp94-112
- 佐治圭三 1985a「誤用例の検討（12）——使役、受身、自発、可能に関する誤用例」『日

语学习与研究』 1pp6-9

佐治圭三 1985b 「誤用例の検討（1 3）——使役、受身、自発、可能に関する誤用例」『日  
语学习与研究』 6pp28-32

朱万清 1981 「日语敬语表现和一些错误用例」『日语学习与研究』 2pp37-40

Cordor,P. (1967) Singificance of learners' errors. International Review of Applied  
Linguistics 5:pp161-169

Selinker,L. (1972) Interlanguage,International Review of Applied Linguistics  
10:pp209-231

## 引用例文出典一覧

赤川次郎・女社長に乾杯！

阿川弘之・山本五十六

アクティブ【Arabica <http://zks.ec-shopping.net/active/products/arabica/2005> 年 4 月 20 日】

安部公房・砂の女(原文)/杨炳辰、张义素等・砂女(訳文)

池波正太郎・剣客商売 まゆ墨の金ちゃん

石川淳・葦手

石川達一・青春の蹉跎(原文)/金中・青春的蹉跎(訳文)

石川啄木・天鷲絨

五木寛之・風に吹かれて

井上ひさし・ブンとフン

井上靖・ある落日

井上靖・あした来る人(原文)/林少华・情系明天(訳文)

井伏鱒二・黒い雨(原文)/柯毅文、顔景镐・黒雨(訳文)

遠藤周作・沈黙

大岡昇平・野火(原文)/尚侠等・野火(訳文)

岡本綺堂・半七捕物帳 冬の金魚

岡本常男・心の危機管理術(原文)/顺应自然的生存哲学(訳文)

乙武洋匡・五体不満足(原文)/鄧颺・五体不満足(訳文)

開高健・巨人と玩具

川端康成・雪国(原文)/叶谓渠・雪国(訳文 1)

川端康成・雪国(原文)/高慧勤・雪国(訳文 2)

菊池寛・入れ札

北杜夫・楡家の人びと・第2部

北杜夫・楡家の人びと・第3部

木村哲也・日本戦後名詩百家集(原文)/罗兴典・日本战后名诗百家集(訳文)

桑原隲藏・歴史上より観たる南支那の開発 [www.aozora.gr.jp/cards/000372/files/3667\\_14888.html](http://www.aozora.gr.jp/cards/000372/files/3667_14888.html) - 23k - 2005年4月12日

琴似屯田ホームページ [www.bekkoame.ne.jp/~hera/kotoni/tondenhei7.html](http://www.bekkoame.ne.jp/~hera/kotoni/tondenhei7.html) - 9k - 2005年4月12日

コナン・ドイル/三上於菟吉訳・自転車嬢の危難

小林秀雄・西行

沢木耕太郎・一瞬の夏

椎名誠・新橋烏森口青春篇

塩野七生・コンスタンティノーブルの陥落

司馬遼太郎・国盗り物語 06・斎藤道三

島崎藤村・破戒（原文）/柯毅文、陈德文・破戒（訳文）  
相馬愛蔵・私の小売商道  
曾野綾子・太郎物語・高校編  
太宰治・斜陽（原文）/张嘉林・斜阳（訳文）  
立原正秋・冬の旅  
田中角栄・日本列島改造論/秦新・日本列島改造論  
谷崎潤一郎・痴人の愛（原文）/郭来舜、戴璨之・痴人之爱（訳文）  
田辺聖子・新源氏物語  
田山花袋・布団（原文）/黄凤英・棉被（訳文）  
寺田寅彦・自由画稿 [www.aozora.gr.jp/cards/000042/files/2504\\_9355.html](http://www.aozora.gr.jp/cards/000042/files/2504_9355.html) - 140k - 2005  
年4月13日  
中澤次郎、鈴木芳正・ひとりっ子の上手な育て方（原文）/何明・独生子女优育法（訳文）  
夏目漱石・彼岸過迄  
夏目漱石・坊ちゃん（原文）/哥儿（訳文）  
夏目漱石・こころ（原文）/董学昌・心（訳文1）  
夏目漱石・こころ（原文）/周大勇・心（訳文2）  
新田次郎・孤高の人1 山麓  
新田次郎・孤高の人3 風雪  
新田次郎・孤高の人4.山頂  
平川祐弘・マッテオ・リッチ伝（原文）/刘岸伟、徐一平・利玛窦传（訳文）  
藤原正彦・若き数学者のアメリカ  
星新一・人民は弱し官吏は強し  
堀辰雄・美しい村  
堀辰雄・風立ちぬ  
松本清張・点と線  
三浦綾子・塩狩峠  
三島由紀夫・金閣寺（原文）/焦同仁、李征・金閣寺（訳文）  
水上勉・越前竹人形（原文）/越前竹偶（訳文）  
水上勉・雁の寺  
宮本輝・錦繡  
宮本百合子・獄中への手紙・一九四〇年（昭和十五年）  
武者小路実篤・友情（原文）/冯朝阳・友情（訳文）  
村上春樹・世界の終わり  
村上春樹・ノルウェイの森（原文）/林少华・挪威的森林（訳文）  
山本周五郎・さぶ  
山本有三・路傍の石  
横光利一・純粹小説論 [www.aozora.gr.jp/cards/000168/files/2152\\_6546.html](http://www.aozora.gr.jp/cards/000168/files/2152_6546.html) - 45k - 2005  
年4月13日  
渡辺淳一・花埋み

夢咲ラジオトップ <http://yatai.cx/yume/html/01-yumeradiotop.html>

課題提出システム [ylb.jp/2003a/challenge/08/08\\_20030613.html](http://ylb.jp/2003a/challenge/08/08_20030613.html) - 580k -2005. 3.31

輸送機材の動員体系 [chorea.hp.infoseek.co.jp/dprk/gsd/mobilization/chapter3.htm](http://chorea.hp.infoseek.co.jp/dprk/gsd/mobilization/chapter3.htm) -  
7k -2005年4月12日

陈建功・盖棺(原文)/岸陽子、斎藤泰治・棺を蓋いて(訳文)

邓小平文选第二卷(原文)/鄧小平文選2(訳文)

戴厚英・人啊，人(原文)/大石智良・ああ、人間よ(訳文)

浩然・金光大道(原文)/神福勇夫ら・輝ける道(訳文)

金冲及・毛泽东传(原文)/毛沢東伝(訳文)

刘心武・钟鼓楼(原文)/鐘鼓楼(訳文)

鲁彦周・天云山传奇(原文)/天雲山伝奇(訳文)

毛毛・我的父亲邓小平(原文)/長堀祐造・わが父鄧小平(1)(訳文)

莫言・红高粱(原文)/赤い高粱(訳文)

人大报告96(原文)/全人大報告(96)(訳文)

人大报告97(原文)/全人大報告(97)(訳文)

人大报告99(原文)/全人大報告(99)(訳文)

湛容・人到中年(原文)/林芳・人、中年に到るや(訳文)

史铁生・插队的故事(原文)/遙かなる大地(訳文)

王蒙・活动变人形(原文)/林芳・応報(訳文)

謝冰心・关于女人(原文)/竹内実・女の人について(訳文)

杨沫・青春之歌(原文)/島田政雄、三好一・青春の歌(訳文)

张海迪・轮椅上的梦(原文)/飯塚陽・車椅子の上の夢(訳文)

中日外交两个基本文件(原文)/日中外交基本二文書(訳文)

周而复・上海的早晨(原文)/岡本隆三、伊藤敬一・上海の朝(訳文)

THE TOKYO SYMPHONY CONCERT INFORMATION

[http://www.tokyosymphony.com/calendar05/suntory\\_spring.html](http://www.tokyosymphony.com/calendar05/suntory_spring.html)2005.4.20.

付 録 誤用例集

## 目 次

凡 例	176
1 語彙編	177
1.1 語の選択	177
1.1.1 単語	177
1.1.1.1 名詞	177
1.1.1.2 動詞	182
1.1.1.3 形容詞	188
1.1.1.4 指示詞 (2.5「指示詞」を参照)	189
1.1.1.5 副詞 (2.6「副詞」を参照)	189
1.1.1.6 接続詞 (2.7「接続詞」を参照)	189
1.1.1.7 後置詞 (2.8「後置詞」を参照)	189
1.1.1.8 助詞 (2.9「助詞」を参照)	189
1.1.2 連語	189
1.1.3 慣用句	190
1.1.4 交錯するもの	191
1.2 語の表記	193
2 文法編	194
2.1 品詞	194
2.2 名詞	195
2.2.1 テンス	195
2.2.2 代名詞	196
2.2.3 形式名詞	196
2.2.4 数量名詞	198
2.3 動詞	199
2.3.1 アスペクト	199
2.3.2 テンス	202
2.3.3 ヴォイス	204
2.3.3.1 受身と使役	204
2.3.3.2 可能動詞	205
2.3.3.3 自発	206
2.3.3.4 やりもらい	206
2.3.4 自動詞・他動詞	207
2.3.5 意志表現	208
2.4 形容詞、連体詞	208
2.5 指示詞	209
2.6 副詞	211

2.7	接続詞	213
2.8	後置詞	214
2.9	助詞	215
2.9.1	格助詞	215
2.9.2	並列助詞	222
2.9.3	接続助詞	223
2.9.4	取り立て助詞	225
2.9.5	「は」と「が」	227
2.10	文の組み立て	230
2.10.1	主語	230
2.10.2	述語	231
2.10.3	題目語	231
2.10.4	状況語	231
2.10.5	規定語	233
2.10.6	修飾語	234
2.10.7	条件節	235
2.10.8	譲歩節	236
2.10.9	接続	237
2.10.9.1	接続助詞(2.9.3「接続助詞」を参照)	237
2.10.9.2	接続詞(2.7「接続詞」を参照)	237
2.10.9.3	他の接続の問題	237
2.10.10	語順	239
2.10.11	慣用的文型	240
2.10.12	文のレベルの交錯するもの・文のすわりが悪いもの	243
2.11	敬讓語	251
2.12	モダリティ	252
2.13	文体	254

## 凡 例

- 例 1 人の話に相づちを打ちます(つ)。 下線は誤用で、括弧内は訂正。
- 例 2 どこ△(でで)もいい子になろう(っ)たって、それはむだですよ。 前に下線がなく括弧だけのところは単に追加。
- 例 3 今、中国では( )顔の一番(一番顔の)売れ(てい)るスターは誰ですか。  
は取り消すべきもの。
- 例 4 彼女は三人の子供の教育に気を入れて(くばって・つかって)います。 括弧の中の・は「或いは」という意味。
- 例 5 私は(が)母に電話をかけると同時に母が帰りました(帰ってきました)。 1文に間違いが2箇所以上ある場合、該当する分類に当たるものはゴシックで示す。
- 例 6 麻薬販売者がありったけの(どれだけ・考えつく限りの)知恵を絞っているいろいろなやり方[を使って・で]麻薬を携帯しても(持ち込んでも)厳密な検査の目をくぐることが(は)できない。 [・]誤用でない使える語句を並べる場合。  
なお、 をつけたのは母語干渉によるものである。

# 1 語彙編

## 1.1 語の選択

### 1.1.1 単語

#### 1.1.1.1 名詞

- 1) 市民の素質(意識)を提高する(高める・向上させる)のも大切なことです。今政府はこの方面(この面)に力を致しています(力を入れています・力を注いでいます)。
- 2) そこには故宮や万里の長城など中国を代表する建物(建造物・建築物)があります。
- 3) 欧米人が 中略 新しい文化と生活方式(生活様式)をも持ってきた。だから、上海は多くの国の文化が集まった。例えばイギリスの謹厳、フランスのロマンチック、アメリカの奔放、スペインの快適。
- 4) 今年(今年、)北京が(は)オリンピック大会の開催する権力(開催)を申し込んでいます(申請しています)。
- 5) 上海で一番有名な料理店は「緑波廊」という名前だ。鄧小平はあそこ(そこ)の料理が大好き(大好きだ)そうで、あとで(後に)アメリカの大統領やイギリスの女王もあそこ(そこ)へ行ったことがある(行っていた)。あの(その)店は主に上海料理を作るが、四川料理も北京料理も広東料理も(四川料理、北京料理、広東料理なども)作る。とにかく、何がおいしいなら(おいしいものなら)何を(なんでも)作る。
- 6) 今(現在)、科学技術の運用を通したり(導入や)暖房を造ったりしてから(使い始めてから)、私たちは一年中様々な時令(時期・季節)の野菜を食べられます。  
その上( )、学校の食堂のご弁当はあまりおいしくなくて、種類もいつまでも(いつでも)ほんのすこしだけの(しか)料理が並んでいます(並んでいません)から、一週間に一回ぐらい校内のレストランへ食べにいきます。
- 7) 1週間の実習を通じて、経験ばかりでなく、人間関係も勉強しました。そして、仕事のつらさも感じました。学校で勉強した知識が(では)足りなくて、面(範囲)が狭いと思いました。
- 8) (宴会の時)私たちが美味しい料理を食べているうちに(あいだ)彼らは一口も食べていなかった。大変だった。それは(これは)風習だ。私は(が)将来結婚すれば、(するときは)こんな結婚式はいらない。
- 9) つんぼ(聾者)はお互いにわかる手ぶり(手話)で付き合います。そのてぶり(手話)の(も)一種の言葉だといえるでしょう。
- 10) 私からみれば、南方の食と北方の食と(南方と北方の食文化)の一番な(一番の)区別(違い)は南方の主食が(は)米で北方の主食が(は)小麦粉だと思います(だということ)です)。
- 11) (習字)最初、見本(手本)を見なければならなかった。
- 12) 空手は中国から日本に伝わった(伝えられた)格闘の技術(格闘技)といえよう。
- 13) ネットの用途はいろいろあります。例えば、メール、ジャット(チャット)、情報の読み(情報収集)、電子ビジネス等等(等)です。

- 14) 私は音楽、特に古典音楽が苦手ですが、音楽をリラックス(リラックスするために)一つの方法とみます(方法にしています・方法だと思っています)。疲れの時(疲れた時)、ベッドに入って、好きな流り歌(流行歌)を聞くのは(聞くと)よくリラックスです(リラックスできます)。
- 15) 卓球と比べてテニスはかなり重いです(激しいです・きついです)。室外の運動で少しやったら、汗が出ます(屋外の運動で、すこしやったら汗が出ます)。
- 16) しかし、中学生になると、どういうわけか、絵画に対する趣味(興味)がだんだん衰えるようになりました(衰えてしまいました)。
- 17) 今(現在)たくさんの農民が転業しています。
- 18) 各国の商人が上海へ商売しに行ったから(来たから・来たので)立派な港や近代化な工場が立てられた。すると(そして)近代中国の最初の工業都会(工業都市)となった。
- 19) 多くの外資企業は(が)浦東新区に入りました。あそこで(そこに)ビルを建てて海外子会社(海外の子会社・海外法人)を設立しました。浦東は今日ごろに(日増しに)繁栄になっています(しています)。
- 20) 旅行(観光)のほかに上海も(は)中国の経済中心と言われています。
- 21) 世界経済が一体化している今日、中国は別の国(他の国)としっかり繋がられて(繋がって)いると思います。
- 22) ふるさとの気候は上海とたいてい(だいたい)同じです。海洋性気候で全年(年間)の降水量がいっぱい(多い)です。梅雨入りになると、雨が降り続けて家具や、服や、ふとんなどが(に)かびを(が)はやして(はえて)しまいます。
- 23) もっとも便利な交通工具(交通手段)は自転車だと思っています。
- 24) どうして上海は中国第一(の)大都会と認める(認められる)のか、答えはその魅力にある。上海は別の(他の)都会がもたず(持たない)中西文化が完璧に融合して(融合した)特別な美を持っているから(持っているからだ)。
- 25) 経済面で勢いよく発展している。鋼鉄(鉄鋼)や服装や(服飾、) 化工(化学工業)などの企業がある。
- 26) 例えば、大連はまだ大きな雪(大雪)を(が)降っている時に(いるのに)、深圳はもう春のようにしています(なっています)。
- 27) 改革開放につれて、欧米(欧米)と日本を始めて(始め)、有名な外国の会社は北京で子会社を設立しました。
- 28) 蘇州に(には)人工的な庭園だけでなく、郊外の自然風景資源さえ(自然)もある。
- 29) 崇明島は工業区(工業地区)として開発しない(開発されない)から、汚染もひどくないし、空気もいい。
- 30) 私の学校はいい地理(立地条件)におきます(あります)。
- 31) 今の義烏は2005年に現代化の大都市(大都市化)になることを狙っています(目標としています)。
- 32) 中国で3番目(に)大きい島です。蚕という(蚕のような)形で、揚子江の入り口にありすから、もう一つの東方の珠(真珠)とも呼ばれています。
- 33) 豫園から東へ10分歩くと、バンドに着きます。そこで(では)、外国の建物

- が見えます(見られます)。中国人の自分の手によって建った(建てられた)東方明珠タワーがバンドの向こう(向い)に立っています。バンドで(では)、豫園とすっかり(まったく)違う風景が見えます(見られます)。
- 34) 中国は長江を分離線(境界線)として南方や(と)北方が2つ主な(2つの主な)気候をしている(に分かれている)。
- 35) またふるさとは、唐初(唐代初期)に建てた(建てられた)独楽寺があります。中略 そして、いろいろな民族(民芸品)、例えば、泥人形、旧正月に飾る絵なども伝わってき(い)ます。それらは特に、旧正月になると、見えます(見られます)。
- 36) 国の人々(国民)も積極的に進んだ科学、文化を勉強して(学んで)、国の発展のために、自分の力を貢献(貢献)しなくてはならない。
- 37) 今、政府は水下トンネル(川底トンネル・海底トンネル)を造るという企画を作ります(たてています)。
- 38) 村役場にたくさんの奨励のもの(賞状やたて)が並んでいる。
- 39) 友だちと一緒に証券交易所(証券取引所)へ株券を買ったり売ったりしに(株の売買に)行きます。
- 40) 父は長兄(長男)です。
- 41) 私は普通の時(普段)、上海の学校で勉強していますから、父と母兩人だけ家にいます(父と母の2人だけが家にいます・父と母の2人しか家にいません)。
- 42) 父親は今年もう50歳になりました。人生の半部分(半分を)もう送りました(過ごしました)。
- 43) 仕事の関係で母はひと月に一週間ぐらい家にいます(一週間ぐらいしか家にいません)。それで、平常(普段)、家に(には)父、私と弟(父と私、弟)3人だけいます(しかいません)。
- 44) 僕は今大学で勉強していて、両親と一緒に暮らすことができなくて(できないので、できないですが)、卒業した後、彼たち(両親)の身边(下)に戻るつもりを持っています(つもりです)。
- 45) 父は子供時代を田舎で過ごしたので、大自然中(大自然)の植物や動物などが(を)よく知っています。そこで(それで)、私は父に(を)偉くておもしろい人(を)だと認めます(思います)。
- 46) 僕の(私が)10歳の時、母は仕事をやめて専門主婦(専業主婦)になりました。それ以来、家事は全部母に(が)一人でやられます(やっています)。
- 47) 中国は一子(一人っ子)政策だから私の家族は3人だけいます(3人しかいません)。
- 48) 中学校の時、父は私の成績にきびしいですが(きびしく)、どの点数(何点)をとるの(とるか)も約束しまして、(させられました。)でも、その反して(お返しで)、父もがんばって仕事上の成績を上げることを約束しました(約束してくれました)。中略 母は父と違いますが(違って)、私の(に)とてもやさしいです。
- 49) 父はサラリーマンなので、毎日時間どおりに公司(会社)に勤めます(行っています)。

- 50) 私は今外地で(の)大学で勉強していますが(から)、一家(は)一年に二三月(2, 3ヶ月)しか揃いません。
- 51) 両親は私を大学生に育つために(するために)、何年間の(もの)苦勞生活(苦勞)を過ごしました(してきました)。早く仕事を見つけて、両親の(に)育つ(育ててもらった)恩を返したいです。
- 52) 母は私にピアノを習わせた。毎週の七曜日(日曜日)母は私をつれて先生の家へ行って授業を受けた(受けさせた)。
- 53) 私の父は設計部の部長です。年末には、いつも忙しい、(いつも忙しくて)一月くらい家も(家にも)帰らない、(帰りません。) そして、その時(それは)、大学に入る前の私に対して(とって)、もっとも楽しい時です(でした)。中略でも、ほかの11月(11ヶ月は)、勉強のほかにも何もやらなかった(できなかったからです)。
- 54) 私は天津の中学校へ行って勉強しました。彼は私たちの故郷という廊坊(故郷の廊坊というところ)で勉強しました。でも私たちはずっと联系(連絡)を持ちつづき(とりつづけ)ました。
- 55) 彼女と一緒にいると、気分もいいし、いつも笑顔が見えています(笑顔になります)。歌うことと踊ることは私たちの共同(共通)の好み(興味・趣味)です。
- 56) よくクラスの仕事なんかにかこつけて授業をさぼった。先生に発現されたたび(発見されるたび)、一緒に悔恨書(反省文)を書かされた。
- 57) 彼は本校バスケットボールチームの一員として全国高校バスケットボール大賽を(大会に)参加して、省チャンピオンを(に)遂げた(なった)。
- 58) とくに高校生の時代(高校時代に)とても仲の良い友達が2人いる(いた)。1人は背が高く、中略 他の人(もうひとり)は眼鏡をかけていた。
- 59) 将来の発展方向(展望)と自分の考えを両親に言いました。彼ら(両親)の意見も聞きました。
- 60) 「こんな(こんなに)長い時間が経った(時間が経っているのに)。どうして私(自分)の成績が今まで(まだ)しりません(わからないんだ)。」と思った。ぱっと緊張になった(緊張した)。
- 61) われわれは急いで彼を医院へ送った(病院へ連れて行った)。急診をして(急患として診察してもらい)、ついに大丈夫になった(彼は無事だった)。
- 62) いくつかの(何人かの)士兵(兵士)が人々の身分証明書を検査していると(のを)発見した(見た)。その理由がわからなかった。私たちの身分証明書が(は)ホテルにある(あった)ので、とうとう(結局)通じられなかった(通れなかった)。当日残念に(残念に思いながら)天津へ返った(帰った)。
- 63) 今度(先週)の日曜日、私はとても楽しんで(楽しく)過ごしました。
- 64) 近くの本屋に行って、一級についての本をさがしました。でも、一本(一冊)もさがしませんでした(見つかりませんでした)。
- 65) 新しいキャンパス(に)はやはり自分(それなり)の長所を持っている(がある)なあと自分に言い(いいきかせ)ました。
- 66) 私はサラリーマンという人(もの)に(は)なりたくない。

- 67) たとえば、知らぬ(ない)人を見ると(見て)おとなしくなるとき(人を・ことを)「借りてきた猫」(のようだ)といいます。
- 68) この人の仕方(やりかた)は全然理解できない。そんな仕方があった人はばかなんだと思った。(そんなやりかたをする人はばかだとおもう。)
- 69) 実験道具の寿命は使用方法( )次第である。
- 70) 航空契約の結び(を結んだこと・の締結)によって、中日両国人民の往来はますますおおくなってきた。
- 71) 子供の時は学習(勉強)と関係がない本をよく読んだものだ。
- 72) 先(さっき・今)起きたばかりなのにまた(もう)眠りたいです。
- 73) 先生から私たちの水準(レベル・学力)で(は)日本語能力試験に合格できる可能性が小さい(は少ない・は低い)ということを知り、もっと頑張(ら)なければならないのかと考えさせられた。
- 74) 私はこれから日本語で日記をつけようと腹を(こころを・こころに)[決めました・決心しました・決意しました]。
- 75) 概観上(表情)から妻の腹(こころ)を読むのは[不可能に近いです・出来そうにありません]。
- 76) 貴重品(大切なもの)までみんなあげてしまうなんて、ずいぶん気がいい人です(ね)。
- 77) 誰か(何か)困ったことがあると、すぐ彼女は力になってくれます。
- 78) この車は(の)かっこう(デザイン)が(は)なかなか気が利いています。
- 79) 寮の正対面(真正面)はバレーボールコート、そのバレーボールコートの後ろ(後ろは)教育ビル(教学楼)、寮の左がわは図書館、後ろのほう(その後ろ)は(に)先生の寮があります。
- 80) 学生寮は風呂や台所などを(が・は)付いていなくて、毎階(各階)は(には)トイレと洗面所だけがひとつずつあります。
- 81) 街に(を)歩くと、口(に)から出る空気(息)も氷になるほどです。
- 82) 江陰は揚子江の南にあり、一年中一般(一般的)には穏やかな気候に恵まれていて(恵まれているので)、農産物、特に米(米作り・稲作)が大変さかんですから、(です。そのため)ずっと「小魚米の郷」と美称されています。
- 83) いくつか(何人か)の土兵(兵士)が人々の身分証明書を検査していると(のを)発見した(見た)。その理由がわからなかった。私たちの身分証明書が(は)ホテルにある(あった)ので、とうとう(結局)通じられなかった(通れなかった)。当日残念に(残念に思いながら)天津へ返った(帰った)。
- 84) 李先生は腰の低い人ですから、生徒(みんな)に好かれています。
- 85) 彼は間屋(やくざ)から足を洗って正業につきたいです。
- 86) 人生は一步一步で( )歩くから、(歩むものだ・進むものだ。) 毎歩(どの一歩)も自分に対して(にとつて)大切だと思った(う)。
- 87) 小火(弱火)でにて、二分をすぎると(経ったら・経てば・経つと)完成になります(します)。

### 1.1.1.2 動詞

- 88) 市民の素質(意識)を提高する(高める・向上させる)のも大切なことです。今政府はこの方面(この面)に力を致しています(力を入れていきます・力を注いでいます)。
- 89) 改革開放以来、中国はきわめて大きな発展を取りました(遂げました)。
- 90) 今年は(今年、)北京が(は)オリンピック大会の開催する権力(開催)を申し込んでいます(申請しています)。
- 91) 例えば、夏目漱石、森鷗外、村上春樹などの作家が(を)わかるようになった(知るようになった)。
- 92) 私は米が好きですから、毎日米を食べなければなりません(気がすみません・我慢できません)。
- 93) 今(現在)、科学技術の運用を通したり(導入や) 暖房を造ったりしてから(使い始めてから)、私たちは一年中様々な時令(時期、季節)の野菜を食べられます。  
その上( )、学校の食堂のご弁当はあまりおいしくなくて、種類もいつまでも(いつでも)ほんのすこしだけの(しか)料理が並んでいます(並んでいません)から、一週間に一回ぐらい校内のレストランへ食べにいきます。
- 94) 先生は日本で何をやっていらっしゃる(していますか・されていますか)? 生活はお忙しいですか? 今年の夏休みに(は)何か旅行計画がございませんか(おありですか)? もし時間(お時間)があれば私に手信(お手紙)をだしてくださいませんか(いただけませんか)?
- 95) 昨日、ご郵送くださいました留学生入学申し込み書類をいただき、(受取りました)ありがとうございます。
- 96) 仕事が定まったら(決まったら)、きっと先生を(に)お拝見して(お会いして)、いろいろ楽しみに(楽しく)おしゃべりたいです。
- 97) 中学校に参った(通った)4年間は先生の厳しい教えの下に、時間を大切にしております(大切にして)、勉強しては、勉強しては(勉強して、勉強して)、やっと市の重点高校に入っております(入りました)。
- 98) その時、交通が通行禁止だから(通行禁止だったから)、バンドへの道路は自動車が(は)できなくて(行けなくて・通行できなくて)、歩くことだけできた(歩いていくしかなかった・歩いてしかいけなかった)。
- 99) 空の中に、(いろいろな色の)花火がさまざまな色が( )ありました(あがりました)。
- 100) 国際人になれるために(なるために)、どうすればいいか。それは思うべき(考えるべき)問題だ。
- 101) 新学期の始まるにつれても(始まりとともに)、4年生になりました。日本語科の大学院生の試験に参加しよう(を受験しよう)と思っておりますので...
- 102) 時々外食する。外食は学校の料理より種類が多いとも味がおいしいとも言えない。でもリラックスな(リラックスした)きもちがある(になる)。特に何人かと一緒に外食をするのはおもしろい(楽しい)。テーブルを周って座っている(囲んで座る)。
- 103) 大学に入ってから、お金自由が支配する(使う)ことができるので、友達と

- 一緒に出掛けるのはもう夢じゃなくなる(なくなった)。
- 104) わがコーチは(が)私を水泳のプロ選手になりたい時(させたかった時)、私は学校教育を受け続けるの(受け続けること)を選びました。
- 105) 友達と一緒にスポーツをすることが(は)非常におもしろいと思います。例(例えば)、友達と一緒にサッカーをした後、みんな汗を(が)いっぱい流れました。どうして負けるか(負けるのか)、どうして勝るか(勝つのか)と議論しました。
- 106) この本は愛情、生活、社会乃至(および)宗教に対して、独立、(自立した)積極的な態度を持って、自由と平等のために、挑戦するだけの勇気がある女性を描写することです(描写しています)。
- 107) 陽光はさんさんとおどりだす(降り注ぐ)。
- 108) 各国の商人が上海へ商売しに行ったから(来たから・来たので)立派な港や近代化な工場が立てられた。すると (そして)近代中国の最初の工業都会(工業都市)となった。
- 109) 多くの外資企業は(が)浦東新区に入りました。あそこで(そこに)ビルを建てて海外子会社(海外の子会社・海外法人)を設立しました。浦東は今日ごろに(日増しに)繁栄になっています(しています)。
- 110) 例えば、大連はまだ大きな雪(大雪)を(が)降っている時に(いるのに)、深圳はもう春のようにしています(なっています)。
- 111) 私の学校はいい地理(立地条件)におきます(あります)。
- 112) 外国文化を取り入れるとともに、上海は独特的な(独特な)ものがあります(作られました・できました)。
- 113) 友達が上海に旅行してこられると(旅行しにくることを)心からお待ちしています(心待ちにしています)。
- 114) 今の義烏は2005年に現代化の大都市(大都市化)になることを狙っています(目標としています)。
- 115) 豫園から東へ10分歩くと、バンドに着きます。そこで(では)、外国の建物が見えます(見られます)。中国人の自分の手によって建った(建てられた)東方明珠タワーがバンドの向こう(向い)に立っています。バンドで(では)、豫園とすっかり(まったく)違う風景が見えます(見られます)。
- 116) 上海に(の・は)どこへ行っても人も自転車も多くて道もバスもひどく込んでいる。特にラッシュの交通渋滞は大変だ。だって(それは、)近年来交通機関が発達するにつれて地下鉄や黄浦江トンネルや高速道路は(が)出てきて(作られたし、)道もよく整備されているから(整備されて)交通の便が良くなってきた(交通量が多くなってきたからだ)。
- 117) 私の国は海まで(に)近くて、いろいろな海<sup>うみ</sup>の幸<sup>きさち</sup>がいる(ある)。
- 118) 中国は長江を分離線(境界線)として南方や(と)北方が2つ主な(2つの主な)気候をしている(に分かれている)。
- 119) またふるさとは、唐初(唐代初期)に建てた(建てられた)独楽寺があります。  
中略 そして、いろいろな民族(民芸品)、例えば、泥人形、旧正月に飾る絵なども伝わってき(い)ます。それらは特に、旧正月になると、見えます(見られます)。

- 1 2 0 ) 国の人々(国民)も積極的に進んだ科学、文化を勉強して(学んで)、国の発展のために、自分の力を貢献(貢献)しなくてはならない。
- 1 2 1 ) 今、政府は水下トンネル(川底トンネル・海底トンネル)を造るという企画を作ります(たてています)。
- 1 2 2 ) 一年中(一年は)四季がはっきり分けます(分かれまゝ・しています)。
- 1 2 3 ) 父親は今年もう50歳になりました。人生の半部分(半分を)もう送りました(過ごしました)。
- 1 2 4 ) 母は明るくて、勤労している人(よく働く人・働き者)で、決して朝寝坊をしません。定年にしてから(になってから・してから)、毎日忙しくて、おいしい料理を作ったり、部屋掃除したり(部屋を掃除したり・部屋の掃除をしたり)して、家事が(を)いちいち(ひとつひとつ)順調に(着々と)できます(やります)。
- 1 2 5 ) 父も母も自由な生活が好きなので(で)、その上、会社が全くの不景気で(だったので)、数年前、各々思い切って仕事をやめて、車を一台買いかえて、タクシーの運転手になることにしました。こういう仕事は難しいながら(ながらも・が)、両親は勝手に(自由に)時間を支配する(使う)ことができるようになるから(よくなったから)、前より楽しく(楽しそうに)見えます。
- 1 2 6 ) 父は子供時代を田舎で過ごしたので、大自然中(大自然)の植物や動物などが(を)よく知っています。そこで(それで)、私は父に(を)偉くておもしろい人を(だと)認めます(思います)。
- 1 2 7 ) 小さい時、兄と私は実にささやかな事だけでけんかしたことがあります(けんかばかりしました)。毎回けんかした後、私たち2人は2、3日言いかけ(話さ)なかったです。
- 1 2 8 ) 父はサラリーマンなので、毎日時間どおりに公司(会社)に勤めます(行っています)。
- 1 2 9 ) 両親は私を大学生に育つ(する)ために、何年間の(もの)苦勞生活(苦勞)を過ごしました(してきました)。早く仕事を見つけて、両親の(に)育つ(育ててもらった)恩を返したいです。
- 1 3 0 ) 私は犬が怖いと思ったので(怖いので)、犬を見ると走り始めました(走り始めました)。だから、まもなく、母はこの犬を友だちに送りました(あげました・あげてしまいました)。
- 1 3 1 ) 毎年休み時(休みの時には)、ぜひ(必ず)面会します(会います)。
- 1 3 2 ) 中略 でも、ほかの11月(11ヶ月は)、勉強のほかにもやらなかった(できなかった)からです。
- 1 3 3 ) 私は天津の中学校へ行って勉強しました。彼は私たちの故郷という廊坊(故郷の廊坊というところ)で勉強しました。でも私たちはずっと联系(連絡)を持ちつづき(とりつづけ)ました。
- 1 3 4 ) また、彼女は積極的な人で、私がかかりしている時、悔しい時はいつも先生のように私を励まして、慰めて(励まし、慰めてくれて)、私はほんとうに感動(感謝)しています。彼女もユーモラスな人です。ときどき笑えばなしを話して(して)、人を笑わせています。彼女と一緒にいると、気分もいいし、いつも笑顔が見えて

- います(になります)。歌うことと踊ることは私たちの共同(共通)の好み(興味, 趣味)です。
- 135) ある人は、性格の(が)相似(似ていること)は友達になる条件だと思っています。「性格は(が)互い(互いに)違い人(違う人)は(が)友達になりやすい」と思っている人もいます。この2人意見とも(意見はふたつとも)正しいと思います。
- 136) 友達はもうバラバラにして(なって)、ゆっくりしゃべる(話す)時間があ(も)あまりない。時々友達のことがが(を)思い出して、懐かしい感じをが(を)よく浮き上がる(する)。
- 137) 彼は本校バスケットボールチームの一員として全国高校バスケットボール大賞を(大会に)参加して、省チャンピオンを(に)遂げた(なった)。
- 138) 私たち2人の中で(は)千里を隔たったけれど、厚い友情はすこしでも(すこしも)減られない(変わらない)。
- 139) 今、彼女は人民公園で(に)勤めて(勤めていて)忙しいですから、週末でも(週末だけ)、一緒に遊びに行きます。それと、電話をかけたります。最近何をしてるかとか(しているかとか)相談します(話します)。
- 140) もともと日本語や英語などを復習するつもりだけど(つもりだったけど)、勉強する気がどうしても取り出せ(起き)なくて、結局ちっともやらなかった。
- 141) 普段、インターネットでホームページを見るのは簡単だと思(てい)たが自分で作るとこんなに難しくなるのは(難しいとは)思わなかった。僕は2週間ぐらいかかってやっとでき上がった(完成させた)。大きさは10Mにすぎないで(すぎない)たいしたものではないが自分に(では)完璧だと思っている。
- 142) これは高橋留美子先生の80年代の作品で面白いラブストーリーが述べた(描かれている)。見てから(見て)とても感動したものだ。
- 143) 「こんな(こんなに)長い時間が経った(時間が経っているのに)、どうして私(自分)の成績が今まで(まだ)しりません(わからないんだ)。」と思った。ぱっと緊張になった(緊張した)。
- 144) 2月9日(に)私は寮に帰りました。ルームメイトに合う(会った)時、親切感がしていました(懐かしく感じました, 親しみを感じました)。
- 145) われわれは急いで彼を医院へ送った(病院へ連れて行った)。急診をして(急患として診察してもらい)、ついに大丈夫になった(彼は無事だった)。
- 146) 雪花がひらひら空から舞い下(舞い降りて)、都市は銀の世界ようだ。
- 147) 冬休みの生活計画を制定した(たてた)。何時に起きるか、一日に何時間勉強している(する)かなどだ。
- 148) 半年ぶりに会った両親はとても元気そうだ(だった)。町の様子は以前と似ていた(変わらなかった)。ただし雪が降ったばかり、(で)非常に寒いと感じた。
- 149) 中国人は春節に(を)非常に重視する。家族は(が)全国各地から(集まって、)お年寄りのまわりへ(で)春節を渡している(過ごす)のは中国人の習俗になっている。
- 150) いくつかの(何人かの)土兵(兵士)が人々の身分証明書を検査していると(の

- を)発見した(見た)。その理由がわからなかった。私たちの身分証明書が(は)ホテルにある(あった)ので、とうとう(結局)通じられなかった(通れなかった)。当日残念に(残念に思いながら)天津へ返った(帰った)。
- 151) 長いヘビのような行列が窓口から並んでいた(続いていた・できていた)。
- 152) うれしいのは日本語科の学生を招募している(募集している)会社が少なくないとは言えなかった(少なくないことだ・少なくないと言えることだ)。
- 153) (レストランで)先生、何がほしいですか(何を召し上がりますか)。
- 154) 食事をしながら(食事中)、ブラジルの音楽を聞いていて(が流れていて)、ロマンチックな雰囲気をしていて(雰囲気だった)。
- 155) 近くの本屋に行って、一級についての本をさがしました。でも、一本(一冊)もさがしませんでした(見つかりませんでした)。
- 156) 新しいキャンパス(に)はやはり自分(それなり)の長所を持っている(がある)なあと自分に言い(いい)かせました。
- 157) 伝統という(と)いうものは・というのは、本来、人間が逃げ出せない(逃れることができない)何かです。
- 158) 学生は政治に関係するはずでしょうか(関係するべきでしょうか・関心をもつべきでしょうか)。学生は、勉強だけやればいいと言う人がいますが、私は( )成人している学生には、政治に関する(かかわる)権利と義務があると(私は)思います。
- 159) 日本の独特な(の)お寺やお庭をたくさん拝見できまして、言葉で感想しえないくらい(言えないくらいいい表せないくらい)大変よかったです(感動しました)。
- 160) クリスマスでにぎやかな(にぎわう)繁華街を歩いているとき、後ろから「さん」という声を聞きました(がしました・が聞こえてきました)。
- 161) 人生は一步一步で( )歩くから、(歩むものだ・進むものだ)。毎歩(どの一歩)も自分に対して(にとって)大切だと思った(う)。
- 162) 日本の文化に了解してほしい(を理解してほしい・を知ってほしい)。
- 163) 割り勘は非常にいい払方で(払い方なので)、食事だけではなく、また(他の)多くの場合にも及ぼせる(使える)。
- 164) 麻薬販売者がありったけの(どれだけ・考えつく限りの)知恵を絞っているいろいろなやり方[を使って・で]麻薬を携帯しても(持ち込んでも)、厳密な検査の目をくぐることが(は)できない。
- 165) ものをむやみに食べて(しまったため)食中毒にした(になった)。
- 166) 話し合いによって、お互いに知り合い(分かり合い)、認識を一致する(一致させる)ことができる。
- 167) これこそ皆のずっと希望している(望んでいた)製品だ。
- 168) われわれのふるさは地図にさえかかない(のっていない・かかれぬ)ほど小さい村です。
- 169) 手伝ってもらったからこそはやく仕事がとげられた(終わった・やりとげられた)。

- 170) 何日も考えた上で結論を得たのだ(出した)。
- 171) 明日の午後お見舞いに行くように李さんに教えておくよ(いっておくよ)。
- 172) 近頃皆ビニールハウスを採用している。(使っているので、)すると、( )一年中各種の(いろいろな)野菜が作れるようになった。
- 173) 心が(の)こもって(た)贈り物を受けます(もらいました・いただきました)。
- 174) 彼は英語だけでは足らず(満足せず・物足りず)、ロシア語にも手を伸ばします(しています・しました)。
- 175) 2年間に先生にたくさんの知識を習って(教えて・授けて)いただいて、先生のごことが深く印象に残っています。
- 176) この件については学校へ帰らないと知らない(戻らないと分かりません)から、もう少しお待ちください。
- 177) 松本先生に初めて見た(お会いした)とき、なんだか親切だ(やさしそうな先生だ)と思いました。
- 178) 五位のいい先生に会って(五人の立派な先生と出会えたので)、必ず日本語は上達すると思います。
- 179) 劉さんは私たちとよく(あまり)触れませんでした(付き合いませんでした)。
- 180) その部屋は混んで(込みあって)いるような感じがさせます(感じがします)。
- 181) 高校一年生の時から、私はずっと学校で宿泊しています(生活しています・暮しています)。でも、その時に比べて大学学生寮の生活はもっと(ずっと) 豊かと(豊かだと)思います。
- 182) 冬やすみの時は(の時期は・は)いつもそんな(こんな)に寒くて、起ろうとも(起きようとしても)起きられなくて本当にしかたがないんだかった(しかたがなかった)。実は今学校にいてもそんな状況もうあって、(同じような状況だ。)さいわい春はとうとうどんどん近づいているんです(いる)。
- 183) 日本に行った(いる・いている)つもりで(いつでも)なんでもいつでも( )日本語で話すことにした。
- 184) 川にいた(いった)つもりでプールで泳いだ。
- 185) 早く返事を出さなければなりません(差し上げなければ)と思いつつ、今日やっとこの手紙が出せます。
- 186) 11時から私のインターネットの時間です。それから、(11時から)だいたい3時間が(か)4時間を経って(して)からそろそろ( )寝ます。
- 187) 日本語の勉強を始めたばかりのころはその中で( )難しい言葉を(や)わからない(こと)や(を)日本語で先生と(に)相談できないに(ないので・なかった)ので心配しました(困りました)。
- 188) 小火(弱火)でにて、二分をすぎると(経ったら・経てば・経つと)完成になります(します)。

### 1.1.1.3 形容詞

- 189) 趣味はたくさんある。その中で一番久しい(長い)のはピアノを弾くことだ。
- 190) 時々外食する。外食は学校の料理より種類が多いとも味がおいしいとも言えない。でもリラックスな(リラックスした)きもちがある(になる)。特に何人かと一緒に外食をするのはおもしろい(楽しい)。テーブルを周って座っている(囲んで座る)。
- 191) 卓球と比べてテニスはかなり重いです(激しいです・きついです)。室外の運動で少しやったら、汗が出ます(屋外の運動で、すこしやったら汗が出ます)。
- 192) 東京の生活は緊張だ(緊張する)し、ストレスも重い(多い)し、大変だった。
- 193) 先生から私たちの水準(レベル・学力)で(は)日本語能力試験に合格できる可能性が小さい(は少ない・は低い)ということを知り、もっと頑張らなければならぬのかと考えさせられた。
- 194) 彼は神経の(が)太い(図太い)人だから、ちょっと失礼なことをしたら(しても) 許してください(あげてください)。
- 195) やっぱり先生との思い出が名残惜しい(懐かしい)です。
- 196) 昨日のパーティーは嬉しいパーティーでした(楽しいパーティーでした・私にとって嬉しいパーティーでした)。
- 197) 新しい家に引っ越して一番楽しかった(うれしかった)のは自分の部屋があります(あったことです)。
- 198) 先日、私は(思いがけなく)「私は」でもよいと思います。中学の時の先生に会いました。それは大変な(とても偶然な)ことだと思います。
- 199) 森の中に入ったとたんに( ) 生々しい(新鮮な)木の香りが鼻を突きました。
- 200) 先生の服は派手で(カラフルで)きれいですね。
- 201) 仕事、学習で、(仕事や勉強のために)昼食も簡単です。普段は、饅頭に手軽な料理でけっこうです(充分です)。
- 202) みんなは別荘に住んで現代化の(現代的な)製品を全部もっています。
- 203) 私が一番好きなのはふるさとの静けさだ。私はよくこういう妙な(不思議な)力を含んでいる静けさを(に)誘われてよそから帰ってくるものだ。
- 204) 彼女は男のような性格で、決まったことは思い切ってやる断決な(果敢な)人だ。一方、大変思いやりだと(もともと)思っている(思う)。
- 205) 勉強の中で一番上手なのは(得意なのが)数学である彼女は時時(時々)数学に弱い私に(を)助けてくれました。
- 206) 先日、[私は・思いがけなく]中学の時の先生に会いました。それは大変な(とても偶然な)ことだと思います。
- 207) 大きな(深刻な)環境汚染が起こる(起こった)場合は早速(早急に)解決しなければなりません。
- 208) 嫌い(いやだ)といったら(というなら)無理に(は)頼むまい(まない)。

- 209) ある日(いつか)日本語が上手になって、日本人らしく(みたいに・のように)話せれば、なんと楽しいことだろうと思います(とても楽しいと思います)。
- 210) 道子さんは私の姉らしい(私の姉のよう・お姉さんみたい)ですから、中国で何か必要なものがあれば、ご遠慮なく知らせてください。

1.1.1.4 指示詞(2.5「指示詞」を参照)

1.1.1.5 副詞(2.6「副詞」を参照)

1.1.1.6 接続詞(2.7「接続詞」を参照)

1.1.1.7 後置詞(2.8「後置詞」を参照)

1.1.1.8 助詞(2.9「助詞」を参照)

#### 1.1.2 連語

- 211) 先学期、私の(は)英語の4級試験に合格しませんでした。その時、先生は気持ち悪い(気持ちが悪かった)私を慰めました(慰めてくださいました)。
- 212) (テニス~~は~~)大学で友達から教えられて(教えてもらって)、鍵を把握しました(コツをつかみました)。
- 213) 2月9日(に)私は寮に帰りました。ルームメートに合う(会った)時、親切感がしていました(懐かしく感じました、親しみを感じました)。
- 214) 中国の国土が(は)広いので、違い地方の(地方によって)料理もだいぶ違います。
- 215) ネットは世界に(世界を)狭く窄まります(狭くします)。ネットで(ネットのおかげで)遠い地方の友達は(も)自分のそばのようです(そばにいます)。
- 216) 多くの上海人が日本で働いていますので、日本人と上海人はきっと(ぜひ)仲がもっと良くなって(もっと仲良くなって)、これからの日本と上海の共同の発展と友好関係のために一緒にがんばりましょう。
- 217) 友達と一緒にスポーツをすることが(は)非常におもしろいと思います。例(例えば)、友達と一緒にサッカーをした後、みんな汗を(が)いっぱい流れました。どうして負けるか(負けるのか)、どうして勝るか(勝つのか)と議論しました。
- 218) 友だちと一緒に証券交易所(証券取引所)へ株券を買ったり売ったりしに(株の売買に)行きます。
- 219) 私は今度の試験に心細いから(自信がなく)、合格かどうか(できるかどうか)すごく心配したが(心配だった)。もしかしたら(もし)合格できなければ、楽しい冬休みは必ず(きっと)楽しくなくなると思った。
- 220) ここは台湾海峡の国際航路まで50ノット足らずの場所で、太平洋西岸の30-50万トン級巨船が自由に出入りできる深い水海沿いが備わっている(ほどの水深をもつ海岸線だ)そうです。
- 221) 物価の値上がり幅を早く反落させるため(を下げる)ために、あるところでは、売り手への財政補助金を拡大し、消費者への補助金を取り消す方法にした。
- 222) 昇進競争は喜ばしい変化をもたらした。こねを求める者や賄賂を渡す者は拒

- 絶され、内部決定（密室での決定）や裏取引などの不正取引をすれば市場をなくしてしまう。（ビジネスの場をなくすことになる）。
- 2 2 3 ) 今、留学の手段は大体二つが（ ）あります、（。）通常多数の人(ほとんどの・大半の)は(が)入りたいのは外国の大学院である(す)。
- 2 2 4 ) 私はいつも小雨が降っている日に傘を持って（傘をさして）、静かに寺の中を散歩する（寺の境内を歩く）ことを想像しています。
- 2 2 5 ) 先生は中国人のことをよくご存じですからあまり気にしないんですが（あまり気にはなさいませんが）、ほかの人だったら「この学生は礼儀正しくない（礼儀を知らない）」と思われてしまったかもしれません（思われたかもしれません）。
- 2 2 6 ) そちらももう暑いでしょう。こちらも毎日暑く続けます（暑くなってきました・暑さが募ってきています）。
- 2 2 7 ) どこかおいしい食べ物があれば私たちも一緒に（二人とも）興味を持って探しに行きます。2人では（2人なら）とても楽しいです
- 2 2 8 ) わたしは2つだけから（まだ2つの時から）両親に連れられて、泳ぎにいった。
- 2 2 9 ) 私の友だち（が）私を訪ねる（私を訪ねて来た・私の家に来た）時、母はあたかも自分の子供でも帰って来たかのように親切にもてなしてくれました。こんな母は私は大好きです。
- 2 3 0 ) 上海の（は）、人の生活レベルが（も）高いし、リズムが（も）速いし、毎日忙しいだ（忙しい）。これは（これらから・このようなことから）活気に満ちている大都会だと思う。
- 2 3 1 ) 私もピンポンを（が）好きです。1995年、第43次（第43回）世界ピンポン大試合（世界卓球大会）から（の時から・を見てから）、ピンポンを初めてやります（始めました）。
- 2 3 2 ) 私たち（は）今から卒業まで1年にもたりない（もない）から、でも（のに）、専門知識と実際能力が不足しては、就職の時とても困りますよ。
- 2 3 3 ) 真ん中にあるので、教室、レストラン、運動場、どこまでも（どこへも・どこにいくのも）便利です。
- 2 3 4 ) 私たちの寮は1919年に建てられたもので、西洋古風の（古風な西洋の雰囲気）にあふれた5階の建物です。

### 1.1.3 慣用句

- 2 3 5 ) 市民の素質（意識）を提高する（高める・向上させる）のも大切なことです。今政府はこの方面（この面）に力を致しています（力を入れています・力を注いでいます）。
- 2 3 6 ) 私は米が好きですから、毎日米を食べなければなりません（気がすみません、我慢できません）。
- 2 3 7 ) そんなことをすると、君に薬（のため）になりませんよ。
- 2 3 8 ) 学生の薬（ため）になる本を書きたいです。

- 239) 母は気が早い(気が短い)おこりっぽい人です。でも父はやさしい人で、母の性格のことを理解します(しています)。でもたまらない(我慢できない)時もあります。
- 240) 実は今度の能力試験(能力試験の結果)を(が)よく気にして(とても気になって)、成績を早く知りたかった。夜はなかなか眠れなかった。なんとか眠ってても、試験パスできない夢をみた。
- 241) 彼女に仕事をやめたほうがいいと謎をかけ(アドバイス)しました。
- 242) 謎をかけたつもりじゃなかったん(もらうつもりじゃなかったん・ほしいわけではなかったん)ですが、腕時計をほめたら、くださったのです。
- 243) 彼の態度は(が)いいかげんなので鼻に付きます(いやになります)。
- 244) あまりしゃべると足(ぼろ)が出ますよ。
- 245) 私は今日、怒った顔をしています。(私は今日怒っています。・田中さんは今日、怒った顔をしています。)
- 246) 遠くからゆりの香りが彼女の鼻を突いて(ところまで)におってきました。
- 247) 彼は恩を返すことばかり苦になっ(し・気にし)ています。
- 248) お父さんによく「そんなことはばかばかしい。全然勉強にたたないで(役にたたないから)、止めよう(止める)」と叱られてくれました(叱られました)。私はやっぱり聞こえないように(聞こえていないように)以前と同じ(同じように)非常に好みました。
- 249) みんなは私の意見の(・意見を聞いて)肩を持ってくれました。
- 250) 彼女は口が悪いから、よく角が立ちます(よく話しに角が立ちます)。

#### 1.1.4 交錯するもの

- 251) 多くの日本人は中華料理が好きです。でも、中華料理は日本料理より(と比べると)もっと(かなり)あぶらこいです。しかし(だから)ある日本人に毎日毎日中華料理を食べさせたら彼(その人)はきっと我慢できません。逆もその道理です。これは食生活の地域性です。
- 252) 学生は(なら)もっと自分の勉強に(のこを)心配するはずです。
- 253) 中国の食生活はほかの国と比べて、(比べると)違うこと(違い)がたくさんある。(。 )たとえば、料理の材料とか(や)、作り方とか、ないし(作り方、)料理を作る過程と(および)食べる時の方法、(などである。) 人に不思議な感じすること(不思議に感じさせること、不思議な感じを与えること)がたくさんある。
- 254) 友達と一緒にスポーツをすることがが(は)非常におもしろいと思います。例(例えば)、友達と一緒にサッカーをした後、みんな汗を(が)いっぱい流れました。どうして負けるか(負けるのか)、どうして勝るか(勝つのか)と議論しました。
- 255) 長い歴史は中国に豊富の(豊かな)文化遺産を残って(残すと)同時に根強い封建思想が(を)今にも(今でも)残っています(残しています)。
- 256) ふるさとの気候は上海とたいいてい(だいたい)同じです。海洋性気候で全年

- (年間)の降水量がいっぱい(多い)です。梅雨入りになると、雨が降り続けて家具や、服や、ふとんなどが(に)かびを(が)はやして(はえて)しまいます。
- 257) 富士山が電車から見えたことは本当に楽しみでいた(嬉しかった)。
- 258) 略 寒山寺などの名園に(は)毎日世界各地からの観光客でにぎやかである(にぎわっている)。
- 259) 私は母より父のほうとより親しい(仲がいい)と思っています。
- 260) 両親はみんな(2人とも)同じ会社に勤めています。
- 261) 私は中学校から家へ(を)離れて天津へ行って勉強します(勉強してました)。独立の(自立した)生活が始まります(始めました)。
- 262) 普段、父は温情な(温厚な・思いやるのある・やさしい)ひとだけど、頑固の(頑固な)ときは本当に頑固な親父です。
- 263) 母は(が)一生懸命に働くのは私と弟が幸福に生活させるからです(ためです)。
- 264) 父の休みの時間が(は)多いですから、私は子供から(子供のときから)、母より父のほうが好きで親しいです(慕っています・仲がいいです)。
- 265) 母は気が早い(気が短い)おこりっぽい人です。でも父はやさしい人で、母の性格のことを理解します(しています)。でもたまらない(我慢できない)時もあります。
- 266) 私の父は設計部の部長です。年末には、いつも忙しい、(いつも忙しくて)一月くらい家も(家にも)帰らない、(帰りません)。そして、その時(それは)、大学に入る前の私に対して(とって)、もっとも楽しい時です(でした)。中略 でも、ほかの11月(11ヶ月は)、勉強のほかに何もやらなかった(できなかったからです)。
- 267) 子どもの時の思い出では、上海は人口が多くてどこでも込んでいる(賑やかな)立派な大都会というイメージをずっと持っていたようです(持っていました)。
- 268) 彼女は小学校4年生の時(、)地方から私の故郷の実験小学へ転校した(転校してきた)。彼女はおばあさんと一緒(に)生活した(生活して)。何のこと(どんなこと)も自分で解決しなければならなかった。だから中学校の時にはもう非常に独立になった(自立していた)。
- 269) いくつかの(何人かの)土兵(兵士)が人々の身分証明書を検査していると(の)を発見した(見た)。その理由がわからなかった。私たちの身分証明書が(は)ホテルにある(あった)ので、とうとう(結局)通じられなかった(通れなかった)。当日残念に(残念に思いながら)天津へ返った(帰った)。
- 270) 食事をしながら(食事中)、ブラジルの音楽を聞いていて(が流れていて)、ロマンチックな雰囲気をしていた(雰囲気だった)。
- 271) 今度(先週)の日曜日、私はとても楽しんで(楽しく)過ごしました。
- 272) にぎやかな雰囲気の中でショッピングをするのは全然つまらなくなかったです(楽しいことです)。
- 273) 趙君は(が)料理に忙しいうちに(間・間中・というのに)、その間私はテレビば

- かり見た(見ていた)。
- 274) 夏休みが来るのを楽しんでいます(楽しみにしています)。
- 275) 日本の独特な(の)お寺やお庭をたくさん拝見できまして、言葉で感想しえな  
いぐらい(言えないくらい・いい表せないくらい)大変よかったですと思います(感動し  
ました)。
- 276) クリスマスでにぎやかな(にぎわう)繁華街を歩いているとき、後ろから「  
さん」という声を聞きました(がしました・が聞こえてきました)。
- 277) みんな(みんなで)すしを食べて酒やビールを飲んだ。終わってから雨がや  
んだ(食べ終わって外に出てみると雨がやんでいた)から(。・それで) 気をく  
かないで(うっかりして)傘を忘れて帰ってきた。
- 278) 二年ぶり(間も・もの間) 帰らなくて(帰っていないので・帰らなかったの  
で)家に帰りたくてたまらなくなった。
- 279) 割り勘は非常にいい払方で(払い方なので)、食事だけではなく、また(他の)  
多くの場合にも及ぼせる(使える)。
- 280) 麻薬販売者があったけの(どれだけ・考えつく限りの)知恵を絞っているいろいろな  
やり方[を使って・で]麻薬を携帯しても(持ち込んでも) 厳密な検査の目をくぐ  
ることが(は)できない。
- 281) 人とつきあうにはきれいだけ(うわべだけでは)よくないです。人とつきあっ  
たら、互いに交流するやら(したり) 互いに( ) 手伝うやら(ったり) 互いに( ) 影  
響を与えるやら(たりすること)がいります(必要です)。
- 282) いつもお世話になりました、心から(本当に)ありがとうございました。
- 283) 私たちに至れり尽せりの(深い)ご関心を注いでいただき、心から感謝申し  
上げます。
- 284) お別れしてから思わず(いつしか・あっという間に)半年も経ってしまいました。  
た。
- 285) そんな時、普通のアメリカ人が(は・なら) よく(たいてい)怒りますが、日本人  
が(は・なら)黙っているそうです。
- 286) 駅につくと、両親の顔が見えた。私の目から涙がぼろぼろとこぼれた。それは  
嬉しい涙(嬉し涙)であった。
- 287) 私の夢は他人から見ると簡単なこと(単純)かもしれません。
- 288) 冬やすみの時は(の時期は・は)いつもそんな(こんな)に寒くて、起ろうとも(起  
きようとしても)起きられなくて本当にしかたがない んだ かった(しかたがなかった)。  
実は今学校にいてもそんな状況もうあって、(同じような状況だ。) さいわい春  
はとうとう どんどん 近づいている んです(いる)。
- 289) 喧嘩する事はないとはいえないのに(ので)偶にけんかしても(ました。しか  
し、) すぐ 仲間に(仲良)になりました。

## 1.2 語の表記

- 290) いくつかの(何人かの) 土兵(兵士)が人々の身分証明書を検査していると(の

- を)発見した(見た)。その理由がわからなかった。私たちの身分証明書が(は)ホテルにある(あった)ので、とうとう(結局)通じられなかった(通れなかった)。当日残念に(残念に思いながら)天津へ返った(帰った)。
- 291) 中国で(に)、「新しい友達を造り(作り)、古い友達が(を)忘れない」ということわざがあって、(ある。) 私は(も)そうと(そうだと)思う。いままで(だから、いまでも)よく初中時代の友達を思い出すというわけだ。
- 292) これは100元でも徳(得)だと思ふというのは(思う。というのは・思うのは)一生使うことができるからだ。
- 293) 来月になれば体が明く(空く)と思うから、それでよければ、その仕事をお引き受けたいと思います。
- 294) 問題の急所を衝きます(突く)。
- 295) 2月9日(に)私は寮に帰りました。ルームメイトに合う(会った)時、親切感がしていました(懐かしく感じました、親しみを感しました)。
- 296) 今できることはおじいさんの一日早く(一日も早い)回復を祝る(祈る)ほかないかもしれなかった(しれない)。

## 2 文法編

### 2.1 品詞

- 297) 幸いことには(幸いなことに)文系と理系にクラス分けされる高校二年生になった時、彼と私はクラスメートになりました。それに(そして)彼は私のいい友達になりました。だから彼のことについて私はよく知っています。
- 298) 敦煌は雨が少なくて空気が乾燥です(乾燥しています)。
- 299) 食事をしながら(食事中)ブラジルの音楽を聞いていて(が流れていて)ロマンチックな雰囲気をしていた(雰囲気だった)。
- 300) 今年の冬休みはたいへん充実だった(充実していた)。
- 301) 私は(が)家を離れている時に、両親が(は)きつと寂しがりだ(寂しがっていた)と思います。
- 302) 生活はのんびりだ(のんびりしている)と思います。
- 303) 母は貿易会社で働いています。仕事は非常に忙しくて緊張です(緊張しています)。
- 304) 江陰は揚子江の南にあり、一年中一般(一般的)には穏やかな気候に恵まれていて(恵まれているので)、農産物、特に米(米づくり・稲作)が大変さかんですから、(です。そのため)ずっと「小魚米の郷」と美称されています。
- 305) 崇明島は上海の「野菜基地」としているから(なっているから)、上海市内に多様な(多くの種類の)新鮮な野菜を供給している。
- 306) たとえば、中華料理には(で)有名は(な)「碧緑蝦仁」と言えば、赤いえびと緑のグリンピースを合わせて、(合わせる。) そして、サラダオイルのため、えびは(そのえびは油のために)つやつやしていて、(している。) こんなきれいな

- 色を見て、おいしそうと思わない人はたぶんいないでしょう (いないだろう)。
- 307) ここでの生活は充実です(充実しています)。
- 308) 普段、父は温情な(温厚な、思いやるのある、やさしい人)ひとだけど、頑固の(頑固な)ときは本当に頑固な親父です。
- 309) 前日よりもっと大勢の人で、混雑だった(混雑していた)。
- 310) 自分の大学生生活を充実に送る(充実させる)つもりです。
- 311) 今日は充実な(充実した)日曜日でした。
- 312) 寮に帰ったのは夜遅くでしたが、充実な(充実した)一日でした。
- 313) 西溪キャンパスは、新しいキャンパスと比べて、空気がきれいし(きれいだし)、人が少ないから(ので)勉強と生活の(には)いいところです。
- 314) 食事をした後、みんな(みんなが)トランプをしていた間(トランプをしている間に)私は片づけをした。
- 315) みんな(みんなで)すしを食べて酒やビールを飲んだ。終わってから雨がやんだ(食べ終わって外に出てみると雨がやんでいた)から(。・それで)気をつかないで(うっかりして)傘を忘れて帰ってきた。
- 316) 遊び(遊ぶ・遊んでいる)時は自分で(の)好きな服装を着れば(ても)大丈夫だと思います。
- 317) 東京の生活は緊張だ(緊張する)し、ストレスも重い(多い)し、大変だった。
- 318) 「こんな(こんなに)長い時間が経った(時間が経っているのに)、どうして私(自分)の成績が今まで(まだ)しりません(わからないんだ)。」と思った。ぱっと緊張になった(緊張した)。
- 319) しかし、湿気が多いですから、上海の冬は人びとにじめじめと(じめじめしている)感じさせます。
- 320) 私は今度の試験に心細いから(自信がなく)、合格かどうか(できるかどうか)すごく心配したが、(心配だった。) もしかしたら(もし)合格できなければ、楽しい冬休みは必ず(きっと)楽しくなくなると思った。
- 321) よく( )「きれいで頭もいい」と評判されます(評判です)。

## 2.2 名詞

### 2.2.1 テンス

- 322) 母はうらやましそうな顔をするので(して)、広い家をほしがっています(るようでした)。
- 323) 私の父は設計部の部長です。年末には、いつも忙しい、(いつも忙しくて)一月くらい家も(家にも)帰らない、(帰りません。) そして、その時(それは)、大学に入る前の私に対して(とって)、もっとも楽しい時です(でした)。中略でも、ほかの11月(11ヶ月は)、勉強のほかにもやらなかった(できなかったからです)。
- 324) その時、交通が通行禁止だから(通行禁止だったから)、バンドへの道路は自動

車が(は)できなくて(行けなくて、通行できなくて)、歩くことだけできた(歩いていくしかなかった・歩いてしかいけなかった)。

3 2 5 ) その日は日曜日ですから(だったので・でしたから)、道で人が(道は人で・道に人が)いっぱいでした。

### 2.2.2 代名詞

3 2 6 ) 父は人に(を)助けることが好きだ(な)ので、みんな彼(父) に(を)尊敬します。

3 2 7 ) 多くの日本人は中華料理が好きです。でも、中華料理は日本料理より(と比べると)もっと(かなり)あぶらこいです。しかし(だから)ある日本人に毎日毎日中華料理を食べさせたら彼(その人)はきっと我慢できません。逆もその道理です。これは食生活の地域性です。

3 2 8 ) 1月22日、いとこさん(いとこ)の結婚披露宴に参加した。いとこさん(いとこ)は(が)お婿さんと会ってから結婚するまでただ(わずか、たった)2ヶ月ということにびっくりした。

3 2 9 ) 僕は今大学で勉強していて、両親と一緒に暮らすことができなくて(できないので、できないですが)、卒業した後、彼たち(両親)の身边(下)に戻るつもりを持っています(つもりです)。

3 3 0 ) 母は交通事故に遭いました。母の頭が(母は頭を)ぶつかられましたから(ぶつつけたので)、頭の中で、うっ血がたまっていました(出血して血がたまっていました)。彼女は(母は)意識不明状態に陥いました(陥りました)。

3 3 1 ) 将来の発展方向(展望)と自分の考えを両親に言いました。彼ら(両親)の意見も聞きました。

3 3 2 ) 奥さんは主人(夫)の話を知っているうちに、夫が会社のお金を使い込んだのは、その女のためだった(だ)と思ってきた(思えてきた・思えてならなかった)。

### 2.2.3 形式名詞

3 3 3 ) 明日友達がアメリカから来るんです(来ます)から、空港へ迎えに行きます。

3 3 4 ) 先生は「ああ、今年は19年ぶりのの(に)国慶節と中秋節がいい塩梅に合うんだね(合うんだね)。1週間休めて、よかったね。」とおっしゃりました(おっしゃいました)。

3 3 5 ) 私の父はコックです。だから私に対して(とって)一番幸せな事は父の作った料理を食べるの(こと)です。

3 3 6 ) 時には、テーブルについてどれもこれも脂っこい料理をの(なのを)見ると、たちまち食欲がなくなってしまいました。

3 3 7 ) ネットを通じて、世界のどこでも、様々なことを知るの(知ること)ができる。

3 3 8 ) 中国人は春節にを非常に重視する。家族はが全国各地から(集まって、)

- お年寄りのまわりへ(で)春節を渡している(過ごす)の(こと)は中国人の習俗になっている。
- 339) 実は、ちょっと言いにくいもの(ん・こと)ですが.....
- 340) この問題は「家」とか「社会」とかいう(ことと)関係があるのではないのでしょうか。
- 341) この前「終わりは始まり」という言葉を聞いたのです(聞きました)。これは私に一番適当だと思います。
- 342) いただいた『 』という雑誌は、やっとおととい届いたのです(届きました)。
- 343) もうすぐ新しい一年が始まるんです(始まります)が、お変わりはございませんか。
- 344) ただいまお便りを懐かしく拝見したのです(拝見しました)。
- 345) 卒業式が終わって、それぞれ学校を離れたんです(離れました)。もう仕事を始めた人もあるかもしれません。
- 346) 仲間とご馳走を囲んで、楽しい夜を過ごしました。そのことは一生忘れられないんです(忘れないでしょう)。
- 347) もともと私はホテルの売店で働こうと思ったんです(働きたいと思っていました)。
- 348) 冬やすみの時は(の時期は・は)いつもそんな(こんな)に寒くて、起ろうとも(起きようとしても)起きられなくて本当にしかたがないんだかった(しかたがなかった)。実は今学校にいてもそんな状況もうあって、(同じような状況だ。)さいわい春はとうとうどんどん近づいているんです(いる)。
- 349) テーマについての資料はあまり手に入っていないんです(手に入れていません)から、本格的な研究はまだ始まっていません。
- 350) こんな厚い手紙で、先生はさぞおかしいと思われるんでしょう(思われるでしょう/お思いでしょう)。
- 351) 私もいつか大学へ行こうと思ひ、その機会を待っているところなんです(待っているところです)。
- 352) この会社もほかと同じように不況情勢になってしまったのです(不況情勢になってしまいました)。
- 353) この学校での目的が達せられれば、本当に嬉しいと思うのです(と思います)。
- 354) その会で「公害問題」ということ(もの)をどうするかというもの(こと)が話されました。
- 355) 日本語の中は(で)会話ほど難しいところ(もの)はない。
- 356) 日本語の勉強を始めたばかりのころはその中で( )難しい言葉を(や)わからない(こと)や(を)日本語で先生と(に)相談できないに(ないので・なかった)ので心配しました(困りました)。
- 357) 私には家族ほど大切なこと(もの)はないと思います。
- 358) 結婚式では、赤ほど楽しみを気持ちを表すのが(に)いい色のこと( )はないと思っています。

- 359) あの人は日本人です(だ)から日本語が上手(なの)は当たりまえだ。
- 360) 正しかった(正しい・正しく書いた)つもりだったが、間違えてしまった。
- 361) 翻訳はまだいいが(ですが・のですが)、通訳は今の自分の手に余るものです(余ります)。
- 362) 山田さんはいつも(は)口が重い(のです)が、好きな野球のことはよく話します。
- 363) これは、むしろ政治上のもの(問題)だと思います。
- 364) 地位が高いからといって、人間が立派だというもの(こと)に(は)なりません。
- 365) 時間がないからできなかったというもの(わけ・の)ではありません。
- 366) 伝統というと(というものは・というのは)、本来、人間が逃げ出せない(逃れることができない)何かです。
- 367) どうして彼はそういうことに興味があるだろうか(あるのだろうか)。
- 368) 日本に留学することについて一度考えてみなければならないではないか(ならないのではないか)。
- 369) 宗教的な感覚は(とは・というのは)、一体どういうこと(もの)でしょうか。
- 370) わがコーチは(が)私を水泳のプロ選手になりたい時(させたかった時)、私は学校教育を受け続ける(受け続けること)を選びました。
- 371) 電車に乗りながら(のなかで)本を読みました。
- 372) 一日中(一日の中で)、一番にぎやかな時は夜です。
- 373) あの歌手は全国(の歌手の中)でも群を抜いて歌が上手です。
- 374) 教室の中( )で勉強します。
- 375) コンピューターの中( )から生徒の成績を苦もなく取り出しました。
- 376) 日本語の中( )(で)は会話ほど難しいところはない。

#### 2.2.4 数量名詞

- 377) 私はラジオを聞きながら、(一杯の)紅茶を一杯( )飲んで楽しんでいました。
- 378) 中国の領土は960万平方キロメートルで、36つ省(36の省)、5つ自治区(5つの自治区)、4つ直轄市(4つの直轄市)と、2つ特別行政区(香港と澳門)(香港と澳門2つの特別行政区)です(があります)。
- 379) オリエン特・パール、3つの(3本の)地下鉄、南浦と楊浦と徐浦(南浦と楊浦、徐浦の)3つの橋、中略 8万人体育場などは全部新しく建て(建てられて)、上海のシンボルになります(なっています)。
- 380) 部屋のなかで(に)二段ベッド4脚はあります(ベッドが4台あります)。
- 381) 授業を始める前に約十分ぐらい(十分間ぐらい・十分間ほど)で、先生は先週(前の週に)日本で起こった事件を述べてくださいました。
- 382) 今、留学の手段は大体二つが( )あります、( )通常多数の人(ほとんどの・大半の)は(が)入りたいのは外国の大学院である(す)。
- 383) 五位のいい先生に会って(五人の立派な先生と出会えたので)、必ず日本語は

上達すると思います。

384) 私は今大学生です。後ちょうど一年間(一年で)卒業します。

## 2.3 動詞

### 2.3.1 アスペクト

385) 小さい子供は外で遊びたがっています(遊びたがります)。

386) 時々外食する。外食は学校の料理より種類が多いとも味おいしいとも言えない。でもリラックスな(リラックスした)きもちがある(になる)。特に何人かと一緒に外食をするのはおもしろい(楽しい)。テーブルを周って座っている(囲んで座る)。

387) ゆるがせにした(にしていた)朝食が(を)重視されて(重視して)、栄養と便利さとおいしさ3つの方面(面)に配慮を加えるべきだ。

388) 両親は私を大学生に育てるために(するために)、何年間のもの苦勞生活(苦勞)を過ごしました(してきました)。早く仕事を見つけて、両親の(に)育つ(育ててもらった)恩を返したいです。

389) 彼女は小学校4年生の時(、)地方から私の故郷の実験小学へ転校した(転校してきた)。彼女はおばあさんと一緒に(に)生活した。(生活していて、)何のことも(どんなことも)自分で解決しなければならなかった。だから中学校の時にはもう非常に独立になった(自立していた)。

390) 今、彼女は人民公園で(に)勤めて(勤めていて)忙しいですから、週末でも(週末だけ)、一緒に遊びに行きます。それと、電話をかけたります。最近何をしてるかとか(しているかとか)相談します(話します)。

391) もう一年ぶりに(一年)会っていません。 中略 彼らはもう働きました(働いています)。

392) 今年の冬休みはたいへん充実だった(充実していた)。

393) 冬休みの生活計画を制定した(たてた)。何時に起きるか、一日に何時間勉強している(する)かなどだ。

394) やっと家へ帰りました。母はもう食事を用意しました(用意していました)。

395) 彼は今「金茂凱悦」ホテルで水泳コーチを(水泳コーチとして)働く(働いている)。

396) そして姉は仕事を勤めるから(勤め始めていたから)私たちの弟と妹(私たち弟と妹)にお金をくれた。

397) 王さんは株券に熱中します(熱中しています)。

398) ただ(たった)14.5平方メートルと見えますが(ですが)、8人が(も)住みます(住んでいます)。

399) あ、おいしそうなケーキ。ちょっと買っていこうと思っています(思います)。

400) 毎日10時間以上働いて、5キロもやせていきます(やせてしまいました・やせました)。

- 401) 2月の下旬になると、就職戦争に入り始めます(が始まります・に入ります)。
- 402) もう( )1級試験に合格してしまいました(合格しました)。
- 403) 授業の内容はもう( )分かってしまいました(分かりました)。
- 404) 山田さんは会議室に入って、椅子に座りはじめました(座りました)。
- 405) 今年から日本語を習いだそう(習いはじめよう)。
- 406) 彼は「さよなら」と言って、駅のほうへ歩きました(歩いていきました)。
- 407) だんだん暗くなりました。(つてきて)雨も降れば降るほど酷い(酷くなってきました)。
- 408) やっと買い物が終わってしまっ(おわって・終わりましたが)、二人も(二人とも)くたくたに疲れていました)。
- 409) 趙君は(が)料理に忙しいうちに(間・間中・というのに、その間)私はテレビばかり見た(見ていた)。
- 410) 向こうの島まで船に乗っているうちに、日はだんだん暮れ始め、太陽は美しい空の下に沈んでいました(沈んでいきました)。
- 411) 弟を公園へ連れてやって(連れて行ってやって)ください。
- 412) 「焼き芋」を(という声を)聞いて、すぐ家を飛び出してみましたが、車は行ってしまいました(しまっていました・しまった後でした)。
- 413) 環境が破壊される(破壊されている)ということを知り、(どうしたら)人々が保護(環境を保護できるか)と考えさせられた(を考えた)。
- 414) 私は(が)母に電話をかけると同時に母が帰りました(帰ってきました)。
- 415) 工業化があまり進めない(進んでいない・進まない)ため、村の若者はほとんど町や大都市へ行って(行ってしまっ)、(そこで)仕事を探して、そこで( )頑張っています)。
- 416) 最近、洋食を食べる人が増えてくる(きている)そうですね。
- 417) ものをむやみに食べて(しまったため)食中毒にした(になった)。
- 418) たとえば、( )もしレストランやデパートで、店員は自分が好きな服を着たら(着ていたら)店でだれがお客さんで、だれが店員かもわからない(わからなくなってしまう)。
- 419) やっとバスが来ましたが、込みすぎたので(込んでいたので)足を踏まれました)。
- 420) 日本の生活になれていたら(なれたら・なれてきたら)、アルバイトを探そうと思っています)。
- 421) 彼女は友達に「はなちゃん」と呼ばれる(呼ばれている)。
- 422) 彼は英語だけでは足らず(満足せず・物足りず)、ロシア語にも手を伸ばします(しています・しました)。
- 423) 彼は世間が狭いくせに何でも知っているふりをして( )ます)。
- 424) ある日自習の時間に先生が発音を教えてくださいました。それ以来、私は発音に注意しました(注意しています・注意してきました)。

- 4 2 5 ) 数学や国語も小学校からずっと勉強しました(勉強しています・勉強してきました)。いつもつまらなかったと思います(いつもつまらないと思っていました)。
- 4 2 6 ) 日本語を勉強した人は(勉強していた人が)敬語がもっとも難しいと私に言ったことがある(言っていたが)。今はもう(もう)一年近く勉強しているが、そのことをすぐ実感した(今、実感している)。
- 4 2 7 ) 先生は中国人のことをよくご存じですからあまり気にしないんですが(あまり気にはなさいませんが)ほかの人だったら「この学生は礼儀正しくない(礼儀を知らない)」と思われてしまったかもしれません(思われたかもしれません)。
- 4 2 8 ) 日本の兵士が祖父を殺そうという夢(祖父を殺そうとしているような夢)を見たことまであった。
- 4 2 9 ) だんだん暖かくなってきましたが、お元気で毎日を過ごされる(過ごしていらっしゃる・お過ごしのことと存じます)。
- 4 3 0 ) お手紙の一字一句が、先生と私が向かい合って話したようです(お話しになっているようです)。
- 4 3 1 ) そちらももう暑いでしょう。こちら毎日暑く続けます(暑くなってきます・暑さが募ってきています)。
- 4 3 2 ) 毎日、親とか(や)友達とか(から)かかった(かかってくる)電話が一杯です。
- 4 3 3 ) 寮の周りはいろいろな樹に囲まれます(ています)。
- 4 3 4 ) 一緒に食事をし、寝むり、しゃべってしゃべって時間を忘れて、夜2、3時まで起きた(起きていた)こともよくある。あの時の楽しさは今でもよく思い出した(思い出す)。
- 4 3 5 ) 彼と初めて会ったのは、小学校の3年生の時です。彼は両親と一緒に田舎から都会へ引っ越しました(引っ越してきました)。彼は丸い顔です(で)ちょっと太く、質素で飾り気がない服を穿きました(着ていました)。私は、彼の性格が(は)内向(内向的)だと思いました。
- 4 3 6 ) 母は気が早い(気が短い)おこりっぽい人です。でも父はやさしい人で、母の性格のことを理解します(しています)。でもたまらない(我慢できない)時もあります。
- 4 3 7 ) 私は犬が怖いと思ったので(怖いので)、犬を見ると走り始めました(走り始めました)。だから、まもなく、母はこの犬を友だちに送りました(あげました・あげてしまいました)。
- 4 3 8 ) 両親は私を大学生に育てるために(するために)、何年間の(もの)苦労生活(苦労)を過ごしました(してきました)。早く仕事を見つけて、両親の(に)育て(育ててもらった)恩を返したいです。
- 4 3 9 ) 父はサラリーマンなので、毎日時間どおりに会社(会社)に勤めます(行っています)。
- 4 4 0 ) 去年から父は株券に興味を持つようになってきます(ようになっています)。
- 4 4 1 ) 私のような簡単な家族構成は上海ではありふれる(ありふれている)と思います。

- 4 4 2) 私は大学で勉強する(勉強している)ので、長年で(長年)家で(に)いません。
- 4 4 3) 私は中学校から家へ(を)離れて天津へ行って勉強します(勉強していました)。  
独立の(自立した)生活が始まります(始めました)。
- 4 4 4) たぶん生まれてから、ずっと好きだろう(好きだ)と思っています(思います)。
- 4 4 5) 今、政府は水下トンネル(川底トンネル・海底トンネル)を造るという企画を作ります(たてています)。
- 4 4 6) 試験の結果は(が)分からないうちは、どうも気になっていきます(なるものです・なつてしかたがありません・なります)。

### 2.3.2 テンス

- 4 4 7) 田中さんは景気の波に乗って大もうけします(しました)。
- 4 4 8) 食事をした後、みんな(みんなが)トランプをしていた間(トランプをしている間に)、私は片づけをした。
- 4 4 9) 先学期、私の(は)英語の4級試験に合格しませんでした。その時、先生は気持ち悪い(気持ちが落ち込んだ)私を慰めました(慰めてくださいました)。
- 4 5 0) 大学に入ってから、お金が自由に支配する(使う)ことが出来るので、友達と一緒に出掛けるのはもう夢じゃなくなる(なくなった)。
- 4 5 1) わがコーチは(が)私を水泳のプロ選手になりたい(させたかった)時、私は学校教育を受け続けるの(受け続けること)を選びました。
- 4 5 2) 私の友だち(が)私を訪ねる(私を訪ねて来た・私の家に来た)時、母はあたかも自分の子供でも帰って来たかのように親切にもてなしてくれました。こんな母は私は大好きです。
- 4 5 3) 彼女と初めて会ったのは初級中学のことです。私が彼女と友達になる(なった)のは家が近いですから(近いからです)。
- 4 5 4) 春節はたのしいですが、忙しいです。特に大人がいそがしい(です。) 一年の苦労して(一年間苦労したのだから)、ちゃんと休み(休む)べきなのに、春節のために、もっと忙しくなつてしまいました(しまいます)。(また、)私(私の)ような世代いとしても(世代にとっては)、春節はつまらないと感じます。(しかし)例外の人たちもいますが、(います)。子供です。春節にはお年玉をもらえる(もらえる)からです。
- 4 5 5) 私はあした旅行することにする(した)。
- 4 5 6) 人生は一步一步で( )歩くから、(歩むものだ・進むものだ) 毎歩(どの一歩)も自分に対して(にとって)大切だと思つた(う)。
- 4 5 7) 手紙を読めばそれだけで安心しました(します)。
- 4 5 8) 大きな(深刻な)環境汚染が起こる(起こつた)場合は早速(早急に)解決しなければなりません。
- 4 5 9) 中国の(では)たくさんの習慣を守らなければなりません(でしたが)、こんなよくない習慣はいまが(いままで)ありませんでした。

- 460) 人間に(よって)環境が破壊された(る)ということを知り、どうやって環境を守るの(べきか)問題だと考えさせられた。
- 461) 2級試験が(に)合格した時は嬉しくてたまりません(でした)。
- 462) 心が(の)こもって(た)贈り物を受けます(もらいました・いただきました)。
- 463) 先生に(の)話に耳を傾けます(話に耳を傾けました・話を傾聴しました)。
- 464) 彼は英語だけでは足らず(満足せず・物足りず)、ロシア語にも手を伸ばします(しています・しました)。
- 465) 私は高校時代から日本のドラマをよく見ました(よく見えています)。
- 466) 大学へ入った前に(入る前に) 学科を選びました。私は日本語科にしました。
- 467) 次の日、私は母がいた病院(母がいる病院)へ行きました。
- 468) 先生からのお手紙、学校に戻った前の(戻る前の)日に受け取りました。
- 469) 我が家に着いたのは春節の直前でした。その日から春節が終わったまで(終わるまで)毎日忙しくてたまらなかったです。
- 470) 卒業論文の筋はまだ完全にできていませんでした(できていません)。
- 471) 君が日本人留学生からソフトウェアを借りてくれます(借りてくれました)。
- 472) 今年の11月に、クラス全員が広州へ実習に行くことになります(なりました・なっています)。
- 473) 当時中間試験が近づいて忙しい(忙しかった)のでお返事を差し上げられず、本当に失礼いたします(失礼いたしました)。
- 474) 今日事務所へ行くと、先生のお手紙があります(ありました)。
- 475) 先生は私からの手紙を受け取られる(受け取られた)とき、びっくりされたことでしょう。
- 476) 小さい頃から日本の漫画とか小説とかが大好きなので(日本の漫画や小説などが好きだったので) 大学で日本語を勉強することにしました。
- 477) 半年ぶりに会った両親はとても元気そうだ(だった)。町の様子は以前と似ていた(変わらなかった)。ただし雪が降ったばかり、\_(で)非常に寒いと感じた。
- 478) 2月9日(に)私は寮に帰りました。ルームメイトに合う(会った)時、親切感がしていました(懐かしく感じました・親しみを感じました)。
- 479) とくに高校生の時代(高校時代に)とても仲の良い友達が2人いる(いた)。1人は背が高く、中略 他の人(もうひとり)は眼鏡をかけていた。
- 480) 彼がけんかしたたびに(するたびに)私はずいぶん心配しました。
- 481) 大学に入ってから、お金が自由に支配する(使う)ことが出来るので、友達と一緒に掛けるのはもう夢じゃなくなる(なった)。
- 482) いくつかの(何人かの)士兵(兵士)が人々の身分証明書を検査していると(のを)発見した(見た)。その理由がわからなかった。私たちの身分証明書が(は)ホテルにある(あった)ので、とうとう(結局)通じられなかった(通れなかった)。当日残念に(残念に思いながら)天津へ返った(帰った)。

### 2.3.3 ヴォイス

#### 2.3.3.1 受身と使役

- 483) 私の(は)髪はを母に切られました。
- 484) ゆるがせにした(ゆるがせにしていた)朝食がを重視されて(重視して)、栄養と便利さとおいしさ3つの方面(面)に配慮を加えるべきだ。
- 485) 崇明島は工業区(工業地区)として開発しない(開発されない)から、汚染もひどくないし、空気もいい。
- 486) 特に2年前(2年前に)揚子江のうえに(揚子江に)橋をかけて(橋がかけられて)、揚子江の南北がつながって(つながったので)、交通はが便利で(便利になって)、さらに発展するようになっていきます(発展しています)。
- 487) 英語が大好き(大好きだ)けれども、両親に日本語を勉強されました(勉強させられました)。
- 488) 母は交通事故に遭いました。母の頭が(母は頭を)ぶつかられましたから(ぶつけたので)、頭の中で、うっ血がたまっていました(出血して血がたまっていました)。彼女は(母は)意識不明状態に陥りました(陥りました)。
- 489) 母は私にピアノを習わせた。毎週の七曜日(日曜日)母は私をつれて先生の家へ行って授業を受けた(受けさせた)。
- 490) 小学校の時にもこの題にして(題で)作文を書かされた(書かされた)ことがある。
- 491) その部屋は混んで(込みあって)いるような感じがさせます(感じがします)。
- 492) 私の(は)財布はをすられました。
- 493) 私の(は)足はを隣の人に踏まれました。
- 494) 午後、友達から電話をもらって(で)「映画を見に行きませんか」と誘って、(誘われたので)出掛けていき( )ました。
- 495) 豫園から東へ10分歩くと、バンドに着きます。そこで(では)、外国の建物が見えません(見られます)。中国人の自分の手によって建った(建てられた)東方明珠タワーがバンドの向こう(向い)に立っています。バンドで(では)、豫園とすっかり(まったく)違う風景が見えません(見られます)。
- 496) 環境が破壊される(破壊されている)ということを知って、(どうしたら)人々が保護(環境を保護できるか)と考えさせられた(を考えた)。
- 497) われわれのふるさととは地図にさえかかない(のっていない・かかれない)ほど小さい村です。
- 498) 上司にこのことをやらせられた(やらされた・させられた)のです。
- 499) 一番心を引く(引かれる)のは食べ物屋です。
- 500) それを聞いて私は一方で深く感銘させられながら(感銘を受けながら)、また一方で後ろめたい気がしました。
- 501) 日本のペンフレンドもお年玉をくれて、あたたかい感情を感じくれた(感じさせてくれた)。

- 502) 上海博物館へ行った。あそこ(そこ)に(で)「日本文物展覧会」が行っていた(行われていた)。
- 503) どうして上海は中国第一(中国第一の)大都会と認める(認められる)のか、答えはその魅力にある。上海は別の(他の)都会がもたず(持たない)中西文化が完璧に融合して(融合した)特別な美を持っているから(持っているからだ)。
- 504) 世界経済が一体化している今日、中国は別の国(他の国)としっかり繋がられて(繋がって)いると思います。
- 505) 四六時中忙しい生活をしている人間がこれらの庭園に入ったら、身心の(を)リラックスする(リラックスさせる)ことができると思う。
- 506) 今、プールの入場券が(は)高くて、(い。)そして(それに)公園の湖で泳ぐことも禁止する(された)。海に行くチャンスは少なくない(少ない)。だから、毎日泳ぎには(泳ぐのは)無理だ。
- 507) 人間に(よって)環境が破壊された(る)ということを知って、どうやって環境を守るの(べきか)が問題だと考えさせられた。
- 508) 昨夜は酒に飲まれて(を飲みすぎて)、道中( )で転び倒れ(転倒し)ました。

#### 2.3.3.2 可能動詞

- 509) 猫は夜でもよく見られる(見える)。
- 510) 国際人になれるために(なるために)、どうすればいいか。それは思うべき(考えるべき)問題だ。
- 511) 私は仕事を探すなら、かならず趣味と実益を兼ねたい(兼ねた仕事にしたい)。こうすればかぎり(そうすれば)、仕事をするのも一つの楽しみになれる(なる)。
- 512) そのかわりに、ペラペラな(ぺらぺらと・流暢な)英語を(が)喋れることがいまの上海人の自慢になりました。
- 513) 春節はたのしいですが、忙しいです。特に大人がいそがしい(です。) 一年の苦勞して(一年間苦勞したのだから)、ちゃんと休み(休む)べきなのに、春節のために、もっと忙しくなってしまいました(しまいます)。(また、) 私(私の)ようなせだいとしても(世代にとっては)、春節はつまらないと感じます。(しかし)例外の人たちもいますが、(います。) 子供です。春節にはお年玉をもらえる(もらえる)からです。
- 514) 自分の子供と一緒に住むできれば(住むことができれば)、気分も徐々にいいと(よくなると)思いました。
- 515) 隣の部屋から話し声が聞ける(聞こえる)。
- 516) 来年、無事に卒業したら(卒業できたら)いいなあ。
- 517) 先生の話がよく聞こえる(をよく聞く)ために、前のほうに座ります。
- 518) 鳥の声を聞く(が聞こえる)ように窓を開けましょう。
- 519) 電池が切れたから、このおもちゃはもう動かせません(動きません)。
- 520) 工業化があまり進めない(進んでいない・進まない)ため、村の若者はほとんど

町や大都市へ行って(行ってしまつて)(そこで)仕事を探して、そこで( )  
頑張っています。

- 5 2 1) 切符を買いにくい(がなかなか買えない)。
- 5 2 2) 電話で海外にいる娘の声が聞けば(聞ければ)それだけで母は安心する。
- 5 2 3) 80を超える老齡でありながら(なのに)よくあるける(あるく)。
- 5 2 4) 日本語の勉強方法はたくさんあります。その方法を十分に利用すれば上手になることができます(上手になるでしょう・上達できるでしょう)。
- 5 2 5) それでも、痛ましい歴史を忘れることができていなかった(忘れることができないでいた・忘れることができずにいた)。

### 2.3.3.3 自発

- 5 2 6) 奥さんは主人(夫)の話を聞いているうちに、夫が会社のお金を使い込んだのは、その女のためだった(だ)と思つてきた(思えてきた・思えてならなかった)。
- 5 2 7) 私は泣いて(泣けて)しかたがありませんでした。

### 2.3.3.4 やりもらい

- 5 2 8) まずきれいなプレゼントを選んで、店員にそれを包まれました(包んでもらいました)。
- 5 2 9) (テニス)は大学で友達から教えられて(教えてもらつて)、鍵を把握しました(コツをつかみました)。
- 5 3 0) 私の家は引っ越しました(引っ越した)ので「家はどこにあるか(あるのか・あるんだろう)、どうしようかな」と困りました。仕方がないので、先(先に・まず)、家に電話をかけてお母さんからアドレスをくれました(教えてもらいました)。
- 5 3 1) みんな先生と会いたくて(お会いしたいと思つているので)、もし先生も(にも)参加してくれば(いただければ)、きっと喜びます。
- 5 3 2) 母はいつも私のために面白いの(面白い)本を読んでいました(読んでくれました)。
- 5 3 3) 神様に奉る(供える)菓子の種類は決めているのだ(決まっているのだ)。  
中略 おばあさんは(に)「落花生とあめと果物とお茶なら(落花生とあめと果物とお茶があれば)大丈夫」とおしえてもらつてとても嬉しかった。
- 5 3 4) 午後、友達から電話をもらつて(で)「映画を見に行きましようか」と誘つて、(誘われたので)出掛けていき( )ました。
- 5 3 5) 私は家族の経済問題で銀行に相談に乗りたい(乗ってもらいたい)です。
- 5 3 6) よろしかったら( )私個人の問題について(なのですが、できれば)、先生と( )ご相談に乗りませんか(相談に乗っていただけませんか)。
- 5 3 7) 先週田舎から来た妹は、大学へ見学しに(大学を見学しに・大学へ見学に)連れられてき(連れて行ってもらい)たがっています。
- 5 3 8) 先生はとてもまじめに教えていて(熱心に教えてくださるので)、感心し(感銘を

受け)ました。

- 5 3 9) 彼は神経の太い(神経が図太い・デリカシーのたりない)人だから、ちょっと失礼なことをしたら(しても)許してください(あげてください)。
- 5 4 0) 早く大人になってお父さんのお( )力になり(ってあげ)なさい。
- 5 4 1) 先生がいつも気持ちよく相談に乗ってもらいたいと思います(くださいます・くれればいいと思います)。
- 5 4 2) 彼と(に)相談し(ようとしまし)たが、なかなか相談に乗りません(のってくれません)。
- 5 4 3) 母はいつもたくさんの材料を買ってくれて、おいしい料理を作ってくれて、(くれる。)

#### 2.3.4 自動詞・他動詞

- 5 4 4) 間もなく、ご飯を作りあげた(を作り終えた・を仕上げた・が出来上がった)。
- 5 4 5) レストランへ行って夕食を済む(済ませる)人も少なくないです
- 5 4 6) ふるさとの気候は上海とたいてい(だいたい)同じです。海洋性気候で全年(年間)の降水量がいっぱい(多い)です。梅雨入りになると、雨が降り続けて家具や、服や、ふとんなどがかびを(が)はやして(はえて)しまいます。
- 5 4 7) 長い歴史は中国に豊富の(豊かな)文化遺産を残って(残すと)同時に根強い封建思想が(を)今にも(今でも)残っています(残しています)。
- 5 4 8) 崇明島は上海の「野菜基地」としているから(なっているから)、上海市内に多様な(多くの種類の)新鮮な野菜を供給している。
- 5 4 9) 一ヶ月前猫が4匹の子猫を生まれた(生んだ)。
- 5 5 0) そして姉は仕事を勤めるから(勤め始めていたから)私たちの弟と妹(私たち弟と妹)にお金をくれた。
- 5 5 1) これらの作品はいつもわたしのような学生の教材とするんだ(なる)。
- 5 5 2) 神様に奉る(供える)菓子の種類は決めているのだ(決まっているのだ)。 中略 おばあさんは(に)「落花生とあめと果物とお茶なら(落花生とあめと果物とお茶があれば)大丈夫」とおしえてもらってとても嬉しかった。
- 5 5 3) 車の中で2グループを(2グループに)分けて(分かれて)、ポーカーをやりました。
- 5 5 4) 日本語も貿易知識も身につくために(身につけるよう)前を向いて頑張っています。
- 5 5 5) 普段、宿題を終わったら(が終わったら・を終えたら)、私たちはテレビの前で(に)座ってニュースとかドラマとか(ニュースやドラマを)観ます。
- 5 5 6) 話し合いによって、お互いに知り合い(分かり合い)認識を一致する(一致させる)ことができる。
- 5 5 7) 空手は中国から日本に伝わった(伝えられた)格闘の技術(格闘技)といえよう。
- 5 5 8) 国の人々(国民は)も積極的に進んだ科学、文化を勉強して(学んで)、国の発

展のために、自分の力を貢献(貢献)しなくてはならない。

- 5 5 9 ) かれは意外なことにびっくりして、腰が抜け(をぬかし)てしまいました。
- 5 6 0 ) いいアルバイトが見つけません(見つかりません)でした。
- 5 6 1 ) 成績が知っている前(を知る前・がわかる前)に(は)、毎日どきどきしていました。
- 5 6 2 ) 彼はあちこち(あちこちで)悪いことをして、すっかり世間が(を)狭くなっ(し)てしまいました。
- 5 6 3 ) 早めに食事を済む(済ませる)と、すぐ羽を伸ばしに出て行きました(出かけました)。
- 5 6 4 ) 人前で威張っている父と家で映画を(に)夢中にしている(夢中になっている)父はまったく別人のようである。
- 5 6 5 ) わがコーチは(が)私を水泳のプロ選手になりたい時(させたかった時)、私は学校教育を受け続ける(受け続けること)を選びました。
- 5 6 6 ) 足が(を)怪我したからといって歩けないわけではない。
- 5 6 7 ) 経済を(が)発展すると同時に公害問題も多くなった。

### 2.3.5 意志表現

- 5 6 8 ) できれば、日本語を勉強し続けると思っています(勉強しつづけたいと思っています)。
- 5 6 9 ) また日本でお会いして話しましょう(お話したいと思います)。
- 5 7 0 ) 余暇を利用して本を読むつもりでしたが、ほとんど読みませんでした。これから頑張りましょう(頑張りつもりです)。
- 5 7 1 ) 私はあと2か月ぐらいして帰ります。その時に、また手紙を書きましょう(書くつもりです・書きます)。
- 5 7 2 ) 今度の実習は日本語科にとって初めてのことから、ぜひ頑張りましょう(頑張りたいと思います)。
- 5 7 3 ) 夏休みに日本語をよく学習する(よく勉強しよう)と計画したので、何冊かの本を持って帰りました。
- 5 7 4 ) なんとかうまく行こうと(くように(と))工夫を凝らしました。

### 2.4 形容詞、連体詞

- 5 7 5 ) 彼は悲しく(悲しそうに)言った。
- 5 7 6 ) 3人の家族はひとつの部屋に住んだほかしかたがない(住むほかしかたがなかった)。
- 5 7 7 ) 当時中間試験が近づいて忙しい(忙しかった)のでお返事を差し上げられず、本当に失礼いたします(失礼いたしました)。
- 5 7 8 ) 父は人に(を)助けることが好きだ(な)ので、みんな彼(父) に(を)尊敬します。
- 5 7 9 ) 高校一年生の時から、私はずっと学校で宿泊しています(生活しています)。

- 暮しています)。でも、その時に比べて大学学生寮の生活はもっと(ずっと)豊か  
と(豊かだと)思います。
- 580) 昨日のパーティーは嬉しいパーティーでした(楽しいパーティーでした・私  
にとって嬉しいパーティーでした)。
- 581) 今年の冬は非常に寒かった(寒かった)。中略 冬になると自分が蛙のよ  
うに冬眠できるのをほしかった(冬眠したかった, 冬眠できるようになりたかっ  
た)。
- 582) 今年の冬休みは以前と同じ(同じように)、ふるさとに(で)過ごした。
- 583) 母はいつも私のために面白いの(面白い)本を読んでいました(読んでくれま  
した)。
- 584) 私は犬が怖いと思ったので(怖いので)、犬を見ると走り始めました(走り始  
めました)。だから、まもなく、母はこの犬を友だちに送りました(あげました,  
あげてしまいました)。
- 585) 彼は一級試験に合格することを知るととてもうれしかったです(うれしそう  
でした)。
- 586) 英語が大好き(大好きだ)けれども、両親に日本語を勉強されました(勉強させ  
られました)。
- 587) 上海の(は)、人の生活レベルが(も)高いし、リズムが(も)速いし、毎日忙し  
いだ(忙しい)。これは(これらから・このようなことから)活気に満ちている大都会  
だと思う。
- 588) 上海は大都会で、(です。)面積はあまり大きくないですけど、人はとても多  
いで(多くて)、固定人口は千三百万人です。まわりには江蘇省と浙江省です(があ  
ります)。
- 589) 私は日本語がほんとに下手ので(下手なので)、今学期もいろいろ先生に勉強  
したい(先生にご指導願いたい、先生に教えていただきたい)と思っております。
- 590) 外国文化を取り入れるとともに、上海は独特な(独特な)ものがあります(作  
られました・できました)。

## 2.5 指示詞

- 591) 多くの日本人は中華料理が好きです。でも、中華料理は日本料理より(と比  
べると)もっと(かなり)あぶらこいです。しかし(だから)ある日本人に毎日毎日中  
華料理を食べさせたら彼(その人)はきっと我慢できません。逆もその道理です。  
これは食生活の地域性です。
- 592) 杭州は今梅雨ですから、あちこち(どこもかしこも)湿っぼいです。
- 593) 一緒に過ごした日が、どこまでも(いつまでも)忘れられません。
- 594) A:昨日同級生の田中さんという人にばったり会いましたよ。  
B:この(その)人なら私も知っていますよ。前に紹介してくれたじゃありま  
せんか。
- 595) 去年、京都へ行きました。あそこ(そこ)で、たくさんのお寺を見ました。

- 596) 上海で一番有名な料理店は「緑波廊」という名前だ。鄧小平はあそこ(そこ)の料理が大好き(大好きだ)そうで、あとで(後に)アメリカの大統領やイギリスの女王もあそこ(そこ)へ行ったことがある(行っていた)。あの(その)店は主に上海料理を作るが、四川料理も北京料理も広東料理も(四川料理、北京料理、広東料理なども)作る。とにかく、何がおいしいなら(おいしいものなら)何を(なんでも)作る。
- 597) 上海博物館へ行った。あそこ(そこ)に(で)「日本文物展覧会」が行っていた(行われていた)。
- 598) 冬やすみの時は(の時期は・は)いつもそんな(こんな)に寒くて、起ろうとも(起きようとしても)起きられなくて本当にしかたがないんだかった(しかたがなかった)。実は今学校にいてもそんな状況もうあって、(同じような状況だ。) さいわい春はとうとうどんどん近づいているんです(いる)。
- 599) 一人は(が)「今夜はだれでも(だれも)寝ることが(寝ては)だめ」と言って(言い)、私たちも賛成したが、結局、あの人(その人)を除いて、私たち3人は眠りたくてたまらなくなり、結局みな寝た(寝てしまった)。
- 600) 2月5日、高中時代の友達3人と会った。あの日(その日)、私たちは一緒にインターネットをやったり、昨年中にあったことを話したり、料理を作ったりして、(料理を作ったりした。) でき上がった料理はちょっとまずい(まずかった)けれども、本当に楽しかった。
- 601) それは 外国語学校という学校でした。その学校へ行く前に、あそこで(そこで)日本語が勉強できると聞きました。
- 602) 私は 月 日に帰るつもりです。あの時(そのとき)もう一度お便りします。
- 603) 私は、1996年から1999年まで上海にいました。そしてあそこ(そこ)の高校で勉強していました。
- 604) 土地制度について最も注意すべき点は、その( )改革後に大地主がなくなりました(いなくなったことです)。
- 605) その( )貸した物は鉛筆や消しゴムなんて(など・のような)小さい物でした。
- 606) 好きなこともありました。でもあれは(それは)家のしごとよりずっと体力かかりました(体力が必要でした・体力を使いました)。
- 607) 気温が零下34度で、すごく寒かった。ずっと上海にすんでいる身にとってこの寒さを(に)一時に慣れてできなかった(すぐに慣れることはできなかった)が、準備が(その準備が)あったのでしばらく北国の情緒を楽しんだ。
- 608) 彼女と一緒に(の)旅行は楽しかった。あの日(その日)、春のピクニックをした。
- 609) 多くの外資企業は(が)浦東新区に入りました。あそこで(そこに)ビルを建てて海外子会社(海外の子会社・海外法人)を設立しました。浦東は今日ごろに(日増しに)繁栄になっています(繁栄しています)。

610) 宴会の時) 私たちが美味しい料理を食べているうちに(あいだ) 彼らは一口も食べていなかった。大変だった。それは(これは) 風習だ。私は(が) 将来結婚すれば、(するときは) こんな結婚式はいらない。

## 2.6 副詞

611) 多くの日本人は中華料理が好きです。でも、中華料理は日本料理より(と比べると) もっと(かなり) あぶらこいです。しかし(だから) ある日本人に毎日毎日中華料理を食べさせたら彼(その人)はきっと我慢できません。逆もその道理です。これは食生活の地域性です。

612) 毎朝きつと(必ず) ミルクを一本飲みます。

613) 今度の冬休みは1月11日から2月11日までちゃんと(ちょうど)一ヶ月間だったがいよいよ面白いことがあった。

614) 多くの上海人が日本で働いていますので、日本人と上海人はきつと(ぜひ) 仲がもっと良くなって(もっと仲良くなって)、これからの日本と上海の共同の発展と友好関係のために一緒にがんばりましょう。

615) 毎年休み時(休みの時には)、ぜひ(必ず) 面会します(会います)。

616) 多くの外資企業は(が) 浦東新区に入りました。あそこで(そこに)ビルを建てて海外子会社(海外の子会社・海外法人)を設立しました。浦東は今日ごろに(日増しに) 繁栄になっています(しています)。

617) ふるさとの気候は上海とたいてい(だいたい)同じです。海洋性気候で全年(年間)の降水量がいっぱい(多い)です。梅雨入りになると、雨が降り続けて家具や、服や、ふとんなどが(に) かびを(が) はやして(はえて)しまいます。

618) 紹興は近いので、土日はだいたい(たいてい)家へ帰ります。

619) 霊岩山、天平山、天池山などの山はすごく(とても) 有名な山とは(山だとは) いえないが、観光にいったら(行っても)悪くないと思う。

620) 豫園から東へ10分歩くと、バンドに着きます。そこで(では)、外国の建物が見えます(見られます)。中国人の自分の手によって建った(建てられた)東方明珠タワーがバンドの向こう(向い)に立っています。バンドで(では)、豫園とすっかり(まったく)違う風景が見えます(見られます)。

621) いままで親の臍をかじている私は将来どうしたら(どのように)親に恩返しをしよう。

622) 母は明るくて、勤労している人(よく働く人・働き者)人で、決して朝寝坊をしません。定年にしてから(になってから・してから)、毎日忙しくて、おいしい料理を作ったり、部屋掃除したり(部屋を掃除したり・部屋の掃除をしたり)して、家事が(を) いちいち(ひとつひとつ)順調に(着々と)できます(やります)。

623) 父も母も自由な生活が好きなので(で)、その上、会社が全くの不景気で(だったので)、数年前、各々思い切って仕事をやめて、車を一台買いかえて、タクシーの運転手になることにしました。こういう仕事は難しいながら(ながらも・が)、両親は勝手に(自由に)時間を支配する(使う)ことができるようになるから(よう

- になったから)、前より楽しく(楽しそうに)見えます。
- 624) 勉強の中で一番上手なのは(得意なのが)数学である彼女は時々(時々)数学に弱い私に(を)助けてくれました。
- 625) 日本の漫画を読むことと日本のアニメーションを見ることは私の一日中(で)一番大切なことでした。もし父は(が)ちょっと(少しでも)非難したら、私はこれは全部日本語のレベルを高めるために見たのと答えました(私は「これは全部日本語のレベルを高めるために見ているの」と答えました・私は、全部日本語のレベルを高めるために見ているんだと答えました)。
- 626) いくつか(何人か)の士兵(兵士)が人々の身分証明書を検査していると(の)を発見した(見た)。その理由がわからなかった。私たちの身分証明書が(は)ホテルにある(あった)ので、とうとう(結局)通じられなかった(通れなかった)。当日残念に(残念に思いながら)天津へ返った(帰った)。
- 627) 私は今度の試験に心細いから(自信がなく)、合格かどうか(できるかどうか)すごく心配したが(心配だった)。もしかしたら(もし)合格できなければ、楽しい冬休みは必ず(きっと)楽しくなくなると思った。
- 628) 大きな(深刻な)環境汚染が起こる(起こった)場合は早速(早急に)解決しなければなりません。
- 629) もしあなたは(もしあなたが・)中国の美しい国土を外国人に紹介したら、中国の旅行業が必ず(はきっと)勢いよく(もっと・急速に)発展していくだろう。
- 630) もし中国の歴史を外国人に紹介したら、外国人が(は)必ず(きっと)中国の偉大さに賛嘆するだろう。
- 631) 彼は(の)言葉における才能はまさ(非常)にすばらしいのだ( )。
- 632) 先(さっき・今)起きたばかりなのにまた(もう)眠りたいです。
- 633) 両親と相談した結果、英語を選ぶことにしました。でも日本語も勉強したかったので、日本語も選びました。最後に(結局)日本語科の学生になりました。
- 634) 劉さんは私たちとよく(あまり)触れませんでした(付き合いませんでした)。
- 635) 高校一年生の時から、私はずっと学校で宿泊しています(生活しています・暮しています)。でも、その時に比べて大学学生寮の生活はもっと(ずっと) 豊かと(豊かだと)思います。
- 636) よほど(とても)お腹がすいていたので、歩きながらパンを食べました。
- 637) もしも(もしかしたら)学生時代の最後の夏休みになるかもしれません。
- 638) 彼女のお母さんはとてもやさしくて、たくさんの料理を作ってくれた。料理はけっこう(とても)おいしかった。
- 639) 彼らにとって、中華料理はただラーメンやギョーザやチャーハンなどだけだ、(ラーメンやギョーザ、チャーハンなどだけだ。)あるいは犬、蛙、蛇肉ような変なものを材料として作った気色わるい料理だと思う(思っている)。
- 640) 父は大学での専攻は(が)彫刻だったので、卒業してから、直接(すぐに)上海×××会社に入りました。
- 641) 汽車のまどから外へ(を)見て(見ると)、いっぱい(一面)白い世界でした。遠

くを眺めると、天地は巨大な白いカーペットのようでした

- 6 4 2 ) 11時から私のインターネットの時間です。それから、(11時から)だいたい3時間が(か)4時間を経て(して)からそろそろ( )寝ます。
- 6 4 3 ) 1月22日、いとこさん(いとこ)の結婚披露宴に参加した。いとこさん(いとこ)は(が)お婿さんと会ってから結婚するまでただ(わずか・たった)2ヶ月ということにびっくりした。
- 6 4 4 ) ただ(たった)14.5 平方メートルと見えますが(ですが)、8人が(も)住みます(住んでいます)。
- 6 4 5 ) お気持ちはよく分かりますが、せっかく(決して)私のためにそんなことをなさらないでください。
- 6 4 6 ) どれほど(とても)つらくても(かったけど)、ベランダに立ったとたんに、ふっと心が広がって 元気も出していった(出てきた)
- 6 4 7 ) いつ中国へいらっしゃいますか。私たちはゆっくり(心から)お待ちいたし手おります。
- 6 4 8 ) 私はもう( )英語の国家水平試験4級に合格しました。
- 6 4 9 ) お便りはもう( )いただきましたが、このごろずっと忙しくて遅くなってしまいました。
- 6 5 0 ) ご無沙汰しました。先生、まだ( )お元気ですか。
- 6 5 1 ) ご無沙汰しておりましたが、まだ( )お変わりございませんか。
- 6 5 2 ) たくさん分からない単語があります。辞書を引ながら読んだのです。今まで(まだ)読み終わりません。
- 6 5 3 ) そんな時、普通のアメリカ人が(は・なら)よく(たいてい)怒りますが、日本人が(は・なら)黙っているそうです。
- 6 5 4 ) 最近、実は(実に)礼儀を知らない人が多い。ひどいのになれば(になると)、年寄りを押しつけて座席を取ったりする。
- 6 5 5 ) さすが(さすがに)大都会の(は)就職率が高いし、生活も便利だ。
- 6 5 6 ) 日本語をよく( )勉強するために、毎晩ラジオを聴くようにする。
- 6 5 7 ) 今は観光シーズンでホテルは込んでいるといっても、あらかじめ( )予約しておいたので部屋があるはずだ。
- 6 5 8 ) 私の家は引っ越しました(引っ越した)ので「家はどこにあるか(あるのか・あるんだろう)、どうしようかな」と困りました。仕方がないので、先(先に・まず)、家に電話をかけてお母さんからアドレスをくれました(教えてもらいました)。

## 2.7 接続詞

- 6 5 9 ) 春節はたのしいですが、忙しいです。特に大人がいそがしい(です。) 一年の苦勞して(一年間苦勞したのだから)、ちゃんと休み(休む)べきなのに、春節のために、もっと忙しくなってしまいました(しまいます)。(また、) 私(私の)ようなせだいとしても(世代にとっては)、春節はつまらないと感じます。(しかし)例外の人たちもいますが、(います。) 子供です。春節にはお年玉をもらえる(もらえ

る)からです。

- 660) 多くの日本人は中華料理が好きです。でも、中華料理は日本料理より(と比べると)もっと(かなり)あぶらこいです。しかし(だから)ある日本人に毎日毎日中華料理を食べさせたら彼(その人)はきっと我慢できません。逆もその道理です。これは食生活の地域性です。
- 661) この本は愛情、生活、社会乃至(および)宗教に対して、独立、(自立した)積極的な態度を持って、自由と平等のために、挑戦するだけの勇気がある女性を描写することです(描写しています)。
- 662) 各国の商人が上海へ商売しに行ったから(来たから・来たので)立派な港や近代化な工場が立てられた。すると(そして)近代中国の最初の工業都会(工業都市)となった。
- 663) 上海に(の・は)どこへ行っても人も自転車も多くて道もバスもひどく込んでいる。特にラッシュの交通渋滞は大変だ。だって(それは、)近年来交通機関が発達するにつれて地下鉄や黄浦江トンネルや高速道路は(が)出てきて(作られたし、)道もよく整備されているから(整備されて)交通の便が良くなってきた(交通量が多くなってきたからだ)。
- 664) 幸いことには(幸いなことに)文系と理系にクラス分けされる高校二年生になった時、彼と私はクラスメートになりました。それに(そして)彼は私のいい友達になりました。だから彼のことについて私はよく知っています。
- 665) 今、プールの入場券が(は)高くて、(い、)そして(それに)公園の湖で泳ぐことも禁止する(された)。海に行くチャンスは少なくない(少ない)。だから、毎日泳ぎには(泳ぐのは)無理だ。
- 666) 日本語は世界の言葉の中でも面白い特徴をもっていると思います。そのために(だから・それで)私は日本語が大好きです。

## 2.8 後置詞

- 667) 改革開放につれて、歐美(欧米)と日本を始めて(始め)、有名な外国の会社は北京で子会社を設立しました。
- 668) 上海で(には)日本の社会や文化に対して(関して)の本はとても少ないです。それに私はどんな本がいいと(いいのか)わかりません。そこで、先生に適当な本を探していただけませんか(適当な本を探していただきたいと思っているのですが、おねがいできますでしょうか)。無理な請求ですけどもすみません(本当に図図しいお願いですが、どうぞ、よろしく願います)
- 669) 私の父はコックです。だから私に対して(とって)一番幸せな事は父の作った料理を食べるの(こと)です。
- 670) 私の父は設計部の部長です。年末には、いつも忙しい、(いつも忙しくて)一月くらい家も(家にも)帰らない、(帰りません。) そして、その時(それは)、大学に入る前の私に対して(とって)、もっとも楽しい時です(でした)。 中略 でも、ほかの11月(11ヶ月は)、勉強のほかに何もやらなかった(できなかったからで

す)。

- 671) しかし、もうすぐ卒業する。そのとき、友達は人生にたいして(とって)もっとおもしろい(おもしろく)、もっと大切になると思う。
- 672) 人生は一歩一歩で( )歩くから、(歩むものだ・進むものだ。) 毎歩(どの一歩)も自分に対して(にとって)大切だと思った(う)。
- 673) このドライブは彼として(にとって)生まれてはじめに(はじめての)楽しい経験であった。
- 674) 私は多くのともだちがありますが、私に対して(とって)一番いい友達はただ一人います(一人です)。
- 675) 杭州に着いて(ついてから) 毎日雨だけ(ばかり)降っていました。秋にっては(にしては)暑いくらいでした。

## 2.9 助詞

### 2.9.1 格助詞

- 676) 会社に(で)会議がある。
- 677) 普通の人是一日に3食ですが、私は3食に(では)足りません。私は寝ていても、おなかがすいたから(すいて)目が覚めることはは(が)あります。そのために、私は寝る前にいつもパンとか、ビスケットなどを食べ、ミルク一杯を飲みます。
- 678) 私は小学生の頃、2年生から6年生までの4年間半ぐらい、絵画を夢中にしていました(夢中でしていました)。 - 中略 - それに地方的、(地方や)全国的な試合をに(に)したこと(出品したことが)があります。
- 679) 私の(は)ふとんの中に(で)こっそりラジオの番組を聞いたしかないので(聞くしかなかったのです)。
- 680) まず報告したいのは、今度私は(が)英語の試験がに(に)合格しました(たということです)。
- 681) 私もピンポンをが(が)好きです。1995年、第43次(第43回)世界ピンポン大試合(世界卓球大会)から(の時から、を見てから)、ピンポンを初めてやります(始めました)。
- 682) 地下鉄を出たばかり(出たすぐの)大通りに人で(が)いっぱい立っていたことにびっくりした。
- 683) 小さい時、母は仕事でよく出張した。チャンスがあったら、いつも私に(を)つれて行った。
- 684) 上海に(の・は)どこへ行っても人も自転車も多くて道もバスもひどく込んでいる。特にラッシュの交通渋滞は大変だ。
- 685) 杭州に来たばかりなのに道を(が)よく分かります。
- 686) 足が(を)怪我したからといって歩けないわけではない。
- 687) 経済を(が)発展すると同時に公害問題も多くなった。
- 688) 中略 母は父と違いますが(違って)、私の(に)とてもやさしいです。
- 689) 彼は神経の(が)太い(図太い)人だから、ちょっと失礼なことをしたら(し

- ても) 許してください(あげてください)。
- 690) 彼は本校バスケットボールチームの一員として全国高校バスケットボール大賞を(大会に)参加して、省チャンピオンを(に)遂げた(なった)。
- 691) 私が一番好きなのはふるさとの静けさだ。私はよくこういう妙な(不思議な)力を含んでいる静けさを(に)誘われてよそから帰ってくるものだ。
- 692) 記憶では、子どもの時、(私が子供の頃の)上海人は上海語が話せるという点が(を)すごく自慢していたそうです(ようです)。地方の人はみんな一生懸命普通語を勉強していたのに、ただ上海人だけは(上海人だけは)すごいプライドを持って、地方弁(方言)を喋っている人を軽蔑していたそうです(ようです)。当時、地方の人は(を)一概に「いなかもの」って(と)呼んでいました。
- 693) 子供の時からどうして自分がが(は)、海の辺りとか草原とか森の奥にも(で)生まれなかったのか、といつも母に不満を言っていた、そういう自然に恵まれた所に生まれるたらどんな幸せだろう(生まれるたらどんなに幸せだったろうか)と思っていた)。
- 694) 中国の長江は世界に(で)第3(第3番目に)長い河です。中国は世界中に(で)人口が一番多い国です。
- 695) 去年の統計によると、私の區(区)の総生産収入は上海で第3位だそうだ。もちろん、それには市民の努力が(は)言うまでもなく、日系企業と(との)つながりも(理由のひとつとして)あると思う。私の区では、日本の会社や工場は(が)いくつが建てられている。その中に(で)有名なのは富士通や野尻などである。
- 696) ふるさとの気候は上海とたいいてい(だいたい)同じです。海洋性気候で全年(年間)の降水量がいっぱい(多い)です。梅雨入りになると、雨が降り続けて家具や、服や、ふとんなどが(に)かびを(が)はやして(はえて)しまいます。
- 697) 上海で(には)日本の社会や文化に対して(関して)の本はとても少ないです。それに私はどんな本がいいと(いいのか)わかりません。そこで、先生に適当な本を探していただけませんか(適当な本を探していただきたいと思っています)ですが、おねがいできませんでしょうか)。無理な請求ですけれどもすみません(本当に図々しいお願いですが、どうぞ、よろしく願います)。
- 698) 1週間の実習を通じて、経験ばかりでなく、人間関係も勉強しました。そして、仕事のつらさも感じました。学校で勉強した知識が(では)足りなくて(足りず)、面(範囲)が狭いと思いました。
- 699) 先生の学校のほうも忙しい(お忙し)そうですね。新学期ですし、運動会の指導も(ご指導も)大変ですし(大変でしょう)、お体を(に)気をつけてくださいね。
- 700) まず最初の報告したいのは、今度私は英語の試験が(に)合格しました。試験の後、僕は「こんなに難しいな(こんなに難しければ)、どうしてもパスできないかな(パスするのは無理かな)。」と思いましたが、ただ合格してくれてとても思いがけなかった(思いがけず合格できました)。もちろん大喜びでありましたね(でした)。
- 701) 自分の努力の(努力した)ため(おかげで)、やっとMCSEの証明書を取り込みました(取得しました)。このことに(を)通じ、何でも努力だけ(努力すれば)成功で

きると思いました

- 702) 古代の皇帝は(の)毎日の3食の料理には山の幸海の幸が多分に使用され、コックも一流で、料理の原料も全国各地から一番いいのを(が)選ばれたのだ。
- 703) 母が作った料理より(ほど)おいしくないけれども、
- 704) たとえば、中華料理には(で)有名は(な)「碧緑蝦仁」と言えば、赤いえびと緑のグリーンピースを合わせて、(合わせる。) そして、サラダオイルのため、えびは(そのえびは油のために)つやつやして、(している。) こんなきれいな色を見て、おいしそうと思わない人はたぶんいないでしょう(いないだろう)。
- 705) 私の国は海まで(に)近くて、いろいろな海の幸がいる(ある)。
- 706) 家(に)で唯一の独り子だけは(子供は)私です。
- 707) 父親は今年もう50歳になりました。人生の半部分(半分を)もう送りました(過ごしました)。
- 708) 父は娘の私に対して、基本的には甘やかしてくれていて、私のプライベートに関して余り口を出していないけれども、一旦、彼(父)の原則を(に)違反しそう、あるいは(しそうになったり)、彼(父)の利益を侵しそうのなら(侵しそうになったら)、きっと別人のように怒りだすはずです。
- 709) は明るくて、勤労している人(よく働く人、働き者)人で、決して朝寝坊をしません。定年にしてから(になってから、してから)、毎日忙しくて、おいしい料理を作ったり、部屋掃除したり(部屋を掃除したり、部屋の掃除をしたり)して、家事が(を)いちいち(ひとつひとつ)順調に(着々と)できます(やります)。
- 710) 例えば、夏目漱石、森鷗外、村上春樹などの作家が(を)わかるようになった(知るようになった)。
- 711) 父は子供時代を田舎で過ごしたので、大自然中(大自然)の植物や動物などが(を)よく知っています。そこで(それで)、私は父に(を)偉くておもしろい人を(だと)認めます(思います)。
- 712) 友達と一緒にスポーツをすることが(は)非常におもしろいと思います。例(例えば)、友達と一緒にサッカーをした後、みんな汗を(が)いっぱい流れました。どうして負けるか(負けるのか)、どうして勝るか(勝つのか)と議論しました。
- 713) 何も他人より優れたこともも(は)ないが、いつも人にうらやましがられることが(を)よく分かっている。
- 714) 僕の(私が)10歳の時、母は仕事をやめて専門主婦(専業主婦)になりました。それ以来、家事は全部母に(が)一人でやられます(やっています)。
- 715) 弟が(は)知った後、一ヶ月ほど母と(に)話しかけたこともないことになりました(話しかけませんでした)。
- 716) 父に殴られたり、叱られたりしたことがなかったものの、中略 父の目の前に(では)おとなしいふりをしましたが、見られなかった時(見られていない時は)、いたずらしてばかりしました(ばかりしました・してばかりいました)。だからいつも母に殴られて(叩かれて)、しかられましたけど、母が(は)怖くありませんでした。
- 717) 上海に行った後、母から私は(が)大学に(大学で)上海に来たあと父がいつも

- ひとりで私の写真を見た(見ていた)ことを聴いてくれました(聞きました)。
- 718) いつも「よく電話をかけきて」と私たちの(私たち)兄弟を(に)言います。気が済まない(済まない, 申し訳ない)のはときどき祖母に待ちぼうけをくらわせてしまうことです。
- 719) 私は今外地で(の)大学で勉強していますが(から)、一家(は)一年に二三月(2, 3ヶ月)しか揃いません。
- 720) 人前で威張っている父と家で映画を(に)夢中にしている(夢中になっている)父はまったく別人のようである。
- 721) 私の父は設計部の部長です。年末には、いつも忙しい、(いつも忙しくて)一月くらい家も(にも)帰らない、(帰りません。) そして、その時(それは)、大学に入る前の私に対して(とって)、もっとも楽しい時です(でした)。中略 でも、ほかの11月(11ヶ月は)、勉強のほかにも何もやらなかった(できなかったからです)。
- 722) ある人は、性格の(が)相似(似ていること)は友達になる条件だと思っています。「性格は(が)互い(互いに)違い人(違う人)は(が)友達になりやすい」と思っている人もいます。この2人意見とも(意見はふたつとも)正しいと思います。
- 723) 中国で(に)、「新しい友達を造り(作り)、旧い友達が(を)忘れない」ということわざがあって、(ある。) 私は(も)そうと(そうだと)思う。いままで(だから、いまでも)よく初中時代の友達を思い出すというわけだ
- 724) 陳さんから(が)いろいろ手伝ってくれたので、心の中で感謝に絶えないです。
- 725) 大学を卒業する後(卒業した後)、アメリカへ留学することを(に)しています。
- 726) 友達はもうバラバラにして(なって)、ゆっくりしゃべる(話す)時間が(も)あまりない。時々友達のことが(を)思い出して、懐かしい感じを(が)よく浮き上がる(する)。
- 727) そして彼女は髪が短くて、背が高くて、体が丈夫だから、他人に(他人から)みれば「男っぽい」というイメージされがちだが、実は心根がやさしくて、素直です。中略 私とは(私より)年上ですから、友達というだけでなくいいお姉さんのような存在です。
- 728) 彼女と一緒に(の)旅行は楽しかった。あの日(その日)、春のピクニックをした。
- 729) 勉強の中で一番上手なのは(得意なのが)数学である彼女は時々(時々)数学に弱い私に(を)助けてくれました
- 730) 今、彼女は人民公園で(に)勤めて(勤めていて)忙しいですから、週末でも(週末だけ)、一緒に遊びに行きます。それと、電話をかけたります。最近何をしてるかとか(しているとか)相談します(話します)。
- 731) 小学校の時にもこの題にして(題で)作文を書かさせた(書かされた)ことがある。
- 732) 普段、インターネットでホームページを見るのは簡単だと思っ(てい)たが自分で作るとこんなに難しくなるのは(難しいとは)思わなかった。僕は2週間ぐらいかかってやっとでき上がった(完成させた)。大きさは10Mにすぎないで(す

- ぎない) たいしたものではないが自分に(では)完璧だと思っている。
- 7 3 3 ) これは高橋留美子先生の 8 0 年代の作品で面白いラブストーリーが述べた(描かれている)。見てから(見て)とても感動したものだ。
- 7 3 4 ) 彼が来て(来てから) みんなで相談しましょう。
- 7 3 5 ) 降りる人が降りて(降りてから) 乗ってください。
- 7 3 6 ) ドアを開けてから(開けて) 外に出た。
- 7 3 7 ) 上海行きの列車を(に)乗った。
- 7 3 8 ) 上海博物館へ行った。あそこ(そこ)に(で)「日本文物展覧会」が行っていた(行われていた)。
- 7 3 9 ) インターネットに(で)昔の高校時代(高校時代)の友達に会った。
- 7 4 0 ) 今年の冬休みは、上海で(の)天気が(は)あまりよくなかったが、新年の気持ちはよかった。
- 7 4 1 ) 中国人は春節に(を)非常に重視する。家族は(が)全国各地から(集まって、)お年寄りのまわりへ(で)春節を渡している(過ごす)のは中国人の習俗になっている。
- 7 4 2 ) 日本の漫画を読むことと日本のアニメーションを見ることは私の一日中に(で)一番大切なことでした。もし父は(が)ちょっと(少しでも)非難したら、私はこれは全部日本語のレベルを高めるために見たのと答えました。
- 7 4 3 ) 毎日毎日私たち 2 人は家に(で)アニメーションを見たり、トランプをしたり、漫画を読んだりのんびりしていました。
- 7 4 4 ) いくつかの(何人かの)土兵(兵士)が人々の身分証明書を検査していると(の)を発見した(見た)。その理由がわからなかった。私たちの身分証明書が(は)ホテルにある(あった)ので、とうとう(結局)通じられなかった(通れなかった)。当日残念に(残念に思いながら)天津へ返った(帰った)。
- 7 4 5 ) 気温が零下 3 4 度で、すごく寒かった。ずっと上海にすんでいる身にとってこの寒さを(に)一時に慣れてできなかつた(すぐに慣れることはできなかつた)が、準備が(その準備が)あったのでしばらく北国の情緒を楽しんだ。
- 7 4 6 ) 冬休みに(は)別のことがなかったし、(特別なことはなかった。) ときどき友達とお酒を飲んだり。あるいは家でテレビをみたりした。
- 7 4 7 ) たぶん家に帰る前に(の)上海は寒くなかつたかもしれない(寒くなかつた)。だからかえって(帰った)あとは適応できなかつたと思う。
- 7 4 8 ) 寮の机の上で(に)、テレビとラジオがひとつずつあります。
- 7 4 9 ) 寮の正対面(真正面)はバレーボールコート、そのバレーボールコートの後ろ(後ろは)教育ビル(教学楼)、寮の左がわは図書館、後ろのほう(その後ろ) は(に)先生の寮があります。
- 7 5 0 ) 真ん中にあるので、教室、レストラン、運動場、どこまでも(どこへも・どこにいくのも)便利です
- 7 5 1 ) 学生寮は風呂や台所などを(が・は)付いていなくて、毎階(各階) は(には)トイレと洗面所だけがひとつずつあります。
- 7 5 2 ) 私は普段、図書館あるいは教室に(で)勉強します。

- 753) 女子学生にとって(は)、夜11時まで(までに)寮に帰らなければなりません。
- 754) 翌日の朝6時までずっと外にいるという苦しい経験が大部分の女子学生が(に)あります。
- 755) 部屋のなかで(に)二段ベッド4脚はあります(ベッドが4台あります)。
- 756) 先生に指導していただいたのは残念なことは(に)半年ほどでしたが、とてもいい勉強になりました。
- 757) 早速ですが、先生のご質問を(に)答えさせていただきます。
- 758) かつて教師に(を)していた父は、先生のことをこのように言っています。
- 759) 今年が先生も(に・にとって)よい年になることを祈っています。
- 760) 英語は大切です。毎日英語で(を)使います。
- 761) 昨日まで(で)試験はやっと終わりました。
- 762) 私は一人部屋に住んでいます。毎晩だれでも(とも)話をしません。寂しいです。
- 763) 田中さんは成績がよいので、学校に(から)奨学金をもらった。
- 764) 私は山田さんから(に)宿題を見てもらいました。
- 765) バスは電車より(ほど)速くないです。
- 766) 私は母より(ほど)早く起きません。
- 767) 私の場合では(は・には・については)次のようなことが言えると思います。
- 768) その映画の最後の場面は(で)次のように言いました。
- 769) 西溪キャンパスは、新しいキャンパスと比べて、空気がきれいし(きれいだし)、人が少ないから(ので)、勉強と生活の(には)いいところです。
- 770) 今度は2年後で(に)日本に来る(来よう)と思います。
- 771) 父は、夕食のとき、今日会社の近く(に)で)火事があって20軒も家が焼けたそうです(という話をしました)。
- 772) どこへ(で)もいい子になろう(っ)たって、それはむだですよ。
- 773) 大人の話しを聞いているうちに、子供が不意と(に)横から口を出してきました。
- 774) 心が(の)こもって(た)贈り物を受けます(もらいました・いただきました)。
- 775) 友達のうちで、心が(の)こもったもてなしを受けました。
- 776) 彼女は(に)あの男に(が)心を引かれました。
- 777) 彼は打ち出す矢玉も(を)事(もの)ともせず、突進しました。
- 778) 先生が私の身の潔白は(を)一番よく知っていたのですが、死人に口無しで、どうにもなりません。
- 779) 彼はあちこちで悪いことをして、すっかり世間が(を)狭くなっ(し)てしまいました。
- 780) この難問には(を)どうするか、一人で途方に暮れてしまいました。
- 781) 夜遅く、旅館を(が)見つからなくて、途方に暮れてしまいました。
- 782) 先生に(の)話(に)耳を傾けます(話(に)耳を傾けました・話を傾聴しました)。
- 783) 彼は口がうまいから(ので)、とうとう彼女に(を)納得させました。

- 784) この車は(の)かっこう(デザイン)が(は)なかなか気が利いています。
- 785) 映画や雑誌を通して、日本の有名な景勝地を(景勝地が・景勝地も)少し分かるようになりました。
- 786) 普段、宿題を終わったら(が終わったら・を終えたら)、私たちはテレビの前で(に)座ってニュースとかドラマとか(ニュースやドラマを)観ます。
- 787) 多くの外資企業は(が)浦東新区に入りました。あそこで(そこに)ビルを建てて海外子会社(海外の子会社・海外法人)を設立しました。浦東は今日ごろに(日増しに)繁栄になっています(しています)。
- 788) 長い歴史は中国に豊富の(豊かな)文化遺産を残って(残すと)同時に根強い封建思想が(を)今にも(今でも)残っています(残しています)。
- 789) 父は人に(を)助けることが好きだ(な)ので、みんな彼(父) に(を)尊敬します。
- 790) この前(それ以前は・以前は)、400人は(で)二台の電話機を使っていた。
- 791) 車の中で2グループを(2グループに)分けて(分かれて)、ポーカーをやりました。
- 792) 私はずっと家に(で)待っていた。4時ぐらい(ぐらいに)やっと手紙を持ってきた(手紙が届いた)。
- 793) 街に(を)歩くと、口に(から)出る空気(息)も氷になるほどです。
- 794) 中国で3番目に(に)大きい島です。蚕という(蚕のような)形で、揚子江の入り口にありまから、もう一つの東方の珠(真珠)とも呼ばれています。
- 795) どうして上海は中国第一の(の)大都会と認める(認められる)のか、答えはその魅力にある。上海は別の(他の)都会がもたず(持たない)中西文化が完璧に融合して(融合した)特別な美を持っているから(持っているからだ)。
- 796) どうして上海は中国第一(中国第一の)大都会と認める(認められる)のか、答えはその魅力にある。上海は別の(他の)都会がもたず(持たない)中西文化が完璧に融合して(融合した)特別な美を持っているから(持っているからだ)。
- 797) オリエント・パール、3つの(3本の)地下鉄、南浦と楊浦と徐浦(南浦と楊浦、徐浦の)3つの橋、中略 8万人体育場などは全部新しく建て(建てられて)、上海のシンボルになります(なっています)。
- 798) 中国で3番目(3番目に)大きい島です。蚕という(蚕のような)形で、揚子江の入り口にありまから、もう一つの東方の珠(真珠)とも呼ばれています。
- 799) 中国の長江は世界に(で)第3(第3番目に)長い河です。中国は世界中に(で)人口が一番多い国です。
- 800) 中国は長江を分離線(境界線)として南方や(と)北方が2つ主な(2つの主な)気候をしている(に分かれている)。
- 801) 家に(で)唯一の独り子だけは(子供は)私です。
- 802) 私たちの(私たち)5人は楽しい生活を暮らしています(楽しく暮らしていません、楽しい生活を送っています、楽しい生活をしています)。
- 803) いつも「よく電話をかけきて」と私たちの(私たち)兄弟をに(に)言います。気が済まない(済まない・申し訳ない)のはときどき祖母に待ちぼうけをくらわせてしまうことです。

- 804) 実は、僕と楊君の性格が(は)逆だった。彼は正義感が強いし喧嘩上手で衝動(衝動的)なひとだ。一方、僕は楽観(楽観的)だし口がうまくて謹慎(慎重)なひとだ。こんな(こんなに)違う2人は(が)どうしていい友達になれるのか(なれるの)だろうか)。答案は(答えは)模型だ。僕たちはみんな(僕たち二人は)模型を作るのが大好きだから(なのだ)。中学(に)入学してから卒業まで楊君はずっと僕の前に座っていた。授業中、僕達はごそごそ(こそこそ)と話して(話した。) 大部分の内容は模型に関した(関することだ)。
- 805) そして姉は仕事を勤めるから(勤め始めていたから)私たち(の)弟と妹にお金をくれた。
- 806) 彼は今「金茂凱悦」ホテルで水泳コーチを(として)働く(働いている)。
- 807) そばから絶えずに( ) 蝉の声が流れてきて、居眠りをする気もなくなってしまう。
- 808) たとえば、知らぬ(ない)人を見ると(見て)おとなしくなるとき(人を・ことを)「借りてきた猫」(のようだ)といひます。
- 809) 亀はウサギほど速く走れませんが。(ウサギは亀より速く走ります。)
- 810) その日は日曜日ですから(だったので・でしたから)、道で人が(道は人で・道に人が)いっばいでした。
- 811) 新しいキャンパス(に)はやはり自分(それなり)の長所を持っている(がある)なあと自分に言い(いいきかせ)ました。
- 812) 先週田舎から来た妹は、大学へ見学しに(大学を見学しに・大学へ見学に)連れられてき(連れて行ってもらい)たがっています。
- 813) 田中さんのテニスの実力が(は)そこ(の)知れないものがあります。
- 814) 彼は人の話を聞くと、ほとんど相づちを打たないで(ないので)、分かっているのかどうかと( )心配になります。
- 815) 新しい製品は思ったとおりに( )足が早いです。
- 816) 一日も速く先生との(と)再会できることを願っております。
- 817) 先生との再会を今か今か(今か今かと)待っています。
- 818) 最後(に)もう一度ありがとうございます。

## 2.9.2 並列助詞

- 819) 小さい頃から日本の漫画とか小説とかが大好きなので(日本の漫画や小説などが大好きだったので)、大学で日本語を勉強することにしました。
- 820) 中国は長江を分離線(境界線)として南方や(と)北方が2つ主な(2つの主な)気候をしている(に分かれている)。
- 821) 普段、宿題を終わったら(が終わったら・を終わたら)、私たちはテレビの前で(に)座ってニュースとかドラマとか(ニュースやドラマを)観ます。
- 822) 国際人になりたければ(なるのに)、英語が出来ない(出来なくても)大丈夫とか、お金があれば大丈夫とか、(、)愛と笑顔があれば大丈夫とか、(、)冒険心があれば大丈夫とかと(などと)思っている日本人は(が)います。

8 2 3 ) 毎日、親とか(や)友達とか(から) かかった(かかってくる)電話が一杯です。

### 2.9.3 接続助詞

8 2 4 ) 私たち(は)今から卒業まで 1 年にもたりない(もない)から、でも(のに)、専門知識と実際能力が不足しては、就職の時とても困りますよ。

8 2 5 ) 父の会社は家から遠いですから(遠いので)早起しなればなりませんが(から)とても疲れています。

8 2 6 ) 私は今外地で(の)大学で勉強していますが(から)、一家(は)一年に二三月(2, 3ヶ月)しか揃いません。

8 2 7 ) 母は交通事故に遭いました。母の頭が(母は頭を)ぶつかられましたから(ぶつけたので)、頭の中で、うっ血がたまっていました(出血して血がたまっていました)。彼女は(母は)意識不明状態に陥りました(陥りました)。

8 2 8 ) 喧嘩する事はないとはいえないのに(ので)偶にけんかしても(ました。しかし、) すぐ仲間に(仲良く)なりました。

8 2 9 ) 今年の夏休みには、受験勉強して(したり)、アルバイトをして(したり)、友達に会います(会ったりします)。

8 3 0 ) 私も暇で(暇なので) 行きます。

8 3 1 ) 天気がよくて(いいから) 散歩に行きましょう。

8 3 2 ) この魚は古くて(古いから) 食べてはいけません。

8 3 3 ) 寒くて(寒いので) 窓を閉めてください。

8 3 4 ) もう遅くて(遅いから) 早く寝なさい。

8 3 5 ) ペンを忘れたから(忘れたので) ちょっと貸してくださいませんか。

8 3 6 ) おいしかったため(ので)、たくさん食べました。

8 3 7 ) うるさいため(ので)、静かにしてください。

8 3 8 ) 国際会議に出席しに(出席するために) パリへ行きます。

8 3 9 ) 日曜日に父と母が杭州に来たから(ので)、私たち一家はショッピングに行った。

8 4 0 ) その日は日曜日ですから(だったので・でしたから)、道で人が(道は人で・道に人が) いっぱいでした。

8 4 1 ) 西溪キャンパスは、新しいキャンパスと比べて、空気がきれいいし(きれいだし)、人が少ないから(ので)、勉強と生活の(には)いいところです。

8 4 2 ) その図書館には古い資料がたくさん有って(あるので・ありますから・ありますし)、行って見てください(いらっしゃってご覧になってみてください)。

8 4 3 ) 8 0 を超える老齡でありながら(なのに)よくあるける(あるく)。

8 4 4 ) 足を踏んだ(くせに・のに)、「ごめんなさい」の一言も言おうとしない最近の若者に腹が立ちます。

8 4 5 ) 上海は商業の中心地(中心地で)、人は商売に熱心だし(だから)、日本の大阪に似ているといわれる。

8 4 6 ) 母はうらやましそうな顔をするので(して)、広い家をほしがっています(るよ

うでした)。

- 847) 若い女性と話してばかりいて(いるので) 奥さんが角を出しています。
- 848) 普通の人是一日に3食ですが、私は3食に(では)足りません。私は寝ていても、おなかがすいたから(すいて)目が覚めることは(が)あります。そのために、私は寝る前にいつもパンとか、ビスケットなどを食べ、ミルク一杯を飲みます。
- 849) 特に2年前(2年前に)揚子江のうえに(揚子江に)橋をかけて(橋がかけられて)、揚子江の南北がつながって(つながったので)、交通は(が)便利で(便利になって)、さらに発展するようになっています(発展しています)。
- 850) 江陰は揚子江の南にあり、一年中一般(一般的)には穏やかな気候に恵まれていて(ているので)、農産物、特に米(米づくり・稲作)が大変さかんですから、(です。そのため)ずっと「小魚米の郷」と美称されています。
- 851) 結婚式に参加するのは3回目になって(なったが)、今回は(が)一番面白いのだ(面白かった)。
- 852) 五位のいい先生に会って(五人の立派な先生と出会えたので)、必ず日本語は上達すると思います。
- 853) 春節はたのしいですが、忙しいです。特に大人がいそがしい(です。) 一年の苦勞して(一年間苦勞したのだから)、ちゃんと休み(休む)べきなのに、春節のために、もっと忙しくなってしまいました(しまします)。(また、)私(私の)ようなせだいとしても(世代にとっては)、春節はつまらないと感じます。(しかし)例外の人たちもいますが、(います。) 子供です。春節にはお年玉をもらえる(もらえる)からです。
- 854) 先生はとてもまじめに教えていて(熱心に教えてくださるので)、感心し(感銘を受け)ました。
- 855) 父は気が長く、無口な人ですが、母は気が(は)短く、(短い)が朗らかな人です。
- 856) 半年ぶりに会った両親はとても元気そうだ(だった)。町の様子は以前と似ていた(変わらなかった)。ただし雪が降ったばかり、(で)非常に寒いと感じた。
- 857) 日本語の勉強を始めたばかりのころはその中で( )難しい言葉を(や)わからない(こと)や(を)日本語で先生と(に)相談できないに(ないので・なかった)ので 心配しました(困りました)。
- 858) ものをむやみに食べて(しまったため)食中毒にした(になった)
- 859) 最近、徐志摩を懐かしい思いため(偲ぶ動きが出てきて)「人間四月天」も(は映画に)なりました。
- 860) 昨日急ぐで(急いでいたので)ドアを開けたまま[出てきた・出てきてしまった]。
- 861) 明日も雨が降るらしいために(から) 運動会が延期します。
- 862) 江陰は揚子江の南にあり、一年中一般(一般的)には穏やかな気候に恵まれていて(ているので)、農産物、特に米(米づくり・稲作)が大変さかんですから、(です。そのため)ずっと「小魚米の郷」と美称されています。

#### 2.9.4 取り立て助詞

- 863) 上海で(には)日本の社会や文化に対して(関して)の本はとても少ないです。それに私はどんな本がいいと(いいのか)わかりません。そこで、先生に適当な本を探していただけますか(適当な本を探していただきたいと思っています)ですが、おねがいできますでしょうか。無理な請求ですけれどもすみません(本当に図々しいお願いですが、どうぞ、よろしく願います)。
- 864) 杭州に着いて(ついてから)、毎日雨だけ(ばかり)降っていました。秋にとっては(にしては)暑いくらいでした。
- 865) 1週間の実習を通じて、経験ばかりでなく、人間関係も勉強しました。そして、仕事のつらさも感じました。学校で勉強した知識が(では)足りなくて、面(範囲)が狭いと思いました。
- 866) 鯨ほど大きい動物も(は)いない。
- 867) 今、中国では( )顔の一番(一番顔が)売れているスターは誰ですか？
- 868) 先学期、私の(は)英語の4級試験に合格しませんでした。その時、先生は気持ち悪い(気持ちが落ち込んだ)私を慰めました(慰めてくださいました)。
- 869) 先生は日本で何をやっていらっしやいますか(していらっしやいますか、されていますか)?生活はお忙しいですか?今年の夏休みに(は)何か旅行計画がございませんか(おありですか)?もし時間(お時間)があれば私に手信(お手紙)をだしてくださいませんか(いただけませんか)?
- 870) 中学校に参った(通った)4年間は先生の厳しい教えの下に、時間を大切にしており(大切に)、勉強しては、勉強しては(勉強して、勉強して)、やっと市の重点高校に入っておりました(入りました)。
- 871) つんぼ(聾者)はお互いにわかる手ぶり(手話)で付き合います。そのてぶり(手話)の(も)一種の言葉だといえるでしょう。
- 872) 今(現在)、科学技術の運用を通したり(導入や)、暖房を造ったりしてから(使い始めてから)、私たちは一年中様々な時令(時期、季節)の野菜を食べられます。  
その上( )、学校の食堂のご弁当はあまりおいしくなくて、種類もいつまでも(いつでも)ほんのすこしだけの(しか)料理が並んでいます(並んでいません)から、一週間に一回ぐらい校内のレストランへ食べにいきます。
- 873) その時、交通が通行禁止だから(通行禁止だったから)、バンドへの道路は自動車が(は)できなくて(行けなくて、通行できなくて)、歩くことだけできた(歩いていくしかなかった・歩いてしかいけなかった)。
- 874) 時々「豆腐こそ(さえ)あればもう満足だ。」というが、(といて)皆に笑われちゃった(笑われてしまった)。
- 875) 長い歴史は中国に豊富の(豊かな)文化遺産を残って(残すと)同時に根強い封建思想が(を)今にも(今でも)残っています(残しています)。
- 876) 皆は肉の料理を(は)上手に作れませんが野菜の料理(野菜)が(は、なら)安い上に、作り方も簡単で(なので)、よく野菜の料理を作ります。

- 877) 私の(は)ふとんの中に(で)こっそりラジオの番組を聞いたしかないのです  
(聞くしかなかったのです)
- 878) 旅行(観光)のほかに上海も(は)中国の経済中心と言われています。
- 879) バンドで(では・は)豫園とまったく違う風景が見られます
- 880) 蘇州に(には)人工的な庭園だけでなく、郊外の自然風景資源さえ(自然)もある。
- 881) 上海の(は)、人の生活レベルが(も)高いし、リズムが(も)速いし、毎日忙し  
いだ(忙しい)。これは(これらから、このようなことから)活気に満ちている大都会  
だと思う。
- 882) 蘇州に(は)果物の種類も豊かである。
- 883) 国際都市としての上海に(には)高層ビルがずらりと並んでいる。 中略 い  
ろいろな催し物も開催して(開催されて)市民の文化生活を豊かにする(している)。
- 884) 仕事の関係で母はひと月に一週間ぐらい家にいます(一週間ぐらいしか家に  
いません)。それで、平常(普段)、家に(は)父、私と弟(父と私、弟)3人だけいま  
す(しかいません)。
- 885) 何も他人より優れたことも(は)ないが、いつも人にうらやましがられること  
が(を)よく分かっている。
- 886) 父に殴られたり、叱られたりしたことがなかったものの、 中略 父の目の  
前に(では)おとなしいふりをしましたが、見られなかった時(見られていない時  
は)、いたずらしてばかりしました(ばかりしました・してばかりいました)。だからいつ  
も母に殴られて(叩かれて)、しかられましたけど、母が(は)怖くなかったです。
- 887) 中国は一子(一人っ子)政策だから私の家族は3人だけいます(3人しかいませ  
ん)。
- 888) 両親に可愛がられたといっても、甘まかれていません(甘やかされてはいま  
せん)。幼年時(こどもの頃)から自分のことを(は)自分でなさい(自分でしなさい)  
という教訓をよくいわれました。
- 889) 私たち2人の中で(は)千里を隔たったけれど、厚い友情はすこしでも(も)減  
られない(変わらない)
- 890) 今、彼女は人民公園で(に)勤めて(勤めていて)忙しいですから、週末でも(週  
末だけ)、一緒に遊びに行きます。それと、電話をかけたりします。最近何をして  
るかとか(しているかとか)相談します(話します)。
- 891) ただ(たった)14.5平方メートルと見えますが(ですが)、8人が(も)住みます  
(住んでいます)
- 892) 一人は(が)「今夜はだれでも(だれも)寝ることが(寝ては)だめ」と言って(言  
い)、私たちも賛成したが、結局、あの人(その人)を除いて、私たち3人は眠りた  
くてたまらなくなり、結局 みな寝た(寝てしまった)
- 893) 女子学生にとつて(は)、夜11時まで(までに)寮に帰らなければなりません。
- 894) 寮の正対面(真正面)はバレーボールコート、そのバレーボールコートの後ろ  
(は)教育ビル(教学楼)、寮の左がわは図書館、後ろのほう(その後ろ) に(は)先  
生の寮があります。

- 895) 杭州にも(は)昔からのこっている有名なお寺や旧跡など(が)たくさんあるので、一日ではとてもみきれないのだ。
- 896) 最近、徐志摩を懐かしい思いため(惚ぶ動きが出てきて)「人間四月天」も(は)映画に) になりました。
- 897) 嫌い(いやだ)といたら(というなら)無理に(は)頼むまい(まない)。
- 898) 先生から私たちの水準(レベル・学力)で(は)日本語能力試験に合格できる可能性が小さい(は少ない・は低い)ということを知り、もっと頑張(ら)なければならぬのかと考えさせられた。
- 899) 彼女は思い(も)寄らない事故のために死んでしまいました。
- 900) 彼はどんな人(も)でも(にも・にでも)調子を合わせて、うまくやっていた男です。
- 901) バスのなかで(は)年寄りや体の不自由な人に席を譲るべきだ。
- 902) この前(それ以前は・以前は)、400人は(で)二台の電話機を使っていた
- 903) 中略 でも、ほかの11月(11ヶ月は)、勉強のほかに何もやらなかった(できなかったから)。
- 904) 私たち(は)今から卒業まで1年にもたらない(もない)から、でも(のに)、専門知識と実際能力が不足しては、就職の時とても困りますよ。
- 905) ただ旅行(旅行だけ)のためなら、お金のほか(お金のほかは・お金以外は)何もいらぬです。でも、その国の文化、歴史、それとも(また)経済などに興味を持って勉強したいなら、ただお金(お金だけでは)足りないのは当たり前でしょう。
- 906) 兄と父はよく、私の作った料理は母のより (は)美味しいと言います。
- 907) 今、偶に帰るから(偶にしか帰らないから)、故郷のいい空気、きれいな青空が懐かしい。
- 908) 豫園から東へ10分歩くと、バンドに着きます。そこで(は)、外国の建物が見えます(見られます)。中国人の自分の手によって建った(建てられた)東方明珠タワーがバンドの向こう(向い)に立っています。バンドで(は)、豫園とすっかり(まったく)違う風景が見えます(見られます)。
- 909) 何も他人より優れたことも(は)ないが、いつも人にうらやましがられることが(を)よく分かっている。
- 910) 両親は私を大学生に育つために(するために)、何年間(も)の苦勞生活(苦勞)を過ごしました(してきました)。早く仕事を見つけて、両親の(に)育つ(育ててもらった)恩を返したいです。
- 911) いたずらをしてから、先生にさえ( )叱られたこともあります。
- 912) 山田さんはいつも(は)口が重い(が) (のですが) 好きな野球のことはよく話します。
- 913) 私はサラリーマンという人(もの)に(は)なりたくない。

#### 2.9.5 「は」と「が」

- 914) 趙君は(が)料理に忙しいうちに(間・間中・というのに、その間)私はテレ

びばかり見た(見ていた)。

- 915) 友達と一緒にスポーツをすることがが(は)非常におもしろいと思います。例(例えば)、友達と一緒にサッカーをした後、みんな汗をがいっぱい流れました。どうして負けるか(負けるのか)、どうして勝るか(勝つのか)と議論しました。
- 916) 去年の統計によると、私の區(区)の総生産収入は上海で第3位だそうだ。もちろん、それには市民の努力が(は)言うまでもなく、日系企業と(との)つながりも(理由のひとつとして)あると思う。私の区では、日本の会社や工場は(が)いくつか建てられている。その中に(で)有名なのは富士通や野尻などである。
- 917) 多くの外資企業は(が)浦東新区に入りました。あそこで(そこに)ビルを建てて海外子会社(海外の子会社・海外法人)を設立しました。浦東は今日ごろに(日増しに)繁栄になっています(しています)。
- 918) わがコーチは(が)私を水泳のプロ選手になりたい時(させたかった時)、私は学校教育を受け続けるの(受け続けること)を選びました。
- 919) 歴史での(歴史上)江陰には二人の名人(著名人)徐露客と劉天華は(が)現れます(現われました)。徐露客は江陰の馬鎮人で、中国古代の一番著しい(有名な)旅行家・探検家です。
- 920) 子供の時からどうして自分が(は)、海の辺りとか草原とか森の奥にも(で)生まれなかったのか、といつも母に不満を言っていた、そういう自然に恵まれた所に生まれるたらどんな幸せだろう(生まれるたらどんなに幸せだったろうか)と思っていた。
- 921) 母は(が)一生懸命に働くのは私と弟が幸福に生活させるからです(ためです)。
- 922) 上海に行った後、母から私は(が)大学に(大学で)上海に来たあと父がいつもひとりで私の写真を見た(見ていた)ことを聴いてくれました(聞きました)。
- 923) 父は気が長く、無口な人ですが、母は気がが(は)短く、(短い)朗らかな人です。
- 924) 実は、僕と楊君の性格が(は)逆だった。彼は正義感が強いし喧嘩上手で衝動(衝動的)なひとだ。一方、僕は楽観(楽観的)だし口がうまくて謹慎な(慎重な)ひとだ。こんな(こんなに)違う2人は(が)どうしていい友達になれるのか(なれるのだろうか)。答案は(答えは)模型だ。僕たちはみんな(僕たち二人は)模型を作るのが大好きだから(なのだ)。中学(に)入学してから卒業まで楊君はずっと僕の前に座っていた。授業中、僕達はごそごそ(こそこそ)と話して(話した。) 大部分の内容は模型に関することだ(関することだ)。
- 925) 中国の国土が(は)広いので、違い地方の(地方によって)料理もだいぶ違います。
- 926) 私からみれば、南方の食と北方の食と(南方と北方の食文化)の一番な(一番の)區別(違い)は南方の主食が(は)米で北方の主食が(は)小麦粉だと思えます(だということ)です。
- 927) ある人は、性格の(が)相似(似ていること)は友達になる条件だと思っています。「性格は(が)互い(互いに)違い人(違う人)は(が)友達になりやすい」と思って

- いる人もいます。この2人意見とも(意見はふたつとも)正しいと思います。
- 9 2 8 ) 私は(が)家を離れている時に、両親が(は)きっと寂しがりだ(寂しがっていた)と思います。
- 9 2 9 ) 弟が(は)知った後、一ヶ月ほど母と(に)話しかけたこともないことになりました(話しかけませんでした)。
- 9 3 0 ) 父に殴られたり、叱られたりしたことがなかったものの、中略 父の目の前に(では)おとなしいふりをしましたが、見られなかった時(見られていない時は)、いたずらしてばかりしました(ばかりしました, してばかりいました)。だからいつも母に殴られて(叩かれて)、しかられましたけど、母が(は)怖くありません。
- 9 3 1 ) 今、母が(は)定年後、料理を作ることはは(が)もう一つの趣味になりました。
- 9 3 2 ) 今年(今年、)北京が(は)オリンピック大会の開催する権力(開催)を申し込んでいます(申請しています)
- 9 3 3 ) しばらくの将来(近い将来)、崇明が(は)もっと進んで発展する(発展する)と信じます(信じています)。
- 9 3 4 ) 彼と初めて会ったのは、小学校の3年生の時です。彼は両親と一緒に田舎から都会へ引っ越しました(引っ越してきました)。彼は丸い顔です(で)ちょっと太く、質素で飾り気がない服を穿きました(着ていました)。私は、彼の性格が(は)内向(内向的)だと思いました。
- 9 3 5 ) それは(その時)私が(は)初めて彼を見たのです。
- 9 3 6 ) 毎回私はは(が)他人にいじめられたら、相手がどう(どんなに)強くても兄は私のために彼(その相手)を殴らなければなりません。
- 9 3 7 ) 別の学校に比べて、生活条件が(は)よくないかもしれないが(しれませんが)、私はやっぱり大学の生活が好きです。
- 9 3 8 ) Sさんは私の大学時代の同級生です。夏休みに会ったとき、彼が(・彼は)日本に行く計画を話してくれました。
- 9 3 9 ) 夜、半島の先まで行った。そこから景色を見渡したことは(のが・ことが)、一番いい気持ちになった(一番気持ちがよかった・忘れられない・一番印象に残っていた)
- 9 4 0 ) そんな時、普通のアメリカ人が(は・なら)よく(たいてい)怒りますが、日本人が(は・なら)黙っているそうです。
- 9 4 1 ) 父の休みの時間が(は)多いですから、私は子供から(子供のときから)、母より父のほうが好きで親しいです(慕っています, 仲がいいです)。
- 9 4 2 ) 結婚式に参加するのは3回目になって(なったが)、今回はは(が)一番面白いのだ(面白かった)。
- 9 4 3 ) 日本の漫画を読むことと日本のアニメーションを見ることは私の一日中に(で)一番大切なことでした。もし父はは(が)ちょっと(少しでも)非難したら、私はこれは全部日本語のレベルを高めるために見たのと答えました。
- 9 4 4 ) 私はは(が)母に電話をかけると同時に母が帰りました(帰ってきました)。
- 9 4 5 ) さすが(さすがに)大都會のは(は)就職率が高いし、生活も便利だ。

- 946) 麻薬販売者がありったけの(どれだけ・考えつく限りの)知恵を絞っている  
 いるなやり方[を使って・で]麻薬を携帯しても(持ち込んでも) 厳密な検査の目  
 をくぐることが(は)できない。
- 947) 今、留学の手段は大体二つが( )あります。( ) 通常多数の人(ほとんどの・大半の)は(が)入りたいのは外国の大学院である(す)。
- 948) もしあなたは(もしあなたが・ )中国の美しい国土を外国人に紹介したら、中国  
 の旅行業が必ず(はきつと) 勢いよく(もっと・急速に)発展していくだろう。
- 949) 今、留学の手段は大体二つが( )あります。( ) 通常多数の人(ほとんどの・大半の)は(が)入りたいのは外国の大学院である(す)。
- 950) もし中国の歴史を外国人に紹介したら、外国人が(は) 必ず(きつと) 中国の  
 偉大さに賛嘆するだろう。
- 951) 水蒸気になろう(と)凍ろうと水の本質が(は)かわらない。
- 952) 人間に(よって)環境が破壊された(る)ということを知いて、どうやって  
 環境を守るの(は) べきかが問題だと考えさせられた。
- 953) 先生から私たちの水準(レベル・学力)で(は)日本語能力試験に合格でき  
 る可能性が小さい(は少ない・は低い)ということを知いて、もっと頑張(ら)  
 なければならないのかと考えさせられた。
- 954) 彼の態度は(が)いいかげんなので鼻に付きます(いやになります)。
- 955) 彼女は大金持ち(<sup>おおかねも</sup>大金持ち)の娘、あなたは貧乏人の息子、これでは月とす  
 っぽんで結婚が(は)許されません。
- 956) 試験の結果は(が)分からないうちは、どうも気に入ってい(り・ってしま)い  
 ます。
- 957) 桂林の山水が(は)観光客の心を引きます。
- 958) 田中さんのテニスの実力が(は)そこ(の)知れないものがあります。
- 959) その地方の結婚の儀式が(は)とても複雑だ。
- 960) この車は(の) かっこう(デザイン)が(は)なかなか気が利いています。
- 961) 私は(私が)日本語を勉強するようになってから、そろそろ一年になります。
- 962) どんなことでも初めは(初めが)もっとも難しいと思います。
- 963) 読んだ後、先生は「あなたの『ア』の発音が(は)あまりにも喉の奥だ」と注  
 意された。
- 964) 2月9日ペンフレンドのXXXXは(が)上海へ来るので、8日には学校へ戻  
 った。

## 2.10 文の組み立て

### 2.10.1 主語

- 965) (それを)できるだけに作るようにしているが(たくさん作ったほうが)ほかの人  
 たちにも便利だと思います。
- 966) 私が( )この件について、相談に乗ってもらいたいと思います。
- 967) 趣味のせいで(が)勉強を(に)影響したらだめだと思います。

- 968) 母は交通事故に遭いました。母の頭が(母は頭を)ぶつかられましたから(ぶつけたので)、頭の中で、うっ血がたまっていました(出血して血がたまっていました)。彼女は(母は)意識不明状態に陥りました(陥りました)。
- 969) 杭州にも(は)昔からのこっている有名なお寺や旧跡など(が)たくさんあるので、一日ではとてもみきれないのだ。
- 970) 私たちの(は)昼飯をよくインスタントラーメンや食パンで済ませている。
- 971) 杭州(ほど)の( )気温くらい(が)変わりやすい町はない。
- 972) 単語が覚えられなくて(ないのが) 苦になっています。
- 973) 私の友だち(が)私を訪ねる(私を訪ねて来た、私の家に来た)時、母はあたかも自分の子供でも帰って来たかのように親切にもてなしてくれました。こんな母は私は大好きです。
- 974) 中華料理は(の)4つの種が分別には(4分類は)北京料理と上海料理と広東料理と四川料理である。ほかには新疆料理や雲南料理などの種類がある。
- 975) 近頃、中国の大学生として(大学生が)日本の大学の大学院へ入るのは難しいと聞いています。留学に行くかどうか私は困ります(悩んでいます・迷います)。
- 976) 人間に(よって)環境が破壊された(る)ということを知って、どうやって環境を守るのは(べきか)問題だと考えさせられた。

#### 2.10.2 述語

- 977) 来年結婚するつもり(だ)から、お金を貯めるのは当たり前だ。

#### 2.10.3 題目語

- 978) 上海に(の・は)どこへ行っても人も自転車も多くて道もバスもひどく込んでいる。特にラッシュの交通渋滞は大変だ。だって(それは、)近年来交通機関が発達するにつれて地下鉄や黄浦江トンネルや高速道路は(が)出てきて(作られたし、)道もよく整備されているから(整備されて)交通の便が良くなってきた(交通量が多くなってきたからだ)。

#### 2.10.4 状況語

- 979) 先日(先日から) 駅ではタバコを吸ってはいけないことになっている。
- 980) 3年前、上海理工大学に入って日本語学科をえらびました。「あいうえお」の最も基本的な仮名から(仮名から勉強しはじめて)、今まで(今では)日常生活の会話をべらべら話せます。その同時(それと同時に)、3年間に自分が好きな科目を選修しました。
- 981) 母は48歳で去年から(去年)定年しました。
- 982) 今年は(今年、)北京が(は)オリンピック大会の開催する権力(開催)を申し込んでいます(申請しています)。

- 983) 特に2年前(2年前に)揚子江のうえに(揚子江に)橋をかけて(橋がかけられて)、揚子江の南北がつながって(つながったので)、交通は(が)便利で(便利になって)、さらに発展するようになっています(発展しています)。
- 984) 毎年休み時(休みの時には)、ぜひ(必ず)面会します(会います)。
- 985) 中国で(に)、「新しい友達を造り(作り)、古い友達が(を)忘れない」ということわざがあって、(ある。)私は(も)そうと(そうだと)思う。いままで(だから、いまでも)よく初中時代の友達を思い出すというわけだ。
- 986) 何日の(何日か)後で、私はインターネットで中学時代の二人の親友を見つけました。
- 987) 11時から私のインターネットの時間です。それから、(11時から)だいたい3時間が(か)4時間を経って(して)からそろそろ寝ます(寝ます)。
- 988) そのうち(その後)友達とわかれて一人で歩いていました。ふりかえって見て(振りかえって見ると)その男は私のあとをつけていました。
- 989) 一日中(一日の中で)、一番にぎやかな時は夜です。
- 990) この前(それ以前は、以前は)、400人は(で)二台の電話機を使っていた。
- 991) 中国の(では)たくさんの習慣を守らなければなりません(でしたが)、こんなよくない習慣はいまが(いままで)ありませんでした。
- 992) 私たちは今にも(間もなく)卒業します。
- 993) この前(この前まで・いままで)ずっとこのすし屋さんでアルバイトをやってきました。
- 994) この間(この頃・近頃)、木材についての単語を単語帳に書き込んでいます。
- 995) ある日(いつか)日本語が上手になって、日本人らしく(日本人みたいに/日本人のように)話せれば、なんと楽しいことだろうと思います(とても楽しいと思います)。
- 996) ある日(いつか)そんな文字や歌が分かるようになったら、どんなに幸せだろう(嬉しい・すばらしい)。
- 997) ある日(いつの日か)A先生は中国から日本へと帰りますが、私も学校から会社へと旅立ちます。
- 998) 私は大学の入学志望に日本語科しか選ばなかった。ただ、ある日(いつの日か)日本へいけることだけを願っていた。
- 999) 日本人のように日本語を話して、ある日(いつか)ぜひ日本に行こうと思っています。
- 1000) この間は(この間まで)ずっと雨が降っていました。
- 1001) 近ごろ(この間)昔から楽しみを(に)していた山登りをしました。
- 1002) 最近(この間)5年ぶりに中学校の先生のお宅を訪ねました。
- 1003) 以前(以前は・はじめは)、日本語はやさしいとずっと思っていました(思っていました・思っていたものです)。
- 1004) 私は音楽、特に古典音楽が苦手ですが、音楽をリラックス(リラックスするために)一つの方法とみます(方法にしています・方法だと思っています)。疲れの時(疲れた時)、ベッドに入って、好きな流り歌(流行歌)を聞くのは(聞くと)よくリラックス

スです(リラックスできます)。

- 1005) 5、6歳のとき(私が5、6歳のとき)、父は音楽鑑賞が好きだったから、よく家で音楽が流れていたようです(いました)
- 1006) 面接した時、相手は私が日本語貿易の専攻の学生だとわかってから(わかっていたから)、私に「貿易について、どれくらい知っていますか?」と聞いてくれた(聞いた)。その時本当に困った。実は貿易についての授業はほとんどなかったから、私はよくわからないと答えた。相手は驚きそうな様子をして(驚いたような様子で)私を見た。
- 1007) 仕事、学習で、(仕事や勉強のために)昼食も簡単です。普段は、饅頭に手軽な料理でけっこうです(充分です)。
- 1008) 自分の努力の(努力した)ため(おかげで)、やっとMCSEの証明書を取り込みました(取得しました)。このことに(を)通じ、何でも努力だけ(努力すれば)成功できると思いました。
- 1009) 今、Novellのエンジニアの証書に(資格を取得するために)努力しています。
- 1010) あの歌手は全国(の歌手の中)でも群を抜いて歌が上手です。

#### 2.10.5 規定語

- 1011) 合格の(立派な・世間に認められた)画家になりたい夢は飛沫のように破れてなくなった。
- 1012) たぶん家に帰る前に(の)上海は寒くなかったかもしれない(寒くなかった)。だからかえって(帰った)あとは適応できなかつたと思う。
- 1013) 日本の料理は見た目がきれいで、味がさっぱりです(さっぱりしている)、と(という)印象を与えます。
- 1014) 日本語の専攻(専攻である日本語)を勉強(勉強する)にしたがって、日本(日本の)マンガについても、いろいろなことを知っています(知るようになりました)。
- 1015) どうして上海は中国第一(中国第一の)大都会と認める(認められる)のか、答えはその魅力にある。上海は別の(他の)都会がもたず(持たない)中西文化が完璧に融合して(融合した)特別な美を持っているから(持っているからだ)。
- 1016) ある人は、性格の(が)相似(似ていること)は友達になる条件だと思っています。「性格は(が)互い(互いに)違い人(違う人)は(が)友達になりやすい」と
- 1017) 空の中に、(いろいろな色の)花火がさまざまな色が( )ありました(あがりました)。
- 1018) 私は音楽、特に古典音楽が苦手ですが、音楽をリラックス(リラックスするために)一つの方法とみます(方法にしています,方法だと思っています)。疲れの時(疲れた時)、ベッドに入って、好きな流り歌(流行歌)を聞くのは(聞くと)よくリラックスです(リラックスできます)。

- 1019) この本は愛情、生活、社会乃至(および)宗教に対して、独立、(自立した)積極的な態度を持って、自由と平等のために、挑戦するだけの勇気がある女性を描写することです(描写しています)。
- 1020) 今できることはおじいさんの一日早く(一日も早い)回復を祝る(祈る)ほかないかもしれなかった(しれない)。
- 1021) このドライブは彼として(にとって)生まれてははじめに(はじめての)楽しい経験であった。
- 1022) 秋の終わりごろには、なんという(なんともいえない)きれいな景色になるでしょう。
- 1023) 父はやさしく、ユーモアの(ユーモアがある・ユーモラスな)人です。

#### 2.10.6 修飾語

- 1024) 楽しみに(楽しく)冬休みを送るつもりがあった(だった)けど、寒かったし、長い間天気がじめじめするから、(して)気持ちも悪かったし、試験の成績が良く取れなかった(良くなかった)せいで、復習したい(しなければいけなかった)けど、なかなか出来なかった、本当に怠け者みたいなど(だと)思う。
- 1025) この言葉の意味は「人間にとって食物はまるで空気のような(ように)大切です」
- 1026) 父も母も自由な生活が好きなので(で)、その上、会社が全くの不景気で(だったので)、数年前、各々思い切って仕事をやめて、車を一台買いかえて、タクシーの運転手になることにしました。こういう仕事は 難しいながら(難しいながらも、難しいが)、両親は勝手に(自由に)時間を支配する(使う)ことができるようになるから(ようになったから)、前より楽しく(楽しそう)に見えます。
- 1027) 毎回私は(が)他人にいじめられたら、相手がどう(どんなに)強くても兄は私のために彼(その相手)を殴らなければなりませんでした。
- 1028) 実は、僕と楊君の性格が(は)逆だった。彼は正義感が強いし喧嘩上手で衝動(衝動的)なひとだ。一方、僕は楽観(楽観的)だし口がうまくて謹慎(慎重)なひとだ。こんな(こんなに)違う2人は(が)どうしていい友達になれるのか(なれるのだろうか)。答えは(答えは)模型だ。僕たちはみんな(僕たち二人は)模型を作るのが大好きだから(なのだ)。中学(に)入学してから卒業まで楊君はずっと僕の前に座っていた。授業中、僕達はごそごそ(ごそごそ)と話して(話した。) 大部分の内容は模型に関する(関することだ)。
- 1029) 彼女は小学校4年生の時(、)地方から私の故郷の実験小学へ転校した(転校してきた)。彼女はおばあさんと一緒(に)生活した(生活して)。何のことも(どんなことも)自分で解決しなければならなかった。だから中学校の時にはもう非常に独立になった(自立していた)。
- 1030) こんな(こんなに)長い時間が経った。(時間が経っているのに、)どうして私(自分)の成績が今まで(まだ)しりません(わからないんだ)。」と思った。ぱっと緊張になった(緊張した)。

- 1031) 8月に上海で一度お会いしてから、すでに2ヶ月も経ちました。中略  
その後、先生は何かお変わりなんでしょうか(お変わりありませんか)。きつ  
と相変わらずいきいき(お元気に)過ごしている(お過ごし)でしょうね。
- 1032) しかし、この家は本当の家より非常に(本当の家と比べると非常に・本  
当の家よりもとても)貧弱です。
- 1033) 部屋は広くなくても、仲良しに(仲良く)一緒に住んで楽しいです。

#### 2.10.7 条件節

- 1034) 最近、実は(実に)礼儀を知らない人が多い。のになれば(になると)、  
年寄りを押しのけて座席を取ったりする。
- 1035) もう4年生ですから授業が少なくなって、以前より(と比べれば)そんなに  
忙しくはありません。毎日楽に(のんびり)過ごしています。
- 1036) まず最初の報告したいのは、今度私は英語の試験が(に)合格しました。  
試験の後、僕は「こんなに難しいな(こんなに難しければ)、どうしてもパスできない  
かな(パスするのは無理かな)。」と思いましたが、ただ合格してくれてとても思い  
がけなかった(思いがけず合格できました)。もちろん大喜びでありましたね(でし  
た)。
- 1037) 自分の努力の(努力した)ため(おかげで)、やっとMCSEの証明書を取り込  
みました(取得しました)。このこと(を)通じ、何でも努力だけ(努力すれば)成  
功できると思いました。
- 1038) 汽車のまどから外へ(を)見て(見ると)、いっぱい(一面)白い世界でした。  
遠くを眺めると、天地は巨大な白いカーペットのようでした。
- 1039) そのうち(その後)友達とわかれて一人で歩いていました。ふりかえって  
見て(振りかえって見ると)その男は私のあとをつけていました。
- 1040) 神様に奉る(供える)菓子の種類は決めているのだ(決まっているのだ)。  
中略 おばあさんは(に)「落花生とあめと果物とお茶なら(落花生とあめと果物と  
お茶があれば)大丈夫」とおしえてもらってとても嬉しかった
- 1041) たとえば、知らぬ(ない)人を見ると(見て)おとなしくなるとき(なる人・  
なることを)「借りてきた猫」(のようだ)といえます。
- 1042) 十字路を右に曲がって行って(行くと、)(次の)交差点の角に米屋が見  
えるよ。
- 1043) 家につくと(ついたら)すぐお風呂に入るものです。
- 1044) 毎日、バスに乗っている途中で(と)、小学生の煩しい姿がよく見えます。  
毎晩7時書道の練習しなければなりませんとか。
- 1045) 嫌い(いやだ)といったら(というなら)無理に(は)頼むまい(まない)。
- 1046) NHKのニュースによって(ニュースによると)日本の北海道に今年初め  
での雪が降ったそうです
- 1047) あと仕事に深入りするから(深入りしたら)たくさんの本が要るかも  
しれません

- 1048) 私は日本語で一生懸命説明しました。終わると(終わった後で・終わってから)たくさん間違いを思い出しました
- 1049) もう少し過ぎて(すると・したら)冬を迎えますね。
- 1050) 新聞によって(よると)内閣は近く総辞職するそうだ。
- 1051) 中国の食生活はほかの国と比べて、(比べると)違うこと(違い)がたくさんある。( )たとえば、料理の材料とか(や)、作り方とか、ないし(作り方、)料理を作る過程と(および)食べる時の方法、(などである。)人に不思議な感じすること(不思議に感じさせること、不思議な感じを与えること)がたくさんある。
- 1052) 記憶の中では、「優」と先生にお評価になられる限り(評価してもらったものに限り)、授業が終わって(終わると)、すぐ家に飛んで帰って、こういう「作品」を自分の部屋の壁にちゃんと張ったそうです(はった)。
- 1053) 休みの日に家に帰って(帰ると)母はいつも私が好きな食事を作ってくれました。
- 1054) 父は娘の私に対して、基本的には甘やかしてくれていて、私のプライベートに関して余り口を出していないけれども、一旦、彼(父)の原則を(に)違反しそう、あるいは(しそうになったり)、彼(父)の利益を侵しそうのなら(侵しそうになったら)、きっと別人のように怒りだすはずです。
- 1055) 弟は私にくらべて(私とくらべると)若い10歳で(10歳若くて)、略 。今年もうすぐ中学校へ入っています(入ります)。
- 1056) もちろん、父の料理はおいしいだけ(おいしいが・おいしいけど)、本当のレストランの中華料理は(と比べると)まだまだです
- 1057) 多くの日本人は中華料理が好きです。でも、中華料理は日本料理より(と比べると)もっと(かなり)あぶらこいです。しかし(だから)ある日本人に毎日毎日中華料理を食べさせたら彼(その人)はきっと我慢できません。逆もその道理です。これは食生活の地域性です。
- 1058) 学校が5日休めば(5日間休みならば・5日間休みになれば)、それだけで( )私は北京を旅行することができます。
- 1059) もし咳が出れば(出たら)この薬を飲んでください。

#### 2.10.8 譲歩節

- 1060) 霊岩山、天平山、天池山などの山はすごく(とても)有名な山とは(山だとは)いえないが、観光にいったら(行っても)悪くないと思う。
- 1061) 国際人になりたければ(なるのに)、英語が出来ない(出来なくても)大丈夫とか、お金があれば大丈夫とか、(、)愛と笑顔があれば大丈夫とか、(、)冒険心があれば大丈夫とかと(などと)思っている日本人は(が)います。
- 1062) 江陰は小さい町で、地図を見ると(見ても)見つけれないほどです。
- 1063) 彼は神経の太い(神経が図太い・デリカシーのたりない)人だから、ちょっと失礼なことをしたら(しても)、許してください(あげてください)。

## 2.10.9 接続

2.10.9.1 接続助詞(2.9.3「接続助詞」を参照)

2.10.9.2 接続詞(2.7「接続詞」を参照)

2.10.9.3 他の接続の問題

- 1064) よろしかったら( )私個人の問題について(なのですが、できれば)、先生と( )ご相談に乗りませんか(相談に乗っていただけませんかでしょうか)。
- 1065) みんな(みんなで)すしを食べて酒やビールを飲んだ。終わってから雨がやんだ(食べ終わって外に出てみると雨がやんでいた)から(。それで)気をつかないで(うっかりして)傘を忘れて帰ってきた。
- 1066) 彼女は上役にも可愛がられれば(るし)、下へ(に)も通りがいいです(評判がいいです・人気があります)。
- 1067) その時は日本語が少しも分かりませんでした、日本語が( )おもしろいと思っただし、将来日本へ行きたいために(将来日本へ行けるように・いつか将来日本へ行ってみたいので)、日本語を勉強することにしました。
- 1068) あと1週間ぐらいしてから(1週間ぐらいで)僕は卒業します。
- 1069) ワープロの使い方を習ってから(習えば)論文の提出にきっと便利になります。
- 1070) 約束を守らなかつたんで(守らなくて)本当にすみませんでした。
- 1071) 国際市場の米ドルの変動のわけ(変動により・変動のため)輸出が大変になりました。
- 1072) もう夏になりましたが(夏になり・夏が来て)雨季も終わりました。
- 1073) 先生が元気でいらっしゃることが分かるのが(分かって)本当に嬉しいです。
- 1074) こんなに遅く手紙を差し上げること(差し上げて)すみませんでした。
- 1075) 夏休みも終り(終りましたが)、先生は今年の夏はどこへ(どこかへ)お出かけになりましたか?昨日、ご郵送くださいました留学生入学申し込み書類をいただき、(受取りました。)
- 1076) みんな先生と会いたくて(お会いしたいと思っているので)、もし先生も(にも)参加してくれば(いただければ)、きっと喜びます。
- 1077) 来学期、すぐ就職活動で忙しくなるから(なりますから)、まだお聞きしたいことはいっぱい(たくさん)あるから、(あります。)申し訳ございませんが、先生のお暇の(お暇な)時、もういちどお伺おう(お伺いしてもよいでしょうか)と思います。
- 1078) 国際人になりたければ(なるのに)、英語が出来ない(出来なくても)大丈夫とか、お金があれば大丈夫とか、(、)愛と笑顔があれば大丈夫とか、(、)冒険心があれば大丈夫とかと(などと)思っている日本人は(が)います。
- 1079) 中国の食生活はほかの国と比べて、(比べると)違うこと(違い)がたくさんある、(。 )たとえば、料理の材料とか(や)、作り方とか、ないし(作り方、)料理を作る過程と(および)食べる時の方法、(などである。)人に不思議な感じすること(不

思議に感じさせること・不思議な感じを与えること)がたくさんある。

- 1080) 皆は肉の料理を(は)上手に作れませんが(、)野菜の料理(野菜)が(は、なら)安い上に( )、作り方も簡単で(なので)、よく野菜の料理を作ります。
- 1081) たとえば、中華料理には(で)有名は(な)「碧緑蝦仁」と言えば、赤いえびと緑のグリーンピースを合わせて、(合わせる。) そして、サラダオイルのため、えびは(そのえびは油のために)つやつやして、(している。) こんなきれいな色を見て、おいしそうと思わない人はたぶんいないでしょう (いないだろう)。
- 1082) 今、プールの入場券が(は)高く、(い。) そして(それに)公園の湖で泳ぐことも禁止する(された)。 海に行くチャンスは少なくない(少ない)。 だから、毎日泳ぎには(泳ぐのは)無理だ。
- 1083) 最近では、家の近くの池や小川には、(小川は)汚れたので、生物も少なくなかった(少なくなった)。
- 1084) 卓球と比べてテニスはかなり重いです(激しいです、きついです)。 室外の運動で少しやったら、汗が出ます(屋外の運動で、すこしやったら汗が出ます)。
- 1085) 私は小学生の頃、2年生から6年生までの4年間半ぐらい、絵画を夢中にしていました(夢中でしていました)。 - 中略 - それに地方的、(地方や)全国的な試合を(に)した(出品した)こと(が)があります。
- 1086) 上海は大都会で、(です。) 面積はあまり大きくないですけど、人はとても多いで(多くて)、 固定人口は千三百万人です。まわりには江蘇省と浙江省です(があります)。
- 1087) 中国には田畑が少なくて、でも(少ないですが)農業がさかんです。
- 1088) 例えば、大連はまだ大きな雪(大雪)を(が)降っている時に(いるのに)、 深圳はもう春のようにしています(なっています)。
- 1089) 江陰は揚子江の南にあり、一年中一般(一般的)には穏やかな気候に恵まれていて(ているので)、 農産物、特に米(米づくり、稲作が大変さかん)ですから、(です。そのため)ずっと「小魚米の郷」と美称されています。
- 1090) われわれ新中国の新たな一世代として、必ず、新中国の未来のために、頑張って勉強しなければならなくて、(ならない。そして)もっと強くなります。
- 1091) 夏はそれほど暑くない(なく)冬もそんなに寒くない。
- 1092) 上海は商業の中心地(中心地で)、 人は商売に熱心だし(だから)、 日本の大阪に似ているといわれる。
- 1093) 上海に(の・は)どこへ行っても人も自転車も多くて道もバスもひどく込んでいる。特にラッシュの交通渋滞は大変だ。だって(それは、)近年来交通機関が発達するにつれて地下鉄や黄浦江トンネルや高速道路は(が)出てきて(作られたし、) 道もよく整備されているから(整備されて)交通の便が良くなってきた(交通量が多くなってきたからだ)。
- 1094) 父は文章を書くことが上手ですが(で)母は標準語を話すことが上手です。
- 1095) 父も母も自由な生活が好きなので(で)、 その上、会社が全くの不景気で(だったので)、数年前、各々思い切って仕事をやめて、車を一台買いかえて、タク

シーの運転手になることにしました。こういう仕事は難しいながら(難しいながらも・難しいが)、両親は勝手に(自由に)時間を支配する(使う)ことができるようになるから(ようになったから)、前より楽しく(楽しそうに)見えます。

- 1096) とても寒いとき(くて)冬のようだ。
- 1097) 喧嘩する事はないとはいえないのに(ので)偶にけんかしても(ました。しかし、) すぐ仲間に(仲良く)なりました。
- 1098) 「こんな(こんなに)長い時間が経った。(時間が経っているのに、) どうして私(自分)の成績が今まで(まだ)しりません(わからないんだ)。」と思った。ぱっと緊張になった(緊張した)。
- 1099) お父さんによく「そんなことはばかばかしい。全然勉強にたたないで(役にたたないから)、止めよう(止める)」と叱られてくれました(叱られました)。私はやっぱり聞こえないように(聞こえていないように)以前と同じ(同じように)非常に好みました。
- 1100) 私は今度の試験に心細いから(自信がなく)、合格かどうか(できるかどうか)すごく心配したが、(心配だった。) もしかしたら(もし)合格できなければ、楽しい冬休みは必ず(きっと)楽しくなくなると思った。
- 1101) 一人は(が)「今夜はだれでも(だれも)寝ることが(寝ては)だめ」と言っ(て(言い)、私たちが賛成したが、結局、あの人(その人)を除いて、私たち3人は眠りたくてたまらなくなり、結局みな寝た(寝てしまった)
- 1102) 人間は外見がきれいかどうかは問題ではなく、(ない。)それよりも人間は( )心が優しい持ち方(優しい心を持つこと・心がやさしいかどうか)が大切だ。

#### 2.10.10 語順

- 1103) たとえば、中華料理には(で)有名は(な)「碧緑蝦仁」と言えば、赤いえびと緑のグリーンピースを合わせて、(合わせる。) そして、サラダオイルのため、えびは(そのえびは油のために)つやつやして(している。) こんなきれいな色を見て、おいしそうと思わない人はたぶんいないでしょう(いないだろう)。
- 1104) 多くの上海人が日本で働いていますので、日本人と上海人はきっと(ぜひ)仲がもっと良くなって(もっと仲良くなって)、これからの日本と上海の共同の発展と友好関係のために一緒にがんばりましょう。
- 1105) 人口の方(面)から見れば上海は中国で一番大きな都市です。新しい統計によると今上海の人口は千六百万人ぐらいのようです。しかし、こんなにぎやかな都市での生活はとても便利です。上海の気候があまりよくないと思います。(こんなにぎやかな都市での生活はとても便利です。しかし、気候はあまりよくないと思います。)
- 1106) 日本語の勉強をしながら、発音のテープを聞いた(発音のテープを聞きながら、日本語の勉強をした)
- 1107) 毎日2級試験の前に(2級試験の日まで毎日)もっと勉強することにします。
- 1108) 日本に行った(いる・いている)つもりで(いつでも)なんでもいつでも( )

日本語で話すことにした。

- 1 1 0 9 ) かれは首を長くして( ) 恋人の到着するのを(首を長くして)待っています。
- 1 1 1 0 ) 主食はギョーザです。これはわたしが(わたしはこれが)大好きです。

#### 2.10.11 慣用的文型

- 1 1 1 1 ) 新しい図書館が出来上がったら、どんなに望ましいところだ(どんなにいいだろうか)。
- 1 1 1 2 ) 昨日、富士山に登ったことがあります(登りました)。
- 1 1 1 3 ) 中国の経済の発展する(経済が発展する・経済の発展)につれて、人々の生活のレベルも上がってきた。
- 1 1 1 4 ) 朝から晩まで立ち続いて(っぱなしで)仕事をしていたため、足が棒になりました。
- 1 1 1 5 ) 彼は打ち出す矢玉も(を)事(もの)ともせず、突進しました。
- 1 1 1 6 ) 日本語も貿易知識も身につくために(身につけるよう)前を向いて頑張っています。
- 1 1 1 7 ) 実は、( ) 中華料理にはたくさんの有名で、すばらしくて、おいしいです(ものがあります)。
- 1 1 1 8 ) 中国の領土は9 6 0万平方キロメートルで、3 6つ省(3 6の省)、5つ自治区(5つの自治区)、4つ直轄市(4つの直轄市)と、2つ特別行政区(香港と澳門)(香港と澳門2つの特別行政区)です(があります)。
- 1 1 1 9 ) 私からみれば、南方の食と北方の食(南方と北方の食文化)の一番な(一番の)区別(違い)は南方の主食が(は)米で北方の主食が(は)小麦粉だと思いません(だということです)。
- 1 1 2 0 ) 香港が日本に似ている点は、小さな島です(だということです)。
- 1 1 2 1 ) 彼がけんかしたたびに(するたびに)私はずいぶん心配しました。
- 1 1 2 2 ) 上海で一番有名な料理店は「緑波廊」という名前だ。鄧小平はあそこ(そこ)の料理が大好き(大好きだ)そうで、あとで(後に)アメリカの大統領やイギリスの女王もあそこ(そこ)へ行ったことがある(行っていた)。あ(その)店は主に上海料理を作るが、四川料理も北京料理も広東料理も(四川料理、北京料理、広東料理なども)作る。とにかく、何がおいしいなら(おいしいものなら)何を(なんでも)作る。
- 1 1 2 3 ) 一人で家にいるのはつまらなくて寂しいので、私は兄弟がもってほしいと思いません(持ちたいと思いません・ほしいと思いません)。
- 1 1 2 4 ) 小さい時、兄と私は実にささやかな事だけでけんかしたことがあります(けんかばかりしました)。毎回けんかした後、私たち2人は2、3日言いかけ(話さ)なかったです。
- 1 1 2 5 ) 靈岩山、天平山、天池山などの山はすぐく(とても)有名な山とは(山だとは)いえないが、観光にいったら(行っても)悪くないと思う。
- 1 1 2 6 ) ネットを通じて、世界のどこでも、様々なことを知る(知ること)ができ

- る。
- 1 1 2 7 ) 祖母の家は面を主食として(とする)、典型的な北方的な(北方の)食習慣をもっている。
- 1 1 2 8 ) 中国は所が違うによって(場所によって)、料理の味が違う。
- 1 1 2 9 ) 昨年の新年の時、先生のお宅にうかがったきり、一度(一度も)お目にかかったこともないです(お目にかかっておりません)。
- 1 1 3 0 ) 新学期の始まるにつれても(始まりとともに)、4年生になりました。日本語科の大学院生の試験に参加しよう(試験を受験しよう)と思っておりますので……
- 1 1 3 1 ) 月へ旅行しようと思っています(したいのです)。
- 1 1 3 2 ) 日本語の勉強をしながら、発音のテープを聞いた(発音のテープを聞きながら、日本語の勉強をした)。
- 1 1 3 3 ) 電車に乗りながら(のなかで)本を読みました。
- 1 1 3 4 ) 今でも人種差別があるとは、驚きます(全く驚きます・驚くほかはありません・驚くべきことです)。
- 1 1 3 5 ) 退院したあとで(あと)ずっと元気です。
- 1 1 3 6 ) 今日本に住んでいるところです(住んでいます)。
- 1 1 3 7 ) 彼は今咳をしているところです(しています)。
- 1 1 3 8 ) この頃、たくさん食べているので、太るようになりました(太ってしまいました・太りました)。
- 1 1 3 9 ) 最近、車の事故が増えるようになりました(増えました)。
- 1 1 4 0 ) 来年コンピューターの勉強をしますが(がしたいのですが)、たぶん無理でしょう。
- 1 1 4 1 ) 私は本文を覚えようとしません(覚えたくありません)。
- 1 1 4 2 ) 宗教的な感覚は(とは・というのは)、一体どういうこと(もの)でしょうか。
- 1 1 4 3 ) 食事をしながら(食事中)、ブラジルの音楽を聞いていて(が流れていて)ロマンチックな雰囲気をしていた(雰囲気だった)。
- 1 1 4 4 ) 今度は2年後で(に)日本に来る(来よう)と思います。
- 1 1 4 5 ) 明日旅行に出ようとします(と思っています)。
- 1 1 4 6 ) 毎日忙しくて全然暇がない。だからといって( )誘われてもどこへも出られないんです。
- 1 1 4 7 ) 多いか(かれ)少ないか(かれ)自分(なり)の理解があります。
- 1 1 4 8 ) 帰ったと同時に(とたんに)ベルが鳴り始めました。
- 1 1 4 9 ) 頭がいいつもりだったが、考え方が簡単すぎがちだ(単純になりがちだと言われた)。
- 1 1 5 0 ) 子供が(ここに)いると思いたがっ(いてほしがっ・いてもらいたがっ)ているんです。
- 1 1 5 1 ) 彼はお金が多くなりたがっているんです。(をたくさんほしがっているんです)。

- 1152) 年齢は25歳から40歳にかけて(まで)です。
- 1153) たとえば、( )もしレストランやデパートで、店員は自分が好きな服を着たら(着ていたら)店でだれがお客さんで、だれが店員かもわからない(わからなくなってしまう)。
- 1154) 九時に来ると約束して[おいた・あった][にもかかわらず・のに]、こずじまいだった(来なかった)。
- 1155) 単語が100以上あるので、一回(で)全部覚えるわけには行かない(られない)。
- 1156) 水蒸気になろう(と)凍ろうと水の本質が(は)わからない。
- 1157) 子供の時は海へ泳ぎに行く(行った)ものだ。
- 1158) 川にいた(いった)つもりでプールで泳いだ。
- 1159) 日本に行った(いる・いている)つもりで(いつでも)なんでもいつでも( )日本語で話すことにした。
- 1160) 家へ帰って服を着ている(脱がない・着た)まま寝てしまいました。
- 1161) 私の日本語の勉強は、たった今始まったばかりです(たった今始まったところです・まだ始まったばかりです)。
- 1162) 日本語の勉強は山のようなものです。登って高ければ高いほど疲れるようになります(高く登れば登るほど疲れも出てきます)。
- 1163) 3人の家族はひとつの部屋に住んだほかしかたがない(住むほかしかたがなかった)。
- 1164) かれは日本に5年いたそうだが、それにしても(それにしては)日本語が下手だ。
- 1165) この学校は宿題が多いと聞いていましたが、それにしても(それにしては)行きたい人は多いです。
- 1166) 毎日毎日遊ぶばかりな(遊んでばかりいた)のに試験に合格した。
- 1167) 上海は大都会で、(です。)面積はあまり大きくないですけど、人はとても多い(多くて)、固定人口は千三百万人です。まわりには江蘇省と浙江省です(があります)。
- 1168) 弟が(は)知った後、一ヶ月ほど母と(に)話しかけたこともないことになりました(話しかけませんでした)。
- 1169) 上海で一番有名な料理店は「緑波廊」という名前だ。鄧小平はあそこ(そこ)の料理が大好き(大好きだ)そうで、あとで(<sup>のち</sup>後に)アメリカの大統領やイギリスの女王もあそこ(そこ)へ行ったことがある(行っていた)。あの(その)店は主に上海料理を作るが、四川料理も北京料理も広東料理も(四川料理、北京料理、広東料理なども)作る。とにかく、何がおいしいなら(おいしいものなら)何を(なんでも)作る。
- 1170) 人とつきあうには人とつきあいませんきれいだけ(うわべだけでは)よくないです。人とつきあったら、互いに交流するやら(したり)互いに( )手伝うやら(ったり)互いに( )影響を与えるやら(たりすること)がいります(必要です)。

## 2.10.12 文のレベルの交錯するもの・文のすわりが悪いもの

- 1171) この人の仕方(やりかた)は全然理解できない。そんな仕方があった人はばかなんだと思った。(そんなやりかたをする人はばかだとおもう)。
- 1172) 来年コンピューターの勉強がしたいと思っているのですが(勉強がしたいのですが)、たぶん無理でしょう。
- 1173) まず報告したいのは、今度私は(が)英語の試験が(に)合格しました(たということですが)。
- 1174) 最近、徐志摩を懐かしい思いために(偲ぶ動きが出てきて)「人間四月天」も(は映画に)なりました。
- 1175) それらの企業は中国の繁栄のために貢献に役立っています(貢献しています)。
- 1176) 母は働き者で、いつも家の掃除をしてくれて、本当にありがとうございました(ありがたいです)。
- 1177) このキャンパスがうまく出来上がったら(無事完成したら)、すごく勉強のいいところ(勉強しやすいところ・すごく勉強にいいところ)になるだろうと思った。
- 1178) どうして上海は中国第一(中国第一の)大都会と認める(認められる)のか、答えはその魅力にある。上海は別の(他の)都会がもたず(持たない)中西文化が完璧に融合して(融合した)特別な美を持っているから(持っているからだ)。
- 1179) 値段が高すぎて、毎年一回だけ食べても(一回食べただけでも)ぜんたくなことになります。(ぜいたくなことです)。
- 1180) みんな(みんなで)すしを食べて酒やビールを飲んだ。終わってから雨がやんだ(食べ終わって外に出てみると雨がやんでいた)から(。・それで)気をつかないで(うっかりして)傘を忘れて帰ってきた。
- 1181) この頃、人々は洋式が栄養の面では中式より豊富で(豊富だと考え)、洋式が(を)選ばれる人(選ぶ人)は(が)多くなってきました。
- 1182) 中国の食生活はほかの国と比べて、(比べると)違うこと(違い)がたくさんある、(。 )たとえば、料理の材料とか(や)、作り方とか、ないし(作り方、)料理を作る過程と(および)食べる時の方法、(などである。)人に不思議な感じすること(不思議に感じさせること・不思議な感じを与えること)がたくさんある。
- 1183) 母はいつもたくさんの材料を買ってきて、おいしい料理を作ってくれて、(くれる。においしいし、色もきれいで、食たくて(見ると食べたくて)たまりません。
- 1184) 松本先生に初めて見た(お会いした)とき、なんだか親切だ(やさしそうな先生だ)と思いました。
- 1185) 冬休みにはスキーをしようとしたいんです(と思っているんです)。
- 1186) わたしにとってそれは夢だけです(ただの夢です)。
- 1187) 私の父は設計部の部長です。年末には、いつも忙しい、(いつも忙しくて)一月くらい家も(家にも)帰らない、(帰りません。) そして、その時(それは)、大

学に入る前の私に対して(とって)、もっとも楽しい時です(でした)。中略でも、ほかの11月(11ヶ月は)、勉強のほかに何もやらなかった(できなかったからです)。

- 1188) 平凡ながらいい気持ちを持っていた(気分で日々を過ごした)。
- 1189) とくに高校生の時代(高校時代に)とても仲の良い友達が2人いる(いた)。1人は背が高く、中略 他の人(もうひとり)は眼鏡をかけていた
- 1190) 万一先生に発見されたら、トイレに行きました(「トイレに行きました」と言いました。先生は分かってても(分かっている)証拠がないから、わたしたちにはしかたがなかったです(叱れなかった)。
- 1191) 私たちは大学に入ってから、勉強のために毎日いそがしいです。ときどき半年、一回も連絡しません(ときどき、半年に一回の連絡さえもしません)。
- 1192) 私は多くのともだちがありますが。しかし、私に対して(とって)一番いい友達はただ一人います(一人です)。
- 1193) 実は、僕と楊君の性格が(は)逆だった。彼は正義感が強いし喧嘩上手で衝動(衝動的)なひとだ。一方、僕は楽観(楽観的)だし口がうまくて謹慎な(慎重な)ひとだ。こんな(こんなに)違う2人は(が)どうしていい友達になれるのか(なれるのだろうか)。答案は(答えは)模型だ。僕たちはみんな(僕たち二人は)模型を作るのが大好きだから(なのだ)。中学(に)入学してから卒業まで楊君はずっと僕の前に座っていた。授業中、僕達はごそごそ(こそこそ)と話して(話した。) 大部分の内容は模型に関する(関することだ)。
- 1194) 母は交通事故に遭いました。母の頭が(母は頭を)ぶつかられましたから(ぶつけたので)、頭の中で、うっ血がたまっていました(出血して血がたまっていました)。彼女は(母は)意識不明状態に陥りました(<sup>おちい</sup>りました)。
- 1195) 誰かがいないと(誰かがいなくなっても・誰か一人でもいなくなったら)この家にとってきっと悲しいことです。
- 1196) 父は研究所に勤めている。中略 だから私と父の接触時間は少ない方だ(少ない)。女の子のために母ともっと親しむ(だから母の方が仲がいい)。
- 1197) 私はいつも遊んでいます。両親は、それをいつも不満を示して(不満そうにしている)、勉強させたいです(させたがります)。
- 1198) 彼女は男のような性格で、決まったことは思い切ってやる断決な(果断な)人だ。一方、大変思いやりだと(もともと)思っている(思う)。
- 1199) 普段、インターネットでホームページを見るのは簡単だと思(てい)たが自分で作るとこんなに難しくなるのは(難しいとは)思わなかった。僕は2週間ぐらいかかってやっとでき上がった(完成させた)。大きさは10Mにすぎないで(すぎない)たいしたものではないが自分に(では)完璧だと思っている。
- 1200) 中国人は春節に(を)非常に重視する。家族は(が)全国各地から(集まって、)お年寄りのまわりへ(で)春節を渡している(過ごす)の(こと)は中国人の習俗になっている。
- 1201) たぶん家に帰る前に(の)上海は寒くなかったかもしれない(寒くなかった)。だからかえって(帰った)あとは適応できなかったと思う。

- 1202) 寝室に戻ってから、いろいろ考えました。その時、気分が少し悪かったです(少し落ち込んでいました)。
- 1203) 努力が認められていい成績が与えられたら、その時は何と嬉しいことでしょう(とても嬉しいでしょう)。
- 1204) 私の家族は3人の核家族です。全員は両親と私です(両親と私で全員です)。
- 1205) 私たちの(私たち)5人は楽しい生活を暮らしています(楽しく暮らしています・楽しい生活を送っています・楽しい生活をしています)。
- 1206) 僕の(私が)10歳の時、母は仕事をやめて専門主婦(専業主婦)になりました。それ以来、家事は全部母に(が)一人でやられます(やっています)。
- 1207) 父は子供時代を田舎で過ごしたので、大自然中(大自然)の植物や動物などが(を)よく知っています。そこで(それで)、私は父に(を)偉くておもしろい人を認めます(だと思えます)。
- 1208) 自分の努力を通して、つるの恩返しのように両親にもっと幸福させる(もっと幸福な暮らしをさせたい・両親をもっと幸福にしたい)と心から希望します。
- 1209) 父と母は上虞の豊恵鎮生まれ、育ち(豊恵鎮生まれ、豊恵鎮育ち)です。
- 1210) 黄浦江のうえに(に)つながり(兩岸をつなぐもの)として橋2つ(2本)とトンネルも建ててきました(建てられてきました)。
- 1211) 私は普通の時(普段)、上海の学校で勉強していますから、父と母兩人だけ家にいます(父と母の2人だけが家にいます・父と母の2人しか家にいません)。
- 1212) 特に2年前(2年前に)揚子江のうえに(揚子江に)橋をかけて(橋がかけられて)、揚子江の南北がつながって(つながったので)、交通は(が)便利で(便利になって)、さらに発展するようになっています(発展しています)。
- 1213) 金山には歴史はとても悠久です(悠久の歴史があります)。
- 1214) 上海に(の・は)どこへ行っても人も自転車も多くて道もバスもひどく込んでいる。特にラッシュの交通渋滞は大変だ。だって(それは、)近年来交通機関が発達するにつれて地下鉄や黄浦江トンネルや高速道路は(が)出てきて(作られたし、)道もよく整備されているから(整備されて)交通の便が良くなってきた(交通量が良くなってきたからだ)。
- 1215) しかし、それはただ数年間は(ほんの数年前では)足りないと思います。
- 1216) しかし、中学生になると、どういうわけか、絵画に対しての趣味(興味)がだんだん衰えるようになってきました(衰えてしまいました)。
- 1217) 今、プールの入場券が(は)高くて、(い。)そして(それに)公園の湖で泳ぐことも禁止する(された)。海に行くチャンスは少なくない(少ない)。だから、毎日泳ぎには(泳ぐのは)無理だ。
- 1218) 釣をするとき、釣れた魚を持ち帰るということよりも、魚が釣れるのを待っている方が一番(待っていることの方が)楽しいことだ
- 1219) 日本語の専業(専攻である日本語)を勉強(勉強する)にしたがって、日本(日本の)マンガについても、いろんなことを知っています(知るようになりました)。
- 1220) ネットは世界に(世界を)狭くなられます(狭くします)。ネットで(ネットのおかげで)遠い地方の友達は(も)自分のそばのようです(そばにいるようです)。

- 1 2 2 1) 記憶の中では、「優」と先生にお評価になられる限り(評価してもらったものに限  
り)、授業が終わって(終わると)、すぐ家に飛んで帰って、こういう「作品」を自  
分の部屋の壁にちゃんと張ったそうです(はった)。
- 1 2 2 2) まず最初の報告したいのは、今度私は英語の試験が(に)合格しました。  
試験の後、僕は「こんなに難しいな(こんなに難しければ)、どうしてもパスできな  
いかな(パスするのは無理かな)。」と思いましたが、ただ合格してくれてとても思いが  
けなかった(思いがけず合格できました)。もちろん大喜びでありましたね(でした)。
- 1 2 2 3) 8月に上海で一度お会いしてから、すでに2ヶ月も経ちました。中略  
その後、先生は何かお変わりなんでしょうか(お変わりありませんか)。きっと相変  
わらずいきいき(お元気に)過ごしている(お過ごし)でしょうね。
- 1 2 2 4) 3年前、上海理工大学に入って日本語学科をえらびました。「あいうえ  
お」の最も基本的な仮名から(仮名から勉強しはじめて)、今まで(今では)日常生活  
の会話をべらべら話せます。その同時(それと同時に)、3年間に自分が好きな科目  
を選修しました。
- 1 2 2 5) 上海で(には)日本の社会や文化に対して(関して)の本はとても少ない  
です。それに私はどんな本がいいと(いいのか)わかりません。そこで、先生に適当  
な本を探していただけますか(適当な本を探していただきたいと思っているのですが、  
おねがいできますでしょうか)。無理な請求ですけれどもすみません(本当に図々しいお  
願いですが、どうぞ、よろしく願います)。
- 1 2 2 6) 私は日本語がほんとに下手なので(下手なので)、今学期もいろいろ先生に勉強  
したい(先生にご指導願いたい・先生に教えていただきたい)と思っております。
- 1 2 2 7) ただ(たった)14.5 平方メートルと見えますが(ですが)、8人が(も)  
住みます(住んでいます)。
- 1 2 2 8) 寮で何人がいるので(には何人がいるので)、ちょっとうるさいと思いま  
す。
- 1 2 2 9) 何遍読んでも、正しくなれなかった(うまくいかなかった)。暗くなり  
そうなときに(暗くなる頃に) やっと自分の間違いに気づいた。
- 1 2 3 0) すぐお返事をいただければ(さっそくのお返事)、ありがとうございます  
す。
- 1 2 3 1) すぐお返事をいただければありがとうございます(ありがたいです)。
- 1 2 3 2) 競争が激しい優勢をしめるため(に勝つために)、物事に対する適応受  
け入り運用などの能力をたかめます(どんな環境にでも適応できるようにがんば  
らなければなりません)。
- 1 2 3 3) ずっとお礼を述べたいながら(と思っているのに・と思いながら)、チ  
ャンスがなかなかない。
- 1 2 3 4) これは100元でも徳(得)だと思うというのは(思う。というのは・思うの  
は)一生使うことができるからだ。
- 1 2 3 5) 内山さんはアメリカ事情に詳しい、彼はアメリカの大学を卒業したかと思  
えるほどだ(アメリカの大学を卒業したのかと思えるほどアメリカ事情に詳しい)。

- 1 2 3 6) ある人が( )自分の都合が(さえ)よければいいと思っている(人がいる)が、それは困る。
- 1 2 3 7) 彼に言ったつもりだが(つもりのようだが・ときいていたが)実際は言わなかったそうだ。
- 1 2 3 8) これは若者にとって興味を持っている(にとって興味のある・が興味を持っている)問題だ。
- 1 2 3 9) 今週も残業するし、来週も残業する(くらい)最近は忙しいです。
- 1 2 4 0) 人間は外見がきれいかどうかは問題ではなく、(ない。)それよりも人間は( )心が優しい持ち方(優しい心を持つこと・心がやさしいかどうか)が大切だ。
- 1 2 4 1) 今学生としているのだ(なのだ)から、一生懸命勉強するのは当たり前だ。
- 1 2 4 2) 工業汚染は人間に影響するということを聞いて、経済発展につれて(伴って生ずる)工業汚染をどう処理(問題をどう処理・にどう対処)すればいいか考えさせられた。
- 1 2 4 3) 母はうらやましそうな顔をするので、広い家をほしがっています(るのが分かります)。
- 1 2 4 4) 犬くらい忠実(な動物)は(い)ない。
- 1 2 4 5) 開幕まで食事でもして暇を潰しましょう(暇つぶしにお茶でも飲みましょう)。
- 1 2 4 6) 私と彼(と)の仲は切っても切れません(ない仲です)。
- 1 2 4 7) かれは首を長くして恋人の到着するの( )を待っています。
- 1 2 4 8) 試験の結果は(が)分からないうちは、どうも気に入っています(なるものです・なってしかたがありません・なります)。
- 1 2 4 9) 問題の急所を衝きます(突く)。
- 1 2 5 0) (もう)役(約束)をしたから(しているのだから・してしまっているのだから)行かないわけにはいかない。
- 1 2 5 1) 普段、(は)あまり無口だが(あまり口を聞きませんが・けっこう無口ですが・無口なほうですが)、一緒に飲むと、わりと話してくれます。
- 1 2 5 2) それを聞いて私は、「これからはもっとまじめに勉強しなければなりません(勉強しなくては)。頑張る(頑張ろう!)」と自分に言いました(思いました・決心しました・自分に言いかけました)。
- 1 2 5 3) 以前(以前は・はじめは)、日本語はやさしいとずっと思っていました(思っていました・思っていたものです)。
- 1 2 5 4) 今日、私は高校時代に別れを告げながら(高校時代を思い出に変えて・高校生活に別れを告げて)浙江工業大学日本語学科に入学した。
- 1 2 5 5) 今日は雨だった。もう冬になった(冬なのだ・冬がきたのだ)。
- 1 2 5 6) 来年の今頃、私はもう卒業していてその会社に出ます(出ることになります・勤めだしているでしょう)。
- 1 2 5 7) 複雑な文法やたくさんの新しい言葉に出会ったとき、私は頭がとても痛いと思います(頭が混乱します・頭の中がごちゃごちゃになります)。

- 1 2 5 8 ) クラスメートはいつもキャンパスでテキストを読んでいたが、私は  
寝室で雑誌を読んだりテープを聞いたりしていました。気持ちがいいと思いまし  
た(いい気分でした・得意な気持ちでした)。
- 1 2 5 9 ) 夜赤い光、青い光を吐き出している(赤や青の光を点滅させている・放  
っている)ネオンは大変きれいに見えました。また、この目でみることができ、  
きっと感動させられてしまうのでしょう(感動することでしょう)。
- 1 2 6 0 ) 楽しみに(楽しく)冬休みを送るつもりがあった(だった)けど、寒かったし、  
長い間天気がじめじめするから、(して)気持ちも悪かったし、試験の成績が良く取れ  
なかった(良くなかった)せいで、復習したい(しなければいけなかった)けど、なか  
なか出来なかった、本当に怠け者みたいなど(だと)思う。
- 1 2 6 1 ) 結婚式に参加するのは3回目になって(なったが)、今回は(が)一番面白い  
のだ(面白かった)。
- 1 2 6 2 ) 2月9日(に)私は寮に帰りました。ルームメートに合う(会った)時、親  
切感がしていました(懐かしく感じました・親しみを感じました)。
- 1 2 6 3 ) 「こんな(こんなに)長い時間が経った(時間が経っているのに)。どうして  
私(自分)の成績が今まで(まだ)しりません(わからないんだ)。」と思った。ぱっと緊  
張になった(緊張した)。
- 1 2 6 4 ) われわれは急いで彼を医院へ送った(病院へ連れて行った)。急診をして  
(急患として診察してもらい)、ついに大丈夫になった(彼は無事だった)。
- 1 2 6 5 ) 私の家は引っ越しました(引っ越した)ので「家はどこにあるか(あるの  
か・あるんだろう)、どうしようかな」と困りました。仕方がないので、先(先に・  
まず)、家に電話をかけてお母さんからアドレスをくれました(教えてもらいまし  
た)。
- 1 2 6 6 ) たぶん私は言語に特別な興味があり(格別惹かれるものがありらしく)、  
中学に入って英語の勉強が始まるとだんだん英語が好きになりました。
- 1 2 6 7 ) 私は漫画の翻訳家になるのを楽しみにしようと思った(目標にしよう  
と思った・将来の夢とした)。
- 1 2 6 8 ) これ以外に私は、日本の文化にも魅了されていることにも気が付いた  
( )。
- 1 2 6 9 ) 歴史を忘れてはいけませんが、歴史は過去のことなのだから(歴史は過去  
とどう向き合うかということだから、それと同時に)現在、将来を見るのがより  
大切だと思います。
- 1 2 7 0 ) どうして日本語を私の専門として選んだのでしょうか。(私がなぜ日本  
語を専門に選んだかといいますと、)その理由の中で一番大きいのは好奇心です。
- 1 2 7 1 ) ある日(いつか)日本語が上手になって、日本人らしく(日本人みたい  
に・日本人のように)話せれば、なんと楽しいことだろうと思います(とても楽しいと思  
います)。
- 1 2 7 2 ) ある日(いつか)そんな文字や歌が分かるようになったら、どんなに幸せ  
なんだろう(嬉しい・すばらしい)。

- 1 2 7 3 ) 1月29日で実習は一段落を告げます (一段落します)。
- 1 2 7 4 ) お手紙を受け取りましたが、気持ちが ( ) 大変嬉しかったです。
- 1 2 7 5 ) 仕事で分からないことがたくさんあってから、気持ちがあまりよくありません (なんだか不安です・落ち着きません)。
- 1 2 7 6 ) だんだん寒くなっている頃 (寒さの募るこの頃)、ご健康を祈っています。
- 1 2 7 7 ) 先生に教えていただいた「母さんの歌」を歌いながら、先生のことを思い出すばかりです (いつも思い出しております)。
- 1 2 7 8 ) この企業に将来性があるかどうかは、疑問されています (疑問です・疑問視されています)。
- 1 2 7 9 ) 今後仕事をしながら自分でどのように勉強を続けるか (続けたらいいか) 分かりません。
- 1 2 8 0 ) 3月になりましたが、寒さがなかなか去り難く (去ろうとせず) つらい日が続きます。
- 1 2 8 1 ) ようやく、一つ一つの問題が解決しました。そのため、勉強ぶりが以前よりよくなりました (前より勉強ができるようになりました・それからは勉強が進むようになりました)。
- 1 2 8 2 ) 今まで私たちは先生に叱られないで、よく勉強するように励まされています (励まされながら勉強してきました)。
- 1 2 8 3 ) 私は今度の試験に心細いから (自信がなく)、合格かどうか(できるかどうか) すごく心配したが、(心配だった。) もしかしたら (もし)合格できなければ、楽しい冬休みは必ず (きっと)楽しくなくなると思った。
- 1 2 8 4 ) 冬休みに(は)別のことがなかったし、(特別なことはなかった。) ときどき友達とお酒を飲んだり。あるいは家でテレビをみたりした。
- 1 2 8 5 ) 好きなこともありました。でもあれは (それは)家のしごとよりずっと体力かかりました (体力が必要でした・体力を使いました)。
- 1 2 8 6 ) うれしいのは日本語科の学生を招募している (募集している)会社が少なくないとは言えなかった (少なくないことだ・少なくないと言えることだ)。
- 1 2 8 7 ) 五十音図、挨拶などがだんだん分かるようになって、まるで神秘的なカーテンが幕を開ける (まるで神秘のカーテンが開けられた) かのようでした。
- 1 2 8 8 ) 竜安寺の白い砂と黒い岩が表わしている意味を知ることが分かる (意味が理解できる・ことがわかる) かもしれません。
- 1 2 8 9 ) 月日が経つのは水が流れるようだ (月日の経つのは速いものだ・月日の経つのは本当に速い)。もう大学の入学試験が終わった。
- 1 2 9 0 ) それは、スポンジが止まらないで水を吸い込む (水を吸いつづける) ように、私は勉強をし続けなければならないことが分かったからです。
- 1 2 9 1 ) 五位のいい先生に会って (五人の立派な先生と出会えたので) 必ず日本語は上達すると思います。
- 1 2 9 2 ) 英語より、日本語の勉強をしている人は少ないです (日本語の勉強をしている人は英語をやる人より少ないです)。そのため、私は自信が多くなっています。

- す(自信を強めています)
- 1293) 松本先生に初めて見た(初めてお会いした)とき、なんだか親切だ(やさしそうな先生だ)と思いました。
- 1294) 新しい家に引っ越して一番楽しかった(うれしかった)のは自分の部屋があります(あったことです)。
- 1295) 一番楽しい活動(こと)はみんな一緒に外で食事をします(することです)。
- 1296) その寮は大抵(大体)15平方メートルで、トイレも、風呂場もなく、ただ一つ部屋です(部屋もひとつしかありません)。
- 1297) 私はずっと家に(で)待っていた。4時ぐらい(ぐらいに)やっと手紙を持ってきた(手紙が届いた)。
- 1298) 私は(が)家に帰った時、友達はほとんど学校にいました。つまらなくてたまらなかったんです(たまりませんでした)。
- 1299) 気温が零下34度で、すごく寒かった。ずっと上海にすんでいる身にとってこの寒さを(に)一時に慣れてできなかった(すぐに慣れることはできなかった)が、準備が(その準備が)あったのでしばらく北国の情緒を楽しんだ。
- 1300) 冬やすみの時は(の時期は・は)いつもそんな(こんな)に寒くて、起ろうとも(起きようとしても)起きられなくて本当にしかたがないんだかった(しかたがなかった)。実は今学校にいてもそんな状況もうあって、(同じような状況だ。) さいわい春はとうとうどんどん近づいているんです(とうとう、春はどんどん近づいている)。
- 1301) 春節はたのしいですが、忙しいです。特に大人がいそがしい(です。)一年の苦勞して(一年間苦勞したのだから)、ちゃんと休み(休む)べきなのに、春節のために、もっと忙しくなってしまう(しまいます)。(また、)私(私の)ようなせだいとしても(世代にとっては)、春節はつまらないと感じます。(しかし)例外の人たちもいますが、(います。)子供です。春節にはお年玉をもらえる(もらえる)からです。
- 1302) 日曜日に彼女が来るはずを(はずと・ということ)聞いてから落ち着かなくなりました。
- 1303) 学生は(なら)もっと自分の勉強に(のことを)心配するはず(はず)です。
- 1304) 杭州に着いて(ついてから)毎日雨だけ(ばかり)降っていました。秋にとっては(にしては)暑いくらい(くらい)でした。
- 1305) 中国へ来て商いをする日本人も工場に(を)見学するときよくカジュアルウェアを[着ます・着ています]。
- 1306) 20年ぶりで(に)会ってうれしいやら(ような)悲しいやら(ような)[気持ちは複雑でした・複雑な気持ちでした]。
- 1307) 試験の直前だからテレビなんて(なんか)見な(くて)いいと思っ(て)ている。
- 1308) これから勉強はますます難しくなると思うが、私は何としても( )一生懸命勉強することに決めた。

- 1309) 栄養のバランスを重視(するように)になりました。
- 1310) 私はこの人の決定には勇気のことと思わない(があったのではなく、)実は失敗の(を)恐れること(恐れていた)と思う。
- 1311) 飲み物といっても、お茶やジュースとか(、)ビールなどがあるよ(しかない)。
- 1312) 彼は(の)言葉における才能はまさ(非常)に素晴らしいのだ( )。
- 1313) 彼は一も二もなく大学を卒業して日本へ留学に行きました(留学することを承知しました)。
- 1314) 父に知られると口が( )うるさいから黙っていましょう。
- 1315) 夜遅く帰ると母は口が( )うるさいです(くなります)。
- 1316) その時は日本語が少しも分かりませんでした、日本語が( )おもしろいと思ったし、将来日本へ行きたいために(将来日本へ行けるように・いつか将来日本へ行ってみたいので)、日本語を勉強することにしました。

## 2.11 敬讓語

- 1317) 先生はパソコンをほしがっていらっっしゃいます(パソコンがほしいとおっしゃっています・さがしていらっっしゃいます)。
- 1318) みんな先生と会いたくて(お会いしたいと思っているので)、もし先生も(にも)参加してくれば(いただければ)、きっと喜びます。
- 1319) 先生、私の宿題をお直してください(直していただきませんか)。
- 1320) 私は先生にゆっくり話すように(話してくださるように)お願いしました。
- 1321) 私は昨日大学の映画館で映画を拝見しました(見ました)。
- 1322) その図書館には古い資料がたくさん有って(あるので・ありますから・ありますし)、行って見てください(いらっしゃってご覧になってみてください)。
- 1323) 土曜日に先生をお食事にお招きしたいんですが(したいのですが)、(よろしければ)ご都合をお知らせください(お教えくださいませんか)。
- 1324) お忙しいと思いますが、ご参加なさいと思います(ご参加ください)。
- 1325) 先生は中国人のことをよくご存じですからあまり気にしないんですが(あまり気にはなさいませんが)、ほかの人だったら「この学生は礼儀正しくない(礼儀を知らない)」と思われてしまったかもしれません(思われたかもしれません)。
- 1326) だんだん暖かくなってきましたが、お元気で毎日を過ごされる(過ごしていらっしゃる・お過ごしのこと・過ごされている)ことと存じます。
- 1327) お手紙の一字一句が、先生と私が向かい合って話したようです(お話しになっているようです)。
- 1328) 先生は私のことを覚えてくださっているでしょうか。長い間お会いしていないから、忘れる(お忘れになった)かもしれませんね。
- 1329) 先生はちょっとやせるようになった(おやせになった)みたいです。

- 1330) 先生もこのことを知って、私に「Aさん、一生懸命勉強すれば、日本語は楽になります(日本語が苦でなくなります)。いつも読んでください。分からないところがあれば事務室へ来てください」と言いました(おっしゃいました)。
- 1331) その先生は、『 』という本を貸してくださった代わりに、その感想を書いてください(書きなさい)と宿題を出されました。
- 1332) 先生はとてもまじめに教えていて(熱心に教えてくださるので)、感心し(感銘を受け)ました。
- 1333) 先生、もっと丁寧に教えたほうがいいですよ(教えていただけませんか・教えていただきますか)。
- 1334) 松本先生に初めて見た(初めてお会いした)とき、なんだか親切だ(やさしそうな先生だ)と思いました。
- 1335) 先生、私の辞書を使ってもいいです(どうぞ私の辞書をお使いください)。

## 2.12 モダリティ

- 1336) 今隣の部屋でゲームをやっているところです。林さんもやりましょうか(やりませんか)。
- 1337) 母はうらやましそうな顔をするので(して)、広い家をほしがっています(るようでした)。
- 1338) ひさしぶりですね。新学期は始めました(始めましたか)。
- 1339) 今学期、先生は3年生の文法の授業を担当する(担当される)そうです(そうですね)。さぞ、お忙しいでしょう。
- 1340) たぶん生まれてから、ずっとすきだろ(好きだ)と思っています(思います)。
- 1341) 友達はたくさんいるんだか(いるんだろうか)。
- 1342) 私は一生懸命に日本語を勉強し、将来ぜひ中日の交流を深めようと頑張りたい(中日の交流を深めるために頑張ろう)と思います。
- 1343) ある日(いつか)日本語が上手になって、日本人らしく(みたいに・のように)話せれば、なんと楽しいことだろと思います(とても楽しいと思います)。
- 1344) 道子さんは私の姉らしい(私の姉のよう・お姉さんみたい)ですから、中国で何か必要なものがあれば、ご遠慮なく知らせてください。
- 1345) 日本語科は学生全部合わせて30人だけだった。なんて少ないのだろ(すくないなあ)と思った。
- 1346) 私は夏休みに京都へ行くつもりです。林さんも行きましょうか(行きませんか)。
- 1347) このセーターは触ってみると確かにカシミヤ100%らしい(のようだ)。
- 1348) 私の目にごみが入ったららしいです(ようです)。
- 1349) もうすぐ寒くなるだろので(みたいなので・ようなので・だろから)ストーブを出して置きました。

- 1350) 祖母は若いとき、きれいだそうでした(きれいだったそうです)。
- 1351) 祖母は背が高かったそうではありません(高くなかったそうです)。
- 1352) 祖母は背が高かったそうですか(高いと聞きましたか)。
- 1353) 私は来年結婚するでしょう(かも知れません)。
- 1354) ここは西溪キャンパスに比べると、交通も不便し(不便だし) お店も少ないし、困るものです(困ることがあります・困っています)。
- 1355) 私たちは明日までにこれを読むはずですか(読まなければなりませんか)。
- 1356) この病気は治らないはずだろうか(のだろうか・はずだ)。
- 1357) 学生は政治に関係するはずでしょうか(関係するべきでしょうか・関心をもつべきでしょうか)。学生は、勉強だけやればいいと言う人がいますが、私は( )成人している学生には、政治に関する(かかわる)権利と義務があると(私は)思います。
- 1358) 秋の終わりごろに(秋の終わりごろの山々)は、なんという( )きれいな景色になる(なの・になるの)でしょう。
- 1359) 今週の週末、鈴木先生が引越しされる・なさるそうですが、( 。・ね。) 引越すことについて先生を( )手伝って差し上げたいんですが...
- 1360) 父は、夕食のとき、今日会社の近くに(で)火事があって20軒も家が焼けたさうです(という話をしました)。
- 1361) とても寒いとき、冬のようだ。(ようだと言います)。
- 1362) たとえば、知らぬ(ない)人を見ると(見て)おとなしくなるとき(人・ことを)「借りてきた猫」(のようだ)といえます。
- 1363) その( )貸した物は鉛筆や消しゴムなんて(など・のような)小さい物でした。
- 1364) 給料が高ければ、どれだけで( )こんな仕事が(どんな仕事でも)いいです。
- 1365) 大丈夫どころか、一回だけで使う(一回使うだけで)壊れてしまった。
- 1366) 試験の直前だからテレビなんて(なんか)見な(くて)いいと思っている。
- 1367) 嫌い(いやだ)といったら(というなら)無理に(は)頼むまい(まない)。
- 1368) よく反省しなければ、痛い目に合わせてやりますよ(合わせるぞ・合わせますよ)。
- 1369) 暗闇で後ろから急に声を掛けられ、驚いて腰が抜けてしまいました(そうになりました)。
- 1370) それを聞いて私は、「これからはもっとまじめに勉強しなければなりません(勉強しなくては)。頑張って(頑張ろう)！」と自分に言いました(思いました・決心しました・自分に言いかけました)。
- 1371) 父に殴られたり、叱られたりしたことがなかったものの、中略 父の目の前に(では)おとなしいふりをしましたが、見られなかった時(見られていない時)

は)、いたずらしてばかりしました(ばかりしました・してばかりいました)。だからいつも母に殴られて(叩かれて)、しかられましたけど、母が(は)怖くありません。

## 2.13 文体

- 1372) おまえはおれを甘く見るのですか(見ているのか)。
- 1373) あいつは友達がどんなに困っていても、力を貸そうともしません(ない)。
- 1374) あいつは調子に乗りやすい人です(やつだ)。
- 1375) なんと面の皮の厚いやつです(だ・だろう)。
- 1376) 翻訳はまだいいが(ですが・のですが)、通訳は今の自分の手に余るもので  
す(余ります)。
- 1377) 「日本語の勉強はとてもやさしいです(とてもやさしい・なんでもない)。」という人がたくさんいます。
- 1378) 先生によろしく伝えてください(お伝えしてくれ)と頼まれました。
- 1379) なぜなら、私は学校を出たばかりで、仕事の経験は少しもありません(少しもない)からです。
- 1380) 来週の月曜日にまた話し合aimashyou(話し合おう)、と工場長に言われました。
- 1381) 入賞するかどうかは問題ではありません(問題ではない)と、私は思いました。
- 1382) 指導教官はやさしいですか(やさしいか)、よく指導して下さいますか  
(指導して下さるか)といつも心配しています。
- 1383) 新学期には、状況がよくなるでしょう(よくなるだろう)となとなく思っています。
- 1384) 会社の人は、華僑大学はほかの大学と比べて少しも劣りません(劣らない)と考えを変えました。
- 1385) 先生がまたいらっしゃったならば何といいでしょう(何て素晴らしいだろう)といつも思っています。
- 1386) それを聞いて私は、「これからはもっとまじめに勉強しなければなりません(勉強しなくては)。頑張る(頑張ろう)！」と自分に言いました(思いました・決心しました・自分に言いかけました)。